

クラス		受験番号	
出席番号		氏 名	

2014年度 第3回 全統マーク模試
学 習 の 手 引 き 【解答・解説集】

国語・地理歴史・公民

【2014年10月実施】

• 地理歴史

世界史B	1
日本史B	11
地 理B	21

• 公 民

現代社会	34
倫 理	45
政治・経済	55
倫理, 政治・経済	65

• 国 語 108

英語冊子巻末に「自己採点シート」と「学力アップ・志望校合格のための復習法」を掲載していますので、志望校合格へむけた効果的な復習のためにご活用ください。

河合塾



1460630119502090

【地理歴史】

世界史 B

【解答・採点基準】

(100点満点)

問題番号	設 問		解 答 番 号	正解	配点	自己採点
第1問	A	問 1	①	③	3	
		問 2	②	①	3	
		問 3	③	③	3	
	B	問 4	④	①	3	
		問 5	⑤	①	3	
		問 6	⑥	④	2	
	C	問 7	⑦	④	3	
		問 8	⑧	③	3	
		問 9	⑨	②	2	
第1問 自己採点小計					(25)	
第2問	A	問 1	⑩	①	3	
		問 2	⑪	①	3	
		問 3	⑫	④	3	
	B	問 4	⑬	④	2	
		問 5	⑭	②	3	
		問 6	⑮	③	3	
	C	問 7	⑯	③	3	
		問 8	⑰	③	3	
		問 9	⑱	②	2	
第2問 自己採点小計					(25)	
第3問	A	問 1	⑲	①	2	
		問 2	⑳	⑥	2	
		問 3	㉑	①	3	
	B	問 4	㉒	④	3	
		問 5	㉓	③	3	
		問 6	㉔	②	3	
	C	問 7	㉕	③	3	
		問 8	㉖	②	3	
		問 9	㉗	③	3	
第3問 自己採点小計					(25)	

問題番号	設 問		解 答 番 号	正解	配点	自己採点
第 4 問	A	問 1	㉘	①	3	
		問 2	㉙	①	3	
		問 3	㉚	④	2	
	B	問 4	㉛	④	2	
		問 5	㉜	②	3	
		問 6	㉝	③	3	
	C	問 7	㉞	②	3	
		問 8	㉟	④	3	
		問 9	㊱	②	3	
第 4 問 自己採点小計					(25)	
自己採点合計					(100)	

【解説】

第1問 世界史上の言語

【出題のねらい】

世界史上の言語について、Aではアケメネス朝で公用語となり、現在も使用されているアラム語を、Bでは国家による言語統一の例としてフランス語を、Cでは国際的人工言語のエスペラント語を、それぞれ扱って出題した。

【設問別解説】

A

問1 ① ③

㉘ a ウイグル(回紇)は、東突厥を滅ぼして8世紀から9世紀にモンゴル高原を支配したトルコ系騎馬遊牧民で、安史の乱のさいに唐側を支援するなどして強大化した。そして、トルコ系騎馬遊牧民のキルギスを滅ぼしたのではなく、キルギスの攻撃で王国が滅亡した。その後、ウイグル人の一部は中央アジアに移住して、その地のトルコ化を促進した。9世紀までにモンゴル高原で活躍した騎馬遊牧民については、次ページの表を参照。b 13世紀初めにモンゴル高原を統一し、クリルタイでハンとなってモンゴル帝国を建てたチンギス＝ハンは、ホラズム(＝シャー)朝を征服してイラン東部までを支配した。ホラズム朝はアム川下流を中心とするトルコ系イスラーム王朝である。

匈奴	前2 C 前1 C 後1 C	冒頓単于が、前漢の高祖(劉邦)を破る 前漢の武帝の攻撃 東西分裂 東匈奴が南北分裂 →南匈奴は後漢に服属 →西晋を滅ぼす(4 C)
鮮卑	4 C 5 C	拓跋氏が北魏を建国 北魏の太武帝が華北を統一
柔然 (モンゴル系)	5 C 6 C	北魏と対立 突厥によって滅亡
突厥 (トルコ系)	6 C 7 C	ササン朝と協力してエフタルを滅ぼす 東西に分裂 東突厥は唐の太宗に服属 西突厥は唐の高宗に服属
ウイグル (トルコ系)	8 C 9 C	安史の乱の鎮圧に協力 キルギスによって滅亡 →ウイグル人の一部が中央アジアに移動 →中央アジアのトルコ化

モンゴル高原で活躍した騎馬遊牧民

問2 [2] ①

① ニケーア公会議は、4世紀前半にローマ皇帝コンスタンティヌス(1世)によって開催され、アタナシウス派を正統とし、ネストリウス派ではなくアリウス派を異端とした。ネストリウス派は、5世紀前半に開かれたエフェソス公会議で異端とされた。② ベネディクトゥスは、6世紀に中部イタリアのモンテ＝カシノに修道院を創設した。③ ローマ教皇のウルバヌス2世は、11世紀末に開かれたクレルモン宗教会議(公会議)で、十字軍の派遣を提唱した。会議の翌年から始まった第1回十字軍は、聖地イェルサレムを占領してイェルサレム王国を建設した。④ イギリスのテューダー朝のヘンリ8世は、16世紀前半に首長法(国王至上法)を發布して、イギリス国教会を設立した。その後、メアリ1世がカトリックを復活してプロテスタントを弾圧したが、次のエリザベス1世は、16世紀半ばに統一法を發布して国教会を確立した。

問3 [3] ③

③ マッキンリー大統領時代のアメリカ合衆国は、19世紀末のアメリカ＝スペイン(米西)戦争に勝利すると、東南アジアのフィリピン、太平洋のグアム島、カリブ海のプエルトリコをスペインから獲得した。また、このアメリカ＝スペイン戦争中にハワイも併合した。① 19世紀に入ってラテンアメリカで独立運動が高揚すると、1820年代にアメリカ合衆国大統領モンローはモンロー宣言(教書)で、アメリカ大

陸とヨーロッパの相互不干渉をとえ、ラテンアメリカ諸国の独立への干渉に反対し、ラテンアメリカ諸国の独立を支持した。イギリスもラテンアメリカの市場化を期待してその独立を支持したため、独立運動に干渉しようとしていたオーストリアのメッテルニヒは干渉を断念し、ラテンアメリカ諸国の独立が進んだ。② 大陸横断鉄道は、19世紀前半ではなく、南北戦争後の19世紀後半に開通して、アメリカ合衆国の西部と東部を結んだ。これによって西部の開発が進み、東部の工業化も進展した。④ 1929年に世界恐慌が起こると、アメリカ合衆国では1930年代に、ホームステッド(自営農地)法ではなく、農業調整法(AAA)・全国産業復興法(NIRA)やワグナー法が制定され、テネシー川流域開発公社(TVA)が設立されて、ニューディールが進められた。公有地を無償で供与するホームステッド法は、南北戦争中の1860年代に制定された。

B

問4 [4] ①

① ア・ダンテはイタリア＝ルネサンスの先駆者で、14世紀前半、ラテン語ではなく俗語のトスカナ語で『神曲』を著した。イ・ガール水道橋は、ローマ帝国時代に南フランスに建設された石造の水道橋で、古代ローマの代表的な大規模建造物である。③ ア・マキアヴェリはフィレンツェの政治家・歴史家で、16世紀に『君主論』を著して、強力な君主によるイタリアの統一を主張した。② ④ イ・パルテノン、古代ギリシアのアテネに建設された神殿で、フェイディアスが再建工事の総監督をつとめた。

問5 [5] ①

① リシュリューはフランスのブルボン朝のルイ13世に仕えた宰相。17世紀前半、貴族をおさえて絶対王政(絶対主義)の確立につとめた。また、ドイツの三十年戦争に介入して新教側を支援し、ハプスブルク家に対抗した。② トマス＝モアは、イギリスのルネサンス期の16世紀前半に活躍した政治家・人文主義者。『ユートピア』を著して第1次囲い込み(エンクロージャー)を批判した。③ コルベールは、親政を始めたルイ14世の財務長官で、17世紀後半に保護貿易などによって重商主義政策を進めた。④ ヴォルテールは18世紀に活躍したフランスの啓蒙思想家で、『哲学書簡(イギリスだより)』を著した。啓蒙専制(絶対)君主のプロイセンのフリードリヒ2世(大王)やロシアのエカチェリーナ2世と親交があった。

問6 [6] ④

④ 1989年にアメリカ合衆国大統領ブッシュ(父)とソ連のゴルバチョフが行ったマルタ会談で冷戦の終

結が宣言されたのち、1991年にソ連が消滅した。その後、21世紀初めにポーランド・ハンガリーなど東ヨーロッパの旧社会主義国の一部がヨーロッパ連合(EU)に参加した。ヨーロッパの統合については下の地図を参照。①ヨーロッパ石炭鉄鋼共同体(ECSC)は、1920年代ではなく、第二次世界大戦後の1950年代前半に、フランス・西ドイツ・ベルギー・オランダ・ルクセンブルク・イタリアによって結成された。②ヨーロッパ石炭鉄鋼共同体を結成した6カ国は、1950年代後半にヨーロッパ経済共同体(EEC)・ヨーロッパ原子力共同体(EURATOM)を結成したが、イギリスは参加しておらず、イギリスはこれらの組織とは別に、ヨーロッパ自由貿易連合(EFTA)を結成した。③1960年代、ヨーロッパ石炭鉄鋼共同体・ヨーロッパ経済共同体・ヨーロッパ原子力共同体が統合されてヨーロッパ共同体(EC)が成立し、1970年代にはイギリスなどが参加して拡大ECとなった。ただし、ヨーロッパ共同体の成立はマーストリヒト条約によってではない。1990年代のマーストリヒト条約によって成立したのは、ヨーロッパ連合である。

C

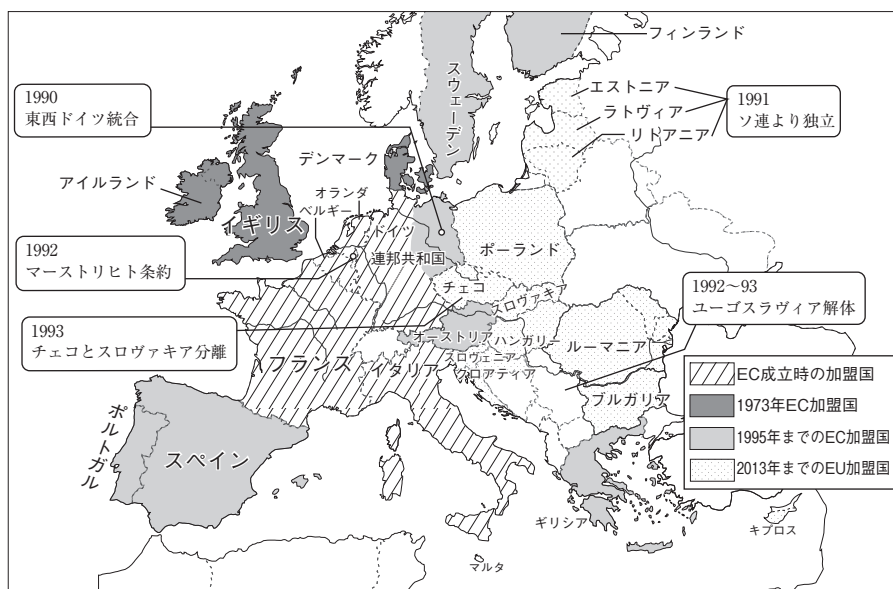
問7 [7] ④

④ヴェネツィアは、1870年代のプロイセン＝フランス(普仏)戦争ではなく、1860年代のプロイセン＝オーストリア(普墺)戦争の結果、オーストリアからイタリア王国に割譲された。プロイセン＝フランス戦争を機にイタリア王国に編入されたのは、ローマ

教皇領。①1830年にフランスで七月革命が起こると、翌年マツィーニは青年イタリアを結成した。そして1848年にフランスで二月革命が起こると、その翌年にローマ共和国の樹立を宣言したが、フランスに打倒された。②1850年代末のイタリア統一戦争では、プロンビエール密約によってフランスのナポレオン3世の支援をとりつけたサルデーニャ(サルディニア)王国が勝利し、オーストリアからロンバルディアを獲得した。③ガリバルディは、1860年に義勇軍である千人隊(赤シャツ隊)を率いてシチリア(両シチリア、ナポリ)王国を征服し、これをサルデーニャ王ヴィットーリオ＝エマヌエーレ2世に献上した。その翌年の1861年にヴィットーリオ＝エマヌエーレ2世を王とするイタリア王国が成立した。

問8 [8] ③

③胡適は、白話(白話文学)運動に反対したのではなく、白話運動を提唱した。新文化運動の一環である文学革命で進められた白話運動は、文語ではなく、白話すなわち口語による文芸活動で民衆を啓蒙しようとした。この影響を受けた魯迅は、『狂人日記』や『阿Q正伝』などの小説を口語で著した。①②④新文化運動は第一次世界大戦中に始まり、陳独秀が刊行した雑誌『新青年』がその舞台となった。李大釗がマルクス主義を紹介するなど、近代ヨーロッパの文化や思想が中国に紹介される一方、中国の伝統的な社会や儒教道徳が批判されて、第一次世界大戦後の1919年に起こった五・四運動にも影響を与えた。



ヨーロッパの統合(2013年)

問9 ⑨ ②

①②第一次世界大戦中の1917年に起こった三月革命(ロシア暦二月革命)でニコライ2世が退位してロマノフ朝が滅亡したあと、ストルイピンではなく社会革命党のケレンスキーが臨時政府の首相となった。レーニンらボリシェヴィキは、十一月革命(ロシア暦十月革命)を起こしてケレンスキー政権を打倒し、ソヴィエト政権を樹立した。ソヴィエト政権を打倒するため、欧米諸国や日本などが対ソ干渉戦争を起こすと、ソヴィエト政権は戦時共産主義と呼ばれる経済政策をとり、一切の私企業の禁止や穀物の強制徴発などを強行したが、農民の生産意欲喪失や経済活動の衰退によって極度の食糧難になった。そこで、干渉戦争がほぼ終わりを迎えた1920年代初めにレーニンは新たな経済政策としてネップ(新経済政策, NEP)を採用し、穀物の強制徴発の廃止や中小企業と中小農民の私営を認めた。ストルイピンは、日露戦争末期の1905年に起こった第1次ロシア革命後に首相となり、自作農を育成するため、農村共同体であるミールを解体した。③ソ連のフルシチョフは、1956年のソ連共産党第20回大会で、平和共存政策をうちだすとともに、スターリンの個人崇拜や大量粛清などを批判するスターリン批判を行った。キューバ危機ではなく、このソ連共産党第20回大会をきっかけに、1947年に結成されていたコミンフォルム(共産党情報局)は解散となった。その後、1962年にソ連がキューバにミサイル基地を建設すると、アメリカ合衆国大統領ケネディがキューバを海上封鎖したため、核戦争寸前の状態となるキューバ危機にいたった。フルシチョフがキューバからミサイルを撤去したことで、危機は回避された。④ブレジネフは、フルシチョフにかわって1960年代にソ連の指導者となり、チェコスロヴァキアの民主化運動である「プラハの春」の弾圧やアフガニスタン侵攻などで国際緊張を高めた。そしてブレジネフではなく1980年代に登場したゴルバチョフが、ソ連の政治・社会体制の全面的な見直しをはかるペレストロイカ(改革)を実施した。

第2問 世界史上の推挙や選挙

【出題のねらい】

世界史上の推挙や選挙について、Aでは中国の官吏任用制である九品中正(九品官人法)を、Bでは正統カリフ時代のカリフの選出を、Cではイギリスにおける女性参政権の獲得を、それぞれ扱って出題した。なお、Aの九品中正の史料は、趙翼『二十二史劄記』(歴史学研究会編『世界史史料3 東アジア・内陸アジア

ア・東南アジアⅠ』岩波書店)を用い、現代語に訳した。

【設問別解説】

A

問1 ⑩ ①

①3世紀に魏を建てた曹丕(文帝)は、郷挙里選にかえて九品中正と呼ばれる官吏任用制を始めた。中央から任命された中正官が人材を9等級に評定して推薦する方法だったが、結局、有力豪族の子弟が上位に推挙されたため、彼らが高級官僚を独占し、門閥貴族を形成するようになった。②孫権は3世紀に長江下流域の江南で呉を建て、都を建業(現在の南京)に置いた。魏・蜀・呉が分立した時代が三国時代である。③魏は蜀を滅ぼしたが、その魏を倒して晋(西晋)を建てたのが司馬炎(武帝)である。司馬炎はその後、呉を滅ぼして中国を統一し、土地制度として占田・課田法を実施した。④孝文帝は、鮮卑の拓跋氏が建てた北魏の皇帝で、5世紀後半に鮮卑の言語や服装などを禁止する漢化政策を採用し、土地制度の均田制や村落統治制度の三長制を創設したほか、平城から洛陽へ遷都した。

問2 ⑪ ①

①a秦王政は、前3世紀後半に中国を統一すると始皇帝を称し、法家の李斯の意見を入れて焚書・坑儒による思想統制を行った。また、統一前の戦国時代から秦で行われていた郡県制を全国で施行し、中央集権化を進めた。郡県制とは、全国を郡に分け、郡の下に県を置き、皇帝に任命された官吏を派遣して統治させた地方行政制度である。bフランク王国のカール大帝(シャルルマーニュ)は、全国を州に分け、各州に長官である伯を置き、巡察使に監督させた。

問3 ⑫ ④

④3世紀から6世紀にかけての時代とは、魏晋南北朝時代のことである。東晋の顧愷之は人物画を多く描き、「女史箴図」はその代表作とされる。東晋時代には魏晋南北朝時代の文化を代表する文化人が活躍し、顧愷之のほかにも詩の陶潜(陶淵明)や書の王羲之が優れた作品をのこした。①魏晋南北朝時代には四六駢儷体と呼ばれる華麗な文章形式が流行し、南朝の梁の昭明太子が編纂した『文選』のなかに多くみられる。これに対して、魏晋南北朝時代ではなく唐代の韓愈(韓退之)と柳宗元は四六駢儷体を批判し、漢代以前に用いられた古文の復興を主張した。②朱熹(朱子)は、魏晋南北朝時代でなく南宋の儒学者で、宋学を大成したため、宋学は朱子学とも呼ばれる。宋学は、君臣などの区別を重視する大義名分

論や、自国を中華として周辺民族と区別する華夷の区別を強調し、また『論語』などの四書を重視した。③『農政全書』は、魏晉南北朝時代ではなく明末に徐光啓が著した。魏晉南北朝時代の農業書としては、北魏時代に編纂された『齊民要術』がある。

B

問4 13 ④

④16世紀に、イル＝ハン国ではなくオスマン帝国のセリム1世がマムルーク朝を征服すると、メッカ・メディナの支配権はオスマン帝国が握るようになった。イル＝ハン国は、13世紀にモンゴル帝国のフラグがアッバース朝を滅ぼしてイランを中心に建てた国家で、14世紀半ば頃崩壊した。①メッカを占領したムハンマド(マホメット)は、それまで多神教の神殿であったカーバ神殿の偶像を破壊し、イスラーム教の聖殿とした。②13世紀から15世紀に西アフリカのニジェール川流域を支配したマリ王国は、サハラ砂漠の岩塩とニジェール川流域の金を交換するサハラ縦断交易によって繁栄し、都市トンプクトゥはこの交易で発達した。14世紀には国王マンサ＝ムーサがメッカに巡礼した。③明への朝貢国の増加をはかる永楽帝は、15世紀前半、鄭和に南海諸国遠征を命じた。鄭和の大艦隊は、東南アジアのマラッカ、インドのカリカットをへて、アラビア半島のメッカや東アフリカのマリンディまでいった。

問5 14 ②

②a ファーティマ朝は、10世紀にチュニジアで成立し、エジプトに進出するとカイロを建設して都とした。シーア派のファーティマ朝の君主は、建国当初からアッバース朝カリフの権威を否定し、自らカリフを名乗った。その後、コルドバを都とするイベリア半島の後ウマイヤ朝の君主もカリフを称したため、イスラーム世界は3カリフ鼎立となった。b トルコ革命を指導したムスタファ＝ケマル(ケマル＝パシャ)は、1920年代にスルタン制を廃止してオスマン帝国を滅ぼし、トルコ共和国を樹立したのち、カリフになったのではなく大統領となり、カリフ制を廃止するなど政教分離を行った。

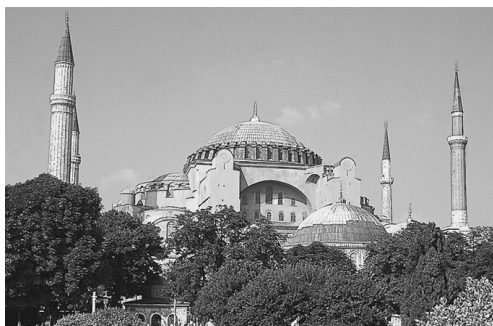
問6 15 ③

③ビザンツ(東ローマ)皇帝レオン(レオ)3世は、8世紀前半に聖像禁止令を發布した。これはローマ教会の反発を招き、ローマ教会がフランク王国に接近する背景となった。①前3世紀から後3世紀にイランを支配したパルティア(アルサケス朝)は、ビザンツ帝国ではなくササン朝に滅ぼされた。②ピサ大聖堂(次図参照)は、11世紀から発達した重厚・荘重を特色とするロマネスク様式の建築物であり、6世

紀にビザンツ帝国が建てたものではない。円屋根(ドーム)とモザイク壁画を特色とするビザンツ様式の建築はビザンツ帝国を中心に発達し、6世紀にイタリアのラヴェンナに建てられたサン＝ヴィターレ聖堂や、同じく6世紀にユスティニアヌス(大帝)が都コンスタンティノープルに造営したハギア(セント)＝ソフィア聖堂(次図参照)がその代表である。④8世紀前半のトゥール・ポワティエ間の戦いでウマイヤ朝のイスラーム勢力に勝利したのは、ビザンツ帝国ではなくフランク王国の宮宰(マヨル＝ドムス)カール＝マルテルである。



ピサ大聖堂



ハギア(セント)＝ソフィア聖堂

C

問7 16 ③

③ア．イギリスでは、1860年代の第2回選挙法改正で都市労働者に選挙権が与えられ、有権者数が大幅に増加した。イ．ロイド＝ジョージ挙国一致内閣は、第一次世界大戦末期の1918年に第4回選挙法改正を行い、21歳以上の男性と30歳以上の女性に選挙権を認めた。①②ア．産業革命が進展していたイギリスでは、1830年代に第1回選挙法改正が行われ、腐敗選挙区が廃止されたほか、産業資本家に選挙権が与えられた。しかし、労働者には選挙権が与えられなかったため、男性普通選挙などを求めるチャーティスト運動が高揚した。②④イ．自由党のグラッドストーン首相は、1870年代に教育法によって公教育

の充実をはかり、労働組合法によって労働組合を合法化した。そして1880年代には第3回選挙法改正を行い、農業労働者・鉱山労働者に選挙権を与えた。

問8 17 ③

③ a 古代ギリシアのアテネでは、ポリスの成立当初、貴族が政治を独占していたが、平民が重装歩兵として国防の中心になると、政治参加を求めるようになった。前6世紀初め、ドラコンではなくソロンが、財産に応じて参政権と軍務を定める財産政治を行って、平民の政治参加の道を開いたほか、債務奴隷を禁止した。ドラコンは前7世紀後半、アテネで慣習法を成文化した。b 古代ギリシアのスパルタでは、完全市民が参政権を独占し、商工業に従事する半自由民のペリオイコイは従軍と貢納の義務を負ったが参政権は与えられず、隷属農民のヘイロータイ(ヘロット)も参政権はなかった。

問9 18 ②

② ヴェルサイユ行進は国民議会(憲法制定議会)の時期に、バスティーユ牢獄襲撃後の混乱で、食糧の高騰に苦しんだパリの女性らがヴェルサイユ宮殿におもむき、ルイ16世一家をパリに連行した事件である。① 国民議会の時期に人権宣言(人間および市民の権利の宣言)を起草したのは、デカルトではなくラ＝ファイエットら。ラ＝ファイエットは、アメリカ独立戦争に義勇兵として参加したことでも知られる。デカルトは17世紀のフランスの哲学者で、論理的な推論によって真理に達する演繹法を用いて、合理論をうちたてた。③ イギリスとアミアンの和約を結んだのは、国民公会の時期に恐怖政治を行ったジャコバン派のロベスピエールではなく、統領(執政)政府時代のナポレオン＝ボナパルトである。ロベスピエールがテルミドール(9日)のクーデタで失脚すると、1795年憲法(共和国第3年憲法)によって総裁政府が成立した。しかし、総裁政府は不安定であり、ナポレオンがブリュメール18日のクーデタでこれを打倒して、統領政府を樹立した。第一統領となったナポレオンは、アミアンの和約を結び、第2回対仏大同盟を解消させた。④ ナポレオン1世による第一帝政時代のフランス艦隊は、19世紀初めのトラファルガーの海戦で、勝利したのではなく、ネルソン率いるイギリス艦隊に敗北した。

第3問 世界史上の「飛び地」

【出題のねらい】

世界史上の「飛び地」について、Aでは第一次世界大戦後の東プロイセンを、Bでは東パキスタンと西パキスタンを、Cではアラスカを、それぞれ扱って出題し

た。

【設問別解説】

A

問1 19 ①

① イギリスのプランタジネット朝のジョン王は、13世紀前半、大憲章(マグナ＝カルタ)を發布して、課税に貴族の同意を必要とすることなどを明文化した。② デンマーク・スウェーデン・ノルウェーの3国が、デンマークを中心にカルマル同盟を結成して、デンマーク連合王国を成立させたのは、14世紀末。③ 中山王の尚巴志が琉球を統一したのは、15世紀前半。④ 神秘主義のサファヴィー教団の指導者イスマーイール1世が、イランにサファヴィー朝を建てたのは、16世紀初め。

問2 20 ⑥

⑥ c 1914年、セルビア人青年がオーストリア皇位継承者夫妻を暗殺したサライェヴォ事件が起こると、オーストリアがセルビアに宣戦して、第一次世界大戦が勃発した。b 当初アメリカ合衆国は中立を保っていたが、1917年にドイツが無制限潜水艦作戦を宣言すると、これを理由に連合国(協商国)側で参戦した。翌1918年にはウィルソン大統領が十四カ条(十四カ条の平和原則)を発表し、秘密外交の廃止、海洋の自由、関税障壁の撤廃、軍備縮小、植民地問題の公正な解決、民族自決、国際平和機構の設立などを主張した。a 第一次世界大戦後の1919年に開催されたパリ講和会議は、十四カ条を指導原理としたが、大国の利害が対立して部分的にしか実現しなかった。そのなかで、国際連盟は1919年のヴェルサイユ条約によって設立が決められ、1920年に発足した。

問3 21 ①

① a ヒトラー率いる国民(国家)社会主義ドイツ労働者党(ナチス、ナチ党)は、1920年代前半、フランス・ベルギーによるルール占領(出兵)中の混乱に乗じてミュンヘン一揆を起こしたが失敗し、ヒトラーも逮捕された。b 1933年、首相となったヒトラーは、国会議事堂放火事件を利用して共産党を弾圧し、政府に立法権をゆだねる全権委任法を成立させて独裁体制を確立した。ヴェルサイユ体制打破を主張するヒトラー政権は、同年に国際連盟を脱退し、1935年にはザール編入後、再軍備宣言を行った。ナチス＝ドイツの動きについては次ページの地図を参照。

B

問4 22 ④

④ ア. 奴隷王朝は、ゴール朝のマムルーク(トル

コ系軍人奴隷)出身のアイバクが13世紀初めに自立して建てたインド最初のイスラーム王朝で、以後、ハルジー朝・トゥグルク朝・サイイド朝・ロディー朝と、デリーを都とする王朝がつづいた。これら5王朝をあわせてデリー＝スルタン朝と呼ぶ。16世紀前半に最後のロディー朝を倒してムガル帝国が成立した。イ・バングラデシュは、1970年代に東パキスタンがパキスタンから分離独立して成立した国家。

①②ア。ガズナ朝は、10世紀にアフガニスタンに成立したトルコ系イスラーム王朝。北インドへの侵入をくり返して、インドのイスラーム化への道を開いた。ガズナ朝にかわってアフガニスタンを支配したゴール朝は、北インドを征服した。このゴール朝から自立したのがアイバクである。①③イ。アフガニスタンは、パキスタンからではなくイギリスから20世紀前半に独立し、現在にいたっている。

問5 23 ③

③アルハンブラ宮殿はムガル帝国ではなく、イベリア半島のナスル朝が都グラナダに建設した宮殿である。13世紀から15世紀にかけてのナスル朝はイベリア半島最後のイスラーム王朝で、グラナダが1492年にスペインによって占領されると、これによってキリスト教徒によるレコンキスタ(国土回復運動)は完了した。ムガル帝国では、ヒンドゥー文化とイスラーム文化が融合したインド＝イスラーム文化が発展した。建築では、17世紀のシャー＝ジャハーンが建設したタージ＝マハルがその代表である。①ムガル帝国は、ティムールの子孫であるバーブルによって16世紀前半に建てられた。②ムガル帝国の第3代

皇帝のアクバルは、アグラへ遷都し、また非イスラーム教徒に対するジズヤ(人頭税)を廃止して、ヒンドゥー教徒との融和につとめた。④ムガル帝国は、19世紀半ばに起こったシパーヒー(セポイ)の反乱(インド大反乱)を機に、イギリスによって滅ぼされた。

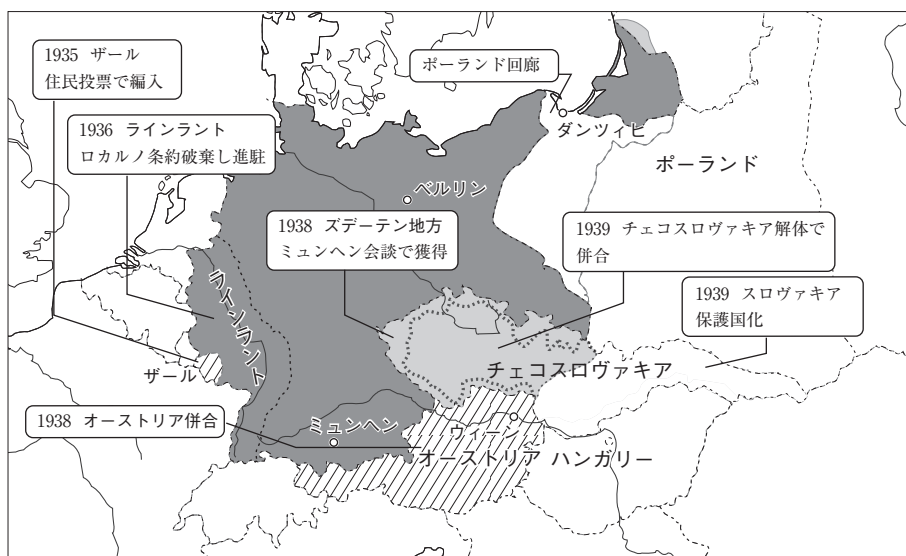
問6 24 ②

②bベンガル分割令(カーゾン法)は、インド帝国成立後のイギリス支配下のインドにおいて、ガンジス川下流域のベンガル州をイスラーム教徒が多く居住する地域とヒンドゥー教徒が多く居住する地域に分けるもので、民族運動の分断をはかるために1905年に発布された。その結果、これに対する反対運動が高揚して、翌1906年にインド国民会議カルカッタ大会が開かれ、英貨排斥・スワデーシ(国産品愛用)・スワラージ(自治獲得)・民族教育の4綱領が決議された。イギリスはこの動きに対抗して、イスラーム教徒に全インド＝ムスリム連盟を結成させる一方、ベンガル分割令を撤回して民族運動を懐柔しようとした。

C

問7 25 ③

③マヤ文明は、南アメリカのアンデス地方ではなく中部アメリカのユカタン半島を中心に発展した。アンデス地方に栄えた文明としては、インカ帝国(インカ文明)がある。①アメリカ大陸の古代文明は、トウモロコシなどを栽培する農耕文明であった。トウモロコシやジャガイモ・トマト・トウガラシ・タバコなどアメリカ大陸原産の作物は、15世紀



ナチス＝ドイツの動き

末にコロンブスがアメリカ大陸に到達して以降、ヨーロッパやアジアに伝わった。②南北アメリカ大陸の古代文明では、鉄器や車輪、牛・馬などの大型の家畜は使用されなかった。④インカ帝国は、16世紀前半にスペイン人のピサロに滅ばされた。また、メキシコ高原に栄えたアステカ帝(王)国(アステカ文明)は、16世紀前半にスペイン人のコルテスによって滅ばされた。

問8 [26] ②

②クリミア戦争は、南下政策を進めるロシアのロマノフ朝のニコライ1世が、1850年代にオスマン帝国領内のギリシア正教徒保護を口実に開戦した戦いで、イギリス・フランス・サルデーニャがオスマン帝国側について参戦した。主戦場となったクリミア半島は、黒海北岸の半島であり、地図上のaである。ロシアは敗北してパリ条約が結ばれ、南下政策は阻止された。ニコライ1世は戦争中に没し、アレクサンドル2世がパリ条約を締結した。③④地図上のbはバルカン半島の南部であり、19世紀前半にオスマン帝国から独立したギリシアがある。①③サン＝ステファノ条約は、1870年代に結ばれたロシア＝トルコ(露土)戦争の講和条約であり、モンテネグロ・セルビア・ルーマニアのオスマン帝国からの独立が認められたほか、エーゲ海沿岸を含むブルガリアが自治国となってロシアの保護下に置かれた。しかしこの条約にイギリス・オーストリアが反発すると、ドイツの宰相ビスマルクの調停でベルリン会議が開催され、サン＝ステファノ条約は破棄された。そして新たにベルリン条約が結ばれ、ブルガリアの領土が縮小されてオスマン帝国内の自治国とされたため、ロシアの南下政策は阻止された。

問9 [27] ③

③オーストラリアは、スペインではなくイギリスの植民地となり、20世紀初めにはイギリスの自治領となった。①前6世紀から前4世紀頃にウクライナから南ロシアを支配した騎馬遊牧民スキタイの文化は、動物文様と豊富な黄金の使用を特徴とした。その文化は草原の道(ステップ＝ロード)を通じて東方にも伝わった。②『世界の記述(東方見聞録)』は、13世紀後半に元を訪れたとされるヴェネツィア出身の商人マルコ＝ポーロの見聞記で、東アジアやインド洋地域などの情報が詳しく記述されている。④アメリカ合衆国のニクソン大統領は、ベトナム戦争の長期化などによる財政難のため、1971年に金とドルの交換停止を発表し、世界経済に衝撃を与えた。これをドル＝ショック(ドル危機)という。

第4問 世界史上の留学

【出題のねらい】

世界史上の留学について、Aではインドに留学した中国僧を、Bでは唐・宋時代の中国への日本人の留学を、Cでは近代のアジア・アフリカ諸国の留学生を、それぞれ扱って出題した。

【設問別解説】

A

問1 [28] ①

①ア. 東晋の法顕は、5世紀初めにグプタ朝最盛期のチャンドラグプタ2世(超日王)時代のインドに留学した。そして、帰国後に『仏国記』を著した。イ. グプタ朝の都パータリプトラの南東に設立され、仏教教学などを研究した学院は、ナーランダー僧院である。唐の玄奘や義浄はここで学んだ。③④ア. 義浄は唐の僧で、7世紀後半、ヴァルダナ朝崩壊後の分裂期のインドに留学した。往路・復路ともに海路を用い、帰国の途中でスマトラ島のシュリーヴィジャヤに滞在して、『南海寄帰内法伝』を著した。中国からインドへの留学僧については次ページの表を参照。②④イ. ニザーミーヤ学院は、トルコ系イスラーム王朝のセルジューク朝が設立したマドラサ(学院)。

問2 [29] ①

①インダス文明では、象形文字のインダス文字が印章などに刻まれたが、現在にいたるまで解読されていない。②仏教はガウタマ＝シッダールタが前5世紀頃に開いた宗教である。アーリヤ人がガンジス川流域に進出する前1000年頃にはバラモン教が成立したとされる。③インドで鉄器が使用されるようになるのは、前1000年頃以降のこと。クシャーナ朝は1世紀頃に成立した。またヒッタイトは、小アジア(アナトリア)を中心に前2000年紀に鉄の製造技術を独占して活躍したインド＝ヨーロッパ語系の民族で、クシャーナ朝と直接関係はない。④アレクサンドロス(アレクサンダー)大王のインド侵入は前4世紀で、大王の侵入による混乱が、インド初の統一王朝となるマウリヤ朝成立の契機となった。ヴァルダナ朝は7世紀前半にハルシャ＝ヴァルダナ(戒日王)が開いた王朝。

問3 [30] ④

④a エウクレイデス(ユークリッド)は、12世紀ではなくヘレニズム時代の前3世紀頃に平面幾何学を大成した。b ゼロの概念は、イスラーム世界で生まれてインドに伝わったのではなく、インドで生まれて、十進法とともにイスラーム世界に伝わった。また、現在の算用数字であるアラビア数字は、インド

	法顕	玄奘	義浄
留学時の中国王朝	東晋	唐	唐
留学時のインド	グプタ朝のチャンドラ グプタ 2 世(超日王)の時代	ヴァルダナ朝のハルシャ = ヴァルダナ(戒日王)の時代	ヴァルダナ朝滅亡 後の分裂期
往路	陸路	陸路	海路
復路	海路	陸路	海路
インド滞在の記録	『仏国記』	『大唐西域記』	『南海寄帰内法伝』

中国からインドへの留学僧

数字をもとにしている。

B

問 4 [31] ④

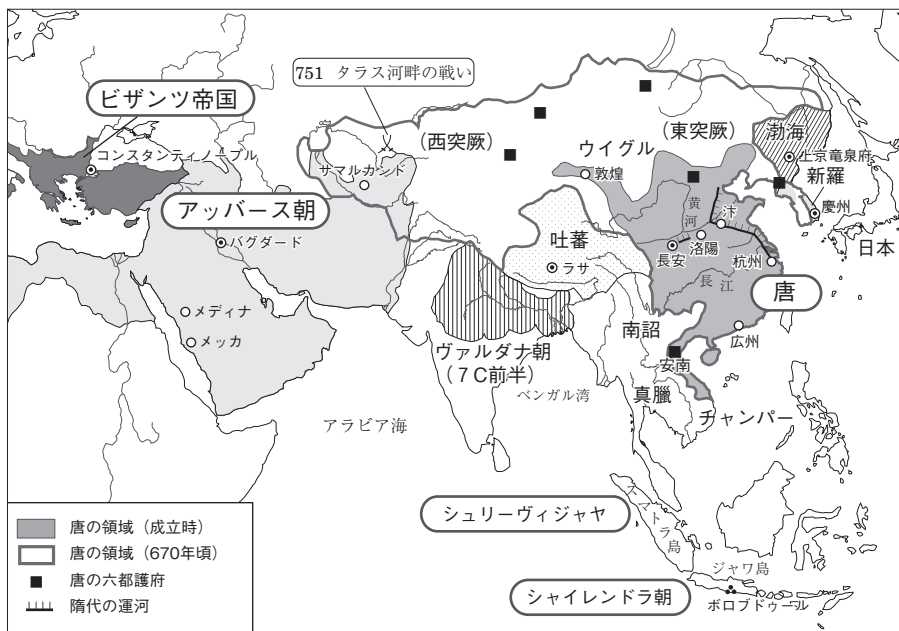
④ 大祚榮が高句麗の遺民などを率いて 7 世紀末に建国し、唐の諸制度を導入するとともに日本とも通交した国は、渤海である。渤海は中国東北地方を中心とした国家であり、その都は **d** の上京竜泉府である。① **a** は吐蕃の都ラサ。吐蕃は、7 世紀前半にソンツェン＝ガンポによってチベットに建設され、独自のチベット文字やチベット仏教(ラマ教)が発達した。② 前漢以来、ヴェトナム北部は中国の支配下であり、唐代には **b** のハノイに安南都護府が置かれた。③ **c** は新羅の都の慶州。新羅は 7 世紀後半に唐と結んで百済・高句麗を滅ぼして朝鮮半島を統一し、唐の冊封を受けて、律令制などの中国文化を導入した。唐と周辺諸国については下の地図を参照。

問 5 [32] ②

② 中国では、元代ではなく、明を建てた朱元璋(洪武帝、太祖)が中書省を廃止して六部を皇帝直属とし、皇帝への権力の集中を進めた。① アケメネス朝は、帝国領をいくつかの州に分けてサトラップ(知事)と呼ばれる長官に統治させ、王直属の監察官である「王の目」「王の耳」に全国を巡察させた。③ フランスではブルボン朝の時代に絶対王政が確立し、とくに 17 世紀から 18 世紀前半のルイ 14 世の時代には、中央集権のために官僚制と常備軍が整備された。④ 朝鮮半島では、^{ヤンパン}両班と呼ばれる官僚層が高麗の時代に形成され、14 世紀末に成立した朝鮮王朝(李氏朝鮮、李朝)の時代には世襲的な特権階層として高級官僚を独占するようになった。

問 6 [33] ③

③ **A**。北宋時代には、世界最初の紙幣である交子が発行されて流通し、南宋時代には会子と呼ばれる紙幣が流通した。また、元では紙幣として交鈔が使



唐と周辺諸国

用された。イ。唐末五代に従来の地主層であった門閥貴族が没落すると、宋代には形勢戸と呼ばれる新興地主層が台頭して、小作農家である佃戸に土地を耕作させた。①②ア。五銖銭は、前漢の武帝が鑄造させた銅銭である。②④イ。郷紳は、明清時代の地方社会における有力者のことで、官僚経験者や科学合格者で郷村に引退した者などをいう。

C

問7 [34] ②

②ア。1950年代にイギリスから独立したガーナは、サハラ以南のアフリカで第二次世界大戦後に初めて独立した黒人国家で、その初代大統領はエンクルマである。イ。フランスの植民地となったヴェトナムでは、日露戦争を契機にファン＝ボイ＝チャウらが中心となって、東遊(ドンズー)運動と呼ばれる日本への留学運動を進めた。③④ア。ナセルは第二次世界大戦後のエジプト革命で王国から共和国となったエジプトの大統領で、1956年にスエズ運河の国有化を宣言し、これを機にイスラエル・イギリス・フランスがエジプトに侵入するスエズ戦争(第2次中東戦争)が起こった。①③イ。洋務運動は、アヘン戦争やアロー戦争(第2次アヘン戦争)の敗北で近代化の必要性が明らかとなった清末の中国で、1860年代から曾國藩や李鴻章ら漢人官僚が主導した富国強兵政策である。西洋の軍事技術などを導入するものの、伝統的な専制支配体制は維持するという「中体西用」を特徴とし、1890年代に日清戦争の敗北でその限界が露呈した。

問8 [35] ④

④a イギリスのジョン＝ケイは、水力紡績機ではなく飛び杼(梭)を発明して、織布生産の効率を上げた。水力紡績機は、イギリスのアークライトが発明した。b エカチェリーナ2世の時代ではなく、クリミア戦争の敗北でロシアの後進性を痛感したアレクサンドル2世の時代の1860年代に農奴解放令が出されると、移動の自由な労働力が生まれ、ロシアの産業革命は19世紀末頃から本格化した。18世紀後半のロシア皇帝エカチェリーナ2世は、当初は啓蒙専制君主としてさまざまな改革を進めたが、プガチョフの反乱の鎮圧後は反動化して農奴制を強化した。

問9 [36] ②

②13世紀から16世紀にジャワ島を支配したマジャパヒ(イ)ト王国では、ヒンドゥー教が普及した。①ポロブドゥールは、ビルマ(ミャンマー)のパガン朝ではなく、8世紀から9世紀のシャイレンドラ朝のときにジャワ島に建てられた大乘仏教の建築物である。パガン朝は、11世紀から13世紀にビルマを支配した王朝で、元の侵攻で崩壊した。③明から独立したヴェトナムの王朝は、李朝ではなく黎朝である。李朝は、11世紀に成立したヴェトナムで最初の長期政権である。その後、ヴェトナムでは13世紀から陳朝が支配したが、14世紀に滅亡すると、15世紀初めに永楽帝時代の明に併合された。しかし永楽帝の死後、明から黎朝が独立した。④強制栽培制度とは、農民にコーヒーなどの商品作物を栽培させ、安価で買いとる制度で、スコータイ朝ではなくオランダがジャワ島で1830年以降に実施した。スコータイ朝は13世紀に成立したタイの王朝。

●写真・図版提供

PPS 通信社

【解答・採点基準】

(100点満点)

問題番号	設 問		解 答 番 号	正解	配点	自己採点
第1問	A	問 1	①	①	3	
		問 2	②	③	3	
		問 3	③	③	3	
	B	問 4	④	②	3	
		問 5	⑤	④	3	
		問 6	⑥	①	3	
第 1 問 自己採点小計				(18)		
第2問	A	問 1	⑦	②	3	
		問 2	⑧	④	3	
		問 3	⑨	③	3	
		問 4	⑩	⑤	3	
	B	問 5	⑪	①	3	
		問 6	⑫	④	2	
		問 7	⑬	②	3	
第 2 問 自己採点小計				(20)		
第3問	A	問 1	⑭	②	3	
		問 2	⑮	③	3	
		問 3	⑯	④	3	
	B	問 4	⑰	③	3	
		問 5	⑱	①	3	
		問 6	⑲	④	2	
		問 7	⑳	①	3	
第 3 問 自己採点小計				(20)		
第4問	A	問 1	㉑	①	3	
		問 2	㉒	⑤	2	
		問 3	㉓	②	3	
		問 4	㉔	③	2	
	B	問 5	㉕	②	3	
		問 6	㉖	③	3	
		問 7	㉗	④	3	
		問 8	㉘	③	2	
第 4 問 自己採点小計				(21)		

問題 番号	設 問		解 答 番 号	正解	配点	自己採点
第 5 問	A	問 1	29	③	2	
		問 2	30	②	3	
		問 3	31	①	3	
	B	問 4	32	③	3	
		問 5	33	③	3	
	C	問 6	34	①	3	
		問 7	35	①	2	
		問 8	36	④	2	
第 5 問 自己採点小計				(21)		
自己採点合計				(100)		

【解説】

第1問 「教育の場」からみる古代～近代

【出題のねらい】

例年センター試験の第1問では、特定のテーマに関する会話文が出題される。本問でも、その形式にならって、「教育の場」をテーマとした会話文で問題を構成した。テーマはやや特殊だが、各時代の政治・文化・経済などを扱う総合問題とし、基本的な知識で正解が得られるようにした。

【設問別解説】

A 古代・中世の「教育の場」をテーマとした。古代律令制下の大学の形骸化のあと、中世には寺院などが教育の場になったことを会話文から読み取ってほしい。

問1 ① ①

正しい組合せは①。空欄「ア」には、勸学院が入る。平安時代初期には大学における学問熱が高まり、有力氏族が大学に入学する子弟の便宜のために寄宿舎を設けた。これが大学別曹である。なかでも藤原氏の勸学院はしっかり覚えておきたい。綜芸種智院は、空海が設立した庶民にも門戸を開いた教育機関である。空欄「イ」には、足利学校が入る。足利学校は、室町時代に関東管領上杉憲実によって再興された教育機関で、戦国時代には宣教師によって「坂東の大学」としてヨーロッパにも紹介された。なお、金沢文庫は、鎌倉時代に北条実時によって設立された私設図書館である。

問2 ② ③

正しい組合せは③。Xは誤っている。菅原道真は、藤原基経の死後、宇多天皇によって登用され

た。しかし、次の醍醐天皇の時代に藤原時平の讒言によって大宰府に左遷された。なお、醍醐天皇の時代は延喜の治とよばれ、摂政や関白が置かれなかった。時平はその当時左大臣で、道真は右大臣であった。Yは正しい。道真が大宰府で亡くなったあと、その怨霊を恐れて建てられたのが北野神社である。当時、疫病の流行などは政治的に非業の死をとげた人物の怨霊によるものとされ、その怨霊を鎮めるための御霊会が行われた。北野神社のほか、祇園社も御霊会で有名である。

問3 3 ③

正しいのは③。日蓮は法華経こそが釈迦の正しい教えだと説き、他宗を激しく攻撃した。そのため、鎌倉幕府によって配流された。①は誤っている。浄土宗の法然は、「南無阿弥陀仏」の念仏をひたすら唱えることで往生できると説いた。南無妙法蓮華経は題目であり、その唱和をすすめたのは日蓮である。②も誤っている。親鸞の「善人なをもて往生をとぐ、いはんや悪人をや」の文言は弟子唯円の『歎異抄』に記されている。『愚管抄』は、慈円が著した歴史書である。④も誤っている。臨済宗の栄西は、鎌倉幕府の将軍源頼家や北条政子の帰依を受けて建仁寺(京都)・寿福寺(鎌倉)を建立してもらい、以後も臨済宗は幕府に保護された。越前に永平寺を開いたのは、曹洞宗の道元である。

B 近世の「教育の場」や教育内容は多彩であったが、近代の初等教育では画一化されていく。そのさまを問題文から学んでほしい。

問4 4 ②

正しい組合せは②。Xの「この藩」は米沢藩なので、a(米沢)があてはまる。「藩主上杉治憲」から、江戸時代中期の米沢藩の改革と判断してほしい。Yの「この藩」は薩摩藩なので、d(鹿児島)があてはまる。「調所広郷」「黒砂糖の専売を強化」から、江戸時代後期の薩摩藩の改革であると判断してほしい。

◆江戸時代中・後期の藩政改革

江戸時代中期 (18世紀後半)

*特産品奨励・藩専売制強化・藩校設立など

熊本藩

細川重賢(藩主)

時習館の設立

米沢藩

上杉治憲(藩主)

興譲館の再興

米沢織の奨励

秋田藩

佐竹義和(藩主)

明德館の設立

江戸時代後期 (19世紀前半～半ば)

*中下級武士登用・財政再建と藩権力の強化

薩摩(鹿児島)藩

調所広郷を登用

黒砂糖の専売強化

琉球王国との貿易拡大

長州(萩)藩

村田清風を登用

紙・蠟の専売制改革

越前方の拡充

肥前(佐賀)藩

鍋島直正(藩主)が推進

均田制の実施

陶磁器の専売

反射炉の設置

問5 5 ④

誤っているのは④。18世紀には、問屋制家内工業が広まった。これは都市の問屋商人が農民らに資金や原料を貸与して、生産物を買上げる形態である。さらに19世紀になると、絹織物業・綿織物業では、工場に労働者を集めて分業・協業を行うマニファクチュア(工場制手工業)も見られるようになった。①は正しい。江戸時代前期には農具の発明・改良が進み、脱穀具として千歯扱が普及した。他の農具についても、図版とともに名称と用途を確認しておこう。②も正しい。17世紀後半、河村瑞賢は幕府の命により東廻り航路・西廻り航路を整備した。東北地方の日本海側から関門海峡を経由して大坂に至るのが西廻り航路、東北地方から太平洋を南下して江戸に至るのが東廻り航路である。③も正しい。両替商は三貨の交換が本来の業務だが、本両替は、大名への貸付も行うとともに、大名の蔵屋敷の蔵元・掛屋を務めたりして藩財政にも携わった。

問6 ⑥ ①

正しい配列は①。年代配列問題に対し、西暦年を覚えて対策しようとする受験生が多いようだが、特にセンター試験では正確な年代を覚えていなくても正解できる。教育制度の大きな変遷をつかんでおきたい。まず、明治時代初期に学制が公布されたが、現場の実情を無視した画一的な学区制によるものであったことなどから、批判が高まった。Ⅰそこで教育令を出し、町村を小学校設立の単位とし、その管理も町村に移管した。しかし、混乱が生じ、翌年、教育令は改正され教育に対する国家の統制が強まった。Ⅱそうしたなか第1次伊藤博文内閣の森有礼文部大臣のもとで、いわゆる学校令が出され、国家主義的な教育制度がとられるようになっていった。Ⅲ日露戦争後、小学校令が改正され、義務教育期間が6年へと延長された。この頃には小学校の就学率が上昇し、ほぼ100%となった。

第2問 古代における国家財政の変遷

【出題のねらい】

本問は、古代の国家財政をテーマに、5世紀のヤマト政権の時期から11世紀後半の後三条天皇の時代までを、当該期の基本事項を中心に問うた。土地制度や税制については、一般に苦手とする受験生が多いが、本問を手掛かりに各時期における税制や財政の特徴について整理しておいてほしい。

【設問別解説】

A 5世紀ころから9世紀ころまでを範囲として、ヤマト政権の経済基盤、律令国家の財政のあり方、その動揺とその対応策について確認した。

問1 ⑦ ②

正しい組合せは②。空欄アには、屯倉が入る。ヤマト政権の直轄地は屯倉で、直轄民は名代・子代である。一方、豪族の私有地が田荘で、私有民は部曲である。なお、こうした土地・人民の領有を廃止し、公地公民制を目標として掲げたのが「改新の詔」である。空欄イには、西海道が入る。9世紀には、政府は直営田経営で財源確保を図った。9世紀前半、大宰府の財源確保のために、大宰府管内の西海道諸国の良田が選ばれ公営田が設定された。有力農民に公営田を経営させ、その収穫物を大宰府が取得した。なお、9世紀後半には、中央財政確保のため畿内に官田が置かれた。

問2 ⑧ ④

正しいのは④。壬申の乱では、大友皇子の近江朝廷に味方した旧来からの有力豪族が敗北し、没落した。したがって乱に勝利して即位した天武天皇は強

大な権力を獲得し、その権力を背景に、豪族の領有民である部曲を廃止した。ただし、この知識はやや詳細なので、他の①～③を消去して正解を導き出してもよい。①は誤っている。645年の乙巳の変では中大兄皇子や中臣鎌足らによって蘇我蝦夷・入鹿らが滅ばされた。蘇我馬子は、6世紀末、物部守屋を滅ぼした後、崇峻天皇を殺害し、7世紀初めに厩戸皇子とともに推古朝の政治を主導した。②も誤っている。改新政府の国博士は、僧旻と高向玄理である。吉備真備と玄昉は8世紀前半に遣唐使に随行した留学生・留学僧で、帰国後は聖武天皇の下で橘諸兄政権に重用された。③も誤っている。「改新の詔」は、孝徳天皇が出した。『日本書紀』が伝える「改新の詔」では、第一条で公地公民制への移行が示されている。

問3 ⑨ ③

正しい組合せは③。Xは誤っている。秦小宅牧床は「正丁」、つまり成人男性であり、調(絹・麻布など地方の産物)を賦課された。しかし、韓人智努女は女性であり、調の課税対象外である。この戸では弟秦小宅石床も正丁であるが、逃亡している。Yは正しい。秦小宅牧床には「左頬黒子」、母の韓人智努女には「左頬疵」、妹の小宅女には「左目上黒子」とあり、男女とも身体的特徴が記されている。以下に、律令制下のおもな税負担をまとめておいたので、参考にしてほしい。

◆律令制下の主な税負担

租	口分田に賦課(土地税)
庸	都での労役にかわる布 成人男性に賦課
調	地方の産物 成人男性に賦課
雑徭	国司の命令の下で労役 成人男性に賦課
運脚	庸・調を都に運搬
出挙	稲を借り受け、利息とともに返済
義倉	飢饉に備えて粟を備蓄
兵役	成人男性3～4人に1人 諸国の軍団に配属(一部は防人・衛士)

問4 ⑩ ⑤

正しい配列は⑤。Ⅰの「恭仁京」は、聖武天皇が藤原広嗣の乱(740年)の後に造営させた都である。その後、聖武天皇は難波宮・紫香楽宮と転々とし、745年に平城京に還都した。Ⅱは、「勘解由使が設置された」から桓武天皇の時代(8世紀末～9世紀初頭)だと判断できる。勘解由使は国司交代の事務手続きを監督する令外官である。Ⅲは、いわゆる三世一身法の規定である。三世一身法は、723年、長屋王政権で出された。なお、同法では旧来の用水路や

溜池を利用した開墾の場合は「一身」(本人のみ)に所有が認められた。以上より、Ⅲ－Ⅰ－Ⅱが正しい配列となる。

B 律令税制が崩壊し、10世紀前半ごろに国司制度が変容するとともに、人身課税にかわって、土地(名)に課税する方式が成立した。その結果、10世紀後半に地方で受領が収奪を強め、中央の朝廷・摂関家は受領の私富を取り込もうとした。

問5 **11** ①

正しい組合せは①。空欄 **ウ** には、田堵が入る。10世紀前半ごろ、有力農民である田堵が、国司から名の耕作と納税を請け負った。なお、預所とは、11世紀以降に増加する寄進地系荘園の荘官(荘園の経営・管理にあたった人)の名称の一つである。空欄 **エ** には、太政官が入る。後三条天皇は、1069年に延久の荘園整理令を出し徹底した荘園整理にのりだした。それ以前の荘園整理令では、国司による審査に任せられており、不徹底だった。そこで、後三条天皇は、太政官内に記録荘園券契所を設置し、朝廷みずから荘園領主から提出させた証契書類(券契)を審査し、基準にあわない荘園を停止した。延久の荘園整理令では、摂関家の荘園も審査の対象とされた。

問6 **12** ④

正しい組合せは④。**a** は誤っている。1行目は「尾張国の郡司と百姓らが太政官の裁決を請願すること」という意味である。つまり、郡司と百姓とがともに、国司の藤原元命を訴えていることが読みとれる。8～9世紀には、在地での徴税の実務は郡司が行っていたが、10世紀に国司(受領)が徴税請負人化し一国の支配を委任されると、郡司と百姓は受領との対立を深めていった。**b** は正しい。4～5行目に「元命の子弟や郎等が、郡司・百姓の手からさまざまな物を奪い取った」とある。**c** は誤っている。在庁官人とは、国衙領の開発領主層(地方豪族)で、郡司・郷司・保司として所領を支配するかたわら、国衙の行政の実務を担当した者たちである。**d** は正しい。史料の末尾に「良吏を改任せられ、以て将に他国の牧宰をして治国優民の褒賞を知らしめむ」とある。つまり、良い国司を尾張国に任命し善政を褒めることで、他国の国司に「良い政治を行ったものは褒められる」ということを知らしめてほしい、と述べている。

問7 **13** ②

正しい組合せは②。**X** は正しい。朝廷の行事や内裏造営などの費用を負担して、国司などの官職に任命されることを成功といった。また成功によって再

び同じ官職に任じられることを重任といった。こうした制度は、摂関政治期には国家財政上の重要な位置を占めた。さらに院政期には、上皇らの盛んな造寺・造仏事業の費用を賄うため、いっそう盛んになった。**Y** は誤っている。藤原道長が完成させたのは、法成寺である。平等院鳳凰堂は、藤原頼通が創建したことに気づけば易しかったはず。なお道長は、法成寺を造営するにあたって、受領に柱間1間ずつの建造を割り当て、9体の阿弥陀仏像がならぶ巨大な阿弥陀堂を完成させ、さらに多くの堂舎を擁したという。

第3問 中世の朝廷

【出題のねらい】

本問では、中世の朝幕関係を扱った。中世の朝廷は政治力を後退させていくが、権威まで衰えたわけではなかった。朝廷の権威がどのように歴史のなかで利用されたのかを見ていくなかで、中世の政治史を理解してほしい。

【設問別解説】

A 鎌倉時代の朝幕関係を主題とし、政治と文化について問うた。

問1 **14** ②

正しい組合せは②。**X** の後鳥羽上皇が命じて編纂させた勅撰和歌集は**a** の『新古今和歌集』である。勅撰和歌集の編纂は、10世紀初めの醍醐天皇の時代以来、しばしば行われており、朝廷の文化力を示す事業だった。『新古今和歌集』は、いわゆる八代集の最後を飾るものとなった。なお、**b** の『金槐和歌集』は、3代将軍源実朝の歌集である。**Y** の順徳天皇が著した有職故実書は、**d** の『禁秘抄』である。有職故実とは、朝廷の儀式や政務の先例・由来などの研究である。この知識はやや詳細かもしれないが、**c** の『吾妻鏡』は鎌倉幕府の歴史書だということで排除することができる。

問2 **15** ③

誤っているのは③。源氏将軍が絶えた後、摂関家の人物が将軍として鎌倉に迎え入れられ、藤原(九条)頼経・頼嗣と摂家将軍が続いた。頼嗣が将軍を廃され皇族将軍(宗尊親王)が擁立されるのは、5代執権北条時頼の時であり、承久の乱後の戦後処理というわけではない。①は正しい。乱後、幕府は、後鳥羽上皇および他の2上皇(順徳上皇・土御門上皇)を配流し、また、天皇の廃立も行った。以後、皇位継承など朝廷に干渉するようになった。②も正しい。没収した上皇方の所領には地頭が置かれ、畿内や西国にも地頭の設置範囲が拡大した。なお、新た

に任命された地頭のうち新補率法とよばれる得分規定が適用されたものは新補地頭とよばれた。④も正しい。朝廷の監視および西国御家人の統轄のために京都に六波羅探題が設置された。その長官には、北条泰時(義時の子)・時房(義時の弟)が任命された。

問3 16 ④

正しいのは④。後醍醐天皇は南北朝の動乱のさなかに死去した。足利尊氏は夢窓疎石のすすめに依り、天皇の冥福を祈るために天竜寺を建立した。なお、その造営費用を得るために元に派遣された貿易船が天竜寺船である。①は誤っている。鎌倉時代後期から天皇家は持明院統と足利寺統とに分裂したが、後醍醐天皇は足利寺統の出身である。②も誤っている。正中の変(1324年)は最初の討幕計画であり、この時は後醍醐天皇は罪を免れた。2度目の元弘の変(1331年)によって隠岐に配流されることになった。しかし、畿内を中心に討幕の挙兵があいつぎ、やがて鎌倉幕府は滅亡した。③も誤っている。京都に帰還した後醍醐天皇は親政(建武の新政)を行ったが、その中心機関となったのが記録所である。このときの記録所は重要政務をあつかう機関であり、荘園整理とは関係がない。

B 足利義満期から豊臣政権期までの公武関係を扱い、政治史だけでなく、文化・経済史まで幅広く問うた。

問4 17 ③

正しい組合せは③。室町時代の文化は、南北朝期の文化・北山文化(足利義満のころ中心)・東山文化(足利義政のころ中心)・戦国期の文化に大別できる。各事項がどの文化に含まれるのかを整理しておこう。aは誤っている。足利義満の別荘として北山第(北山山荘)が造営されたが、その中心となる金閣は、寝殿造・禅宗様を折衷した様式で造られている。書院造が取り入れられたのは、足利義政が造営した東山第(東山山荘)の銀閣および東求堂である。bは正しい。足利義満の時期に五山・十刹の制が整い、五山派寺院は幕府の保護の下で発展した。五山からは絶海中津・義堂周信らが出て漢詩文を中心とする五山文学が栄えた。cは正しい。観阿弥・世阿弥父子は猿楽に田楽の要素を取り入れ、芸術性の高い能(猿楽能)を完成させ、足利義満の保護を受けた。dは誤っている。雪舟は東山文化の時期に活躍した。水墨画は禅僧によって伝えられ、禅の公案(問答)などをテーマにしたものが多かったが、雪舟はそうした禅画の制約を越え、日本的な山水画(風景画)を大成した。雪舟の代表的作品として『四季山水図巻』『天橋立図』などがある。

問5 18 ①

正しい配列は①。Iは足利義満の時代の応永の乱である(1399年)。義満は明徳の乱(1391年)で山名氏清を滅ぼした後、応永の乱で大内義弘を滅ぼすなど、守護大名を抑圧した。IIは永享の乱(1438～39年)である。6代将軍足利義教の時代、鎌倉公方足利持氏は幕府に反抗的な姿勢をとり、それを諫める関東管領上杉憲実と対立した。将軍義教は上杉憲実と結んで持氏を滅ぼした。義教は、この他にも多くの武家・公家を処罰し、その政治は「万人恐怖」といわれた。IIIは嘉吉の乱(1441年)である。播磨の守護赤松満祐は、将軍義教を自邸に招き、殺害した。その後、赤松満祐は領国播磨に逃げたが、幕府軍に攻められ、滅ぼされた。なお、この嘉吉の乱の直後に発生したのが嘉吉の徳政一揆である。以上より、I—II—IIIが正しい配列となる。以下に室町時代の戦乱についてまとめておいたので、参考にしてほしい。

◆室町時代の戦乱

足利尊氏の時代

観応の擾乱(1350～52)

足利尊氏・高師直と足利直義の抗争

足利義満の時代

明徳の乱(1391)

義満が山名氏清を滅ぼす

応永の乱(1399)

義満が大内義弘を滅ぼす

足利義教の時代

永享の乱(1438～39)

義教が足利持氏(鎌倉公方)を滅ぼす

嘉吉の乱(1441)

赤松満祐が将軍義教を殺害する

足利義政の時代

応仁・文明の乱(1467～77)

足利義視と足利義尚の将軍後継争い

細川勝元と山名持豊(宗全)の実権争い

斯波・畠山家の家督争い

問6 19 ④

正しいのは④。油座の商人は原料仕入れ・製造・販売の独占権を幕府から認められていた。史料2～3行目に見える摂津・近江国の地域では「恣に荏胡麻を売買」しており、製油業者がいたようであるが、その「油器」(製油の道具)を「破却」するように命じられている。つまり営業停止である。(注5)から命じているのが将軍であり、(注7)からこの文書を出しているのが管領とわかる。①は誤ってい

る。免除されているのは、土倉への負債返済ではなく土倉役である。史料1行目に「公事並びに土倉役」が「免除せらるる」とある。土倉役とは、金融業者である土倉に対する課税であり、大山崎の油座が金融業(土倉)も営んでいたことがわかる。㉔も誤っている。大山崎の油座の活動範囲は摂津国だけでなく、畿内を中心に広範囲に及んでいた。「江州」(近江国)の製油業者の営業停止が命じられていることから、大山崎油座の活動が近江国にまで広がっていたことが推測できる。㉓も誤っている。油の原料となるのは史料中にもある「荏胡麻」である。菜種は、江戸時代に油の原料として栽培が普及した。

問7 ㉒ ㉔

正しい組合せは㉔。Ⅹは正しい。豊臣(羽柴)秀吉は、天皇から豊臣姓を与えられるとともに、関白・太政大臣に任じられた。関白となった秀吉は、天皇から全国の領土紛争の裁定権を委ねられたとし、戦国大名らに戦闘停止を命じた。この命令への違反を理由として、九州の島津氏を攻めて降伏させ(1587年)、東国の北条氏を攻めて滅ぼした(1590年)。Ⅳも正しい。秀吉は京都に城郭風邸宅を築き、聚楽第と名づけた。1588年、後陽成天皇を聚楽第に招いて諸大名を参集させ、諸大名に天皇と秀吉への忠誠を誓わせた。このように、秀吉は軍事力だけでなく天皇の権威を利用して天下統一を進めた。

第4問 近世の日中・日朝関係

【出題のねらい】

本問は、江戸時代の外交を中心に、経済・文化などを幅広く確認する問題である。江戸時代という「鎖国」のイメージが強く、長崎での貿易に目が向きがちであるが、長崎以外の対馬・薩摩・松前で朝鮮・琉球・アイヌとそれぞれ異なった形態での通交関係をもっていた。本問では、長崎における中国との関係、および朝鮮からの朝鮮通信使に光をあてた。

【設問別解説】

A 中国で明から清への交替がおこり、江戸幕府の貿易相手が明から清へと変化したこと、それが日本の文化にも影響を与えたことなどを取りあげた。

問1 ㉒ ㉔

正しい組合せは㉔。空欄[ア]には、林鷺峰が入る。幕府教学の担当者という点から、徳川家康以来の将軍に仕えて侍講となった林羅山に始まる林家が思い浮かぶだろう。ここでは林羅山の子で林家を継いだ林鷺峰があてはまる。ただし、林鷺峰はセンター試験では詳細な知識である。一方の熊沢蕃山は陽明学者であり、こちらを消去して正解を得ること

もできる。なお、熊沢蕃山は、岡山藩主池田光政に仕えた人物で、著書『大学或問』で幕政を批判したため幕府に咎められて下総古河に幽閉された。空欄[イ]には、生糸が入る。江戸時代初期の主要な輸入品は生糸である。当時中国産生糸は「白糸」と称され、絹織物の原料として日本国内で重宝された。一方の銀は日本からの輸出品である。戦国大名による鉱山開発によって、精錬技術・採掘技術の革新がすすみ、戦国時代以来銀の生産が飛躍的に高まった。石見大森や但馬生野などの有名な銀山が生まれた。

問2 ㉒ ㉔

正しい配列は㉔。年代順に説明しよう。Ⅲ「奉書船」がキーワード。江戸時代初期、朱印状(将軍が発行する渡航許可証)をもつ朱印船が東南アジアに渡航し明船と出会貿易を行っていたが、1633年、朱印状だけでなく老中奉書(老中が発行する渡航許可証)を併せもつ奉書船以外は海外渡航が禁止された。Ⅰ1635年、奉書船を含めて日本人の海外渡航が全面禁止され、同時に海外からの帰国も禁止されることになった。Ⅱ「かれうた」がキーワード。島原の乱(1637~38年)後、キリスト教布教と密接な関係をもっていたポルトガル船の来航が禁止された。史料の「かれうた」はガレオタ船のことで、ポルトガル船を指す。なお、その後の1641年にオランダ商館が平戸から長崎出島に移転されて、鎖国体制は完成することになる。

問3 ㉒ ㉔

正しい組合せは㉔。Ⅹは正しい。6代将軍徳川家宣・7代将軍徳川家継の時代に、側用人間部詮房とともに政治を主導したのは新井白石である。彼は5代将軍徳川綱吉の時代の政治の悪弊を改めるため、正徳の治と称される政治刷新を行った。白石は、長崎貿易で多くの金銀が流出したことから、これを防ぐために海舶互市新例を出して中国船・オランダ船に対して貿易額の制限を行った。これにより中国船に対しては年間30隻、銀高にして6000貫、オランダ船に対しては年間2隻、銀高にして3000貫の取引と決められた。Ⅳは誤っている。海舶互市新例と糸割符制度の創設とは別物である。糸割符制度は江戸時代初期の1604年に創設されている。当時はポルトガル商人が中国産生糸をもたらし巨利を得ており、これに対して幕府は糸割符仲間とよばれる特定商人に輸入生糸を一括購入させてポルトガル商人の利益独占を抑制しようとした。糸割符仲間は当初、京都・堺・長崎の商人が対象で、のちに江戸・大坂の商人が加わり五カ所商人とよばれた。

問4 [24] ㊸

正しいのは㊸。Xの尾形光琳は、江戸時代初期の俵屋宗達の画法を取り入れた装飾画を描いた。代表作品として『紅白梅図屏風』『燕子花図屏風』などがあり、bが『紅白梅図屏風』に当たる。aは俵屋宗達の『風神雷神図屏風』である。Yの菱川師宣は、美人や役者などを画題とする浮世絵の画家であり、浮世絵版画を始めた人物として知られるが、肉筆画も描いた。彼の肉筆画の代表作がcの『見返り美人図』である。dは『ポッピンを吹く女』で、寛政期の喜多川歌麿の『婦女人相十品』のうちの1枚である。上半身や顔のみを描いた大首絵が特徴である。

B ここでは、朝鮮との国交が復活すると、江戸幕府は通信使を將軍權威の高揚のために受け入れたことを取り上げた。西欧諸国の動向に幕府の関心が高まる19世紀には、朝鮮外交は重要視されなくなる点も考えておきたい。

問5 [25] ㊸

正しい組合せは㊸。Xは正しい。対馬藩は、1609年に対馬藩主宗氏と朝鮮とのあいだに結ばれた己酉約条をもとに朝鮮との貿易を独占するようになった。宗氏はこの貿易の利益を家臣に分与することで、家臣との主従関係を結んでいた。Yは誤っている。対馬藩と朝鮮との貿易は、朝鮮の釜山に置かれていた倭館に対馬藩が貿易船を派遣することで行われた。三浦(富山浦・塩浦・乃而浦)に倭館が置かれて交易が行われたのは、室町時代のことである。

問6 [26] ㊸

正しい組合せは㊸。空欄[ウ]には、日光東照宮が入る。徳川家康は死後に東照大権現と号され、日光東照宮に祀られた。江戸時代初期にはこうした靈廟建築が流行し、建築様式として権現造が広まっていた。なお、湯島聖堂は孔子を祀る施設で、5代將軍徳川綱吉の時に建立された。空欄[エ]には、フェートン号が入る。イギリス軍艦フェートン号がオランダ船のだ捕を目的に長崎に侵入し薪水・食料を強要するという事件が1808年に起きた(フェートン号事件)。モリソン号は、1837年に浦賀沖に接近したアメリカ商船である。幕府は異国船打払令にもとづきこれを撃退させている(モリソン号事件)。以下に、江戸時代後期の列強接近について整理しておいたので、参考にしてほしい。

◆江戸時代後期の列強接近

ロシア

ラクスマンの根室来航(1792)
大黒屋光太夫送還
レザノフの長崎来航(1804)
グローウニン事件(1811~13)
高田屋嘉兵衛の努力で解決

イギリス

フェートン号事件(1808)
以後、しばしばイギリス船が出没
→異国船打払令(1825)

アメリカ

モリソン号事件(1837)
→蛮社の獄(1839)

問7 [27] ㊸

正しい組合せは㊸。aは誤っており、bは正しい。琉球王国は、17世紀初め、薩摩藩主島津家久の軍に征服されて薩摩藩の支配下に入った。しかし琉球と中国との交易の利をかんがみ、薩摩藩は琉球を独立した王国として存続させ、中国との朝貢貿易も継続させた。そのうえで、琉球から幕府にも使者を派遣させていた。琉球から国王の代替わりごとに幕府に派遣されたのは謝恩使である。慶賀使は、同じく琉球から派遣された、將軍の代替わりごとに奉祝する使節である。cは誤っており、dは正しい。オランダは長崎の出島にオランダ商館をおき、日本との貿易を行っていた。そこでオランダ船の来航のたびオランダ商館長は、オランダ風説書を幕府に提出することになっていた。幕府はこれにより海外の事情を知ることができた。アヘン戦争(1840~42年)の後、日本の開国を勧告するオランダ国王の国書もたらされたことはあったが、来航のたびに国書が提出されたわけではなかった。

問8 [28] ㊸

正しいのは㊸。徳川家斉の治世下、江戸を取り巻く関東の農村では無宿人や博徒らによる治安の乱れが生じていた。これに対し幕府は関東取締出役を設け、関八州の犯罪者の取締りにあたさせた。㊸は誤っている。大名に米を幕府に上納させ、その代わりに参勤交代の江戸在府期間を緩和したというのは、上米の制のことである。これは8代將軍徳川吉宗の治世下、享保の改革で行われた政策である。㊹も誤っている。勘定吟味役萩原重秀の建議をうけて発行された品質を落とした貨幣とは元禄金銀のことで、これは5代將軍徳川綱吉の治世下のことである。㊺も誤っている。江戸・大坂周辺の大名・旗本

の領地を幕府の直轄地にしようとした上知令は、財政の安定や対外防備強化などを目的としたもので、これは老中水野忠邦による天保の改革で出された法令である。この上知令は譜代大名や旗本に反対されて実施できず、忠邦は失脚することになった。

第5問 大隈重信の人物史

【出題のねらい】

本問は、明治維新时期から政府の中心的政治家として活動し、政府を退いた後も政党政治家・文化知識人として活躍した大隈重信を取りあげて、明治・大正期を総合的に問うたものである。近代史の学習がまだ進んでいない受験生もいるだろうが、近代史の量や密度を考えると、あまり余裕はないといえよう。自分自身の学習状況を、この問題で確認して、これからの学習に臨んでもらいたい。

【設問別解説】

A ここでは幕末から明治維新を経て、明治十四年の政変で大隈が政府を去るまでの時期を扱って、当該期の政治・経済史などについて問うた。

問1 29 ③

正しい配列は③。年代順に説明しよう。Ⅱ明治政府は成立当初、太政官札と民部省札を発行したが、それらは不換紙幣であった。Ⅰ太政官札・民部省札に加え、幕府時代の三貨・藩札など雑多な貨幣が使用されており、経済が混乱していた。そのため政府は、1871年に新貨条例を制定して、円・銭・厘を単位とする新硬貨を発行した。これによって金本位制の採用をめざした。Ⅲその後、1872年には渋沢栄一を中心に国立銀行条例を定め、民営の国立銀行を設立させた。国立銀行が発行する銀行券(紙幣)は正貨との兌換を義務づけられたが、国立銀行は4行しか設立されなかった。以下に、明治時代の貨幣・金融制度についてまとめておいたので参照してもらいたい。

◆明治時代の貨幣・金融制度

殖産興業期

太政官札(1868)・民部省札(1869)の発行
不換紙幣 経済混乱
新貨条例の制定(1871)
円・銭・厘の十進法の貨幣単位
金本位制の採用をめざす
→実質は金銀複本位制
国立銀行条例の制定(1872)
渋沢栄一が推進
国法による民間銀行
(アメリカのナショナルバンク制度が手本)
国立銀行券(兌換紙幣)を発行
第一国立銀行など4行が設立
国立銀行条例改正(1876)
兌換義務廃止 国立銀行券は不換紙幣に
国立銀行が急増(153行へ)
不換紙幣を濫発
→インフレへ

松方財政期

日本銀行の設立(1882)
銀兌換の日本銀行券を発行(1885)

産業革命期

貨幣法の制定(1897)
金本位制を確立(日清戦争の賠償金をもと)

問2 30 ②

誤っているのは②。秩父事件などの激化事件は、明治十四年の政変後に松方正義が行ったデフレ政策による農村の窮乏化などを背景に発生したもので、政変の原因ではない。①は正しい。明治十四年の政変の背景には、高揚する自由民権運動に対して即時国会開設を主張する大隈重信と漸進論を主張する伊藤博文との対立があった。③も正しい。開拓使が廃止されることになり、その官有物が政商五代友厚に払下げられることとなった。しかし、払下げ価格が不当に安いことが暴露され、開拓使長官黒田清隆と五代友厚がともに薩摩藩出身だったため、国民の藩閥政府への攻撃が激しくなった。国民の政府攻撃が激しくなるなかで、この動きに関係があるとみられた大隈が参議を罷免された。④も正しい。政府は払下げを中止するとともに、1890年に国会を開設すると公約する国会開設の勅諭を出し、政府攻撃をかわそうとした。

問3 31 ①

正しい組合せは①。Xは正しい。大隈が罷免された後に財政を担当した大蔵卿松方正義は、第一に緊

縮財政によるデフレ政策で、増税による歳入の増加と軍事費を除く歳出の削減により不換紙幣整理と正貨蓄積を実施し、第二に、日本銀行を設立して銀本位の貨幣制度を整備した。表を見ると、1881年の明治十四年から1884年まで歳入の合計と歳出の合計が同額である。このような状態を均衡予算といい、緊縮財政の特色でもある。Yも正しい。松方財政が展開している時期は、1882年に壬午軍乱、1884年に甲申事変が起きるなど、朝鮮半島をめぐる日清対立が激化していたころにあたり、このような国際状況を背景に軍事費は歳出削減の対象外となった。

B 明治十四年の政変で下野した大隈は、立憲改進黨を結成してその初代党首となり、日清戦争後に最初の政党内閣である隈板内閣を組織した。しかし、この内閣は短期間で総辞職してしまった。

問4 **32** ③

正しいのは③。外国人判事の任用を大審院に限定して認める条件で交渉をしたのが大隈重信である。①は、関税自主権の回復をめざしたことと、アメリカの同意は得たがイギリスなどの反対で挫折したという点から寺島宗則、②は鹿鳴館を建設して欧化政策を展開した点から井上馨、④はロシア皇太子が襲撃される事件(大津事件)で外相を辞任した点から青木周蔵の交渉に関する文と判断できる。以下に条約改正交渉の展開をまとめたので参照してほしい。

◆条約改正交渉の展開

岩倉具視 (1871~73)

岩倉遣外使節団

アメリカで改正予備交渉に失敗

寺島宗則 (1871~79)

税権回復を目指す

アメリカとの交渉成功

→イギリス・ドイツの反対で失敗

井上 馨 (1879~87)

法権回復・税権一部回復を目指す

欧化主義(鹿鳴館を建設)

条件 外国人判事の採用・法典編纂・内地雑居の承認

ノルマントン号事件で世論反発→井上辞職

大隈重信 (1888~89)

法権回復・税権一部回復を目指す

条件 内地雑居・外国人判事を大審院限定で採用

経過 『ロンドン・タイムズ』で報道される

玄洋社員が大隈を襲撃→交渉中止

青木周蔵 (1889~91)

法権回復・税権一部回復を目指す

経過 イギリスが態度を軟化(ロシアのアジア南下を警戒して)→交渉進展

大津事件(来日中のロシア皇太子が襲撃される)→青木引責辞任

陸奥宗光 (1892~95)

経過 日英通商航海条約の締結(1894)

領事裁判権撤廃・最恵国待遇の相互化
各国とも締結

→1899年発効(有効12年)

小村寿太郎 (1911)

経過 日米通商航海条約の締結(1911)

関税自主権の完全回復→各国とも締結

問5 **33** ③

正しい組合せは③。Xは誤っている。軍部大臣現役武官制は、政党の影響力が軍部に及ぶのを防ぐための制度で、第1次大隈内閣の次の第2次山県有朋内閣が制定した。第2次山県内閣は、それ以外にも文官任用令の改正で政党勢力の官僚機構への進出を防止していることもおさえておきたい。Yは正しい。文相の尾崎行雄が「日本に共和政治が行われたと仮定すれば」と発言したことが、天皇に対して不敬であると攻撃され、文相を辞任した。その後任人事をめぐる憲政党内で旧自由党系と旧進歩党系が争い、憲政党は分裂した。そのため大隈内閣は退陣

した。

- C ここでは政界から引退して文化活動が続いていた大隈が、元老たちから推されて第2次内閣を組織してから、死去するまでを扱った。

問6 34 ①

正しい組合せは①。Xは正しい。大隈は、明治十四年の政変で政府を離れた後、1882年に東京専門学校を設立した。官学に対抗しつつ、将来行われる立憲政治を担う人材を育成することを目的とした。この東京専門学校が、のちに早稲田大学と改称した。

Yも正しい。早稲田大学と名乗っていたが、法律上の大学は国立の帝国大学だけに限られていた。高等教育の拡充をめざした原敬内閣は、1918年、大学令を公布し、公立大学・私立大学や単科大学も公認した。この大学令にもとづき、1920年、早稲田大学も正式な大学となった。

問7 35 ①

正しい組合せは①。空欄アには、ジーマンス(事件)が入る。第一次護憲運動で第3次桂太郎内閣が倒れたあとに成立した第1次山本権兵衛内閣は、軍部大臣現役武官制を廃止(緩和)するなど政党勢力

を考慮した政策を行った。しかし、海軍高官の汚職事件であるジーマンス事件が発覚したのを契機に退陣した。虎ノ門事件は、関東大震災後の混乱のなかで無政府主義者が摂政宮裕仁を狙撃した事件で、第2次山本内閣が退陣する契機となった事件である。

空欄イには、立憲同志会の総裁である加藤高明が入る。第2次大隈内閣は立憲同志会を与党として成立したため、立憲同志会総裁の加藤高明が外務大臣として入閣した。寺内正毅は陸軍閣で、第2次大隈内閣総辞職後に首相となった人物である。

問8 36 ④

正しい組合せは④。二十一カ条要求は、まず、第一号で山東省のドイツ権益の継承を求めている。空欄ウには、山東省が入る。日清戦争後の列強による中国分割のなかで、「独逸国」は膠州湾を租借した。その膠州湾があるのが山東省で、「独逸国」はその後、山東省に多くの権益を獲得した。空欄エには、九十九(ケ年)が入る。日本は日露戦争後、遼東半島の旅順・大連の租借権と南満州の鉄道権益を得ていたが、二十一カ条要求ではその期限を99年間延長することを求めた。

●写真提供・協力

京都国立博物館／建仁寺／神戸市立博物館／東京国立博物館 Image: TNM Image Archives / MOA 美術館

【解答・採点基準】

(100点満点)

問題番号	設問	解答番号	正解	配点	自己採点
第1問	問1	①	①	3	
	問2	②	②	3	
	問3	③	④	3	
	問4	④	③	3	
	問5	⑤	③	2	
	問6	⑥	④	3	
第1問 自己採点小計				(17)	
第2問	問1	⑦	②	3	
	問2	⑧	④	3	
	問3	⑨	①	3	
	問4	⑩	①	3	
	問5	⑪	②	3	
	問6	⑫	①	2	
第2問 自己採点小計				(17)	
第3問	問1	⑬	②	3	
	問2	⑭	③	3	
	問3	⑮	⑤	3	
	問4	⑯	①	2	
	問5	⑰	③	3	
	問6	⑱	④	3	
第3問 自己採点小計				(17)	
第4問	問1	⑲	⑤	3	
	問2	⑳	④	3	
	問3	㉑	⑥	3	
	問4	㉒	②	3	
	問5	㉓	③	3	
	問6	㉔	④	2	
第4問 自己採点小計				(17)	
第5問	問1	㉕	⑥	3	
	問2	㉖	④	2	
	問3	㉗	③	3	
	問4	㉘	③	2	
	問5	㉙	①	3	
	問6	㉚	④	3	
第5問 自己採点小計				(16)	

問題番号	設問	解答番号	正解	配点	自己採点
第6問	問1	㉛	②	3	
	問2	㉜	③	2	
	問3	㉝	①	3	
	問4	㉞	①	2	
	問5	㉟	③	3	
	問6	㊱	②	3	
第6問 自己採点小計				(16)	
自己採点合計				(100)	

【解説】

第1問 気候

【出題のねらい】

世界の気温、降水量、風系や局地風、気候に関連する災害や環境問題について出題した。気温と降水量は、世界的な分布を地図帳で確認し、その背景を理解しておこう。貿易風や偏西風などの風系は、大気大循環から理解し、多雨地域、少雨地域との関係もみておこう。

【設問別解説】

問1 ① ①

図1に赤道を記入してみると、北半球で等温線が密となっており、北半球の中高緯度地方で気温が低いことから、北半球の冬、すなわち1月と判定できる。等温線は10℃間隔であるが、赤道付近は年中28℃前後なので、北回帰線付近を東西に走る等温線は20℃であり、その北側のAの等温線は10℃となる。30℃の等温線は、オーストラリア大陸北部の内陸にみられるように、夏季の乾燥地域に局地的に現れるだけである。また、東京など本州太平洋側の1月の平均気温が5℃前後であることを知っていれば、本州の南側を通るAを10℃と判定できる。大陸は海洋より比熱が小さく、暖まりやすく冷えやすいので、冬季は内陸部の方が沿岸部より低温になり、夏季はその反対になる。Aの等温線が、ユーラシア大陸と北アメリカ大陸の内陸部で低緯度側に湾曲していることから1月と判定できる。このほかに、図1では、暖流上を吹く偏西風の影響を受けるヨーロッパで0℃の等温線がほぼ南北に走っていること、シベリア北東部が非常に寒冷で-40℃以下となること、アフリカ大陸南部と南アメリカ大陸南部では、寒流が北上する西岸が東岸より低温であることなどに注意してほしい。

問2 ② ②

気温の年較差(最暖月と最寒月の平均気温の差)は、夏季と冬季の日照時間の差が大きい高緯度地方ほど大きい。また、大陸は海洋より比熱が小さいため、海洋から離れるほど年較差は大きくなる。よって、最も高緯度で内陸に位置するオイミヤコンが、年較差が最大の④である。図1からわかるように、オイミヤコン付近は、1月平均気温が -40°C 以下で、北半球の寒極とよばれ、年較差は 60°C を超える(最寒月の1月が -46.4°C 、最暖月の7月が 14.8°C で、年較差は 61.2°C)。ウィニペグとダブリンは、ほぼ同緯度に位置するが、内陸のウィニペグは年較差が大きい⑤である。問1で述べたように、西岸のヨーロッパは暖流と偏西風の影響を受け、緯度の割に冬季温暖で、年較差は小さい。一方、東岸の日本を含む東アジアは、冬季、シベリア高気圧から吹く北西季節風の影響を受け寒冷で、緯度が低いため夏季は高温となるので、ヨーロッパより年較差が大きい。また、日本は、季節風の影響を受けて多雨であり、年降水量が $1,000\text{ mm}$ 以下の地域は少ない。よって年降水量の多い①が新潟で、年降水量が少なく、年較差も小さい②がダブリンである。

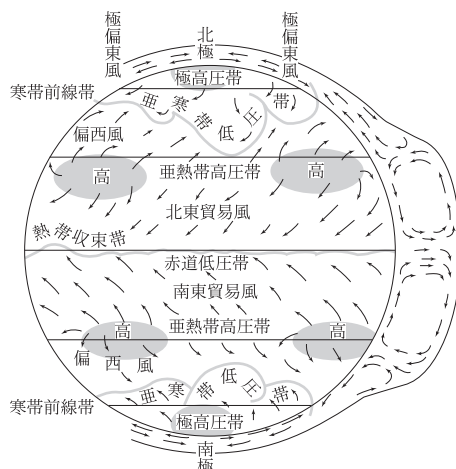
問3 ③ ④

この問題を解くには、図①に示した大気大循環を理解しておく必要がある。図②の緯度別の年降水量で多雨地域と少雨地域をみると、低圧帯(赤道低圧帯と亜寒帯低圧帯)に覆われるところが多雨地域で、高圧帯(亜熱帯高圧帯と極高圧帯)に覆われるところが少雨地域になっている。図①は、太陽が赤道付近で真上にくる春と秋の状態を示したものであり、北半球の夏には気圧帯は全体に北上し、南半球の夏には南下する。赤道付近に雨をもたらす赤道低圧帯

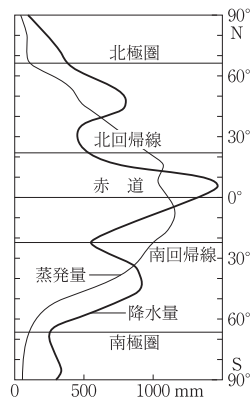
(熱帯収束帯)は、7月には北上して赤道より北半球側では多雨(雨季)となるので、図3のAの線上で北半球にあるaが多雨となっているEが7月で、Fは1月である。1月には赤道低圧帯が南下し、a付近では南下してきた北側の亜熱帯高圧帯に覆われるため少雨(乾季)となる。赤道より南に位置するbとcは、赤道低圧帯が南下する1月が多雨、北上してきた南側の亜熱帯高圧帯に覆われる7月が少雨となる。アフリカ大陸南西端のdのケープタウン付近は地中海性気候(Cs)なので、亜寒帯低圧帯が北上する冬(7月)が雨季、亜熱帯高圧帯が南下する夏(1月)が乾季となる。イの線上の地点についても同様に考え、北半球のe、fが多雨となるGが7月、南半球のhが多雨となるHが1月である。ただし、東南アジアの雨季は、夏季に海から吹く湿った南西季節風によって、乾季は、冬季に大陸から吹く乾燥した北東季節風によってもたらされる。また、赤道付近のg(シンガポール)は、年中赤道低圧帯に覆われるため、乾季がなく年中多雨の熱帯雨林気候(Af)となる。

問4 ④ ③

①正しい。Pのマダガスカル島では、亜熱帯高圧帯から赤道低圧帯に吹きこむ南東貿易風が年中吹くため、山地の風上側となる東部では上昇気流が生じて多雨となり、熱帯雨林気候が広がっている。風下側では乾燥した風が吹きおろるため、西部には乾燥帯がみられる。②正しい。Qのインド半島西岸には西ガーツ山脈が走り、夏季には南西季節風がぶつかって風上側に多雨をもたらす。③誤り。Rのコロンビア太平洋岸は、赤道に近く、年中赤道低圧帯の影響を受けるため熱帯雨林気候となっている。ただ



図① 大気大循環の模式図



図② 緯度別の年降水量と蒸発量

し、南半球側のペルー付近の海岸沿いでは、沖合を北上する**寒流**の影響を受けて大気が安定するため、**海岸砂漠**がみられる。④正しい。**S**のアルゼンチン南部は、**偏西風**が西側のアンデス山脈にぶつかって風上側のチリに雨を降らせ、乾燥した風が吹きおるため年中少雨で砂漠が広がっている。

問5 **5** ②

局地風(地方風)は、狭い地域に吹く特徴的な風で、日本では、問6①のやませや、冬型気圧配置時に吹く六甲おろし、筑波おろしなどのおろしがある。Xは、春に地中海からアルプス山脈を越えて吹く**フェーン**という局地風で、山脈の風上側で雨を降らせて水分を失い、乾燥した風が風下側に吹きおる。乾燥した空気は湿潤な空気より気温の**減率**(高度とともに気温が低下する割合)が大きいので、風下側では風上側より高温となる。よって、①と②は正しく、このように山脈を越えて、風下側に**高温で乾燥した風**が吹くことを**フェーン現象**という。Yは、冬にディナールアルプス山脈を越えてアドリア海へ吹きおる**ボラ**とよばれる局地風で(④)、日本のおろしと同じ寒冷で乾燥した風であるため、③は誤りである。一般に、北半球では南風は暖かく、北風は冷たいので、Yが冬の北風なら温暖なはずはないと考えられる。

問6 **6** ④

①正しい。**やませ**は、梅雨季に現れるオホーツク海高気圧から東北地方に向けて寒流の親潮の上を吹く冷涼で湿った北東風である。やませの影響を受ける**東北地方太平洋側**では**冷害**が起りやすいが、奥羽山脈がやませをさえぎるため、日本海側では冷害は起りにくい。②正しい。大都市では、アスファルトやコンクリートなどで地表が覆われて雨水が浸透しにくいので、雨水が一気に河川や下水に流入して増水し、水害が起りやすくなっている。このような**都市型水害**に対して、大都市では洪水時にあふれた水を流し込む地下調整池が建設されている。③正しい。大都市では自動車やオフィス、工場などから大量の人工熱が排出され、建物や道路をつくるコンクリートやアスファルトは熱を蓄積する性質をもつため、郊外より気温が高くなる。等温線を描くと、高温域が海の中の島のように浮かび上がるため、**ヒートアイランド**(熱の島)とよばれる。④誤り。**光化学スモッグ**は、工場や自動車の排ガスなどに含まれる窒素酸化物や炭化水素が、太陽からの紫外線と光化学反応を起こし、人体に有害なオゾンなどのオキシダント(酸性物質)を発生させ、頭痛や目・のどの痛みなどをひきおこす。高度経済成長期

には大都市で頻発し、その後は大気汚染物質の排出量規制で減少したが、近年、工業化が進む中国などから汚染物質が流入し、再び各地で発生が増えている。

第2問 地図の利用

【出題のねらい】

地形図の読図(面積の計算と集水域の判読、地形断面図)、正距方位図法とメルカトル図法、大圏航路と等角航路、統計地図について出題した。図法はセンター試験での出題が少ないが、教科書を読んで基本事項を理解しておこう。なお、使用した地形図は、国土交通省国土地理院発行の2万5千分の1地形図「本岐」である。

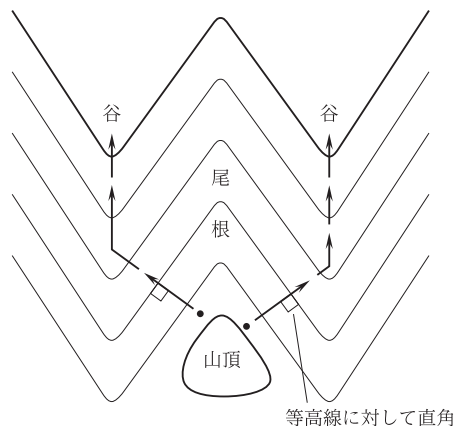
【設問別解説】

問1 **7** ②

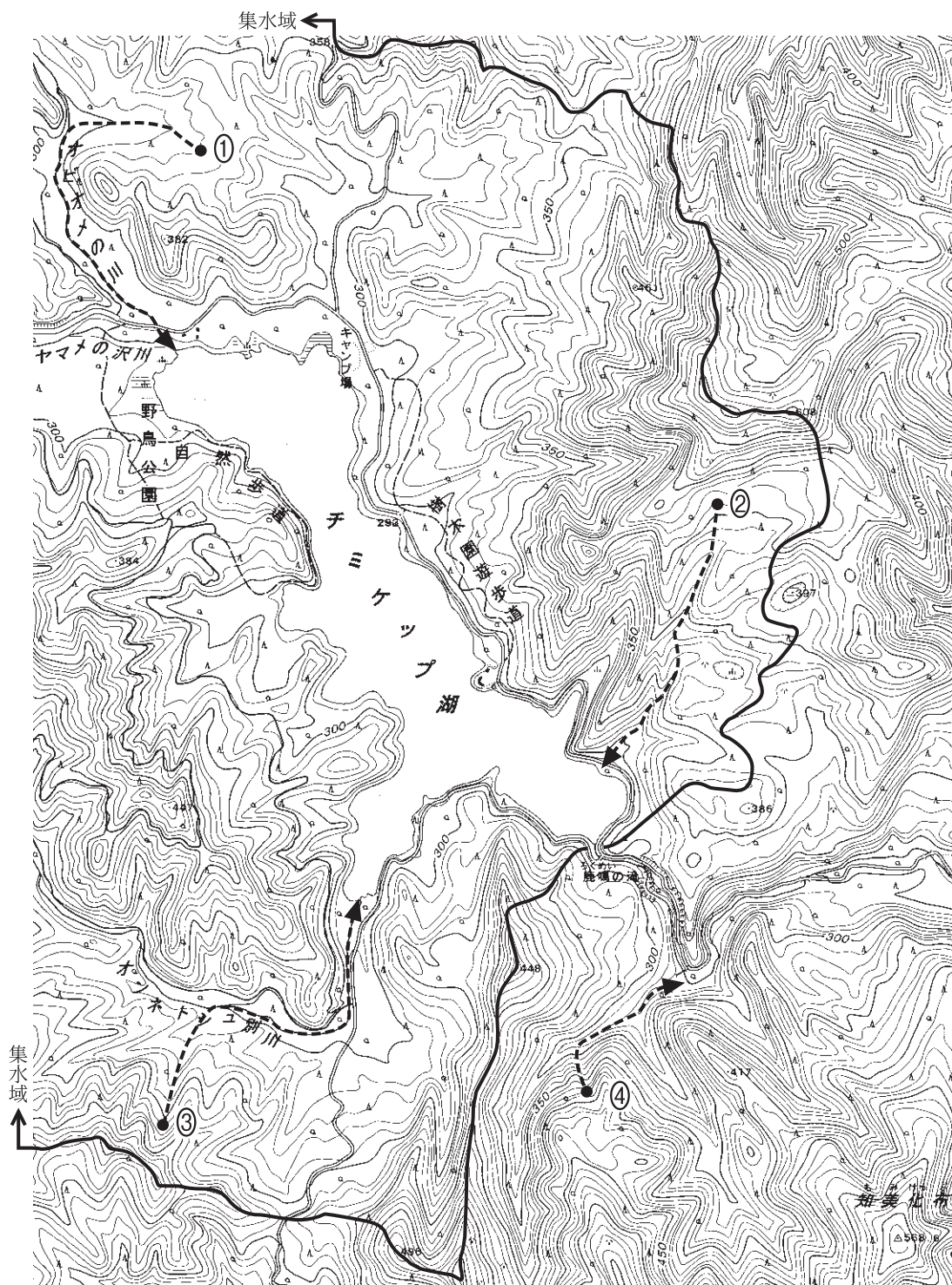
2万5千分の1地形図では、図上の**1cm**は**250m**であり、正方形の方眼の1辺は2cmなので、実際は500mとなる。選択肢の面積の単位は km^2 なので、1辺を0.5kmとして計算すると、方眼1個の面積は 0.25km^2 である。よって、湖の面積はその5倍の 1.25km^2 となる。

問2 **8** ④

チミケップ湖の集水域(流域)とは、湖に流れ込む水が集まる範囲のことで、読図するには尾根と谷が判読できなければならない。下の図③に示したように、降った雨は等高線に直角の最大傾斜方向に斜面を流れ、谷に入るとそのまま谷を流れ下っていく。尾根は、標高の高い方から低い方に向かって等高線が凸になっているところで、それをつなぐと尾根線が描ける。谷は、尾根とは反対に標高の低い方から高い方に向かって等高線が凸になっているところで、それをつなぐと谷線が描ける。河川は必ず谷を



図③ 水が流れる方向



図④

流れるので、河川は谷線を示している。①～④の地点が集水域に含まれるかどうかは、各地点から水が流れる方向をみればよい。図④には、各地点から水が流れる方向を示したが、①～③の地点からは湖に流れ込むのに対し、④の地点からは、チミケップ湖から流出する河川に流れ込み、集水域には含まれないことがわかる。図④にはチミケップ湖の集水域の境界となる尾根線(図中の実線)を示したので、問題の図1を利用して自分でも境界を描き、合っているかどうかを確認してほしい。

問3 9 ①

地形断面図を判定するには、まず、P-Qの両端の標高を読み取り、次にその間の等高線から傾斜や標高を読図していく。P地点は410mと420mの等高線の間にあるから415m前後で、Q地点は360mの等高線上にある。PからQへ向かうと、最初に等高線間隔が狭い急斜面を下り、320mの等高線を2回横切るので、谷底は315m前後である。そこから、等高線間隔の広い緩やかな斜面を380mまで上がってから斜面を下り、350mの等高線を2回横切るところで谷から斜面を360mまで少し上がり、再び350m付近まで下る。そして急斜面を440mまで上がって445m前後の平坦な尾根を通ったあと急斜面を下り、Q地点に至る。P-Q間の最低地点はPを下った315m前後の谷であり、最高地点はQ地点の西側の445m前後の平坦な尾根である。以上の断面を表現したものは①である。

問4 10 ①

正距方位図法は、図の中心と任意の地点を結んだ直線が2地点間の最短経路である大圏航路を示し、距離と方位も読み取れる。①正しい。正距方位図法で世界全図を描くと、円周は中心から2万kmの地点、すなわち地球の真裏である対蹠点^{たいせきてん}を示す。よって、半径は2万kmであり、東京・ローマを結ぶ直線は、半径のほぼ半分なので、距離は約1万kmと読み取れる。②誤り。正距方位図法では、中心以外の地点からの距離と方位は読み取れない。図4では、東京からみたローマの方位は北西であるが、次ページのローマを中心とした正距方位図法(図⑤)をみると、ローマからみた東京の方位は北東であることがわかる。③誤り。一日は日付変更線から始まり、西へ向かうにつれて時刻は遅れるので、ローマの方が東京より時刻が進んでいるはずはない。標準時子午線は、日本は東経135度、ローマの位置するイタリアは東経15度なので、経度差は120度となり、経度15度で1時間の時差を生じるから、ローマは東京より8時間遅れている。よって、東京が午前9時

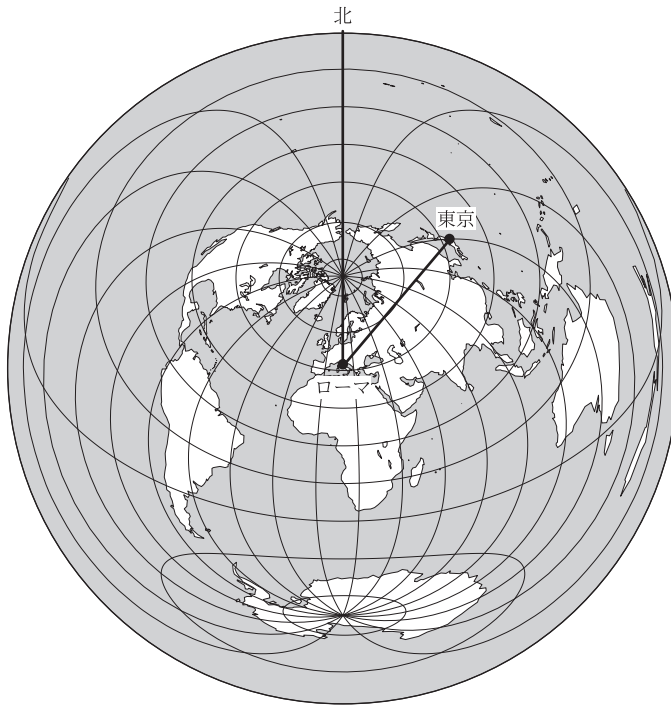
のとき、ローマは同日の午前1時である。④誤り。地球は地軸を23.4度傾けて自転しているため、緯度が高いほど夏と冬の日中の時間の差が大きくなる。夏至(6月20日頃)のときには北回帰線(北緯23.4度)上で太陽の南中高度が90度になり、北極圏(北緯66.6度以北)では太陽が沈まない白夜となる。反対に、冬至(12月20日頃)のときには南回帰線(南緯23.4度)上で太陽の南中高度が90度になり、南極圏(南緯66.6度以南)では白夜となる。ローマは東京より緯度が高いので、日の出から日の入りまでの時間は、夏至のときにはやや長く、冬至のときにはやや短い。

問5 11 ②

2地点間の最短経路である大圏航路は、正距方位図法で、中心からの直線で表されるから、図4で東京とローマを結び、その直線が通過するところをみれば、力が該当することがわかる。等角航路は、常に経線と同じ角度を保ちながら進む航路で、羅針盤が航海に使われた大航海時代以降、任意の2地点を結ぶ直線が等角航路を示すメルカトル図法は海図として利用された。図5で、東京とローマを結んだ直線が等角航路で、通過するところをみれば、クが該当することがわかる。

問6 12 ①

①誤り。Xは、人口を円の面積で表した図形表現図である。ドットマップは、ある事象が分布するところに、その数量を点(ドット)で表したものである。②正しい。Yは、統計数値をいくつかの階級に区分し、濃淡や色彩で表した階級区分図である。③正しい。人口のような絶対的な数値(絶対値)を示した地図は絶対分布図とよばれ、ドットマップや図形表現図、等値線図などが利用される。一方、単位面積あたりや人口1人当たりなどの相対的な数値(相対値)を示した地図は相対分布図とよばれ、階級区分図やメッシュマップ(地図上に等面積の方眼(メッシュ)をかけ、方眼ごとの数量をいくつかの階級に分けて示す)が利用される。人口のように面積とともに増加する傾向のある統計数値を階級区分図で表すと、面積の広い地域で人口が多いような印象を与えてしまうため、表1の人口分布を示すにはXが適しており、Yは人口密度を示すのに適している。よって、④は正しい。



図⑤

第3問 人口

【出題のねらい】

地域別人口の推移、死亡率の推移の背景、人口ピラミッド、人口問題、在留邦人数、国籍別外国人人口について出題した。人口の分野は統計問題が多いので、地域別、国別の特徴を概観し、先進国と発展途上国との違いなど、その背景を理解することが重要である。

【設問別解説】

問1 ⑬ ②

欧米先進国では、産業革命が始まった18世紀後半以降、人口が急増し、20世紀に入ると、増加率は低下し、近年は人口が停滞している。一方、発展途上国では、第二次世界大戦後の医療の普及や公衆衛生、栄養状態の改善などによって、出生率が高いまま死亡率が低下したため、人口が急増し、**人口爆発**とよばれた。よって、人口増加率が高い①と②が、発展途上国中心のアジアかアフリカ、低い③と④が先進国中心の北中アメリカかヨーロッパである。アジアはアフリカに比べ経済が発展しており、出生率が低下しているが、アフリカでは現在も出生率が非常に高い国が多いので、人口の伸びが大きい①がアフリカ、近年やや伸びが小さくなっている②がアジアである。アジアの人口増加率が低下している背景としては、人口が世界一の中国の**一人っ子政策**の影響も大きい。③と④は、人口増加率の高い発展途上

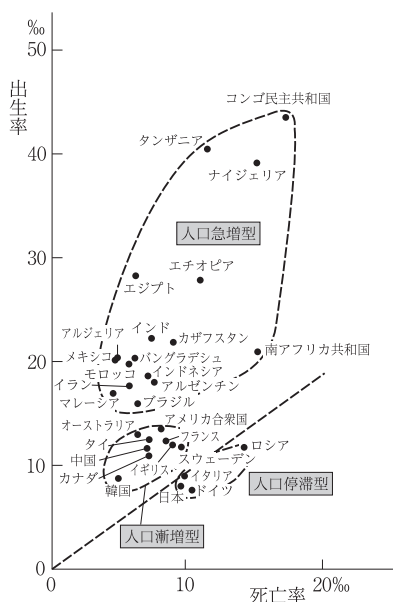
国であるメキシコなどの中央アメリカ諸国を含む北中アメリカが、緩やかに人口が伸びている③であり、人口が停滞している④はヨーロッパである。ただし、先進国の中でも、アメリカ合衆国やカナダ、オーストラリアなどの新大陸の先進国は、移民の流入によってヨーロッパ諸国よりも若年層の人口割合が高く、高齢者の人口割合は低いため、出生率が高く、死亡率が低くなるので、自然増加率は高くなっている。

問2 ⑭ ③

①正しい。発展途上国では、上述したように、医療の普及や公衆衛生の改善などによって死亡率が低下したが、これには特に病気に対する抵抗力が弱い乳幼児の死亡率が低下したことが大きく影響している。また、発展途上国では、子どもが労働力として必要とされるため出生率は依然として高く、死亡率の低下にともなって自然増加率が高くなっている。

②正しい。ヨーロッパ諸国では、**多産多死型**から**多産少死型**を経て**少産少死型**に至る人口転換が、18世紀後半から20世紀前半にかけて進行したが、日本では、第二次世界大戦後の第一次ベビーブーム(1947～49年)後に出生率が急激に低下し、その後、少産少死型へ移行した。図⑥に示すように、経済発展とともに出生率は低下するが、死亡率は一旦低下した後上昇に転じる。これは、**少子高齢化**が進ん

で、人口に占める高齢者の割合が高まるため、日本より少子高齢化が早くから進行したヨーロッパ諸国の方が日本より早く死亡率が高くなっていった。ただし、ヨーロッパ諸国では、少子化対策として出産奨励策が実施され、フランスでは合計特殊出生率(女性が生涯に産むであろう平均子ども数)が2前後まで上昇している。このため、少子化対策が不十分な日本と異なり高齢化の進行が抑制され、死亡率の上昇がみられない。③誤り。韓国では、1960年代から外国資本を導入し、1970年代には高度経済成長をとげたが、死亡率が低下したのは、ナイジェリアなどと同様に医療の普及などによるものである。高齢者福祉政策は死亡率の低下を促すものではなく、当時発展途上国であった韓国ではまだ福祉制度も整備されていなかった。韓国では、現在日本より速いスピードで少子化が進行しているため高齢化も急速で、死亡率は上昇に転じつつある。④正しい。日本の出生率は、第一次ベビーブーム世代の出産期にあたる第二次ベビーブーム(1971~74年)で一旦上昇した後は低下を続け、1980年代には少子高齢化が急速に進行したため、死亡率は上昇に転じ、現在も上昇し続けている。



図⑥ 主要国の出生率・死亡率
(国によって2005~2010年のデータ)

問3 15 ②

性別年齢別人口構成を表す人口ピラミッドは、経済発展とともに出生率が低下し、年少人口率が低下

するので、底辺は次第にせばまり、富士山(ピラミッド)型から、釣り鐘型に変化し、少子高齢化が進行すると、つば型へと変化する。3か国の中で、最も経済発展が遅れ、出生率の高いエチオピアがCで、工業化が進んだNIEs(新興工業地域)の一角で、出生率が低下しはじめたブラジルはBである。Aの人口ピラミッドは歪んだ形をしており、30代の男性人口が異常に多い。これは、国外からの出稼ぎ労働者が多いアラビア半島の産油国の特徴で、サウジアラビアが該当する。

問4 16 ①

①誤り。インドで信仰されるヒンドゥー教では多産が望まれるが、第二次世界大戦後の人口急増に対して、インドでは1960年代から家族計画の普及が行われてきた。しかし、家族計画は十分に普及せず、一人っ子政策をとる中国に比べると出生率は高く、2020年代には中国を抜いて人口が世界一になると予想されている。②正しい。シンガポールは1970年代前半には人口抑制策を実施していたが、その後、工業化による経済発展で少子化が始まり、2011年の合計特殊出生率は1.3で、日本や韓国の1.4より低くなっている。このため、出産奨励金や所得税控除、結婚奨励策などの少子化対策がとられている。③正しい。スウェーデンなどの北欧諸国は世界有数の福祉国家として知られ、国民の税負担は、日本などに比べるとはるかに高い。また、少子高齢化にともない、税を負担する生産年齢人口が減少していることも深刻な問題となっている。④正しい。ドイツでは、第二次世界大戦後の高度経済成長期に労働力が不足したため、トルコやイタリア、旧ユーゴスラビアなどから多数の外国人労働者を受け入れた。しかし、石油危機や東西ドイツ統一などによる景気低迷による失業者の増加や文化的摩擦などの社会問題が生じてきた。また、近年は、EUに加盟したポーランドなど東欧諸国からの労働者の流入増加も問題となっている。

問5 17 ③

在留邦人総数が増加しているPとQに対して、Rは減少しており、永住者が大部分を占めることから、かつて農業開拓などを目的として多くの移民が渡航したブラジルである。ブラジルへの移民は1908年に始まって1990年代まで続き、約150万人の日系人が居住しているが、近年は高齢化が進み、日本国籍をもつ移民は減少している。日系人は、ブラジルのほか、ペルー、アルゼンチン、メキシコなどにも多い。一方、1980年代後半のバブル経済で労働力が不足した日本では、1990年の出入国管理法の改正

で、日系人の単純労働が認められたため、ブラジル人などが多く流入するようになった。Pは、近年急速に在留邦人が増加していることから、急速な経済成長で日本企業の進出が盛んになった中国である。

Qはオーストラリアで、永住者が増加しているのは、温暖な東岸のブリズベンなどを中心に、退職者が老後を過ごすために移住したからである。

問6 18 ④

韓国・朝鮮の国籍をもつ人は、1910年の韓国併合以降、戦前に労働者として多く流入し、当時、日本最大の工業地帯であった阪神工業地帯の中心である大阪府を中心とする近畿地方に多いので、④が該当する。一方、ブラジルの国籍をもつ人は、上述したように1990年以降流入し、工場労働者が多いため、自動車工業や機械工業が発達した愛知県や静岡県などに多い③が該当する。①と②は分布にあまり大きな違いがなく、大都市圏に多いが、②は沖縄県にも多いことから、基地に関連して居住する人の多いアメリカ合衆国の国籍をもつ人で、①は中国の国籍をもつ人である。

第4問 工業

【出題のねらい】

工業立地、工業の発展段階、工業製品の生産上位国、日本の自動車産業の海外展開、先進国の工業、中国の工業都市について出題した。工業は、工業立地や工業化などの基本的な考え方をまず知った上で、工業地域や生産統計をみると理解しやすい。なお、使用した地形図は、国土交通省国土地理院発行の5万分の1地形図「高崎」、「御在所山」、「徳山」である。

【設問別解説】

問1 19 ②

Aには高速道路沿いに多くの工場がみられるので、ウが該当する。Aは群馬県前橋市付近で、機械工業を中心とした工場が集積している。機械工業は、比較的多くの労働力を必要とする組立工業なので、人口の多い大都市圏周辺で、部品や製品の輸送に便利な高速道路沿いなどに立地することが多い。Bの西部には「せっかい」の鉱山があり、石灰石を原料とするセメント工場が立地している。セメント工業は、製品が原料の石灰石に比べ大幅に軽くなるので、原料産地で加工して軽量化することで、輸送費を節約することができる原料指向型工業に分類される。よって、アが該当する。Cは海岸沿いに石油化学工場がみられることから、輸入原料を利用する臨海指向型工業とわかるので、イが該当する。日本では、輸入原料に依存する石油化学工業や鉄鋼業は

市場に近い臨海地域に立地しているが、鉄鋼業は一般には原料指向型工業に分類されるため、原料産出国では原料産地での立地が多い。

問2 20 ④

4か国のうち、インドネシアは最も工業化が遅れ、石炭や天然ガス、原油などの鉱産資源やパーム油、天然ゴムなどの農産物の輸出が多いことから、輸出額に占める工業製品の割合が最も低い①が該当する。タイは、NIEsのシンガポールを除いた東南アジア諸国の中では、マレーシアとともに最も工業が発達しているが、輸出上位品目の中には天然ゴムや魚介類も含まれるので、インドネシアに次いで輸出額に占める工業製品の割合が低い②が該当する。③と④は、どちらも輸出額に占める工業製品の割合が高いが、③は、国内総生産に占める製造業の割合が4か国の中で最も低い。これは日本で、工業化が早くから始まった先進国では、脱工業化とサービス経済化が進んで、第3次産業が経済の中心となり、製造業の占める割合は低下している。中国は④で、近年の急速な工業化によって、「世界の工場」として工業製品の輸出額が急増しているため、国内総生産に占める製造業の割合も、輸出額に占める工業製品の割合も非常に高くなっている。

問3 21 ⑥

P～Rの3か国のうち、アルミニウムと粗鋼の生産が1位のPは中国である。RもPと同様に三つの品目ともに5位内に入っていることから、中国と並ぶ工業国のアメリカ合衆国である。Qは、アルミニウムとパルプで5位内に入っているが、粗鋼上位には入っていない。これはカナダで、人口が約3,500万人と少なく、国内需要が少ないことに加え、鉄鉱石と石炭の輸出国でもあり、粗鋼生産は世界17位(2011年)にすぎない。一方、アルミニウム工業は、精錬に大量の電力を必要とし、安価な電力が利用できることが絶対的な条件なので、水力発電が発電量の約6割を占めるカナダは、原料のボーキサイトを輸入し、アルミニウム生産が盛んである。ちなみに、ヨーロッパ(ロシアを除く)でアルミニウム生産が最も多いのも、水力発電が約95%を占めるノルウェーである。パルプには、軟材の針葉樹が向いており、亜寒帯林が豊富なカナダは生産3位で、輸出は世界一である(2011年)。生産5位のスウェーデンも針葉樹が豊富で、6位に入る隣国のフィンランドとともに判定の鍵となる国として覚えておくとうい。

問4 22 ②

日本の自動車生産台数は、石油危機後の1980年代

にアメリカ合衆国を抜いて世界一になった。これは、日本車が小型で低燃費だったからであるが、日本車の輸出急増によって、欧米先進国との間で貿易摩擦が生じ、さらに円高が進んだため、特に日本車のシェアが高くなっていたアメリカ合衆国で、1980年代後半から現地生産が増加した。よって、②が北アメリカである。アジアでは、1980年代後半から経済成長が続いた ASEAN 諸国での生産が増加し、今世紀に入ると経済が急成長した中国やインドでの生産が増加した。よって、①がアジアである。③と④は、アジアや北アメリカに比べて日本車のシェアが低いヨーロッパか中南アメリカであるが、より早くから生産が増加しはじめた③がヨーロッパで、1990年代後半から増加しはじめた④が中南アメリカである。北アメリカとヨーロッパで2005年から2010年にかけて生産が減少したのは、2008年のリーマンショックによる景気後退によるものであり、アジアで1990年代後半に生産台数が減少したのは、1997年の通貨・金融危機による ASEAN 諸国の景気後退が影響している。

問5 [23] ③

①正しい。アメリカ合衆国では、北東部の五大湖周辺やメガロポリス周辺から工業が発達したが、1970年代になると、石炭に代わってエネルギーの中心となった石油の生産が多く、賃金が安価で、温暖な気候の南部や太平洋側で石油化学工業や航空・宇宙産業、先端技術産業などが発達し、このような北緯37度以南の地域とカリフォルニア州はサンベルトとよばれるようになった。一方、鉄鋼業や自動車工業が発達していた北東部は、後発国の追い上げなどで低迷し、スノーベルトあるいはフロストベルトとよばれた。先端技術産業の集積地はアメリカ合衆国各地にみられるが、サンノゼ周辺のシリコンヴァレーやダラス周辺のシリコンプレーンはサンベルトに位置している。②正しい。イタリアは、工業の発達したミラノ、トリノ、ジェノヴァを含む北部に対して、南部は工業化が遅れ、南北格差が大きい。しかし、1970年代から、北東部から中部にかけての地域で、服飾や雑貨、機械などの高級品を多品種少量生産する中小企業が成長し、北部でも南部でもないサードイタリア（第三のイタリア）とよばれるようになった。③誤り。日本の粗鋼生産は1973年の第一次石油危機後は停滞しており、近年新しい製鉄所は建設されていない。アルミニウムは、石油危機後の電力費高騰によって1980年代以降急速に生産を減らし、現在の生産量は非常に少なく、大部分を輸入に依存している。よって、工場の新設はみられない。

④正しい。世界の大型航空機の生産は、アメリカ合衆国のボーイングとヨーロッパのエアバスの2社が独占している。エアバスはヨーロッパの複数の国が出資し、多くの国で部品が生産されており、フランス南西部のトゥールーズには最終組立が行われる工場が立地している。

問6 [24] ④

①三大鉄鋼基地は、東北のアンシャン、黄河中流のパオトウ、長江下流のウーハン(Y)で、いずれも付近の鉄鉱石と石炭を利用している。近年はシャンハイ郊外のパオシャンなど、輸入資源を利用した臨海立地の製鉄所が増加している。中国は鉄鉱石の生産が世界一(2011年)であるが、輸入も世界全体の約2/3を占めて1位(2009年)で、粗鋼生産は世界の半分近くに達している。②東北のターチンには中国最大級の油田があるので、Wが該当する。他に渤海沿岸のションリーなどに油田が分布し、原油生産は世界4位(2012年)であるが、経済成長にともなって輸入が増加し、アメリカ合衆国に次ぐ世界2位の輸入国(2010年)となっている。③中国の行政区分は、22省、5自治区と、ペキン、テンチン、シャンハイ、チョンチンの4直轄市、ホンコンとマカオの2特別行政区で、W～Zのうち直轄市はX(ペキン)である。ペキンでは、有力大学が集まる地域にIT産業などの先端技術産業が集積している。④中国では、1978年に市場経済を導入して改革開放経済に転換し、外国企業の進出を促すために、華南に5か所の経済特区が設置された。このうち、ホンコンに隣接するZのシェンチェン是最も発展し、電気機械工業などが集積している。

第5問 西アジア・アフリカ地誌

【出題のねらい】

西アジアとアフリカの自然環境、農業、鉱産資源、民族、輸出相手国、生活について出題した。地誌学習では必ず地図を利用して、地形や気候、農業地域、鉱産資源、言語、宗教などの分布を覚え、大地形と鉱産資源、気候と農業は分布を関連づけて理解するとよい。また、アフリカについては旧宗主国と独立の時期も重要なので地図帳で確認しておこう。

【設問別解説】

問1 [25] ⑥

Aの写真には、疎林と草原が広がり、背後には雪をかぶった山がみられる。これは、Cのアフリカ東部の大地溝帯付近のサバナの景観と、アフリカ最高峰で水河のあるキリマンジャロ山(5,895 m)である。アフリカ大陸は北部のアトラス山脈が新期造山

帯、南部のドラケンスバーグ山脈が古期造山帯に属し、その他の地域は安定陸塊のアフリカ盾状地に属している。しかし、紅海から続く東部のアフリカ大地溝帯はプレートの広がる境界にあたり、活動的な火山も分布している。イの写真には河川沿いに密林がみられる。これは、Bのコンゴ盆地の熱帯雨林である。赤道付近には年中多雨の熱帯雨林気候が広がるが、アフリカではコンゴ盆地周辺に限られ、標高の高い東部の大地溝帯より東にはサバナ気候が広がっており、インド洋側では赤道付近まで乾燥帯が広がっていることを地図帳で確認しておこう。ウの写真には砂丘が広がっており、Aのアラビア半島のルブアルハリ砂漠が該当する。年中亜熱帯高圧帯に覆われる回帰線付近には砂漠気候が広がり、北アフリカ(サハラ砂漠)からアラビア半島にかけては砂漠がみられる。

問2 26 ④

Eの地域では、熱帯・亜熱帯で商品作物を栽培するプランテーション農業が行われている。①正しい。Eの大部分は熱帯に属している。②正しい。プランテーション農業は、輸出用の商品作物を栽培する企業の農業で、各地の自然条件に合った作物が単一栽培(モノカルチャーという)されていることが多い。③正しい。ギニア湾岸は、世界一の 카카오 栽培地域で、生産上位5か国(コートジボワール、インドネシア、ガーナ、ナイジェリア、カメルーン)のうち4か国が含まれる。④誤り。東部の大地溝帯付近の高原では、コーヒーや茶の栽培が盛んである。エチオピア高原はコーヒーの原産地で、エチオピアはコーヒー豆生産世界5位である。茶は、イギリス植民地時代にケニアの高原で栽培されはじめ、ケニアは世界3位の茶生産国である。パーム油を採取する油ヤシと天然ゴムは東南アジアが主産地であるが、アフリカではギニア湾岸で栽培されている(以上、統計は2011年)。

問3 27 ③

カは、ペルシャ湾周辺に集中していることから石油とわかる。西アジアでは、世界2位の原油生産国であるサウジアラビアの他に、イラン、イラク、クウェート、アラブ首長国連邦が世界6～9位に入っている。アフリカで原油生産が多いのは、ナイジェリア、アンゴラ、リビア、アルジェリアなどである(以上、統計は2012年)。キは、南アフリカ共和国に注目して石炭と判定する。石炭は古期造山帯に埋蔵が多く、古期造山帯のドラケンスバーグ山脈が位置する南アフリカ共和国は世界6位の生産国である(2009年)。クは銅鉱で、コンゴ民主共和国(生産世

界12位、2010年)とザンビア(生産世界8位)の国境付近は銅ベルトとよばれる。ケはダイヤモンドである。生産上位国(2011年)は、ロシア、ボツワナ、コンゴ民主共和国、カナダ、アンゴラ、ジンバブエ、オーストラリア、南アフリカ共和国、ナミビアで、アフリカ中南部での生産が多い。

問4 28 ③

①誤り。Gのイランでは、アラビア語ではなくペルシャ語が公用語とされている。ペルシャ語は、東に続くパキスタンやインド、バングラデシュで使用される多くの言語と同じインド・ヨーロッパ語族に属している。アラビア語は、イランの西隣のイラクより西の西アジアや北アフリカの国々で使用され、イスラエルで使用されるヘブライ語などとともにアフリカ・アジア語族に属している。イスラーム(イスラム教)の多数派はスンナ派、少数派はシーア派であるが、イランでは、シーア派が主に信仰されている。他にシーア派が多いのはイラクであるが、スンナ派や少数民族のクルド人も居住しており、政治的に混乱が続いている。②誤り。Hのサウジアラビアは、イスラームに基づく政教一致の君主国で、国会や成文化された憲法は存在しない。アラブ諸国の民主化運動による独裁政権の崩壊は、2011年のチュニジアから始まって、リビアやエジプトに広がり、シリアでは内戦が続いているが、サウジアラビアでは目立った民主化運動は起こっていない。③正しい。Iのエチオピアは、アフリカ最古の独立国で、キリスト教(エチオピア正教)が主に信仰されている。1962年に併合した旧イタリア領のエリトリアは、1993年に分離独立し、エチオピアは内陸国となった。④誤り。Jのマダガスカルは、1世紀前後に東南アジアから渡ってきたオーストロネシア語族のマレー系民族であり、植民地時代に移住してきたのではない。また、マダガスカルは旧フランス領であり、旧イギリス領ではない。宗教も、イスラームではなく伝統宗教やキリスト教を信仰する人が多い。

問5 29 ①

貿易相手国上位には、地理的に近い国や経済的に結びつきが強い国が入ることが多いが、アフリカでは、特に旧宗主国が上位に入ることが多い。①は、イタリアが1位であることから、イタリア領であったリビアである。地中海に面する石油輸出国なので、地中海に面するヨーロッパ諸国が上位に多い。④も地中海に面するヨーロッパ諸国が上位に多いが、フランスが1位であることから、旧フランス領のモロッコである。ジブラルタル海峡をはさんで位

置するスペインが2位に入っている。㊸はウガンダやタンザニアが上位に入ることから、隣接するケニアと判定する。問2でも述べたが、ケニアは旧イギリス領で茶の生産が盛んであり、輸出1位の品目は茶である(2010年)。㊹は、中国が1位で、日本が3位に入っている。これは資源輸出国の南アフリカ共和国で、輸出上位品目(2012年)は、金(非貨幣用)、白金族、機械類、自動車、鉄鉱石、石炭の順である。

問6 30 ㊸

平均寿命は、経済水準が低く、医療の普及が遅れている発展途上国で短いため、Xは南アフリカ共和国と判定できる。南アフリカ共和国は、アフリカでは最も工業化が進み、1人当たりGNI(国民総所得)も7,909ドル(2011年)で、アフリカの人口が多い国の中では最上位にあるが、HIV(エイズ)の感染割合が高いことから死亡率は高く、平均寿命は北アフリカ諸国などよりも短く、アフリカでは中位となっている。平均寿命は、経済が発展し医療が普及している先進国で長い。産油国で人口が少なく、1人当たりGNIが多いアラビア半島の国々(クウェートは61,039ドル)でも先進国並みになっている。しかし、これらの産油国は一般的に出生率が高く、高齢化が進行しておらず、クウェートの老年(65歳以上)人口率は1.6%にすぎない(2010年)。このため、高齢化が進んだ先進国に比べると死亡率は低い。また、悪性新生物(ガン)は、高齢になるほど発症しやすく、先進国ではそれによる死亡率が高いが、これらの産油国では死亡率が低い。よって、クウェートはZである。Yのイスラエルは、1人当たりGNIが31,278ドルで先進国に分類され、3か国の中では最も高齢化が進んでいるため、悪性新生物による死亡率が高い。しかし、老年人口率は9.9%(2010年)で、高齢化が進み15~20%前後に達する西ヨーロッパ諸国に比べれば低く、悪性新生物による死亡率も西ヨーロッパ諸国の半分程度である。

第6問 北中アメリカ地誌

【出題のねらい】

カリブ海諸国を含む北中アメリカの地形、気候、農業、工業、貿易、人種・民族について出題した。センター試験では、アメリカ合衆国とカナダについての出題は多いが、メキシコやカリブ海諸国についても基本事項は学習しておきたい。

【設問別解説】

問1 31 ㊸

㊸正しい。最終氷期には、現在南極とグリーンラ

ンドにみられる大陸氷河(氷床)が、北アメリカ大陸北部とヨーロッパ北部を覆っていた。北アメリカの大陸氷河は五大湖の南側まで拡大し、五大湖やA地域を含むカナダの湖の大部分は、氷食によるくぼ地に水がたまって形成された氷河湖である。グリーンランドの大陸氷河は、氷期の大陸氷河が残存しているものである。㊸誤り。B地域には、新期造山帯のロッキー山脈とシエラネヴァダ山脈にはさまれたコロラド高原が広がり、西側のシエラネヴァダ山脈で太平洋からの湿潤な偏西風がさえぎられるため乾燥している。世界遺産としても有名な大峽谷であるグランドキャニオンは、コロラド川が高原を侵食して形成されたもので、プレート境界とは関係がない。コロラド川が注ぐカリフォルニア湾からサンフランシスコ方面にかけては、プレートのずれる境界が走り、横ずれ断層のサンアンドレアス断層がみられる。㊹正しい。C地域には、北アメリカ大陸で長さ、流域面積とも最大のミシシッピ川が注ぎ、巨大な三角州がメキシコ湾に突き出ている。㊺正しい。D地域の小アンティル諸島は、南アメリカプレートとカリブプレートとのせばまる境界沿いに形成された弧状列島で、活動的な火山が多くみられる。新期造山帯の環太平洋造山帯は、カリブプレート沿いに中央アメリカの大陸部とカリブ海のアンティル諸島(西インド諸島)に分かれ、アンティル諸島は、大西洋に位置するが環太平洋造山帯に属している。

問2 32 ㊸

メキシコシティとサントドミンゴはほぼ同緯度で、アトランタ、ロサンゼルスより低緯度に位置することから、気温の年較差が小さい㊸か㊹と判定できる。サントドミンゴは海岸沿いに位置するので、気温の高い㊹、メキシコシティは、メキシコ高原の標高2,300m付近に位置するので、気温が低い㊸が該当する。アトランタとロサンゼルスもほぼ同緯度に位置するが、大陸西岸のアメリカ合衆国太平洋岸の大部分は、冬雨夏乾燥の地中海性気候であるから、ロサンゼルスは㊹が該当する。ただし、ロサンゼルスは降水量が少ないため、ステップ気候に区分される。沖合を南下する寒流のカリフォルニア海流の影響を受けるため、緯度の割に夏季は涼涼で、冬季は温暖である。アトランタは北緯35度付近の大陸東岸に位置することから、日本の本州以南と同じ温暖湿潤気候に属し、㊸が該当する。

問3 33 ㊸

アメリカ合衆国の農業地域は、西経100度にほぼ沿って南北に走る年降水量500mm線付近で東西に大きく分けられ、湿潤な東側では農業が、乾燥した

西側では牧畜が行われる。境界付近のプレーリー西部からグレートプレーンズ東部にかけての地域には肥沃な**黒色土**であるプレーリー土が分布し、乾燥に強い**小麦**が栽培されている。冷涼なカナダ国境付近には**春小麦地帯**が、温暖な中部付近には**冬小麦地帯**が広がり、どちらも**企業の穀物農業**に分類され、広大な土地で大型の農業機械を使用するため労働生産性は非常に高い。**P**のノースダコタ州は春小麦地帯の中心で、小麦の生産は、冬小麦地帯の中心であるカンザス州に次ぐ2位(2012年)である。よって、**A**が該当する。**Q**(アイオワ州)を含む五大湖の南西側の地域には**トウモロコシ地帯(コーンベルト)**が広がり、**トウモロコシ**と**大豆**を栽培し、これを飼料として豚や牛を飼育する混合農業が行われている。アイオワ州は、トウモロコシと大豆の生産、豚の飼育頭数が国内一である。よって、**I**が該当する。**R**(ミシシッピ州)を含むミシシッピ川下流域には、かつて黒人奴隷を利用した**プランテーション**として発達した**綿花地帯(コットンベルト)**が広がっている。しかし、**テキサス州**や**カリフォルニア州**で灌漑による綿花生産が増加するとともに、この地域では綿花生産が減少し、大豆など作物の多角化が進められている。よって、**U**が該当する。

問4 **34** ①

①は**シカゴ**の説明である。シカゴは、**ニューヨーク**、**ロサンゼルス**に次ぐ第三の都市で、穀倉地帯のプレーリーを背景として農産物の集散地となり、国内最大の穀物取引所がある。このため、食料品工業や農業機械工業が発達している。②は**シアトル**の説明である。シアトルの近くを流れる**コロンビア川**には、1942年に国内最大の**グランドクーリーダム**が建設され、その電力を利用して付近には**アルミニウム工業**が立地した。これを背景に、シアトルでは**航空機工業**が発達し、エアバスと並ぶ航空機メーカーの**ボーイング**の本拠地となっている。③は**ロサンゼルス**の説明である。ロサンゼルスは、ステップ気候で晴れた日が多く、屋外撮影に適することから、映画産業が集積し、**ハリウッド**は有名である。また、付近には**カリフォルニア油田**があり、石油化学工業も発達している。④は**ボストン**の説明である。**ニューイングランド地方**の中心で、国内で最も伝統的な都市であるボストン付近には、**ハーバード大学**や**マサチューセッツ工科大学**などの有力大学があり、研究開発機能を背景に先端技術産業が発達し、**エレクトロニクス・ハイウェー**とよばれている。

問5 **35** ②

Yは、カナダとメキシコで輸出上位に入っている。

アメリカ合衆国は世界一の原油輸入国であり、一方、カナダとメキシコは原油輸出国であることから、**Y**は原油と判定する。原油輸出(2010年)は、カナダが7位、メキシコが11位であるが、両国ともOPECには加盟していないので注意しておこう。**Z**はメキシコのみ輸出上位に入っているため、温暖な気候を利用して生産が盛んな野菜・果実で、日本ではアボカドやカボチャがメキシコから輸入されている。3か国とも輸出2位に入っている**X**は自動車であり、アメリカ合衆国とともに**NAFTA(北米自由貿易協定)**を結成しているカナダとメキシコでは、アメリカ合衆国や日本などの企業が進出し、主にアメリカ合衆国向けに自動車を生産している。賃金が安価なメキシコでは、近年新たな工場の建設が進み、自動車の生産は世界8位(2012年)、輸出は世界5位(2011年)になっている。

問6 **36** ②

①正しい。**ヒスパニック**は、**スペイン語**を話すラテンアメリカ出身者で、アメリカ合衆国の人口の16.3%を占め、黒人の12.6%を上回っている。隣接するメキシコからの移住者が最も多いため、メキシコと国境を接する州では人口の3~4割を占め(最高はニューメキシコ州の46.3%)、人口は**カリフォルニア州**と**テキサス州**で多い。また、**フロリダ州**では、付近の**カリブ海諸国**の出身者が多く、**ニューヨーク**では、アメリカ合衆国の自治領で早くから移住者が多かった**プエルトリコ**出身者が多い(以上、統計は2010年)。②誤り。カナダの公用語は、**英語**と**フランス語**である。フランス系住民が多いのは、最初にフランス人が入植した東部の**ケベック州**で、分離独立運動が続けられてきた。③正しい。アメリカ大陸の先住民である**イヌイット**や**インディアン**、**インディオ**は**モンゴロイド(黄色人種)**であるが、メキシコ以南のラテンアメリカでは、**スペイン人**と**ポルトガル人**の入植後、**アフリカ**から**黒人**奴隷も連行され、**混血**が進んだ地域が多い。メキシコでは、**白人(コーカソイド)**と先住民の**インディオ(モンゴロイド)**の混血である**メスチソ**が多く、人口の約6割を占めている。黒人(**ネグロイド**)の割合が高いのは**カリブ海諸国**で、**ジャマイカ**と**ハイチ**では9割以上を占めている。また、**カリブ海諸国**では、**白人**と**黒人**の混血である**ムラート**も多い。④正しい。ラテンアメリカ諸国では、**ポルトガル語**が公用語の**ブラジル**を除けば、大部分の国が**スペイン語**を公用語としているが、**カリブ海周辺**には**イギリス領**や**フランス領**となった国があり、**ジャマイカ**や**ガイアナ**などでは**英語**が、**ハイチ**では**フランス語**が公用

語とされている。	
----------	--

●写真・図版提供

PPS 通信社／帝国書院

【公 民】

現代社会

【解答・採点基準】

(100点満点)

問題番号	設 問	解 答 番 号	正解	配点	自己採点
第1問	問 1	1	④	3	
	問 2	2	②	3	
	問 3	3	③	3	
	問 4	4	①	3	
	問 5	5	②	2	
	問 6	6	⑤	3	
	問 7	7	③	2	
	問 8	8	①	3	
第1問 自己採点小計				(22)	
第2問	問 1	9	②	3	
	問 2	10	②	3	
	問 3	11	②	2	
	問 4	12	①	3	
	問 5	13	⑦	3	
第2問 自己採点小計				(14)	
第3問	問 1	14	④	3	
	問 2	15	④	2	
	問 3	16	②	2	
	問 4	17	③	3	
	問 5	18	③	3	
	問 6	19	①	3	
	問 7	20	②	3	
	問 8	21	①	3	
第3問 自己採点小計				(22)	
第4問	問 1	22	②	3	
	問 2	23	⑥	3	
	問 3	24	①	3	
	問 4	25	①	2	
	問 5	26	④	3	
第4問 自己採点小計				(14)	

問題番号	設 問	解 答 番 号	正解	配点	自己採点
第5問	問 1	27	⑤	2	
	問 2	28	④	3	
	問 3	29	③	3	
	問 4	30	②	3	
	問 5	31	④	3	
第5問 自己採点小計				(14)	
第6問	問 1	32	②	3	
	問 2	33	②	3	
	問 3	34	④	3	
	問 4	35	①	3	
	問 5	36	⑥	2	
第6問 自己採点小計				(14)	
自己採点合計				(100)	

【解説】

第1問 日本の統治機構

【出題のねらい】

本問は、日本の国会、内閣、裁判所、地方自治など統治機構に関する制度や現状・課題に関して出題し、その基本事項の習得の度合いを確認することをねらいとしている。統治機構に関しては、基本的な仕組みを理解するとともに、制度改革などの時事的動向にも目を向けて、幅広く学習を進める必要がある。

【設問別解説】

問1 ① ④

日本国憲法上、国会のいくつかの権能については、衆議院の決議の効力が参議院に優越する（**衆議院の優越**）。その一つが法律案の議決である。日本国憲法は、「衆議院で可決し、参議院でこれと異なった議決をした法律案は、衆議院で**出席議員の三分の二以上の多数**で再び可決したときは、法律となる」と定めている（第59条2項）。

④日本国憲法は「両議院の議員は、法律の定める場合を除いては、国会の**会期中**逮捕されず、会期前に逮捕された議員は、その議院の要求があれば、会期中これを釈放しなければならない」（第50条）と定めている。この規定にあるように、不逮捕特権は「会期中」に適用される特権である。したがって、「任期中」は**会期中**の誤りである。また「法律の定める場合を除いては」とあるように、「いかなる場

合にも」という部分も誤りである。なお、「法律の定める場合」に関しては、国会法で規定されており、それによると、院外における**現行犯罪**の場合と、**議院の許諾**がある場合には、会期中でも逮捕が可能であるとしている。②中央省庁の官僚が国務大臣に代わって答弁する**政府委員制度**は1999年に制定された**国会審議活性化法**に基づいて**廃止**された。③「廃案となる」を、衆議院の議決が国会の議決となる、と直せば正しい文になる。日本国憲法では、予算案について両議院の議決が異なる場合には、**両院協議会**が開かれ、そこにおいても意見が一致しないときは、**衆議院の議決が国会の議決となる**と定められている(第60条2項)。

問2 2 ②

「国会の同意を得る必要がある」という記述が誤り。内閣総理大臣は、内閣の首長として国務大臣の任命権を有している。その任命にあたっては、**過半数を国会議員**から選ばなければならないという制限や国務大臣の数に上限(原則14名、最大でも17名、ただし、復興庁が廃止されるまでの間は原則15名、最大でも18名)があるものの、任命において**国会の同意は不要**である。

①日本国憲法では「内閣は、法律の定めるところにより、その首長たる**内閣総理大臣**及びその他の**国務大臣**でこれを組織する。内閣総理大臣その他の国務大臣は、**文民**でなければならない」(第66条1・2項)と規定されている。文民とは、軍人ではない人のことを言う。③かつては国務大臣を補佐する**政務次官**という役職(国会議員がこの役職に就く)があったが、この役職は2001年に廃止され、新たに**副大臣**と**大臣政務官**という二つの役職が導入された。④**行政委員会**は、一般の行政組織から相対的に独立して職務を遂行する合議制の行政機関である。国には**公正取引委員会**や**国家公安委員会**、**人事院**、**原子力規制委員会**などが、地方自治体には、**教育委員会**、**人事委員会**、**監査委員**などが置かれている。

問3 3 ③

特許権などの知的財産権をめぐる訴訟を適切かつ迅速に解決するため、2005年に、東京高等裁判所の特別の支部として**知的財産高等裁判所**が設置された。

①「再審を行うことは認められていない」という記述が誤り。有罪判決が確定して裁判が終了した事件であっても、判決の根拠となった証言や証拠物が虚偽や偽造であることが判明したり、無罪とすべき明らかな証拠が発見された場合、判決の言い渡しを受けた者の利益のために、**再審**が開始されることが

ある。②明治憲法下では、行政機関の処分をめぐる**行政事件**は、特別裁判所である**行政裁判所**が管轄していたが、日本国憲法は**特別裁判所の設置を禁止**しており(第76条2項)、行政事件も通常の司法裁判所(最高裁判所及び高等裁判所などの下級裁判所)で審理される。したがって、「特別裁判所である行政裁判所に訴えを起こすことができる」という記述は誤りである。なお、前審として海難審判所などの行政機関が審判を行うことはできる(日本国憲法第76条2項)。④2009年にスタートした**裁判員制度**では、衆議院議員の選挙権を有する者のなかから無作為に選ばれた裁判員が、職業裁判官とともに合議体(合議によって意思決定を行う組織体)を構成し、犯罪事実の有無をめぐる審理(**犯罪事実の認定**)と、被告人に対して言い渡す刑の種類や程度の決定(**量刑**)の**両方に関与**する。したがって、裁判員が犯罪事実の認定を行い、裁判官が量刑を行うという役割分担があるとする記述は誤りである。

問4 4 ④

権力分立の見地から、日本の統治機構では、国会、内閣、裁判所が相互に抑制する仕組みが取り入れられている。①は、国会の裁判所に対する抑制の権限である**弾劾裁判所設置権**についての正しい記述である。職務上の義務に著しく違反したり職務を甚だしく怠ったりしたとき、あるいは、裁判官としての威信を著しく失うべき非行があったときに、裁判官は公の弾劾により罷免される。弾劾裁判の手続は次のとおりである。両議院から選出された国会議員で構成される訴追委員会の訴追の請求を受けて、両議院から選出された国会議員で構成される弾劾裁判所が訴追を受けた裁判官を罷免するかどうかの裁判を行う。

②「法務大臣」を「裁判所」に替えれば正しい記述になる。裁判官は、上で触れた「公の弾劾」以外には、「**心身の故障**」のために職務を行うことができないとされた場合に罷免されるが(日本国憲法第78条)、心身の故障を理由として裁判官としての職を免ずるかどうかの決定は、裁判所による分限裁判において行われる。日本国憲法は、「裁判官の懲戒処分は、行政機関がこれを行ふことはできない」(第78条)と規定しており、法務大臣などの**行政機関は裁判官の懲戒処分を行うことはできない**ということも覚えておこう。③日本の違憲立法審査制度は、アメリカの制度と同様に、裁判所は、提訴された**具体的事件**の審理に必要な範囲で、その事件に適用される法令が憲法に適合するか否かの審査を行うことができるというものである(付随的違憲審査制)。し

たがって、日本では、「法律が施行される前」という適用すべき法令が効力をもたない時点で、「その法律の条項」が憲法に適合するか否かの「司法審査」を行うことはできない。また、施行後であっても、具体的事件と無関係に法令そのものについて抽象的に司法審査を行うことはできないとされる。④「または参議院」という記述部分を削除すれば正しい内容となる。**内閣不信任決議**を行うことができるのは、**衆議院のみ**である。なお、参議院は内閣総理大臣や国務大臣に対する問責決議を行うことができるが、これには法的効力がない。

問5 **5** ②

地方自治法で住民の**直接請求権**が定められている。それによると、**議会の解散請求**の場合、有権者の**3分の1以上**の署名(有権者数40万人を超える地方自治体の場合、必要署名数の要件が軽減されている)をもって、**選挙管理委員会**に対して請求するので、「50分の1以上」とする記述も請求先が「首長」とする記述も誤りである。

①地方自治法に定められている**首長の再議請求権**についての正しい記述である。地方自治体の首長は、議会で可決された予算や条例案に関して異議のあるときには、理由を付して、議会に再議を求めることができる。議会が**出席議員の3分の2以上の多数で再可決**すると、再議に付された予算や条例は成立する。②1990年代半ば以降、地方自治体の政策に住民の意思を反映させる目的から、地方議会の制定する条例に基づいて住民投票を実施する例が増えている。1996年に新潟県巻町で実施された住民投票は、**原子力発電所の建設の是非**をめぐるもので、その結果は建設反対票が多数を占めた。なお、このような条例に基づいて実施される住民投票の投票結果には法的拘束力はない。④中山間地域や離島などのなかには、過疎化や高齢化が進んだ結果、地域社会のコミュニティとしての機能の維持が困難になっている地域がある。特に、65歳以上の人口が住民の50%を超える地域は、**限界集落**と呼ばれており、近い将来に集落が消滅する可能性が指摘されている。

問6 **6** ②

A：法定受託事務が入る。これは、国政選挙の事務や旅券(パスポート)の発行事務など、本来は国が行うべき事務を法令によって地方自治体に委託したものであり、事務の進め方については国が決定する。なお、**機関委任事務**は、かつてあった事務区分の一つで、国から地方自治体の首長などの機関に委任されたものである。事務を委任された機関が国の指揮監督下に置かれたため、地方自治の理念に反す

るという批判が強く、1999年制定の**地方分権一括法**に基づいて**廃止**された。

B：住民税が入る。住民税には、道府県が徴収する道府県民税や、市町村が徴収する市町村民税などがある。**所得税**は国が徴収する**国税**なので、空欄に入れる語句として適当でない。

C：国から交付される財源のうち「地方自治体の財政力格差の是正を目的とする」ものは地方交付税交付金である。**地方交付税交付金**は、地方自治体の**財政力の格差を是正**するために、所得税、法人税、酒税などの国税の一定割合を地方自治体に対して交付するものであり、**使途を自由**に決定できる一般財源である。**国庫支出金**は、国が使途を指定して交付するもの(特定財源)で、義務教育の国庫負担や、特定事業のための補助金などからなる。

問7 **7** ③

地域通貨は、**NPO(民間非営利組織)**などが発行するものであって、「日本銀行」が発行するわけではないので、この記述は誤り。**地域通貨**とは、特定の地域やコミュニティのなかでのみ使用される通貨のこと。例えば、住民が福祉ボランティア活動をしたときに、報酬として受け取り、地域の商店で使うことができる。地域通貨には、住民の交流や相互扶助、経済循環の促進といった効果が期待されている。

①**一村一品運動**は、大分県から始まった地域おこしの取り組みであり、日本の他の地域や、ベトナムやタイなどでも広がっている。②地域で生産された農林水産物などをその地域で消費することを、**地産地消**と言う。実際に行われている地産地消の取り組みの例としては、農産物の直売所の設置や学校給食などでの地元の食材の活用などがある。④**構造改革特区**は、地域を限定して規制の緩和や撤廃を行うものであり、小泉内閣の下で行われた**構造改革**の一環として、2002年度に創設された。地方自治体や民間事業者が規制の特例措置を自ら提案し、その申請を受けて国が認定する。

問8 **8** ①

行政改革の一環として、2001年以降、国立の病院や研究所、博物館など、政策実施部門のうち、一定の事務・事業を中央省庁から切り離して独立させる**独立行政法人化**が推進されてきた。

②**情報公開法**(1999年制定)で開示請求の対象となるのは、**中央省庁**の保有する**行政文書**であって、国会が保有する立法関連の文書や裁判所が保有する司法関連の文書はその対象とはならない。したがって、「国家機関の保有するすべての文書」という記

述は誤りである。また、第三者の個人情報や防衛上の機密のように開示されない例もあるので、「例外なく開示するように義務づけている」という記述も誤りである。③ **オンブズマン(行政監察官)**制度は、地方自治体では導入例があるが、国レベルでは導入されていない。したがって、「国の機関として…置かれている」という記述は誤りである。④「PFI(プライベート・ファイナンス・イニシアチブ)」は**意見公募手続制度(パブリック・コメント)**の誤り。**行政手続法**は、行政機関が命令などを定める際には、原則として事前に原案を公表して国民から広く意見を募ること(パブリック・コメント)を義務づけている。PFIは、民間の資金と経営手法を活用し、公共施設の設置・管理運営を行おうとするもので、日本では、1999年にPFI推進法(民間資金等の活用による公共施設等の整備等の促進に関する法律)が制定され、こうした事業が推進されている。

第2問 国際化の進展

【出題のねらい】

本問は、国際化の進展をテーマとする本文をもとに、農業問題や日米経済摩擦などの経済分野に関する問題に加えて、異文化理解など文化に関する問題も出題し、日本経済の発展や国際化に関する基本事項の習得状況を確認することをねらいとしている。

【設問別解説】

問1 ⑨ ②

日米経済摩擦が激化するなか、アメリカ政府は1989年から始まった**日米構造協議**などにおいて、日本に対し公共投資の増大など内需拡大を要求してきた。日本はこの要求を受け入れ、公共投資を拡大し、社会資本を積極的に整備する政策を実施した。

①この記述は事実として誤っているし、論理としても成り立たない。まず、事実としては、日本の自動車産業は、対米輸出を抑制するために、1980年代後半から**アメリカに工場を移転し現地生産を拡大**してきた。次に論理としては、「アメリカでの現地生産」から「日本国内からの輸出」への切替えは、日本の対米貿易黒字を増やす効果をもたらすので、矛盾した内容となっている。③日米間の貿易収支の不均衡を調整するため、その障害となっている日米双方の経済構造の問題について協議を行った日米構造協議や**日米包括経済協議**が開催されているので、「経済構造を問題とするような協議」が行われたことがないとする記述は誤りである。④日本は、現在のところ、コメに関しては高い輸入関税を賦課している。

問2 ⑩ ②

近年の日本の食料自給率(カロリーベース)、すなわち供給熱量自給率は**40%**ほどの水準である。したがって、それが70%を超えているとする記述は誤りである。

①**食料・農業・農村基本法**(1999年制定)で**農業経営の法人化**の推進が規定され、2000年代に入って農地法などの改正により、株式会社も農地を借り受ける形で農業経営に参入できるようになった。③食料・農業・農村基本法は、農業生産活動がもたらす**多面的機能**(国土の保全、水源のかん養、自然環境の保全、良好な景観の形成、文化の伝承など)の発揮のほか、食料の安定供給の確保、農業の持続的な発展、農村の振興を基本理念として掲げている。④コメに関しては、1942年以来、**食糧管理制度**の下で、生産・流通・価格を政府が管理してきた。しかし、**食糧法(食糧需給価格安定法)**の施行(1995年)により食糧管理制度が廃止され、現在は、コメの生産・流通・価格について、市場機能に委ねることが基本とされている。

問3 ⑪ ②

この事例は、「文化が異なることにより生じた^{あつ}軋^{れき}や摩擦」なのではなく、両国間に共通に適用されるWTO(世界貿易機関)のルールの解釈をめぐる対立である。

①授業の受け方に関して異なる文化をもつ者での文化摩擦の事例であり適当である。③宗教上の摩擦の事例であり適当である。④食をめぐる文化の違いからの摩擦の事例であり適当である。

問4 ⑫ ①

仏教は6世紀に日本に伝わったと言われるが、中国、朝鮮を経て日本に伝わった仏教は、「**上座部仏教**」ではなく**大乘仏教**である。仏教は、仏教を開いたシャカの死後、シャカの定めた戒律をそのまま守ろうとする保守的な**上座部**と、戒律については比較的自由的な捉え方をする進歩的な**大衆部**^{だいしゅうぶ}とに分裂した。その大衆部の影響を受けた在家の信者を中心とした勢力が、上座部を中心とする旧来の仏教を**小乗仏教**と呼んで批判し、自らを大乘仏教と呼ぶようになった。この大乘仏教が日本に伝わった。

②**聖徳太子**(574～622)が制定したと言われる**十七条憲法**には、「**凡夫**」の自覚を促すなど、仏教の教えが取り入れられている。「凡夫」とは、仏教の道理を理解せずに、煩惱に迷っている人のことを言う。③**福沢諭吉**(1835～1901)は、西洋の啓蒙思想を受容し、『学問のすゝめ』のなかで「天は人の上に人を造らず 人の下に人を造らずと云へり」と述

べ、**天賦人権論**を説いた。④ **内村鑑三**(1861～1930)は、武士道がキリスト教を受容するうえで大きな役割を果たすと考え、キリスト教を「**武士道の上に接木**」して受容すべきであると説いた。

問5 **13** ⑦

A:「異文化との共存を図ろうとする」ということから「**マルチカルチュラリズム**」(**多文化主義**)が入ると判断できる。これは、自らの文化だけでなく、多様な文化の存在を尊重し、**文化相互の共存**を図ろうとする考えや政策を言う。「**ステレオタイプ**」とは、一定の**社会集団**に共有されている**観念**で、対象のもつ多様性を捨象して、**過度に単純化**した観念を言う。ステレオタイプ化された観念はしばしば偏見を伴っている。

B:自文化を優越的なものとみなすという趣旨の記述から「**エスノセントリズム**」(**自文化・自民族中心主義**)が入ると判断できる。これは、自らの文化や民族を絶対視し、他の文化や民族を劣ったものとみなして排斥したり否定したりする考えや態度を言う。また自文化を人々に押し付けるような態度として現れることもある。「**セクショナリズム**」(**縄張り主義**)とは、近代官僚制が陥りやすい問題点を指摘する言葉である。近代官僚制では、職務権限を明確にすることによって大規模な組織を効率的に運用することが可能になっている。しかしながら、このことが逆に、相互の職務権限を越えて協力が必要なときでも、それが行われない事態を招くことにもつながる。このように、自分の職務権限に対する他からの関与を排除したり、協調や連携を拒否したりする態度や考えをセクショナリズムと言う。

C:『**野生の思考**』という著作や、文化に優劣の差を設ける考えを批判したという記述から、フランスの構造主義の文化人類学者「**レヴィ＝ストロース**」(1908～2009)が入ると判断できる。彼は、南米の無文字社会に属する人々の文化を調査して、未開社会を野蛮で劣ったものとみなす西洋人の文化に対する見方を批判した。「**サルトル**」(1905～80)は、人間の特質は自己のあり方を自由に決定できるところにあるとしたフランスの実存主義の思想家である。

以上のことから、最も適当な組合せは、⑦となる。

第3問 豊かな社会

【出題のねらい】

本問は、「豊かさ」をテーマとした本文をもとに、経済成長や福祉社会の構築などの分野に関する基本知

識の習得度を試すことをねらいとしている。具体的には、国民所得分野と社会保障分野から出題している。

【設問別解説】

問1 **14** ④

「20歳以上」ではなく40歳以上が正しい。介護保険は、**40歳以上**の国民から保険料を徴収し、市町村や特別区(東京23区)が運営主体となり、要介護・要支援の認定を受けた者に介護サービスを提供する。介護サービスの費用は、**利用者本人**が1割を負担し、残りを、**保険料と税金**で半分ずつ負担することになっている。

①日本の高齢化率(総人口に占める65歳以上の割合)は、2013年には25%を上回り、4人に1人が65歳以上となった。高齢化率を2010年のデータでみると、日本は23.0%、ドイツとイタリアは20.4%、スウェーデンは18.2%、フランスは16.8%、イギリスは16.6%、アメリカは13.1%と、欧米先進国よりも高い水準となっている(以上のデータは『平成26年版高齢社会白書』による)。②近年では、障害者や高齢者などが施設などに隔離されずに、地域社会のなかで普通の生活を送ることができるようにすべきであるという考え方(**ノーマライゼーション**)が広く受け入れられるようになった。こうした考え方に基づき、公共交通機関や公共建築物の**バリアフリー化**や、施設ケアを重視する政策から**在宅ケア**を重視する政策への転換が進められている。③**ゴールドプラン**(高齢者保健福祉推進10カ年戦略、1989年策定)は、特別養護老人ホームなどにおける**福祉施設ケア**の整備に加えて、**ホームヘルパー派遣事業**、**デイ・ケア**(**デイ・サービス**)や**ショート・ステイ**などの**在宅ケア**の整備を目指した。この方向は、1994年に策定された新ゴールドプランや1999年に策定されたゴールドプラン21に受け継がれた。

問2 **15** ④

社会資本とは、産業や生活の基盤となる公共施設のことを言い、道路や港湾などの**生産関連社会資本**と、上下水道や公園などの**生活関連社会資本**に大別される。一般道路や公園などの社会資本は、利用の対価を徴収することができない**公共財**の性質をもつため、市場を通じて供給することが困難である(**市場の失敗**)。したがって、これらの社会資本については、政府が財政を通じて供給し、その費用は租税でまかなうことになる。

①「住宅や生活道路などはこれに算入されない」という記述が誤り。**国富**は、国内非金融資産と対外純資産を合計したものである。国内非金融資産には、**住宅**を含む建物、**生活道路**を含む道路、機械設

備など有形の生産資産や、コンピュータのソフトなどの無形の生産資産、土地、地下資源など有形の非生産資産が含まれる。したがって、住宅や生活道路も国富に算入される。②国富は、「一定期間における経済活動を示すものなので、フローの経済量」ではなく、一定時点において蓄積された資産を示すものなので、ストックの経済量である。ストックの例としては、②の文中で示したもののほか、国債残高や外貨準備高などがある。フローの例としては、国内総生産などの国民所得の諸指標や、経常収支などがある。③「建設国債の発行は禁止」「建設国債が発行されたことはない」という記述が誤り。財政法は、公共事業費、出資金及び貸付金の財源については、国会の議決を経た金額の範囲内で、建設国債を発行することができると定めており、建設国債は、1966年度以降現在に至るまで、継続して発行されている。財政法によって発行が禁止されているのは、歳入不足を補うために発行される赤字国債(特例国債)である。ただし、単年度ごとに特例法を制定すれば赤字国債の発行は可能で、赤字国債は、1965年度に第二次世界大戦後初めて発行され、その後1975年度から1989年度まで発行され、1994年度以降は、継続して発行されている。

問3 16 ②

「GDPに算入されている」という記述が誤り。GDP(国内総生産)は、1年間に国内で生産され市場で取り引きされた付加価値の合計額であり、市場で取り引きされていないものは、原則として算入されない。したがって、主夫・主婦による家事労働は家事サービスの生産に当たるが、市場で取り引きされていないため、GDPに算入されない。

①GDPは、付加価値の生産主体が国民であっても外国人であっても、その国で生産した付加価値ならば、その国のGDPに算入される。③国民所得の三面等価の原則から、生産国民所得、分配国民所得、支出国民所得の額はそれぞれ等しくなる。この原則は、 $GDP[GDP[国内総生産]=GDI[国内総所得]=GDE[国内総支出]]$ においても、 $GNP[GNP[国民総生産]=GNI[国民総所得]=GNE[国民総支出]]$ においても、当てはまる。④インフレーションが進行すると、一定の金額で買える商品量が以前と比べて少なくなる(貨幣の購買力の低下)。そのため、定額所得者の場合、以前より購入できる商品量が減り、その分生活が苦しくなる。

問4 17 ③

1920年代のアメリカは未曾有の好景気を迎えたが、1929年のウォール街の株価の暴落から始まった

大恐慌によって、生産は急減し、失業者は急増した。このアメリカ発の大恐慌は、全世界の資本主義国を巻き込む世界恐慌となった。

①論理的に成り立たない。「総供給が総需要を上回」れば、超過供給により物価は下落することになる。好況期には、一般に、需要の拡大に供給が追いつかないので、需要が供給を上回り、物価は上昇する。②「ジュグラーの波」をキチンの波に替えれば、正しい記述となる。ジュグラーの波は、設備投資を要因とし、周期が約10年の景気循環を言う。④「コンドラチェフの波」をクズネツツの波に替えれば、正しい記述となる。コンドラチェフの波は、技術革新を要因とし、周期が約50年の景気循環を言う。

問5 18 ③

イギリスでは、1942年のベバリッジ報告で、ナショナル・ミニマム(国民生活の最低基準)の保障という理念が示された。この報告の内容は、第二次世界大戦後に、「ゆりかごから墓場まで」というスローガンで知られる総合的な社会保障制度として実施に移された。

①「公的扶助」ではなく社会保険が正しい。社会保険とは、あらかじめ保険料を納めておき(拠出制)、疾病や失業などの事由が発生した場合に給付を受ける制度である。公的扶助は、公費を財源として、生活困窮者に給付を行う制度である。なお、公的扶助のさがけとされている法令は、イギリスで1601年に制定されたエリザベス救貧法であり、救貧税を財源として労働能力のない者に対する慈善的な救済が実施された。②「すべての国民が公的医療保険に加入する国民皆保険制度が創設された」という記述が誤り。アメリカでは、ニューディール政策の一環として、1935年に社会保障法が制定され、公的扶助と社会保険を統合した制度が設けられたが、現在に至るまで、すべての国民がいずれかの公的医療保険制度に加入する状況(国民皆保険)は実現していない。④日本では、すでに第二次世界大戦前の1922年に健康保険法が制定され、社会保険の制度が不十分ながら存在していた。

問6 19 ①

公衆衛生は、疾病の予防・健康の増進など国民の健康の維持・向上や、上下水道・清掃施設の整備など生活環境の整備・保全を行うものである。①はこのうちの疾病の予防の例である。

②は社会教育事業の一例である。③は公的扶助に該当する例である。日本の公的扶助は生活保護法に基づいて運営される。④は社会保険の一つである医

療保険に該当する例である。

問7 20 ㊦

日本の国民負担率は、アメリカより高いが、ヨーロッパの先進諸国より低い。主要国の国民負担率をみると、アメリカ30.8%、日本41.6%、イギリス47.7%、ドイツ51.2%、スウェーデン58.2%、フランス61.9%である(2011年)。

①「積立方式」を賦課方式に替えれば正しい記述となる。賦課方式には、少子高齢化が進むにつれて、現役世代の負担が重くなるという問題がある。

③「65歳から段階的に60歳へと引き下げられている」ではなく、60歳から段階的に65歳に引き上げられているというのが正しい。④「高齢者医療の無料化が実現している」という記述が誤り。75歳以上の全国民は後期高齢者医療制度に加入し、保険料を拠出し、医療費の1割(現役並み所得者は3割)を負担することになっている。

問8 21 ㊦

日本の合計特殊出生率(1人の女性が15～49歳の間に産む子どもの数の平均値)は、近年、1.4ほどであり、人口維持に必要な水準(2.07ほど)を下回っている。

②ゴールドプランは高齢化の対策について定めたものである。少子化対策として政府は、1994年に子育て支援の施策を定めたエンゼル・プランを策定し、その後も新エンゼル・プラン(1999年)、子ども・子育て応援プラン(2004年)、子ども・子育てビジョン(2010年)を策定してきた。③「待機児童問題は全面的に解消した」という記述が誤り。一部の地方自治体では、株式会社に保育所の運営を認めるなどの規制緩和政策が採用されて待機児童は大幅に減少したが、首都圏全体で見ると待機児童問題は解消していない。④「5割を上回るようになった」という記述が誤り。男性の育児休業取得率は、2012年度で1.89%にとどまっている。なお、前半部分は、2009年の育児・介護休業法の改正によって導入されたパパ・ママ育休プラス(父母がともに育児休業を取得する場合には、子が1歳2か月に達するまで、父母がそれぞれ1年間の育児休業を取得できるという制度)について述べたものである。

第4問 戦後国際政治の動向

【出題のねらい】

本問は、第二次世界大戦後の国際政治を規定してきた冷戦構造と軍縮の動向についての理解の程度を測ることをねらいとしている。国際政治の分野では、個々の出来事を歴史の流れのなかに位置づけて理解するこ

とが大切である。

【設問別解説】

問1 22 ㊦

COMECON(経済相互援助会議)は、第二次世界大戦後に結成されたソ連と東欧諸国を中心とする東側諸国の経済協力機構であって、「アメリカ」が設置したわけでも、「西側陣営の経済協力関係を強化」するための組織でもない。

①1955年に設立された東側諸国の地域的な集団防衛体制であるワルシャワ条約機構は、西側諸国が1949年に設立したNATO(北大西洋条約機構)に対抗して結成された。なお、ワルシャワ条約機構は冷戦終結に伴い、1991年に解散した。③第二次世界大戦の敗戦国ドイツについては、ポツダム協定(1945年締結)により、米英仏ソの4か国による分割占領が決まった。これにより、ソ連がドイツの東側部分を、米・英・仏の3か国がドイツの西側部分を占領したが、1949年に、占領区域はそれぞれ東ドイツ、西ドイツとして独立した。冷戦時代、ドイツは分断されたままであったが、1990年によくドイツ統一が実現した。④キューバ危機(1962年)は、キューバにミサイル基地を建設しようとしているソ連の動きを脅威に感じたアメリカ大統領ケネディ(1917～63)が海上封鎖を命じ、両国の関係が緊迫化した事件である。これにより、核戦争の恐怖が世界を震撼させたが、両国間の交渉を経て、ソ連首相フルシチョフ(1894～1971)がミサイルの撤去を約束し、危機は回避された。その翌年、米ソ間でホットライン協定が締結され、非常時に米ソ首脳が直接対話できるように、直通の電話回線が敷かれた。

問2 23 ㊦

A：大量破壊兵器保持の疑いで、米英軍が中心となって攻撃を開始した戦争は、イラク戦争(2003年)である。したがって、ウが該当する。アメリカやイギリスは、化学兵器などの大量破壊兵器の開発・保有などを理由に、国連の明確な武力行使容認決議がないままに、フセイン政権を崩壊させた。結局、大量破壊兵器はみつからず、イラク攻撃の正当性は疑われた。

B：第二次世界大戦後に二つに分かれた国(分断国家)で、現在は社会主義国家として統一されているのはベトナムなので、イが該当する。ベトナム戦争は、ベトナム統一をめぐる紛争にアメリカが軍事介入した戦争である。長期化・泥沼化したこの戦争は、北ベトナムの攻勢により軍事的解決は困難となり、ベトナム和平協定の締結後、アメリカ軍は撤退した。その後、南ベトナムは北ベトナムに併合され

た。

C：第二次世界大戦後に分断国家となり、現在も分断が続いている国としては韓国と北朝鮮がある。両国間の戦争は、朝鮮戦争であるから、アが該当する。1950年、北朝鮮が韓国に侵攻して両国間に軍事衝突が起ると、南にはアメリカを中心とする国連軍(国連憲章に定める国連軍とは異なる)、北には中国義勇軍が新たに加わり、激しい戦争となった。1953年には休戦協定が成立したが、分断状況は続いている。

以上のことから、最も適当な組合せは⑥となる。

問3 24 ①

1955年、インドネシアのバンドンで開催されたアジア・アフリカ会議では、アジア・アフリカ地域の29か国の代表により、平和共存や反植民地主義などを掲げる平和十原則が採択された。

②「イギリス」をフランスに直せば、正しい文となる。フランスは、1966年にNATO(北大西洋条約機構)の軍事機構から脱退した。なお、2009年に復帰した。③「東西いずれの軍事同盟にも参加せず、中立的な立場をとることにより平和を維持しようとする外交姿勢」は、ユニラテラリズムではなく、非同盟主義である。ユニラテラリズムは単独行動主義と訳され、国際的な協調を軽視し、単独で国際問題を解決しようとする外交姿勢のことである。2000年代のアメリカのブッシュ政権時代の外交姿勢、例えば、京都議定書からの離脱や包括的核実験禁止条約の批准拒否などが、ユニラテラリズムの現れであると言われた。④冷戦時代において、東側陣営の大国であるソ連と中国は、社会主義のあり方や国境の画定をめぐる対立した(中ソ対立)。したがって、「中ソ関係は良好で対立が生じることはなかった」という記述は誤り。なお、後半部分は、ハンガリー事件(1956年)、プラハの春(1968年)に関する記述として正しい。

問4 25 ①

UNHCR(国連難民高等弁務官事務所)は、国際連合の総会決議によって1950年に設立され、翌年から活動を開始した機関なので、設問文の「冷戦終結期における国際社会の状況」に当てはまらず、これが誤りとして正解となる。

②ベルリンの壁は、1961年に当時の東ドイツによって西ベルリンを包囲する壁として建設された。冷戦時代は東西対立やドイツ分断を象徴するものであったが、1989年の東欧革命の過程で、ベルリンの壁は取り壊された。③1989年、アメリカ大統領ブッシュ(在任1989～93)とソ連共産党中央委員会書記長

ゴルバチョフ(在任1985～91)の米ソ両首脳が地中海のマルタ島で会談し、冷戦の終結を宣言した。④CIS(独立国家共同体)は、1991年にソ連の解体を受けて、ソ連を構成していた国々によって結成された緩やかな連合体である。なお、CISはソ連解体時に連邦を構成していた12か国のうち、グルジアを除く11か国で結成された。

問5 26 ④

新START(戦略兵器削減条約)は2011年に米ロ間で発効した核軍縮条約であり、START Iの後継条約である。

①IAEA(国際原子力機関)の査察受入れ義務を負っているのは、条約上で「非核兵器国」と呼ばれている核兵器を保有していない国であって、条約上の「核兵器国」と呼ばれている核兵器保有国はその受入れ義務を負っていない。その点でこの記述は誤り。核拡散防止条約は、1968年に国連総会で採択されたもので、アメリカ、ロシア(当時はソ連)、イギリス、フランス、中国の5か国を核兵器国と定め、核兵器国以外への核兵器の拡散の防止を目的としている。その実効性を確保するため、非核兵器国に対して、IAEAの核査察受入れ義務を負わせているのである。②INF(中距離核戦力)全廃条約は、1987年に米ソ間で調印され、翌年発効した条約である。中距離核戦力の全廃義務を負うのは条約の当事国である米ソのみである。したがって、「核兵器を保有するすべての国に対して、その全廃を義務づけている」という記述は誤り。③生物兵器禁止条約が1972年に署名が開放され、1975年に発効しているので、生物兵器の禁止条約が存在しないという記述は誤りである。

第5問 科学技術の発達と生命

【出題のねらい】

本問は、「iPS細胞(人工多能性幹細胞)」をテーマとする本文をもとに、科学や技術を取り巻く考え方、技術の進展の動向、食生活や食品をめぐる現状と課題、医療を取り巻く現状と課題などを出題し、この分野の基本事項の理解度を確認することをねらいとしている。また、図表を読み取る能力を試す問題を出題した。

【設問別解説】

問1 27 ⑤

ア：正しい学問の方法として「帰納法」を提唱したのはイギリス経験論の哲学者ベーコン(1561～1626)なので、Cが該当する。帰納法とは、観察や実験に基づいて得られたデータから共通する事項を

取り出し、そこから一般的な原理・法則を導く方法のことである。

イ：正しい学問の方法として「**演繹法**」を提唱したのは**デカルト**(1596～1650)なので、**A**が該当する。大陸合理論の哲学者デカルトは、『方法序説』において、確実な知識は、疑う余地なく明白に真と認められる原理から出発し、合理的な推論を重ねていく**演繹法**によって得られると主張した。

ウ：アメリカの海洋生物学者**カーソン**(1907～64)は、『沈黙の春』において、食物連鎖の過程で農薬の生体濃縮が生じ、生態系が破壊される危険性を警告したので、**B**が該当する。

以上により、最も適当な組合せは⑤となる。

問2 **28** ④

「10年前との比較」に注目しよう。中長期の研究開発投資の配分比率が、10年前と比較して「下がった」と回答した割合は23.2%、「上がった」と回答した割合が17.5%となっている。したがって、前半部分は正しい。次に、「5年後への期待」として、中長期の研究開発投資の比率を「上げたい」と考えている割合(46.0%)は、「下げたい」と考えている割合(3.7%)を大きく上回っている。したがって、後半部分も正しい。

①「10年前と比較して、中長期の研究開発投資の配分比率が『上がった』と回答した企業の割合は『下がった』と回答した企業の割合を上回っている」という記述は誤り。「10年前との比較」をみると、中長期の研究開発投資の配分比率が「上がった」と回答した企業の割合は17.5%となっており、この数値は、「下がった」と回答した企業の割合(23.2%)を下回っている。②「現状をみると、短期の研究開発投資の比率は中長期のそれよりも小さい」という記述は誤り。「現状の比率」をみると、短期の研究開発投資の比率が78.1%を占めており、この数値は、中長期の研究開発投資の比率(21.9%)よりも大きい。③「短期の研究開発投資の配分比率」という部分を「中長期の研究開発投資の配分比率」に置き換えると適当な記述となる。短期の研究開発投資の配分比率について、10年前との比較で「ほぼ現状と同程度」と回答した企業の割合は60.1%となっており、この数値は、「5年後への期待」として「ほぼ現状と同程度」と回答した企業の割合(65.3%)を下回っている。一方、中長期の研究開発投資の配分比率について、10年前との比較で「ほぼ現状と同程度」と回答した企業の割合は59.3%となっており、この数値は、「5年後への期待」として「ほぼ現状と同程度」と回答した企業の割合(50.3%)を上回っ

ている。

問3 **29** ③

ナノテクノロジーとは、物質を原子・分子レベルのスケールで操作・制御し、ナノサイズ特有の物質特性を利用して、全く新しい機能や優れた性質をもつ素材や部品を作り上げる技術である。ナノテクノロジーは比較的新しい研究分野で、様々な産業分野(情報・通信、医療、環境・エネルギーなど)への応用が期待されている。なお、ナノは10億分の1を表す単位の接頭語で、例えば、ナノメートルは、10億分の1メートルのことである。

①18世紀後半にイギリスで起こった**産業革命(第一次産業革命)**によって、生産方法がそれまでの**マニファクチュア(工場制手工業)**から、**機械制大工業**へと移行し、生産性が飛躍的に向上した。この産業革命における生産性の向上を、動力の側から支えたのが**蒸気機関の導入・改良**である。したがって、「電力」によって生産力が増大したという記述は適当でない。電気エネルギーが実用化され、産業部門や生活部門へと普及していくのは、19世紀後半から20世紀前半に展開された**第二次産業革命**以降のことである。②「マルクス」ではなくシュンペーターが正しい。オーストリア出身の経済学者シュンペーター(1883～1950)は、企業家(起業家)の行う**イノベーション(技術革新)**は、「**創造的破壊**」を通じて、経済を発展させる原動力となると主張した。ドイツの経済学者・哲学者**マルクス**(1818～83)は、**資本主義**の矛盾を解消するためには、生産手段の私的所有制度を廃棄し、**社会主義**に移行することが必要であると説いたことで知られる。④デジタル技術の発達を基盤とした**ICT(情報通信技術)革命**によって、日本で**インターネット**の普及が進むようになったのは、1990年代以降のことである。したがって、ICT革命及びインターネットの普及が「1950年代に始まった日本の高度経済成長期」に進んだとする記述は適当でない。

問4 **30** ②

「その値は小さくなる」は大きくなるの誤り。**フード・マイレージ**は、食品の輸送が環境に与える負荷を測る指標としてイギリスの消費者運動家が提唱した考え("Food Miles")で、その値は「輸送距離×重量」で表される。食品の生産地と消費地との間の輸送距離が短く重量が小さいほど**フード・マイレージ**の値は小さくなり、逆に、「輸送距離が長く重量が大きいほど」**フード・マイレージ**の値は大きくなる。したがって、②の「食品の輸送距離が長く重量が大きいほど、その値は小さくなる」という記

述は適当でない。

①**食育基本法**(2005年制定)は、食育を、生きる上での基本であって、知育、徳育及び体育の基礎となるべきものと位置づけるとともに、様々な経験を通じて「食」に関する知識と「食」を選択する力を習得し、健全な食生活を実践することができる人間を育てる取組みを推進することをうたっている。③日本では、特定のアレルギー体質をもつ消費者の健康被害の発生を防止する観点から、国内で販売される加工食品に対し、**食物アレルギー**の原因とされる特定の食物を使用した旨の表示を義務づけている。④**トレーサビリティ・システム**とは、消費者が、生産・流通の履歴情報を追跡できる仕組みを言う。スーパーの野菜売り場で商品のバーコードを読み込むと産地や流通経路などが携帯端末に表示されるのが、トレーサビリティ・システムの例である。牛肉とコメに関しては、この仕組みが法制化されている。

問5 [31] ④

1997年に**臓器移植法**が制定されたことにより、これまで法律で認められていなかった脳死者からの臓器の摘出・提供が可能になった。その後、2009年に同法は改正され、臓器提供に関する脳死者本人の生前の書面による意思が不明の場合でも、**家族の書面による承諾**により脳死判定を行い、**遺族の書面による承諾**により臓器の摘出・提供ができるようになった(改正以前は、本人の意思表示が臓器摘出・提供の必要条件であった)。

①**インフォームド・コンセント**とは、**患者の自己決定権**を重視する考えに基づくもので、医療の専門家(医師など)が、診断や治療に関する情報を十分に患者に提供し、患者の納得と同意を得た上で治療を進めることを言う。したがって、「患者の意思よりも医師の考えを優先する」ことは、インフォームド・コンセントの対極にある医師と患者の関係のあり方である。②日本には、**出生前診断**を義務づける法制度は存在しない。出生前診断とは、出生前に胎児の染色体や遺伝子を調べ、胎児の状態を診断することを言い、これによって出生前の胎児の障害や遺伝病の可能性などを調べることができる。出生前診断には、先天的疾患をもつ子どもが生まれる可能性がある場合にあらかじめ準備ができるとの指摘がある一方で、命の選別につながるとの指摘もある。③日本にはヒトへのクローン技術の適用を規制する法律が存在しないとする記述は誤り。ヒトへの**クローン技術**の適用は、多くの国々で倫理上問題視されており、日本でも**ヒトクローン技術規制法**が制定

(2000年)されて、ヒトクローンの産生が禁止されている。

第6問 南北問題

【出題のねらい】

本問の主なねらいは、南北問題の解決に向けた取組みや南南問題に関連する動向・現状についての、知識の習得度を試すことにある。併せて図表問題も出題したが、これは論理的な判断力を試すことがねらいである。

【設問別解説】

問1 [32] ②

開発途上国の経済発展が停滞した要因に、少数の**一次産品**(加工度の低い農産物や鉱産物)の輸出に依存する経済構造(**モノカルチャー経済**)があった。一次産品は工業製品に比べ価格が低下しやすいため、**交易条件**(輸出品1単位で購入できる輸入品の単位数)が悪化する傾向にある。そのため、開発途上国はUNCTADにおいて、**一次産品の価格安定**を先進国に求めた。そして、こうした要求を受けて、例えば一次産品共通基金の設立などの制度整備が議論となった。

①「即時廃止」が不適当。一般特惠関税とは、開発途上国の製品に対する関税を軽減もしくは撤廃するというもので、開発途上国からの輸出を促進する効果をもつ。そのため、開発途上国は先進国に対して**一般特惠関税の供与**を求めた。③は1992年に開催された**国連環境開発会議**についての記述、④は1976年に開催されたIMF暫定委員会での合意(**キングストン合意**)を受けて行われた**IMF(国際通貨基金)**協定の改定についての記述であって、いずれもUNCTADについてのものではないので不適当。

問2 [33] ②

IBRD(国際復興開発銀行)の融資条件は厳しいため、LDC(後発開発途上国)が融資を受けることはきわめて困難である。そのため、無利子であるなど緩やかな条件で開発途上国に融資を行う機関として創設されたのが、**IDA(国際開発協会)**である。この機関と、IBRDをはじめとするいくつかの国際金融機関は、**世界銀行グループ**と総称されている。

①「行われたことがない」は不適当。**HIPC(重債務貧困国)**と呼ばれる債務危機にある貧困国に対しては、援助措置として、債務返済の猶予や免除が行われたことがある。③「天然資源が存在しない」が不適当。アフリカ諸国には、石油・レアメタル・ダイヤモンドといった**天然資源が豊富に存在**しており、例えば、世界における石油の可採埋蔵量の9.5

%はアフリカ大陸に、レアメタルの一つであるコバ
ルトの確認埋蔵量の45%はアフリカに位置するコン
ゴ民主共和国にある。近年、アフリカ外交がクロ
ーズアップされている要因の一つは、アフリカにある
これら天然資源が注目されていることにある。④
「すべてアフリカもしくはラテンアメリカに位置し
ている」は不適当。国際連合が認定する LDC は
2014年7月現在で48か国あるが、そのうち9か国は
アジア、4か国は大洋州にある。なお、34か国はア
フリカ、1か国はラテンアメリカである。

問3 34 ④

ロシアは急速な経済成長で注目されてきたが、そ
れを支えてきたのが、豊富な天然ガスや石油であ
る。欧州諸国を中心にこれらを輸出することによ
って、外貨を獲得し資金としてきたのである。2014年
3月に大きな動きが生じたクリミア問題(ウクライ
ナからのクリミア分離とロシアへの編入をめぐる問
題)がニュース報道された際に、欧州諸国がロシア
にエネルギーを依存してきた状況が、この問題への
各国の対処に関係する背景事情としてしばしば報じ
られていたので、この報道を通じてロシアと欧州と
のエネルギーをめぐる関係を知った人も少なくない
だろう。

①「一人当たり」という部分が不適当。中国は急
速な経済成長を遂げてきており、2010年には日本の
GDP(国内総生産)の額を上回り、世界第2位と
なった。しかし、これは国全体での額であって「一
人当たり GDP」ではない。中国は日本の10倍以上
の人口を擁していることから、中国の一人当たり
GDP は、日本のその7分の1以下にすぎない。
2012年のデータを示すと、ドル換算の GDP は、中
国が8.2兆ドルに対して日本は6.0兆ドルだが、一
人当たり GDP だと、中国の6071ドルに対して日本は
46102ドルである。②「レアルの為替相場が急激に
上昇したことで輸出が…有利となり」という論理が
不適当。例えば日本の場合、自国通貨である円が高
くなると(すなわち円高になると)、日本の輸出に
っては不利に働く。これと同様、ブラジルにとつ

ての自国通貨であるレアルが高くなると(すなわち
レアル高になると)、ブラジルの輸出にとっては不
利に働く。③「EPA(経済連携協定)の締結例はな
い」が不適当。例えば2011年に、日本とインドとの
間で EPA が結ばれている。

問4 35 ①

「先進各国はいずれも達成している」は不適当。
例えば日本は、2012年の支出純額ベースでの ODA
(政府開発援助)の対 GNI 比は0.17%であり、国際
目標である0.7%を達成できていない。日本に限ら
ず、DAC 加盟国の合計でみた ODA の対 GNI 比は
0.29%にすぎないように、0.7%の国際目標を達成
できている国は少数にとどまる(外務省『2013年版
政府開発援助(ODA)白書』(2014年2月)による)。

残る選択肢は、いずれも適当である。②DAC(開
発援助委員会)の役割、③ODA には贈与のみなら
ず返済の条件が緩やかな借款(返済義務のあるもの)
も含まれること、④NGO(非政府組織)を通じた
ODA 供与があること、について押さえておこう。

問5 36 ⑥

知識の有無を試すものではなく、アとイの条件か
ら論理的に考えることで正解を確定できるタイプの
設問である。アの前半「1990年には…下回ってい
た」という条件にはA～Cのすべてが当てはまる
が、後半の「2012年には…逆転した」という条件を
満たすのはBとCである(縦軸の値がレソトの値を
上回っている)。このことから、ベトナムとラオス
はBかCのいずれかだと判明するので、残るAがル
ワンダということになる。次に、イには「1990年も
2012年もガーナ…はラオスとルワンダ…を上回っ
ている」とある。裏返せば、いずれの年もラオスとル
ワンダはガーナを下回っているということだが、こ
れに当たるのはAとBである(横軸・縦軸の値とも
にガーナを下回っている)。Aはすでにルワンダと
確定しているので、ラオスはBということになる。
ここから、残るCがベトナムということになる。

以上のことから、最も適当な組合せは⑥となる。

【解答・採点基準】

(100点満点)

問題番号	設 問	解 答 番 号	正解	配点	自己採点
第1問	問 1	1	⑤	3	
	問 2	2	①	3	
	問 3	3	②	3	
	問 4	4	⑧	3	
	問 5	5	②	2	
	問 6	6	⑥	3	
	問 7	7	③	3	
	問 8	8	③	2	
	問 9	9	①	3	
	問10	10	②	3	
第1問 自己採点小計				(28)	
第2問	問 1	11	④	3	
	問 2	12	③	3	
	問 3	13	①	2	
	問 4	14	①	3	
	問 5	15	④	2	
	問 6	16	②	2	
	問 7	17	③	3	
	問 8	18	④	3	
	問 9	19	④	3	
第2問 自己採点小計				(24)	
第3問	問 1	20	②	3	
	問 2	21	①	2	
	問 3	22	④	3	
	問 4	23	③	2	
	問 5	24	①	3	
	問 6	25	③	2	
	問 7	26	④	3	
	問 8	27	③	3	
	問 9	28	②	3	
第3問 自己採点小計				(24)	

問題番号	設 問	解 答 番 号	正解	配点	自己採点
第4問	問 1	29	③	3	
	問 2	30	①	3	
	問 3	31	④	2	
	問 4	32	②	2	
	問 5	33	③	3	
	問 6	34	②	3	
	問 7	35	④	3	
	問 8	36	⑦	2	
	問 9	37	④	3	
第4問 自己採点小計				(24)	
自己採点合計				(100)	

【解説】

第1問 情報社会の特質と青年期

【出題のねらい】

本問のねらいは、「兄妹間でのケーキの分割」という日常のありがちな場面を通じて、「情報社会における振る舞い」「情報の非対称性による公平性の問題」「理論と現実の食い違い」「現実、自由で公正な話し合いがどうしたら実現できるか」などの倫理的な問題を具体的な場面で考えてもらうことにある。設問は、「情報」をめぐる問いを中心に、差別問題や消費社会論の理解、心理学や人間観に関する知識、図や資料文の読解能力を試す問いも設けた。

【設問別解説】

問1 1 ⑥

ア：誤文。「コマーシャリズム」を、消費者の立場を最優先するという考え方である「コンシューマリズム」や、消費者の権利の保護を求める「消費者運動」などに置き換えれば正文となる。コマーシャリズムとは、商業主義のことである。例えば、私企業としてのマスメディアのコマーシャリズムは、視聴率競争に勝ち抜くためにスキャンダルを優先して報道する扇情主義(センセショナリズム)としてあらわれる。(扇情主義については、問8②の解説も参照)

イ：正文。デジタル・デバイドは「情報格差」とも訳され、情報や情報機器への接し方の習熟の度合いにより、「就業機会、待遇、貧富の格差が生じる」ことを言う。今日の情報社会における解決すべき課

題の一つである。

ウ：正文。「リテラシー」とは、もともとは読み書きの能力のことである。デジタル・デバイドを解決していくには、教育などを通じて、メディア・リテラシーを育成していくことが必要である。

以上により、⑤の組合せが正解となる。

問2 ② ①

ミード(1901～78)は、『サモアの青春』などで知られる文化人類学者。ミードの研究は女性解放運動に大きな影響を与えたが、「社会的・文化的に作られた女性らしさ」すなわちジェンダーを保全するために「女性解放運動に参加」するというのは矛盾している。女性解放運動の大きな目的の一つは、女性のジェンダーからの解放にある。

②③④はいずれも正しい。②石牟礼道子(1927～)の『苦海浄土ーわが水俣病』の説明として正しい。③日本は、人種差別撤廃条約の批准(1995年)を受け、1997年にアイヌ文化振興法を施行するとともに北海道旧土人保護法を廃止した。ただし、アイヌ文化振興法においても、アイヌ民族の固有の権利としての先住権は認められていないことも覚えておこう。④国連総会(1972年)は、1975年を国際婦人年と決議し、メキシコ市で国際婦人年世界会議を開いて、男女平等の促進などを求める世界行動計画(メキシコ宣言)などを採択した。

問3 ③ ②

フランクフルト学派第二世代のハーバーマス(1929～)は、『公共性の構造転換』や『コミュニケーション的行為の理論』などにおいて、私たちの生活世界が科学技術のもたらすシステム合理性によって支配され、人間がマニュアルに従って外部から操作されていると批判した。そして、こうした道具的理性ではなく、相互理解に裏うちされたコミュニケーションに基づく対話的理性の復権を説いた。

①アーレント(1906～75)を想定した説明である。彼女は、『全体主義の起源』や『イエルサレムのアイヒマン』を著し、ドイツのナチズムや旧ソ連のスターリン体制などに代表される全体主義社会を支えていたのは、アトム化した平凡な大衆であったことを明らかにして、こうした状況を「悪の陳腐さ(平凡さ)」と表現した。③リースマン(1909～2002)の説明である。彼は、『孤独な群衆』において、生活の変化を好まず、社会の伝統的な慣習やしきたりに従順であろうとする伝統指向型や、人生の初期段階に年長者が植え付けた抽象的な人生目標によって内的につき動かされながら生きる内部指向型と対比して、現代人の社会的性格類型を他人指向型と特徴づ

けた。④『大衆の反逆』で知られるオルテガ(1883～1955)の説明である。

問4 ④ ⑧

①a：『消費社会の神話と構造』で知られる」を根拠に、ボードリヤール(1929～2007)が入る。ベルンシュタイン(1850～1932)は、ドイツ社会民主党の理論家。彼は、資本主義の発達した国ではマルクス(1818～83)の予想通りには現実^{ぜんじつ}は進行しないととして暴力革命を否定し、労働者階級が議会で多数を獲得することによって、漸進的に社会主義の実現を図るべきだと説いた。

②b：「他人から『美しい人』と評価されると期待して」や「現代社会におけるモノは単なる消費の対象ではなく」などに注目すれば、「記号」が入る。ボードリヤールによれば、大量消費時代におけるモノの価値は、それ自体が有する使用価値ではなく、記号としての価値にあると指摘した。「啓示」とは、人知をもっては捉えることのできない神秘を神自らが人間に対して示すことであるから不適当。

③c：上に述べた「記号」の言い換えである「コードや他の商品との差異」が入る。コードとは、ブランド品を高価なモノにしているなどの「消費社会において与えられている意味内容」である。モノは「特殊な機能や原料コスト」とも無関係ではないが、消費において必ず「原料コスト」が強調されるということはないから不適当。

以上により、⑧の組合せが正解となる。

問5 ⑤ ②

カッシーラー(1874～1945)は、人間を「シンボルを操る動物」と定義した。それは、人間が現実の世界を、言語・神話・宗教・芸術といった象徴(シンボル)を通して理解することに注目したからである。

①人間を「ホモ・ファールベル(工作人)」と定義したベルクソン(1859～1941)の説明、③人間を「ホモ・サピエンス(英知人)」と定義したリンネ(1707～78)の説明、④人間を「ホモ・ルーデンス(遊戯人)」と定義したホイジンガ(1872～1945)の説明である。

問6 ⑥ ⑧

ア：「無理に社会人になろうとも思いません」や「親元から大学に通っていて楽なので……学生のままでいよう」に注目すれば、小此木啓吾(1930～2003)が論じた「モラトリアム人間の甘え」と分かる。モラトリアム人間とは、大人の仲間入りをする年齢に達していながら、精神的にはまだ自己形成の途上にあり、大人社会に同化できずにいる人間のことである。

イ：「自己を見失いかけています」に注目すれば、エリクソン(1902～94)が論じた「自我同一性(アイデンティティー)の危機」を示した具体例と分かる。

ウ：「はやく父親になりたい」と「もうしばらくは、夫婦二人のままでよい」に注目すれば、フロイト(1856～1939)が論じた「葛藤(コンフリクト)の悩み」を示した具体例と分かる。

以上により、⑥の組合せが正解となる。

問7 [7] ③

中高年層の「即断した場合」を見ると、女性の正答率は32.1%であるのに対して、男性の正答率は61.5%と高いが、「半分以下に留まっている」わけではない。したがって、③が適当でないものとして正解となる。

①②④はいずれも正しい。①数値を吟味するまでもなく、図を見れば中高年層は「即断」や「熟考」における男女間の正答率の差異が大きいことが分かる。②「即断」における若年層の男性の正答率は62.5%、中高年層の男性の正答率は61.5%であり大差ない。「二重課題」における若年層の男性の正答率は55.6%、中高年層の男性の正答率は51.9%であり大差ない。しかし、「熟考」における若年層の男性の正答率が60.0%であるのに対して、中高年層の男性の正答率は44.0%と大きく落ち込んでいる。④「即断」における若年層の女性の正答率は55.6%で、中高年層の女性の正答率32.1%より高い。一方、「熟考」における若年層の女性の正答率は56.5%、中高年層の女性の正答率は63.0%、「二重課題」における若年層の女性の正答率は53.6%、中高年層の女性の正答率は58.3%と、いずれも中高年層の女性の正答率の方が高い。

問8 [8] ③

新聞やテレビなどのマスメディアを「第四の権力」と呼ぶことがあるが、これは「マスメディアには立法・行政・司法の三権を監視する使命がある」という意味である。したがって、「第四の権力」として「国民の政治信条に関する情報を収集しコントロールする役割が期待されている」という記述は誤り。

①②④はいずれも正しい。①マスメディアにとっては行政や政治家などからの情報提供が欠かせないが、「密接で相互依存的な関係」になると、その報道が公平性を失う可能性がある。②センセーショナリズム(扇情主義)とは、故意に聴衆・大衆の感情を煽り、掻き立てるようなやり方で注目・関心を集めたり、思い通りの方向に動かしたりしようとする手法のことである。④マスメディアが提供する情報

が、提供者のバイアスがかかった限定的なものになると、人々のステレオタイプ(紋切型態度)の形成を助長することがある。

問9 [9] ①

資料文は、三木清『人生論ノート』(新潮文庫)からの引用である。資料文の趣旨は、忘れ去られている「怒」の倫理的意味を見直してみると、「憎み」に比べ、「怒」は突発的であり純粋で単純であるが、それゆえに精神性を示しているというものであり、この趣旨に合致する①が正解となる。

②資料文によれば、「怒は憎みの直接の原因となることができる」が、「憎みはただ附带的にしか怒の原因」にならないから、「『怒』の倫理的な根源である『憎み』」というのが不適当。③資料文は、「怒」と「憎み」は「本質的に同じ」ではないとして、「怒」の再考を促している。また、「考えるに値しない」というのも不適当。④資料文によれば、「怒」の突発性にはその純粋性あるいは単純性が表れ、「憎み」の習慣性にその自然性があらわれるから、「『怒』の突発性にその自然性があらわれ、『憎み』の習慣性にその純粋性があらわれる」が不適当。

問10 [10] ②

Aは「レディ・ファースト」だと言って(2回目の発言)、Bにケーキを切り分ける役目を押しつけ、切り分けたケーキを先を選んでいいる。なぜなら、「ケーキを切る人よりも、後でケーキを選ぶ人の方が有利になりがち」なことを知っていたからである(4回目の発言)。

①会話を見れば、Aが「ケーキを切り分けるのは、当然、Bの役目であると主張している」とは言えない。AはBをおだてて、Bの自由意志に基づいて、Bにケーキを切り分ける役目を引き受けさせようとしている。また、「切り分けた人が……主張している」もBの1回目の発言に反するので不適当。③BはAの提案を受け容れているのだから、自分はケーキを切り分けることも「Aが先にケーキをとること」も同意していいと言えるので不適当。④Aは「切り分けたケーキを先にBが選ぶことに同意」していないので不適当。

第2問 源流思想総合

【出題のねらい】

本問では、弁論をテーマとする本文のもとに、ギリシア哲学、キリスト教、仏教、イスラーム教、中国思想などに関する基本的知識の有無や理解度を確認してもらうための設問を配した。

【設問別解説】

問1 11 ④

a:「自然哲学者が…世界観に満足せず」ということから、「神話的」が入る。神話的世界観とは、この世界に生起する様々な出来事を神々の仕業として説明する思考法である。

b:自然の秩序や根拠は「人間の理性によって自然そのもののうちに把握され得る」と考えた自然哲学者の世界観ということから、「合理的」が入る。

c:空欄の直前に「万物の根源的な原理」とあるから、「アルケー」が入る。なお、アレテーは「徳」、プシュケーは「魂」を意味するギリシア語である。

以上により、④の組合せが正解となる。

問2 12 ③

資料文は、キケロ著(大西英文訳)『弁論家について』(岩波文庫)からの引用である。資料文から読み取れるキケロ(前106～前43)の主張に合致するのは、③だけである。資料文の2～4行目の「……弁じるための肝心要は国民の性格を知悉していることであるが、国民の性格というものは頻繁に変化するものであるから、弁論の流儀もまたしばしば変化させなければならない」が正解の根拠となる。

①資料文の6～8行目に「弁論の大部分は、……人々の心に情動を惹起させ、しばしば希望や恐れや欲望や栄光への願望へと駆り立て……」とあるから、「国民の感情に訴えるのではなく、理路整然と国民に……述べればよい」という記述は不適当である。②同様の箇所参照して、「弁論家は国民の性格を見極めて弁論することはできない」や「国政の大義を粛々と述べさすればよい」という記述が不適当である。④資料文の5～6行目に「きわめて激しい一般大衆の感情にかんがみて」とあるから、「一般大衆の感情は、常にきわめて温和である」という記述が不適当である。

問3 13 ①

ソフィストは、ものごとの真偽を決める基準が個々人の考え方や感じ方にあるとする相対主義的な真理観を有していた。「万物の尺度は人間である」というプロタゴラス(前494?～前424?)の言葉を知っていれば正解できる。

②ストア派の説明である。彼らは、自然を支配する理性の法則(ロゴス)に従って欲望や感情を統御するところに幸福を見いだす禁欲主義を説いた。③スピノザ(1632～77)を想定したものである。彼は、神と自然を同一だと考え(神即自然)、あらゆる事物は

神から流出するという汎神論を説いた。④カント(1724～1804)に関する説明である。カントは、誰もがいつでも無条件に従うべき普遍的な道徳法則があると考えた。

問4 14 ①

プラトン(前427～前347)によれば、多くの人間は感覚に囚われ、感覚を通じて得る個々のものがイデアの影であるにもかかわらず、それらを真の実在と勘違いしていると言う。それは、生まれた時から洞窟に閉じ込められている囚人が壁に向かって座っており、その壁に映る背後の事物(イデア)の影を事物そのものだと思い込んでいるあり様と似ているというのである。これを洞窟の比喩と言う。したがって、①が正解となる。他の選択肢はいずれも洞窟にちなんで創作された誤文である。

問5 15 ④

老子(生没年不詳)は「**大国を治むるは小鮮を烹るが如し**」と述べたが、この言葉には、大国の為政者が人民に干渉すぎると、かえって国が治まらなくなるといふ老子の考え方があらわれている。

①孟子(前370?～前290?)の王道政治に関する説明である。②韓非子(?～前233)の法治主義に関する説明である。③孔子(前551?～前479)の徳治主義に関する説明である。

問6 16 ②

莊子(前4世紀頃?)の言葉である。「至人は自分にこだわらず、神人は功績にとらわれない」という意味である。莊子は、何物にもとらわれることのない自由な境地に達した人を真人と呼び理想とした。至人・神人も、真人とはほぼ同義である。

他の選択肢はいずれも孔子の言葉である。①「知っていることについてだけ知っていると言い、知らないことは知らないと言えるのが知ることだ」という意味である。③人知では分からない死後の世界を考えることよりも、今の人生をよりよく生きることが大切だといふ孔子の考え方があらわれている。④孔子は、現実を超えた超自然的・神秘的な現象については語ろうとしなかったという意味である。孔子の合理的精神があらわれているとされる。

問7 17 ③

仏教では、ブッダと言えばゴータマ・シッダッタ(前463?～前383?)を指す場合が多いが、ブッダとは本来、真理に目覚めた者(覚者)という意味である。真理を創造した者ではない。したがって、「この世を貫く真理の創造者であるブッダを唯一無二の神として信仰する」という記述は誤り。

その他の選択肢は正しい。①**八正道**とは、仏教において悟りを開くための八つの正しい修行の道であり、具体的には、正見、正思、正語、正業、正命、正精進、正念、正定のことを指す。これらは、苦行主義にも快樂主義にも偏らない**中道**の修行法である。②**無我**とは、不変の実体(「我」)は存在しないということである。あらゆるものは、この無我の状態にあるということを**諸法無我**と言う。また無我を時間という観点からみた概念を**無常**と言い、何事も永遠不変ではなく、移り変わるということを**諸行無常**と言う。この無我と無常こそ、仏教の教義の核心であり、ブッダはこれらを世界と人生の真理(**法**、**ダルマ**)であると説いた。④**ヴァスバンドウ**(世親、320?～400?)は、実在するのは心の働きだけであり、一切の事物は意識の産物にすぎないとする**唯識**の思想を唱えた。

問8 **18** ④

ア：正文。ジャイナ教の開祖**ヴァルダマーナ**(マハーヴィーラ、前549?～前477?)は、バラモン教の身分制度(**ヴァルナ制度**)を批判するとともに、解脱を得るために厳しい苦行と徹底した**不殺生**(**アヒンサー**)の実践を説いた。

イ：誤文。**三位一体説**はキリスト教の教義。「父なる神」と「子なるキリスト」と「聖霊」の三者は実体は一つであるとする。イスラーム教の開祖**ムハンマド**(570頃～632)は、キリスト教のイエスのような神の子でも救世主でもなく、あくまで人間であり、**最後にして最大の預言者**であると考えられている。

ウ：誤文。新約聖書の「私が来たのは律法や預言者を廃止するためだ、と思ってはならない。廃止するためではなく、完成するためである」(マタイによる福音書)というイエスの言葉からも分かるように、**イエス**(前4?～30?)は律法を否定したわけではない。イエスは、一部のユダヤ教徒たちが律法を形式的にしか遵守しないことを批判して**律法の内面的遵守**を説き、神への愛と隣人愛を律法の基本に据えた。また、ユダヤ教の聖典である旧約聖書はキリスト教でも聖典である。

以上により、④の組合せが正解となる。

問9 **19** ④

本文の第2段落では「ソクラテスが見抜いたように、巧みな説得は優れた弁論の必要条件ではない」と述べられ、第3段落では「孔子が重視したのは相手と誠実に向き合ったうえで己の意図を正しく伝える達意の弁論であった」と述べられている。また、本文の最終段落では、「他国の人々との交流が盛ん

になっている今日、……相手と誠実に向き合い、客観性をもった言葉による弁論術を身につける必要がある」と述べられている。④の記述は、これら本文の内容に合致するので正解となる。

①本文の第4段落では、「以心伝心」という言葉が「仏教に由来」と述べられているから、「儒学に由来する」という記述は不適当である。また、本文の最終段落では、「……相手と誠実に向き合い、客観性をもった言葉による弁論術を身につける必要がある」と述べられているから、「日本人は、外交や経済発展の面で諸外国に後れをとらないために、説得力のある弁論の技術を磨いていく必要がある」という記述が不適当である。②本文の第2段落では、「ソクラテスが、対話による真理の探求にこだわったのも、詭弁とも言える弁論の横行にアテネの精神的荒廃と政治的危機をみたからに違いない」と述べられている。したがって、「古代ギリシアでは……人々を説得する弁論術への関心が高まり、それに応えるべく説得の技術を重視するソクラテスの哲学が生まれた」という記述は不適当である。③本文の第3段落では、「孔子が重視したのは相手と誠実に向き合ったうえで己の意図を正しく伝える達意の弁論であった」と述べられ、また、「名家の白馬非馬の詭弁は、人々の嘲笑を買ったと言われる」と述べられている。したがって、「中国の弁論は……名家の場合に典型的にみられるように、己の誠実さを言葉で正しく相手に伝えることを重んじる傾向があった」という記述は不適当である。

第3問 西洋思想の受容

【出題のねらい】

本問は、西洋思想の受容のあり方をめぐる啓蒙思想と国粹主義の対抗関係を素材とする本文のもとに、明治期以降の日本思想の特質についての基本的な知識を幅広く問うことをねらいとしている。

【設問別解説】

問1 **20** ②

森鷗外(1862～1922)は、近代的な自我と現実の社会との矛盾を冷静に見つめ、俗世間に安んじつつ、しかもそこに埋没しない**諦念**の立場をとった。

①**北村透谷**(1868～94)は、自由民権運動のなかに近代的な自我の確立の契機を見いだして、それに参加した。しかし挫折し、自己の内なる内部生命の要求を現実の世界(**実世界**)ではなく、精神の内面世界(**想世界**)において実現しようとした。したがって、彼が「現実世界の根本的な変革が必要」であると考えたという趣旨の記述は誤り。③**夏目漱石**(1867～

1916)は、他者に迎合する**他人本位**の生き方を批判して、自己の内なる要求に発しつつ他者の個性をも尊重する**自己本位**の生き方を唱えた。したがって、彼が「他人本位」の生き方を理想としたという趣旨の記述は誤り。④「有島武郎」ではなく**与謝野晶子**(1878～1942)についての記述。**有島武郎**(1878～1923)は、**武者小路実篤**(1885～1976)らとともに**白樺派**に属する人物で、自己の個性を自由に伸長させることがそのまま人類の文化の発展に寄与することになると説き、個人主義に基づいた理想主義・人道主義を主張した。

問2 [21] ①

福沢諭吉(1835～1901)は、儒学を「虚学」であるとし、実用的・実利的な学問(**実学**)を身につけるべきであると説いた。したがって、儒学が「実用的で実利的な学問としては有効」であるとしている選択肢の記述は誤り。

その他の選択肢は、福沢諭吉についての記述として正しい。②福沢諭吉は、人々は他人の妨げにならない限り、自由・安楽に世の中を渡っていく権利を天から賦与されていると説いた(**天赋人权論**)。③福沢諭吉は、「**一身独立して、一国独立す**」と述べ、日本が真の独立を達成するためには個々人が**独立自尊**の精神をもたなければならないと説いた。④福沢諭吉は、『**学問のすゝめ**』において、「人は生まれながらにして貴賤貧富の別なし。唯学問を勤て物事をよく知る者は貴人となり富人となり、無学なる者は貧人となり下人となるなり」と述べている。

問3 [22] ④

植木枝盛(1857～92)は、**主権在民**(**国民主権**)を説き、専制政府が国民の権利を侵害した場合には人民は**抵抗権**を行使できると主張した。これらの考えは、彼が自ら起草した憲法案(**「東洋大日本国国憲按」**)にも盛り込まれている。

①西周を想定した記述。**西周**(1829～97)は、「哲学」「理性」「主観」「客観」「演繹」などの訳語を案出したことで知られる。ただし、彼は、「自由民権運動の指導者として活躍した」わけではない。②中江兆民を想定した記述。**中江兆民**(1847～1901)は、民権を、人民が自ら勝ち取った**回復的民権**(**恢復的民権**)と、為政者によって与えられた**恩賜的民権**とに分け、前者の回復的民権こそが本来の民権のあり方であると説いた。したがって、この選択肢は、「恩賜的民権」を「回復的民権(恢復的民権)」に直さなければ、中江兆民についての正しい記述とはならない。③中村正直についての記述。**中村正直**(1832～91)は、イギリス功利主義の思想家であるミ

ル(1806～73)の著作(*On Liberty*)を『**自由之理**』と題して翻訳・出版するなど、功利主義の紹介につとめた(この著作は、現在では『**自由論**』と訳されている)。

問4 [23] ③

ア：内村鑑三についての記述。**内村鑑三**(1861～1930)は、**武士道を精神的な基盤としてこそ日本にキリスト教信仰が根づく**と考えていた。例えば、彼は、自らのキリスト教を「**武士道に接木されたるキリスト教**」であるとしている。

イ：西村茂樹についての記述。**西村茂樹**(1828～1902)は、政府の欧化政策を批判するとともに、国家の中核は法や制度ではなく、国家の構成員たる国民の道徳にあるとし、**国民道徳**の興隆に尽力した。西村茂樹が提唱する国民道徳は、**儒学を基礎とし**、儒学の足りないところや欠点を**西洋哲学**の長所で補おうとしたものである。

ウ：井上哲次郎についての記述。**井上哲次郎**(1855～1944)は、国家主義の立場から、キリスト教を忠君愛国に反する教説であるとして排撃した人物で、**教育勅語**の解説書を書いたことでも知られる。

以上により、③の組合せが正解となる。

問5 [24] ①

ア：正文。**加藤周一**(1919～2008)は、『**日本文化の雑種性**』において、古くから海外の文化を取り入れて形成された日本の文化を**雑種文化**と呼び、そこに日本文化の積極的な意義を見いだした。

イ：正文。**柳田国男**(1875～1962)は、『**遠野物語**』などにおいて、名もなき一般民衆(**常民**)の生活様式や信仰、民間伝承といった文字以外の資料を研究することによって、日本文化の基層を明らかにしようとした。

ウ：正文。**ベネディクト**(1887～1948)は、『**菊と刀ー日本文化の型**』において、西洋の文化を内面的な規範によって行動のあり方が律せられる**罪の文化**であるとし、これに対して、**日本の文化は他人や世間の目を基準にして行動が律せられる恥の文化**であるとした。

以上により、①の組合せが正解となる。

問6 [25] ③

吉野作造(1878～1933)は、大正時代に知識人層を中心に高まった民主主義的な風潮(**大正デモクラシー**)のなかで**民本主義**を提唱した。これは、明治憲法の天皇主権を前提としたうえで、**政治は国民の利益と幸福の増大を目的として運営されなければならない**とする考えである。

①美濃部達吉についての記述。**美濃部達吉**(1873

～1948)によれば、統治権は法人としての国家にあり、天皇はその最高機関として、他の国家機関の参与を得ながら統治権を行使するということになる。このような学説を**天皇機関説**と言う。②西田幾多郎についての記述。西田幾多郎(1870～1945)は、主観と客観を峻別し対立するものと捉えようとする西洋哲学を批判し、**主観と客観が未だ分かれざる状態における直接的・根本的な経験(純粹経験)**においてこそ真の实在が現前すると説いた。純粹経験とは、彼によれば、「美妙なる音楽に心を奪われ、物我相忘れ」ているような状態における経験のことである。④和辻哲郎についての記述。和辻哲郎(1889～1960)によれば、人間は、社会から孤立し独立して存在する「個人」ではなく、また「社会」に埋没した存在でもない、「個人」的存在と「社会」的存在という両面性をもつ**間柄存在**であると言う。このような考えから、彼は人間の生き方を、社会のなかに埋没することのない自己を自覚しつつ、しかもその自己を否定して社会のなかに生きるという動的なあり方に求めた。

問7 26 ④

aには「岡倉天心」が入る。岡倉天心(1862～1913)は、極端な欧化主義の風潮に抗して、日本の美術の優秀性を内外に訴えとともに、英文の著書『東洋の理想』において「**アジアは一つ**」と主張し、西洋に対抗するアジアの覚醒とアジアにおける日本の指導的な役割を唱えた。

bには「超国家主義」が入る。北一輝(1883～1937)は、『日本改造法案大綱』において、クーデタによる国家改造により天皇と国民を直結させ、対外戦争によって植民地の分配を均分化すべきであると主張したが、こうした思想を**超国家主義**と言う。

以上により、④の組合せが正解となる。なお、「徳富蘇峰」と「平民主義」については、徳富蘇峰(1863～1957)が、明治維新以来の西洋化を官僚による上からの西洋化であるとして批判し、これに代えて**平民主義**(平民による下からの西洋化)を主張したことを押さえておこう。

問8 27 ③

資料文は『日本の名著44 幸徳秋水』(伊藤整責任編集/神崎清訳、中央公論社)所収の『二十世紀の怪物 帝国主義』から引用した。このなかで、**幸徳秋水**(1871～1911)は、帝国主義が愛国心と軍国主義からなるとし、愛国心については人々の思想・信仰などを圧殺するという点で、また軍国主義については敵国の来襲の有無にかかわらず軍備の増強を競うものであるという点で、それぞれ批判している。

したがって、③が正解。

①前半部分は正しいが、後半部分は愛国心を肯定しているので資料文の内容と相容れない。②前半部分は正しいが、後半部分は軍国主義について肯定的に述べているので資料文の内容と相容れない。④前半部分は正しいが、後半部分は資料文の内容と相容れない。幸徳秋水が愛国心と軍国主義を批判するのは、それらが「国力の伸長を妨げてしまうから」ではない。むしろ彼は、これらが相まって「おそろべき惨害」をもたらすからという趣旨のことを述べている。

問9 28 ②

本文の第2段落で、啓蒙思想は日本の近代化のためには日本の国民を自立した主体へと脱皮させる必要があるという立場をとっていたという趣旨のことが述べられている。また、本文の第3段落で、国粋主義は日本の伝統的な価値を基準として西洋の文化を取捨選択して受け入れるという立場から日本の近代化を説いたという趣旨のことが述べられている。したがって、②が正解。

①前半部分は正しいが、後半部分は本文の内容と相容れない。本文の第4段落で、欧化主義と国粋主義は「日本のアジア支配の論理を準備したという点では、思いのほか近いところに位置している」と述べている。したがって、「この二つの思想潮流の対アジア認識もまったく異なるものであった」という選択肢の記述は誤り。③本文の最終段落で、欧化主義と国粋主義の対抗関係が第二次世界大戦後も「形を変えて残存し」と述べられている。したがって、この二つの思想潮流の対抗関係が「明治国家がその基盤を確立して以降は、二度とあらわれることはなかった」という選択肢の記述は誤り。④啓蒙思想を想定した前半部分は正しいが、国粋主義を想定した後半部分は本文の内容と相容れない。国粋主義も、②の解説で触れたように、啓蒙思想とは異なる観点から、日本の近代化を模索した。

第4問 西洋現代思想

【出題のねらい】

本問は、実存主義、社会主義、プラグマティズム、現代ヒューマニズムを中心に、西洋の現代思想に関する基本的な知識の有無や理解度を問うことをねらいとしている。

【設問別解説】

問1 29 ③

ア：正文。パース(1839～1914)は、学問的な概念が有する意味を、抽象的な思考ではなく具体的な行

動(プラグマ)から生じる効果・効用によって捉えようとしたプラグマティズムの提唱者である。

イ：誤文。ジェームズ(1842～1910)によれば、「真理」とは、絶対的・普遍的なものではなく、実際に有用であるかどうか(＝役に立つかどうか)で判断される、相対的・個別的なものである。これを彼は、「真理であるから有用であるとも言えるし、有用であるから真理であるとも言える」と表現した。

ウ：正文。デューイ(1859～1952)は、人間の知性は、日常生活における課題を解決するための道具であるとした(道具主義)。また、教育の目的はそうした問題解決能力を自発的に身につけさせることであるとして、「為すことによって学ぶ」を基本とする問題解決学習の重要性を説いたことでも知られる。

以上により、③の組合せが正解となる。

問2 30 ①

デンマークの哲学者キルケゴール(1813～55)は、彼が「自分がそのために生き、そして死にたいと思うようなイデー(理念)」と呼ぶ主体的真理を追求した。そして彼は、人が絶望を乗り越え、単独者としてひとり神の前に立つとき、本来の自己を獲得するとした。

②ドイツの哲学者ニーチェ(1844～1900)の思想。ニーチェは、「神は死んだ」と述べ、神なき世界において無意味な出来事が永遠に繰り返される永劫回帰の運命をあえて受け入れ(運命愛)、これに立ち向かうべく力(権力)への意志を発揮して力強く生きていくべきと説いた。そして、こうした生き方を体現する者を「超人」と呼び、理想とした。③ドイツの哲学者ハイデッガー(1889～1976)の思想。人は、他者や他の事物との関係性のなかに自己を埋没させ、個性を喪失したひと(ダス・マン)として生きているが、自分が死への存在であることを直視することにより、本来の自己を取り戻すことができると説いた。④ドイツの哲学者ヤスパース(1883～1969)の思想。人は、死・苦悩・争い・責めなどの限界状況に直面して挫折を味わい、自己の有限性を知り、その挫折を通じて、自己を超えた、世界を包み込む包括者(超越者)と出会い、他者との実存的交わりを通じて本来の自己に至る可能性が開かれると説いた。

問3 31 ④

オーストリアに生まれたウィトゲンシュタイン(1889～1951)は、その前期の思想において、言語は世界を写し取ったもの、すなわち「写像」だとした。そして、言語を照らし合わせるべき対象が存在する自然科学の経験的命題は真偽の判断ができる

が、それが存在しない形而上学的な命題や生き方に関わる倫理的な命題は真偽の判断ができないと主張した。彼は、「およそ語り得るものは明瞭に語り、語り得ないものについては沈黙しなければならない」と表現しているが、この「語り得るもの」とは自然科学的な命題を、「語り得ないもの」とは形而上学的・倫理的な命題を指している。選択肢のうち、①②③は「語り得ない」形而上学的・倫理的な命題であり、「語り得る」命題すなわち経験的に真偽が検証できる命題と言えるのは④のみである。

問4 32 ②

a：「現象」が入る。現象学を創始したドイツのフッサール(1859～1938)は、人が「対象それ自体」だと思っているのは、意識によって何らかの意味を与えられたもの、すなわち現象であって、意識から独立して存在しているものではないとして、対象が意識から独立して存在しているという考えをひとまず保留するべきと説いた(「エポケー(判断中止)」)。

b：「身体」が入る。フランスのメルロ＝ポンティ(1908～61)は、身体は、人間の「意識」によってコントロールできるという点では単に「意識」から独立した「物」ではないが、「意識」から独立した「物」のような性質も有しており、単なる「物」でも「意識」でもなく、その両方の性質(＝両義性)があると考えた。こうした考えから、人間を精神(＝「意識」)をもつ主体として捉え、身体を重視してこなかったデカルト以来の近代哲学を批判し、「世界」を理解するためには、両義性をもった身体について理解することが不可欠だと説いた。

以上により、②の組合せが正解となる。なお、本質とは、事物がそれ自体として何であるかを規定している性質である。フッサールは、これを、直観的に認識すること(「本質直観」)によって捉えられるものとした。また、絶対精神とは、ヘーゲル(1770～1831)の歴史観において重要な意味をもつもので、自由を本質とする理性的精神を指す。

問5 33 ③

レーニン(1870～1924)は、世界史上初めての社会主義革命であるロシア革命の指導者である。この選択肢の内容は、彼が『帝国主義論』(1917年)のなかで説いたものである。

①イギリスのウェッブ夫妻(シドニー 1859～1947；ビアトリス 1858～1943)は、フェビアン協会の中心メンバーとして、「民衆が物理的な力を行使」することによって資本主義を打倒しようとする暴力革命を否定し、議会における活動を通じて漸進的に

社会主義を実現すべきであると説いた。このような考え方は、**社会民主主義**と呼ばれる。②フランスのフーリエ(1772～1837)の思想。イギリスのオーウェン(1771～1858)は、**ニューラナークの紡績工場**で労働条件の改善に取り組み、経営的にも大きな成功を収めた経験をもとに**ニューハーモニー村**という名の共同体をつくったことで知られている。④ドイツのマルクス(1818～83)は、資本主義から共産主義への移行期には、**プロレタリアート(労働者階級)**が社会主義革命(プロレタリア革命)を起こし、資本家階級を倒して社会主義社会を実現すると説いた。

問6 34 ②

フランスのデリダ(1930～2004)は、西洋哲学は、「イデア／個物」、「自己／他者」、「男／女」、「西洋／東洋」など、様々な**二項対立**をつくりだしたが、根源的とされてきた前者が、実は派生的とされてきた後者によって支えられていると主張し、こうした二項対立を問い直す「**脱構築**」を説いた。

①イギリスのスペンサー(1820～1903)に関する記述。彼は、社会は軍事型社会から産業型社会へと進化するという**社会進化論**を説いた。軍事型社会では、個人は全体のために存在し、個人の自由は抑圧されるが、産業型社会では、社会は個人のために存在し、個人の自由が保障されるようになるとされる。③フランスのコント(1798～1857)に関する記述。彼は、自然科学の諸分野は**実証主義的**であるのに、社会現象に関する学問はいまだ**実証主義的**ではないと考え、社会現象を実証主義的に研究する**社会学**を創始した。コントは、人間の思考は、あらゆる現象を神話に基づく神の行為と結び付けて説明する**神学的段階**、神話ではなく人間理性に基づいてはいるが、経験的事実ではなく、本性や本質などの抽象的な概念から現象を説明する**形而上学的段階**、経験的事実に即して現象を説明する**実証的段階**へと発展するとし、それに対応して、社会も、**軍事的段階**、**法律的段階**を経て、**産業的段階**へと発展すると説いた。④アメリカの経済学者**ボールディング**(1910～93)についての記述。彼は、運命共同体である「**宇宙船地球号**」の乗組員である全世界の人間が協力して、地球上の有限な資源を、環境問題や人口問題などとも関連付けて、適切に管理していくことを求めた。

問7 35 ④

資料文は、サルトル(1905～80)の『**実存主義とは何か**』(伊吹武彦訳、人文書院)からの引用である。資料文の趣旨は、人間はその本性に先立って存在し、**自らが自らに本性を与える実存(対自存在)**であ

り、人間に本性が与えられていないのは、人間の本性を考える神が存在しないからだ、というものである。言い換えれば、人間は、他の存在者とは違って、**自らの本性を自由に創造していく存在**だということである。この論旨に合致するのは、選択肢④だけである。

①「人間は生まれたときから『人間』以外のものではない」のであれば、人間は生まれながらに「人間とは」という本性が与えられていることになり、資料文の5行目の「人間は最初は何ものでもない」という主張と合致しない。また、資料文の6～7行目に「人間はみづからがつくったところのものになるのである」とあり、サルトルは人間を自らの選択によって本性を獲得していく存在だと考えているから、「『人間とは』という本性を定義する必要はない」とは言えない。②資料文の6～7行目に「人間はあとになってはじめて人間になるのであり、人間はみづからがつくったところのものになるのである」とあるように、サルトルは人間を自らが自らの本性を与える実存だと考えている。したがって、「人間は神と向かい合うことで、自らのうちに自らの本性を発見する」という記述が誤り。③「人間は生まれたときから『人間』以外のものではない」という記述は、資料文の内容に反する。また、資料文からは「『人間とは』という本性を定義する必要はない」ということが読み取れないことに加え、資料文の3～4行目に「定義されうる以前に実存している存在が少なくとも一つある。その存在はすなわち人間」とあるから、「この世のあらゆる事物の本性は、あらかじめ神が決めている」とは言えない。

問8 36 ⑦

ア：シュバイツァーについての記述。フランスのアルザス(当時ドイツ領)に生まれた**シュバイツァー**(1875～1965)は、アフリカでの医療活動に生涯を捧げたことで知られ、すべての命あるものを価値ある存在として尊重する**生命への畏敬**を、倫理や道德の根本であるとした。

イ：マザー・テレサについての記述。カトリックの修道女である**マザー・テレサ**(1910～97)は、インドのスラム街などで貧しい人や病に苦しむ人の救済活動を生涯にわたって続けた。彼女は、「最大の罪は、恐るべき無関心でいることです」と述べている。

ウ：杉原千蔵^{チンザン}についての記述。**杉原千蔵**(1900～86)は、第二次世界大戦中、リトアニアの日本領事代理を務めていた際、ナチスの迫害を逃れるため日本を経由して安全な国に渡ろうと欧州各地から押し

寄せてきたユダヤ人に対し、本国外務省の命令に背き独断で通過査証(「命のビザ」と呼ばれる)を発給し、およそ6000人の命を救った。戦後、1947年にビザ発給の責任を問われ外務省を退職するが、2000年に日本政府によって公式に名誉回復がなされた。

以上より、⑦の組合せが正解となる。なお、ロマン・ロラン(1866～1944)は、『ジャン＝クリストフ』などの作品で知られるフランスの作家である。トルストイの影響を強く受け、第一次世界大戦の際には、戦争を絶対悪として否定する**絶対平和主義**を唱えた。

問9 37 ④

本文の最終段落で、「私たちには、人間の理性や主体性を安易に肯定する姿勢に陥らないよう自制しながらも、なおかつ人間の理性や主体性をもつ重要な価値に信頼をおいて行動していくことが求められている」と述べられていることや、「残虐行為を阻止し得るのは人間の理性的で主体的な取組においてほかにないのもまた確かなことである」と述べられていることから、④が本文の趣旨に合致していることは明らかである。

①「人間の主体的な取組こそが重要」であり、

「人間の主体性を否定する思想については、……誤った考え方として徹底的に排除しなければならない」という記述は、本文の最終段落で「人間の理性や主体性を安易に肯定する姿勢に陥らないよう自制」すべきと述べられていることや、「人間の理性や主体性をもつ重要な価値に信頼をおいて行動していくことが求められている」と述べられていることに照らして不適當である。②「人間の理性や主体性に信頼をおく思想を、歴史的な事実を軽視する誤った考え方として否定しなければならない」という記述は、本文の最終段落で「人間の理性や主体性をもつ重要な価値に信頼をおいて行動していくことが求められている」と述べられていることに照らして不適當である。③「現実の世界こそ理性的であると考えて全面的に受け入れる寛容さを重視した新たな人間観の構築を進めていかなければならない」という記述は、世界の現状を全面的に追認することにつながるから、本文の最終段落で「残虐行為を阻止し得るのは人間の理性的で主体的な取組においてほかにない」と述べられていることに照らして不適當である。

【解答・採点基準】

(100点満点)

問題番号	設問	解答番号	正解	配点	自己採点
第1問	問1	1	②	3	
	問2	2	③	3	
	問3	3	③	3	
	問4	4	⑤	3	
	問5	5	③	2	
	問6	6	④	3	
	問7	7	①	3	
	問8	8	②	3	
	問9	9	④	3	
	問10	10	②	2	
第1問 自己採点小計				(28)	
第2問	問1	11	④	3	
	問2	12	④	2	
	問3	13	②	3	
	問4	14	③	3	
	問5	15	①	3	
	問6	16	④	3	
第2問 自己採点小計				(17)	
第3問	問1	17	③	2	
	問2	18	④	3	
	問3	19	⑤	3	
	問4	20	①	2	
	問5	21	①	3	
	問6	22	③	3	
	問7	23	③	3	
第3問 自己採点小計				(19)	
第4問	問1	24	①	2	
	問2	25	④	3	
	問3	26	②	3	
	問4	27	③	3	
	問5	28	④	2	
	問6	29	①	3	
	問7	30	④	3	
第4問 自己採点小計				(19)	

問題番号	設問	解答番号	正解	配点	自己採点
第5問	問1	31	③	3	
	問2	32	③	3	
	問3	33	④	3	
	問4	34	④	3	
	問5	35	①	3	
	問6	36	②	2	
第5問 自己採点小計				(17)	
自己採点合計				(100)	

【解説】

第1問 今日の国際社会の課題

【出題のねらい】

本問は、エネルギー資源をテーマとして、国際紛争や地球環境問題など近年の国際社会で生じている諸問題について総合的に問うことをねらいとしている。

【設問別解説】

問1 ① ②

イランでは、1979年に親米派で近代化を推進したパーレビ国王(在位1941～79)を退位させるイラン革命^{ひるびく}が起こり、その余波を受けた石油需給の逼迫とOPECによる原油価格の引上げにより、世界経済は再び危機に陥った(第二次石油危機)。

①第一次石油危機の際には、OPECにより原油価格が4倍に引き上げられたため、各国で物価が上昇した。したがって、多くの先進国で進行したのは、デフレーション(デフレ)ではなくインフレーション(インフレ)である。しかも、この時のインフレは、景気停滞を伴うスタグフレーション(不況下の物価上昇)であった。③OPEC(石油輸出国機構)を結成したのは欧米の国際石油資本(メジャー)ではなく、産油国である。石油危機の背景には、資源ナショナリズムの高まりによって、産油国が油田の国有化を進めたり、OPECを結成して国際石油資本(メジャー)に代わり原油の価格決定権を握ったことがある。④石油危機後は、メキシコ油田や北海油田など、OPECに加盟していない国で石油生産が増加したため、「原油生産に占める中東地域の比重」は低下した。その結果、OPECの価格支配力は弱まり、先進国の省エネルギー政策と相まって1980年代の石油需給は緩み、原油価格は安定した。

問2 ② ③

CTBT(包括的核実験禁止条約)は、1996年の国連総会で採択されたが、発効要件である核兵器保有国

を含む44か国すべての署名・批准が完了していないため、いまだ発効していない。なお、CTBTは、宇宙空間・大気圏内・水中・地下における核爆発を伴う核実験を禁止しているが、核爆発を伴わない臨界前核実験(未臨界核実験)は禁止しておらず、核兵器保有国のなかにはたびたびそのような実験を行っている国もある。

①CWC(化学兵器禁止条約)は、毒ガスなどの化学兵器の開発、生産、保有などを包括的に禁止し、既存の化学兵器を一定期間内(原則として10年)に全廃することを定めており、1997年に発効した。なお、最近では内戦で化学兵器を使用したといわれるシリアが2013年に加盟し、化学兵器の廃棄を進めている。②NPT(核拡散防止条約)は、核兵器非保有国が新たに核兵器を保有することを防止し、核エネルギーの平和利用の促進を図ることを目指す条約であり、1970年に発効した。なお、この条約に基づく査察などの保障措置を行うIAEA(国際原子力機関)は、2005年にノーベル平和賞を受賞した。④対人地雷全面禁止条約は、対人地雷の全面禁止を求めて1996年に開催されたオタワ会議における地雷禁止国際キャンペーン(NGO[非政府組織]の連合体)と有志国による協議(オタワ・プロセス)を経て採択され、1999年に発効した。しかし、ロシア・中国など同条約に署名していない国も多い。なお、地雷禁止国際キャンペーンは、1997年にノーベル平和賞を受賞した。

問3 3 ③

この3か国の石油生産の詳しい統計を知らなくても、一般的な知識としてアジア諸国の工業化の歴史を知っていれば国を特定できる。つまり、マレーシア・インドネシアなどASEAN4(ほかにタイ・フィリピン)の工業化は、1985年のプラザ合意による円高によって日本からの直接投資が増加したことを契機に始まった。したがって、このグラフの期間である1995年から2010年にはすでに工業化が進み、大きな変化のない時期である。これに対して、同期間は中国やベトナムの工業化が本格化する時期にあたり、大きな変化があるはずである。中でも中国は工業化の結果、資源や食料の輸入国になっている。以上のことを考えれば、ほとんど変化のないAがマレーシア、輸出がほとんどなくなったBが中国、変化してはいるが中国よりはまだ輸出も多いCがベトナムだとわかる。

問4 4 ⑤

A コソボは、ユーゴスラビアが1992年に分裂した後、セルビア共和国の自治州となった。しかし、

コソボは共和国の多数派であるセルビア人とは異なる少数民族のアルバニア人の集住地であったため、独立を求めて武装闘争が続いた。これに対してセルビア共和国政府がコソボへの弾圧を強めたため、1999年にNATO(北大西洋条約機構)軍が「人道的介入」を名目としてセルビア共和国に大規模な空爆を行った。その後、コソボは2008年に独立を宣言し、アメリカなど100か国以上がこれを承認しているが、セルビア共和国やロシアは承認していない。

イ シリア領であるゴラン高原は、1967年の第3次中東戦争以来イスラエル軍の占領下におかれ、現在もイスラエルによる実効支配が続いている。国連は1974年にUNDOF(国連兵力分離監視軍)によるPKO(平和維持活動)を展開し、日本の自衛隊も96年から2013年までPKO協力法(1992年制定)に基づいて派遣されていた。

ウ カシミールは、インドとパキスタンの国境地帯にある。1947年にイギリスの植民地インドが現在のインドとパキスタンに分かれて独立するときに、藩王(地域支配者)はヒンドゥー教徒、住民の8割はイスラム教徒だったため、ヒンドゥー教徒の多いインドとイスラム教徒の多いパキスタンの間でカシミールをめぐる領土紛争が起り、中国もこれに加わって現在に至っている。

以上から、正しい組合せはAーウ、Bーア、Cーイで、正解は⑤となる。

問5 5 ③

多国籍軍は、一般に、複数の国の軍隊により編制され紛争地域に派遣される合同軍を指し、PKOに従事するPKF(平和維持軍)や、国連憲章で規定された集団安全保障に基づく強制措置(軍事的制裁)を実施するために編制される国連軍とは異なる。1991年の湾岸戦争や2003年のイラク戦争では、アメリカ軍を中心とする多国籍軍が派遣された。このうち、イラク戦争は、当時のフセイン政権による大量破壊兵器の開発を理由として開始され、その確証は得られなかったが、フセイン政権は崩壊し、フセイン元大統領はイラクの暫定政権により処刑された。

①イスラエルは1993年にパレスチナの代表組織であるPLO(パレスチナ解放機構)との間で相互承認を行い、パレスチナ暫定自治協定を結んだ(オスロ合意)が、パレスチナを国家としては承認していない。また、国連は2012年パレスチナを国連の討議に参加できるオブザーバー国家として承認したが、国家として加盟を承認したわけではない。②アサド政権はエジプトではなくシリアの政権であり、反政府勢力に対して化学兵器を使用したといわれている

(問2の①の解説を参照)。④中東地域では、政治的影響力の強いサウジアラビアや、経済発展の目立つアラブ首長国連邦など、現在でも君主制をとる国は少なくない。

問6 **6** ④

欧州議会の議員は、加盟国の有権者による直接選挙で選出されている。欧州議会の機能は時代によって変遷してきたが、現在では欧州理事会と並んでEUの立法機関としての役割を果たしている。

①トルコは、以前からEUへの加盟を申請しており、断続的に審査が行われてきたが、まだ加盟は認められていない。②NATO(北大西洋条約機構)は、1949年に設立された地域的な安全保障機構で、EUの機関ではない。現在の加盟国は28か国でアメリカ・カナダ・トルコのほか、ヨーロッパのほとんどの国を含むが、EU加盟国と完全に一致しているわけではない。③EU大統領は欧州理事会(EU首脳会議)の常任議長のことであり、EU憲法ではなくリスボン条約により創設された。欧州理事会の議長は、以前は加盟国の首脳が半年ごとに輪番制で務めていたが、リスボン条約(2007年調印、09年発効)により2009年から権限が強化されて任期2年半の専任の職となった。なお、EU憲法(条約)はEUの基本条約として2004年に署名されたが、2005年にフランスとオランダの国民投票で批准が拒否されたため、発効しなかった。そのため、EU憲法(条約)を修正し、新たな基本条約として成立したのがリスボン条約である。

問7 **7** ①

シェールガスというのは、頁岩(シェール)の層にある天然ガスで、従来は採掘が難しかったが、近年、水圧で頁岩に割れ目を作るなどの採掘技術が確立され、コスト面も含めて採掘が可能になったため、アメリカを中心に生産が増加している。

②レアアース(希土類)やレアメタル(希少金属)は、さまざまなハイテク部品などに使用され、世界的に需要が増えているが、生産地はアフリカ、ロシア、中国などに偏在しており、日本ではほとんど生産されていない。また、採掘コストが高く環境への影響が大きいなど生産に伴う問題点が多く、現在のところ、それらの生産はほとんど中国に依存している。③化石燃料に代わる代替エネルギーとして広がっているのは、発電では風力や太陽光である。水力発電は小規模なものを除いて巨大なダムが必要で、立地が限られる上に自然破壊をもたらす恐れがあるので先進国ではほとんど増加していない。④石炭は石油や天然ガスに比べて埋蔵量が多いといわ

れ、埋蔵地も世界中に分布している。このため、開発途上国では今でも盛んに利用されており、先進国でも有害物質の排出を抑えて効率を上げる技術が開発され、利用が増えている。ただし、開発途上国における石炭使用に関しては、PM2.5などの微小粒子状物質が増加する原因として問題視されている。

問8 **8** ②

カロリーベースの自給率は、ある国で供給されているカロリー量(総供給熱量)に占める国産供給熱量を表した指標であり、2009年の数値はアメリカ130%、フランス121%など、先進国でも100%を超えている国(食料輸出国)がある。日本は40%前後である。

①バイオエタノールはアルコールの一種で、一般に植物性の原料を発酵・精製して生産される。原料の植物の生育過程で、光合成によって二酸化炭素が吸収されるので、化石燃料に比べてクリーンなエネルギーだといわれている。しかし、サトウキビやトウモロコシは人間の食料や動物の飼料でもあるので、競合すれば食料供給を減少させてしまう。③FAO(国連食糧農業機関)の統計によれば、世界の穀物生産量は人間の必要量の1.8倍にのぼっている。それでも飢餓が絶えないのは、先進国と開発途上国の間の穀物分配の不公平、家畜の飼料への使用など、穀物生産量以外の要因が大きい。④食物アレルギーによって死に至る事例も少なくないので、アレルギー源になりやすい原材料の表示は食品の安全を確保する上で重要である。

問9 **9** ④

開発途上国における急速な人口増加(人口爆発)は、飢餓や貧困などをもたらす要因として問題視されてきた。このため、開発途上国では産児制限などの人口抑制政策がとられているが、近年は新たな問題も生まれている。それは、人口爆発の世代が高齢化すれば高齢者人口は増加するが、これを支える若年世代は人口抑制策で減少しているため、人口の高齢化が進み、社会・経済の活力の低下や高齢者の扶養が困難になるという問題である。そのため、たとえば、人口抑制政策として有名な「一人っ子政策」をとってきた中国では、すでに人口の高齢化の兆しが見れていることから、「一人っ子政策」を緩和している。

①工業化の進展などの経済発展によって生活水準や医療水準が向上すれば、一般に乳幼児死亡率が低下するため、人口の自然増加のパターンは多産多死型から多産少死型へ変化する。また、さらに経済発展が進むと、今度は教育費などの育児コストの上昇

などにより子どもを産む数が減るので、人口の自然増加のパターンは**多産少死型**から**少産少死型**へ変化する。②G8(主要8か国)の中で合計特殊出生率が1.5を超える国は、アメリカ(2.0)、フランス(2.0)、イギリス(1.9)、カナダ(1.7)があり、日本(1.4)より高い国が多い(WHO『世界保健統計』2014年版/数値は2012年時点のもの)。③アメリカ3.1億人、ブラジル2億人、ロシア1.4億人など、アジア以外でも人口が1億人を超える国がある。

問10 ⑩ ②

京都議定書は、**気候変動枠組み条約**(1992年採択、94年発効)に基づき、1997年に京都で開かれた**第3回締約国会議(COP3/京都会議)**で採択(2005年発効)されたもので、先進国については二酸化炭素など**温室効果ガス**の削減目標を定めている。なお、京都議定書については、**アメリカが2001年に離脱**したこと、**排出量取引(排出権取引)**が認められていることなども覚えておこう。

①**ラムサール条約**(1971年)は、水鳥の生息にとって重要な湿地の保全について定めた条約である。③**モントリオール議定書**(1987年)は、オゾン層破壊の原因となるフロンガスなどの規制を定めている。④**水俣条約**(2013年)は、水銀や水銀を使った製品の生産と輸出を禁止した条約である。

第2問 国富と国民所得

【出題のねらい】

本問は、国富・国民所得などの経済指標や景気の変動、および日本経済の動向についての基本的知識の有無や理解の程度を試すことをねらいとしている。

【設問別解説】

問1 ⑪ ④

Bに該当するのは④である。1990年代初めのバブル経済(下の②の解説を参照)の崩壊以降、日本経済は長期にわたる景気低迷に直面した。これに対応するため、日本銀行は、**無担保コール翌日物金利**をほぼゼロに誘導する、**ゼロ金利政策**と呼ばれる金融緩和策を1990年代末以降、実施した。

①この選択肢はCに該当する。**ドッジ・ライン**は、戦終直後の激しい物価上昇を抑制し、日本経済の安定を図るために1949年に実施された経済政策である。具体的には、**均衡財政**や**復興金融金庫債の発行停止**などの政策が行われた。②この選択肢はCに該当する。1980年代後半、日本銀行による大胆な金融緩和策の影響で、不動産や株式などへの投資が活発となり、資産価格(地価や株価)が実体経済を超えて上昇する**バブル経済**が発生した。資産価格の異常

な上昇を懸念した日本銀行は、1989年から90年にかけて公定歩合を引き上げて金融を引き締めた。③この選択肢はAに該当する。1973年の第一次**石油ショック**の影響で、翌74年の日本の実質経済成長率は、**戦後初めてマイナス**を記録した。その後の税収の伸び悩みに対応するため、日本政府は1975年から**赤字国債の継続的発行**を開始した。

問2 ⑫ ④

在庫投資を要因とする周期約3～4年の景気循環は**キチンの波**と呼ばれ、アメリカの経済学者キチンによって発見された。

①**クズネッツの波**は、アメリカの経済学者クズネッツによって発見され、**建築投資**を要因とする周期約20年の景気循環である。②**コンドラチェフの波**は、ロシアの経済学者コンドラチェフによって発見され、**技術革新**を要因とする周期約50年の景気循環である。③**ジュグラーの波**は、フランスの経済学者ジュグラーによって発見され、**設備投資**を要因とする周期約10年の景気循環である。

問3 ⑬ ②

A **GDP(国内総生産)**と**GNP(国民総生産)**は、以下のような関係にある。

$$\text{GDP} = \text{GNP} - \text{海外からの純所得(海外からの所得純受取)}$$

* 海外からの純所得 = 海外からの所得 - 海外への所得

したがって、「GNP(国民総生産)に海外からの純所得を加える」ではなく、「GNPから海外からの純所得を差し引く」とすべきであるから、Aは誤り。

B **経済成長率**は、GDPまたはGNPの前年比増加率、すなわち、GDPやGNPが、前年と比較してどれだけ増えたのかを示すものであるから、経済成長率がプラスの場合、GDPは前年と比べて増加しているということになる。したがってBは正しい。

C GDPには、純輸出(輸出－輸入)が計上されるので、輸出が増加すれば、その分がGDPにプラスとして算入されるので、GDPは「増加も減少もしない」は誤り。

以上より、正しいものはBのみであり、正解は②となる。

問4 ⑭ ③

まず、農家が生み出した付加価値を求める。農家はトマトを生産して1000の売上を得ているが、トマトを生産する際に用いている肥料の価格200は肥料メーカーが生み出した付加価値を示すものであり、農家が生み出した付加価値ではない。したがっ

て、農家の生み出した付加価値は、 $1000 - 200 = 800$ となる。

同様に、ジュース・メーカーが生み出した付加価値を求める。ジュース・メーカーはジュースを生産して2000の売上を得ている。そして、ジュース・メーカーがジュースの生産に用いたトマトの価格1000とジュースの容器の価格200は、それぞれ農家と容器メーカーが生み出した付加価値を示しており、ジュース・メーカーが生み出した付加価値ではない。したがって、ジュース・メーカーが生み出した付加価値は、 $2000 - 1000 - 200 = 800$ となる。

最後に、小売店が生み出した付加価値を求める。小売店はジュースを売って3000の売上を得ている。そして、ジュースを販売するために仕入れたジュースの価格2000と、ジュースの運送を依頼した運送会社に支払った運送料金の300は、それぞれジュース・メーカーと運送会社が生み出した付加価値を示しており、小売店が生み出した付加価値ではない。したがって、小売店が生み出した付加価値は、 $3000 - 2000 - 300 = 700$ となる。

以上三つの付加価値額の合計は、 $800 + 800 + 700 = 2300$ であり、③が正解となる。

問5 15 ①

国民所得には、(ア)「生産された」財やサービスの価額のうち、(イ)「市場で取り引きされた」財やサービスの価額が計上される。①は、保有する土地の価格が上昇したことによって得た利益であり、何かの財やサービスを「生産」することで得た利益ではない。したがって①は上記の(ア)に適合しないため、国民所得には計上されない。

②③④は、いずれも財やサービスが「生産」されており、かつ「市場で取引」されているので、国民所得に計上される。

問6 16 ④

国の経済状況を評価する概念には、一定期間に新たに生み出されたり消費された財やサービスの数量を示すフローの概念と、一時点における財の蓄積量を示すストックの概念に分類することができる。「ある年のパソコンの保有台数」は、一時点で存在しているパソコンの台数を示しているため、ストックに該当する。

①「ある年の住宅の着工戸数」は、1年間に新たに建てられた住宅の数を示しているため、フローに該当する。②「ある年の自動車の販売台数」は、1年間に新たに生産された(生み出された)自動車のうち、販売されて消費者の手に渡った自動車の数を示しているため、フローに該当する。③「ある年の

テーマパークの入園料収入」は、1年間にテーマパークが新たに生み出したサービスの大きさを示しているため、フローに該当する。

第3問 日本の政党政治と選挙制度

【出題のねらい】

本問は、日本の政党政治の歩みと選挙制度について基本的な知識の有無や理解の程度を試すことを目的としている。なお、55年体制が崩壊した1993年以降の政治状況は政党間の合従連衡^{がっしやうれんこう}が続き、複雑で理解しにくいので、これを機会に主要な動向を整理しておく。

【設問別解説】

問1 17 ③

20世紀に入り各国で普通選挙が広く実施され、労働者や女性にも選挙権が与えられるようになると、大衆を支持基盤とする大衆政党が登場した。さらに、1960年代以降になると、先進国を中心に、労働者など特定の階級だけではなく広く国民の支持を集めるために、イデオロギー色を弱め総花的な政策を掲げる包括政党が現れるようになった。

①名望家政党は、普通選挙とともに登場したわけではないし、労働者階級を主な支持層とするものでもない。名望家政党とは、「財産と教養」のある地域の有力者によって構成された政党であり、財産、身分、性別などで選挙権・被選挙権を制限する19世紀頃までの制限選挙の時代にみられた。②小選挙区制は、1選挙区から1名の議員を選出する制度であり、一般に少数党には不利な制度であるため、二大政党制が形成されやすい。他方、1選挙区から2名以上の議員を選出する大選挙区制では少数党でも当選者を出す可能性が高くなり、小党分立となりやすい。④国会議員や地方議会議員を中心に構成されている政党も存在するが、多くの政党では政治家(議員)だけでなく広く一般市民も党員となっている。

問2 18 ④

1960年代以降、民社党や公明党、新自由クラブなど新党が誕生し、野党の多党化が進んだ。しかし、新進党が結成されたのは、「55年体制」崩壊後の1994年である。

①55年体制は、与党である自民党と最大野党の社会党の対抗関係を軸とする二大政党制とみることができる。しかし、55年体制下における社会党の衆議院での議席数は1958年の総選挙における166議席をピークに、その後は伸び悩み、自民党のほぼ半分の議席数にとどまったため、「 $1\frac{1}{2}$ 政党制(1と2分の

1 政党制)」と呼ばれた。②1970年代になると衆参両院で野党の議席が伸び、**与野党伯仲**という状況が生じたが、自民党は政権を維持し続けた。③ 自民党内には、利害や考え方を同じくする者が集まって**派閥**が形成され、派閥間の激しい抗争が繰り返された。抗争に勝利した派閥は、党と政府の主導権を握り、総裁や幹事長などの党役員ポストや大臣ポストの人事において強い影響力を行使した。

問3 19 ⑤

A ロッキード事件は、1976年にアメリカの航空機メーカーであるロッキード社が外国の航空会社への売り込みに際して各国の政治家に賄賂を贈っていたことがアメリカ議会において発覚したことに端を発した疑獄事件である。日本では、全日空の新型機導入をめぐる元首相の田中角栄らが逮捕・起訴された。

B サリドマイド事件は、1960年代に世界中で問題となった**薬害事件**である。サリドマイドはドイツの製薬会社が開発した医薬品で、これを用いた睡眠薬や神経性胃炎の薬が日本でも販売された。その後、妊婦が服用すると胎児に四肢の障害など深刻な影響を及ぼすことが判明し、大きな社会問題となった。

C リクルート事件は、1988年に発覚した贈収賄事件である。就職情報誌や情報通信分野の大手企業であるリクルート社の創業者が子会社の未公開株を自民党の有力政治家などに譲渡したことで起訴された事件で、当時の竹下内閣が退陣に追い込まれた。

以上から、正解は⑤となる。

問4 20 ①

一般に、政権与党が衆議院では議席の過半数を占めているが、参議院では野党の議席を下回り、野党側が優勢となっている状況を「**ねじれ現象**」といい、政権与党にとっては国会の運営が難しくなる。こうした現象は、2000年以降では2007年～09年、2010年～13年にみられた。

②郵政民営化などの「**構造改革**」路線を打ち出したのは、自民党首班の小泉内閣(2001年～06年)である。③1994年に成立した村山内閣は、社会党、自民党、新党さきがけの三党による連立内閣であった。また、1996年に発足した橋本内閣も自民党、社会党、新党さきがけの三党による連立内閣であった。2003年の第二次小泉内閣以降は自民党と公明党による連立内閣が続いている。④**消費税**は1989年の竹下内閣により導入され、そのときの税率は3%であった。その後、1997年に橋本内閣の下で税率が5%に引き上げられ、さらに2014年には安倍内閣の下で税

率が8%に引き上げられた。今回の引上げは民主党の野田内閣の下で成立した社会保障・税一体改革関連法案に基づくものであったが、引上げが実施されたのは自民党政権下である。

問5 21 ①

日本には有権者が国会議員を解職できる制度は存在しない。なお、地方議会の議員については、**直接請求権**の一つとして住民に**議員の解職請求権**が認められており、有権者が40万人以下の地方自治体の場合、有権者3分の1以上の署名を集めて選挙管理委員会に請求し、住民投票で投票者の過半数が解職を可としたとき、その議員は解職される。

②テレビや新聞などのマスメディアは、政治や社会についての情報を国民に伝達することで**世論**の形成に大きな影響を及ぼしており、こうして形成された世論は政治を動かす力となる。このように、マスメディアは政治に民意を反映させる有力かつ重要な役割を担っているため、「**第四の権力**」とも呼ばれる。③**日本経済団体連合会(日本経団連)**などの経営者団体や**主婦連合会(主婦連)**といった消費者団体は**圧力団体(利益集団)**として政党や行政に対して働きかけを行い、政治や行政に強い影響力を及ぼしている。圧力団体には以上の他、**日本医師会**のような職能団体や**日本労働組合総連合会(連合)**のような労働団体などがある。④特定の地方自治体にのみ適用される法律を**地方特別法**といい、国会がこの地方特別法を制定する場合には**住民投票**を実施してその**過半数の同意**を得なければならないことになっている(日本国憲法第95条)。

問6 22 ③

連座制とは、候補者と一定の関係にある者が選挙違反をして有罪が確定した場合に、候補者自身がその違反行為に直接に関与していなくとも、候補者本人の当選を無効にし、一定期間、同一選挙区での立候補を制限する制度である。連座の対象者には親族だけでなく、秘書や組織的な選挙運動の管理者が含まれている。

①1925年に普通選挙権が認められたのは25歳以上の男子であり、日本で女性に選挙権が与えられたのは第二次世界大戦後の1945年のことである。②新聞社やテレビ局といった報道機関が有権者の投票結果を調査することは禁止されていない。報道機関は、投票所の外で有権者の投票結果をアンケートで調査し(出口調査)、各政党の獲得議席数の予想や政治の今後の動向についての報道に活用している。④日本では以前から一票の格差の解消が求められてきたが、未だに解消されていない。しかし、議員定数の

再配分や選挙区の区割りの見直しがまったく行われてこなかったというわけではない。たとえば、2012年には衆議院の小選挙区の区割りの見直しが行われ、議席数が300から295に減らされた。

問7 **23** ②

投票日に、仕事や旅行、レジャー、冠婚葬祭などで投票に行けない人が市町村の期日前投票所で事前に投票を行うことができる制度を**期日前投票制度**といい、2003年から導入された。また、選挙期間中に仕事や旅行で選挙名簿登録地以外の市町村に滞在している人は、**不在者投票制度**によって滞在先の選挙管理委員会で投票することができる。

①**重複立候補制**が採用されているのは参議院議員選挙ではなく、衆議院議員選挙なので誤りである。衆議院選挙では小選挙区選挙と比例代表選挙を組み合わせた**小選挙区比例代表並立制**が採用されており、小選挙区の立候補者を比例代表区における政党名簿に登載できるため、小選挙区で落選した立候補者が比例代表区で**復活当選**する場合がある。②近年、インターネットが広範に普及したことを受けて、**インターネット選挙運動**が解禁された。しかし、いくつかの制限が課せられており、全面的に解禁されたわけではない。たとえば、政党や候補者にはウェブサイトや電子メールを利用した選挙運動が認められるが、**有権者が電子メールを利用して選挙運動をすることは禁止**されている。また、有権者が選挙運動用のホームページや政党や候補者からの電子メールを印刷して頒布することも禁止されている。④仕事や留学などで海外に居住している有権者が国政選挙で投票できるように、**在外選挙制度**が設けられている。この制度によって、所定の手続きをすれば、在外公館(大使館や総領事館など)での投票や郵送により選挙権を行使できる。

第4問 日本の労働問題

【出題のねらい】

本問では、今日の日本にみられるさまざまな労働問題や労働環境の変化、労働法制についての知識と理解を試すことをねらいとしている。このテーマについては時事的な動向も重要なので、こうした面にも目を向けておこう。

【設問別解説】

問1 **24** ①

アルバイト、パート労働者、派遣労働者などの非正規雇用労働者は、いずれの世代・性別においても増加傾向にあるが、とくに**若年層や高齢者における増加が著しい**。これは、若年層の場合、厳しさを増

す雇用情勢の^{あお}煽りを受け、やむを得ず非正規雇用労働者として働くケースが増加してきたためである。他方、高齢者の場合は、定年後に非正規雇用労働者として再雇用されるケースが増加していることが主な要因である。以上のことから、**B**および**C**が15～24歳の男女いずれかであると判断できる。また、女性は結婚や出産を契機に正規雇用から非正規雇用へと雇用形態を切り替えることが多いため、**D**が35～44歳男性、**A**が35～44歳女性であると判断できる。なお、**B**は15歳～24歳女性、**C**は15歳～24歳男性であり、若年層においても女性の非正規雇用労働者比率が高くなっている。

問2 **25** ④

高齢者雇用安定法(高齢者等の雇用の安定等に関する法律)は、高齢者の安定した雇用の確保や再就職の促進を図り、経済および社会の発展に寄与することを目的としている。具体的には、65歳未満の定年の定めをしている事業主に対して、定年年齢を引き上げるか、定年以降の継続雇用を行うか、定年制を廃止するかのいずれかの措置をとることを義務づけている。

①このような規定はない。②募集および採用については、年齢を理由に差別することは原則的に認められていないが、やむを得ない理由がある場合は、その理由を明示することで高齢者の募集および採用に年齢制限を行うことが認められている。配置および昇進については、高齢者を差別してはならないという規定はない。③定年年齢は原則として60歳を下回ってはならないと定められている。

問3 **26** ②

日本国憲法では**労働三権**(**団結権・団体交渉権・争議権**)が保障されており、これらを具体化するために、**労働三法**(**労働組合法・労働基準法・労働関係調整法**)やその他の労働関係法令が定められている。労働組合法は、労働組合の争議行為が正当なものと認められる場合であれば、犯罪に該当する行為(通常であれば威力業務妨害罪や強要罪などに該当する行為)があったとしても、刑事責任を問われない(**刑事免責**)ことを定めている。また、正当な争議行為により使用者が被った損害についても、民事責任(損害賠償責任)が免除される(**民事免責**)と規定している。

①使用者が労働組合の運営に要する費用を援助することは、**不当労働行為**(使用者が労働組合の活動を妨害する行為)として禁止されている。不当労働行為には、この他にも、組合活動を行ったことを理由に使用者が労働者に対して不利益な取扱いを行う

こと、使用者が労働組合に加入しないことや労働組合から脱退することを条件として労働者を採用すること(黄犬契約)、使用者が正当な理由なく団体交渉の申し入れを拒否すること、使用者が労働組合の結成や運営について介入を行うこと、労働者が労働委員会に不当労働行為について救済の申立てを行ったことを理由に不利益な取扱いを行うこと、などがある。③労働委員会は、労働組合と使用者との間の紛争の調整を図る行政委員会であり、労働組合の推薦を受けた労働者委員、使用者団体の推薦を受けた使用者委員、公共の利益を代表する公益委員によって構成される。なお、労働委員会は、労働関係調整法に基づき労使紛争の予防・解決を目的として労使双方の主張の調整を行うが、調整の方法には、紛争の解決について助言する斡旋、調停案を作成し受諾を勧告する調停(労使ともに調停案を受諾する義務を負わない)、労使双方を拘束する仲裁裁定を行う仲裁がある。④労働組合は、雇用形態を問わず労働者が2名以上集まれば、いつでも自由に結成することができる。

問4 27 ③

労働基準法には、生理日の就労の免除や、妊娠・出産にとって有害な業務の禁止などの女子保護規定が設けられているが、女性労働者を保護するためにかつて行われていた、法定労働時間(1日8時間、1週間40時間)を超える時間外労働・深夜労働・休日労働の規制は1997年に廃止されており、現在は行われていない。

①1985年に成立した男女雇用機会均等法は、使用者に募集・採用・配置・昇進について男女を平等に処遇するよう努力義務を課していたが、1997年の改正で女性差別の禁止へと強化された。また、同改正により、事業主に対し女性へのセクシャルハラスメントの防止に向けた配慮義務が課された。②育児・介護休業法は、原則として1歳に満たない子(保育所がみつからない場合など特別な事情がある場合は1歳6か月まで、父母ともに育児休暇を取得する場合は1歳2か月まで)を養育する男女労働者に対し育児休業の取得を認めている。育児休業中は原則として休業前賃金の50%が給付金として雇用保険から支給される。なお、2014年4月1日以降に開始する育児休業から、育児休業開始から180日目までは休業開始前の賃金の67%が支給され、181日目からは従来通り休業開始前の賃金の50%が支給されることになった。また、介護休業は扶養義務のある者を介護する際に取得でき、通算93日と定められている。介護休業中は原則として休業前賃金の40%が給付金

として雇用保険から支給される。④男女共同参画社会基本法は、男女が互いに人権を尊重しつつ、その個性と能力を十分に発揮することができる男女共同参画社会の実現を目的とし、内閣府に男女共同参画会議が設けられている。また、同法は各地方自治体に対して男女共同参画基本計画の策定を義務づけている。

問5 28 ④

「主に従事する職務や仕事内容」について「これまで重視したもの」と「今後重視するもの」を比較すると、42.1%から35.5%に減少している。したがって、企業が「主に従事する職務や仕事内容」を「これまで以上に重視していく」とはいえない。

①「年齢、勤続年数、学歴などの個人属性」は45.6%から19.6%へと大幅に減少している一方で、「企業に対する中長期的な貢献」は10.6%から30.0%に増加している。年功序列型賃金体系の揺らぎが企業の賃金決定要素の変化にもあらわれているといえる。日本では1990年代以降、長期にわたる不況の影響で企業はリストラクチャリングを進め、年功序列型賃金体系から成果主義の賃金体系へ移行する企業が増加した。それとともに、人件費を抑制できる非正規雇用労働者が幅広く採用されるようになり、雇用形態の多様化をもたらした。②「短期的な個人の仕事の成果や業績」は30.8%から25.1%へとわずかに減少しているが、「企業に対する中長期的な貢献」は10.6%から30.0%へと大幅に増加している。終身雇用制度の揺らぎを踏まえると、企業は今後も個人の短期的な成果や業績をより重視していくように思われるが、表からは、企業は今後、短期的な成果や業績以上に中長期的な貢献を重視していくということが読み取れる。③「職務を遂行する能力」は他の項目に比べ重視する割合が最も高く、これまで重視されてきただけではなく、今後も重視されていくことがわかる。

問6 29 ①

労働基準法では、雇用形態にかかわらず労働者は年次有給休暇を取得できることが定められている。そのため、企業の就業規則に有給休暇についての定めがなくても、労働者は有給休暇の権利を主張することができる。ただし、パート労働者やアルバイトなどで、所定の労働時間・日数を満たさない場合は、労働日数に応じて休暇日数が減少する。

②最低賃金法は、1959年に制定された当初から、労働基準法に規定されている「労働者」(職業の種類を問わず、事業所に雇用され賃金を支払われる者)について、最低賃金を保障している。したがっ

て、パート労働者やアルバイトの賃金の最低額も、同法制定時から保障されているので、「最低賃金が改正され……最低額が保障されるようになった」という記述は誤り。③労働基準法第36条の規定により、使用者がパート労働者やアルバイトを含む労働者に時間外労働や休日労働をさせる場合には、労働者の過半数を代表する者、もしくは労働者の過半数で組織される労働組合と書面による協定(三六協定)を締結する必要がある。④派遣労働者は次のような手続きを踏み派遣先企業で職務にあたる。まず、労働者派遣事業を営む派遣事業者(派遣元企業)は、派遣先企業との間で労働者を派遣することについて契約を結ぶ。ここで結ばれた契約に基づき、派遣元企業と雇用契約を結んだ労働者が派遣先企業に派遣され、派遣労働者は派遣先企業から職務上の具体的な指揮・命令を受ける。したがって、「派遣労働者は、派遣先企業と雇用契約を締結し」という記述は誤り。

問7 30 ④

A ワーク・ライフ・バランスとは、「仕事と生活の調和」を意味し、具体的には「国民一人一人がやりがいや充実感を感じながら働き、仕事上の責任を果たすとともに、家庭や地域生活などにおいても、子育て期、中高年期といった人生の各段階に応じて多様な生き方が選択・実現できる社会」(内閣府 Web ページによる)の実現を目指すものとされる。したがって、イがこれに該当する。

B フレックスタイム制とは、一定期間(1週、1月など)の総労働時間を定め、その範囲内で始業と終業の時刻を労働者が自由に選択できる制度である。1日の労働時間を、必ず勤務しなければならない時間帯(コアタイム)と自由に出退勤できる時間帯(フレキシブルタイム)とに分けるのが一般的である。したがって、ウがこれに該当する。

C SOHO (Small Office/Home Office)とは、自宅やその近くの比較的小規模な事務所などで働くことで、情報通信機器を活用し、時間や場所の制約を受けずに比較的自由な労働を行うテレワークの一種である。したがって、アがこれに該当する。

以上から、④が正解になる。

第5問 現代における人権保障

【出題のねらい】

現代における人権をめぐる問題を歴史的に理解してもらうため、本文は人権の発展について概観する内容とした。設問は、「新しい人権」や「人間の安全保障」など、現代の人権保障の動向を中心に出题したが、人

権の基本事項についての理解の程度も試すものとした。

【設問別解説】

問1 31 ③

知る権利は、日本国憲法に明文の規定はないが、日本国憲法制定後の社会変化を背景として人権として認められるべきだと考えられるようになった、いわゆる新しい人権の一つで、国民主権(前文・第1条)や表現の自由(第21条)に憲法上の根拠をもつ。広い意味では情報を収集する権利、狭い意味では政府や地方自治体が保有する情報の開示を求める権利を指す。現代においては、情報が国家に集中する一方で、そうした情報が主権者である国民には十分知らされないという状況を背景に、情報の送り手の側の権利である表現の自由を受け手の側から捉えたもの(情報を受け取る権利)として主張されている。

①「他の民族や人種に対する憎悪を扇動する言論」は、いわゆるヘイトスピーチと呼ばれているが、日本ではヘイトスピーチ自体の規制を目的とした法律は存在しない。なお、表現の自由は民主主義国家においては最大限尊重されるべき重要な人権であるが、無制約ではありえないため、表現行為が引き起こす害悪の重大性や害悪が発生する切迫性の程度などに応じてヘイトスピーチが「公共の福祉」により制限されることはありうる。②『石に泳ぐ魚』事件とは、柳美里の小説『石に泳ぐ魚』のモデルとされた人物が、プライバシーの侵害を理由に同書の出版の差止めを求めた事件。最高裁判所は、小説によるプライバシーの侵害が回復困難な損害を与える恐れがあるとして出版の差止めを認めた(2002年)。④組織的殺人や薬物犯罪などについては、裁判所の通信傍受令状に基づき、捜査機関による電話やインターネットなどの傍受を認める通信傍受法が制定(1999年)されている。

問2 32 ③

環境権は「良い環境を享受する権利」で、生存権(第25条)や幸福追求権(第13条)に憲法上の根拠をもつ。日照権(居住地における日照を妨げられない権利)や眺望権(良好な眺めを妨げられない権利)なども環境権の一つとされている。

①自己決定権とは、一定の私的事項について権力的な干渉や介入を受けず、自ら決定することができる権利であり、幸福追求権(第13条)に憲法上の根拠をもつ。個人のライフスタイル全般に及ぶものと解されており、医療現場においては、インフォームドコンセントなど、治療プロセスに対する患者の自己決定権の重要性が説かれている。しかし、日本では

医師に対して「薬物投与などによる安楽死」を要求することが自己決定権のうちに含まれるとは一般に解されてはならず、人為的に死期を早める積極的安楽死は認められていない。②**アクセス権**とは、情報の受け手がマスメディアに対して意見広告や反論記事の掲載を要求する権利で、**表現の自由**に憲法上の根拠をもつ。しかし、最高裁判所の判例では認められておらず、この権利を保障する法律もない。④**平和的生存権**とは、平和で安全な社会を生きる権利で、**憲法前文**や**戦争の放棄**(第9条)に憲法上の根拠をもつとされる。しかし、最高裁判所は平和的生存権の権利性を認めておらず、また、自衛隊を違憲とする判決を下したこともない。

問3 **33** ④

最高裁判所は、日本国憲法に基づく人権は、人権の性質上、日本国民のみを対象としているものを除いて、外国人にも等しく保障されるとしている。この人権の性質上、日本国民のみを対象としているものとしては、**参政権**や**入国・再入国の自由**などが挙げられる。したがって、「外国人が日本への入国を希望する場合」でも、政府の裁量によって入国を拒否することができる。

①日本は**国際人権規約A規約**や**子どもの権利条約**を批准していることもあり、外国人児童にも日本人児童と同様に義務教育を受ける機会を保障している。②たとえば、地方自治体の中には、**国籍条項**(公務員就任を日本国籍保有者に限定する要件)を撤廃し、職種を限定して外国人に公務員就任を認めているものがある。③上の④の解説で説明したように、参政権や入国・再入国の自由などを除く人権については、外国人も原則的には人権享有主体であると考えられており、**裁判を受ける権利**も有しているとされている。

問4 **34** ④

国連で採択された**子どもの権利条約**(1989年採択/日本は1994年に批准)は、子どもを権利の主体として位置づけ、搾取や差別から守られる権利、健康に成長する権利、意見表明権などを保障している。

①「**四つの自由**」は、リンカーン(リンカン)大統領(在任1861～65)ではなく、アメリカの**ローズベルト**大統領(在任1933～45)が1941年の年頭教書で表明した、**言論と表現の自由**、**信教の自由**、**欠乏からの自由**、**恐怖からの自由**をいい、民主主義の原則として世界人権宣言をはじめとして、多くの人権文書に

反映された。②**世界人権宣言**は、すべての人民・国家が達成すべき人権保障の基準を示すものとして、1948年に国連総会で採択されたが、条約ではないので**法的拘束力はない**。なお、この宣言の内容を踏まえて1966年に国連総会で採択された**国際人権規約**は条約なので法的拘束力がある。③**女子差別撤廃条約**は1979年に採択され1981年に発効、**人種差別撤廃条約**は1965年に採択され1969年に発効している。

問5 **35** ①

死刑廃止条約は、国際人権規約B規約の第二選択議定書として1989年に採択され、第1条で死刑廃止を定めている。死刑制度を存続させている日本は同条約を批准していない。

②**障害者権利条約**は、障害者に対する差別的撤廃や社会参加を促進することを目的として2006年に採択された条約で、日本は2014年に批准した。③**難民条約**は、難民問題に対処するため、1951年に採択され、日本は1981年に批准した。④国際人権規約は、1966年に国連総会で採択された人権条約で、**社会権に関する規約(A規約)**、**自由権に関する規約(B規約)**、個人通報制度を定めた**B規約選択議定書**の三つの文書からなる。その後、1989年に死刑廃止を定めた**B規約第二選択議定書**が採択された。日本は1979年にA・B両規約を批准したが、A規約については公務員のストライキ権、祝祭日の報酬、中・高等教育の無償化の三点を留保した(中・高等教育の無償化の留保については2012年に撤回)。また、二つのB規約選択議定書についてはいずれも批准していない。

問6 **36** ②

「軍備の増強による自衛力の強化」は、国家の安全保障を図るための施策であり、「人間の安全保障」を実現するための施策とはいえない。「**人間の安全保障**」とは、生存や尊厳に対する脅威から人間一人一人を守るという考え方で、UNDP(国連開発計画)が1994年版の「**人間開発報告書**」で提唱した。個人の生存や尊厳を脅かすものとしては、感染症の拡大、飢餓や貧困、治安の悪化、環境破壊、人権侵害、難民の発生などが挙げられる。

①女性の人権侵害の防止、③兵士の社会復帰を通じた治安の安定化や貧困の解消、④環境破壊の阻止は、いずれも人間の安全保障の実現を目指した施策である。

倫理，政治・経済

【解答・採点基準】

(100点満点)

問題番号	設問	解答番号	正解	配点	自己採点
第1問	問1	①	①	2	
	問2	②	②	3	
	問3	③	⑧	3	
	問4	④	⑥	3	
	問5	⑤	③	3	
第1問 自己採点小計				(14)	
第2問	問1	⑥	②	3	
	問2	⑦	④	2	
	問3	⑧	③	3	
	問4	⑨	③	3	
	問5	⑩	③	2	
	問6	⑪	③	2	
	問7	⑫	②	3	
第2問 自己採点小計				(18)	
第3問	問1	⑬	③	2	
	問2	⑭	⑥	3	
	問3	⑮	③	3	
	問4	⑯	②	3	
	問5	⑰	④	3	
	問6	⑱	②	2	
	問7	⑲	④	2	
第3問 自己採点小計				(18)	
第4問	問1	⑳	③	2	
	問2	㉑	③	3	
	問3	㉒	③	2	
	問4	㉓	④	3	
	問5	㉔	④	2	
	問6	㉕	②	2	
第4問 自己採点小計				(14)	

問題番号	設問	解答番号	正解	配点	自己採点
第5問	問1	㉖	③	3	
	問2	㉗	④	3	
	問3	㉘	⑤	2	
	問4	㉙	①	3	
	問5	㉚	①	3	
	問6	㉛	③	2	
	問7	㉜	③	2	
第5問 自己採点小計				(18)	
第6問	問1	㉝	①	3	
	問2	㉞	④	2	
	問3	㉟	②	3	
	問4	㊱	③	2	
	問5	㊲	④	2	
	問6	㊳	①	3	
	問7	㊴	④	3	
第6問 自己採点小計				(18)	
自己採点合計				(100)	

【解説】

第1問 現代社会の特質と青年期

【出題のねらい】

本問は，差別問題や消費社会論の理解，心理学や人間観に関する知識，図の読解能力などを試すことをねらいとしている。

【設問別解説】

問1 ㉑ ①

ミード(1901～78)は、『サモアの青春』などで知られる文化人類学者。ミードの研究は女性解放運動に大きな影響を与えたが，「社会的・文化的に作られた女性らしさ」すなわちジェンダーを保全するために「女性解放運動に参加」というのは矛盾している。女性解放運動の大きな目的の一つは，女性のジェンダーからの解放にある。

㉑㉒㉓はいずれも正しい。㉔石牟礼道子(1927～)の『苦海浄土－わが水俣病』の説明として正しい。㉕日本は，人種差別撤廃条約の批准(1995年)を受け，1997年にアイヌ文化振興法を施行するとともに北海道旧土人保護法を廃止した。ただし，アイヌ文化振興法においても，アイヌ民族の固有の権利とし

ての先住権は認められていないことも覚えておこう。④国連総会(1972年)は、1975年を**国際婦人年**と決議し、メキシコ市で**国際婦人年世界会議**を開いて、男女平等の促進などを求める世界行動計画(メキシコ宣言)などを採択した。

問2 **2** ②

フランクフルト学派第二世代のハーバーマス(1929～)は、『**公共性の構造転換**』や『**コミュニケーション的行為の理論**』などにおいて、私たちの生活世界が科学技術のもたらす**システム合理性**によって支配され、人間がマニュアルに従って外部から操作されていると批判した。そして、こうした**道具的理性**ではなく、相互理解に裏うちされた**コミュニケーションに基づく対話的理性の復権**を説いた。

①アーレント(1906～75)を想定した説明である。彼女は、『**全体主義の起源**』や『**イェルサレムのアイヒマン**』を著し、ドイツのナチズムや旧ソ連のスターリン体制などに代表される**全体主義社会**を支えていたのは、アトム化した平凡な大衆であったことを明らかにして、こうした状況を「悪の陳腐さ(平凡さ)」と表現した。③リースマン(1909～2002)の説明である。彼は、『**孤独な群衆**』において、生活の変化を好まず、社会の伝統的な慣習やしきたりに従順であろうとする**伝統指向型**や、人生の初期段階に年長者が植え付けた抽象的な人生目標によって内的につき動かされながら生きる**内部指向型**と対比して、現代人の社会的性格類型を**他人指向型**と特徴づけた。④『**大衆の反逆**』で知られる**オルテガ**(1883～1955)の説明である。

問3 **3** ②

a : 『消費社会の神話と構造』で知られる」を根拠に、ボードリヤール(1929～2007)が入る。ベルンシュタイン(1850～1932)は、ドイツ社会民主党の理論家。彼は、資本主義の発達した国では**マルクス**(1818～83)の予想通りには現実には進行しないとして暴力革命を否定し、労働者階級が議会で多数を獲得することによって、漸進的に社会主義の実現を図るべきだと説いた。

b : 「他人から『美しい人』と評価されると期待して」や「現代社会におけるモノは単なる消費の対象ではなく」などに注目すれば、『**記号**』が入る。ボードリヤールによれば、大量消費時代におけるモノの価値は、それ自体が有する使用価値ではなく、**記号としての価値**にあると指摘した。「啓示」とは、人知をもっては捉えることのできない神秘を神自らが人間に対して示すことであるから不適当。

c : 上に述べた「記号」の言い換えである「コ

ードや他の商品との差異」が入る。**コード**とは、ブランド品を高価なモノにしているなどの「消費社会において与えられている意味内容」である。モノは「特殊な機能や原料コスト」とも無関係ではないが、消費において必ず「原料コスト」が強調されるということはないから不適当。

以上により、②の組合せが正解となる。

問4 **4** ⑥

ア : 「無理に社会人になろうとも思いません」や「親元から大学に通っていて楽なので……学生のままでいよう」に注目すれば、**小此木啓吾**(1930～2003)が論じた「モラトリアム人間の甘え」と分かる。**モラトリアム人間**とは、大人の仲間入りをする年齢に達していながら、精神的にはまだ自己形成の途上にあり、大人社会に同化できずにいる人間のことである。

イ : 「自己を見失いかけています」に注目すれば、**エリクソン**(1902～94)が論じた「自我同一性(アイデンティティ)の危機」を示した具体例と分かる。

ウ : 「はやく父親になりたい」と「もうしばらくは、夫婦二人のままでよい」に注目すれば、**フロイト**(1856～1939)が論じた「葛藤(コンフリクト)の悩み」を示した具体例と分かる。

以上により、⑥の組合せが正解となる。

問5 **5** ③

中高年層の「即断した場合」を見ると、女性の正答率は32.1%であるのに対して、男性の正答率は61.5%と高いが、「半分以下に留まっている」わけではない。したがって、③が適当でないものとして正解となる。

①②④はいずれも正しい。①数値を吟味するまでもなく、図を見れば中高年層は「即断」や「熟考」における男女間の正答率の差異が大きいが分かる。②「即断」における若年層の男性の正答率は62.5%、中高年層の男性の正答率は61.5%であり大差ない。「二重課題」における若年層の男性の正答率は55.6%、中高年層の男性の正答率は51.9%であり大差ない。しかし、「熟考」における若年層の男性の正答率が60.0%であるのに対して、中高年層の男性の正答率は44.0%と大きく落ち込んでいる。④「即断」における若年層の女性の正答率は55.6%で、中高年層の女性の正答率32.1%より高い。一方、「熟考」における若年層の女性の正答率は56.5%、中高年層の女性の正答率は63.0%、「二重課題」における若年層の女性の正答率は53.6%、中高年層の女性の正答率は58.3%と、いずれも中高年層の女性の正答率の方が高い。

第2問 近代日本の思想と東洋源流思想

【出題のねらい】

本問は、西洋思想の受容のあり方をめぐる啓蒙思想と国粋主義の対抗関係を素材とする本文のもとに、明治期以降の日本思想の特質や東洋源流思想の特質についての基本的な知識を幅広く問うことをねらいとしている。

【設問別解説】

問1 6 ②

森鷗外(1862～1922)は、近代的な自我と現実の社会との矛盾を冷静に見つめ、俗世間に安んじつつ、しかもそこに埋没しない諦念の立場をとった。

①北村透谷(1868～94)は、自由民権運動のなかに近代的な自我の確立の契機を見いだして、それに参加した。しかし挫折し、自己の内なる内部生命の要求を現実の世界(実世界)ではなく、精神の内面世界(想世界)において実現しようとした。したがって、彼が「現実世界の根本的な変革が必要」と考えたという趣旨の記述は誤り。③夏目漱石(1867～1916)は、他者に迎合する他人本位の生き方を批判して、自己の内なる要求に発しつつ他者の個性をも尊重する自己本位の生き方を唱えた。したがって、彼が「他人本位」の生き方を理想としたという趣旨の記述は誤り。④「有島武郎」ではなく与謝野晶子(1878～1942)についての記述。有島武郎(1878～1923)は、武者小路実篤(1885～1976)らとともに白樺派に属する人物で、自己の個性を自由に伸長させることがそのまま人類の文化の発展に寄与することになると説き、個人主義に基づいた理想主義・人道主義を主張した。

問2 7 ④

老子(生没年不詳)の「**大国を治むるは小鮮を煮るが如し**」という言葉には、大国の為政者が人民に干渉しすぎると、かえって国が治まらなくなるという老子の考え方があらわれている。

①孟子(前370?～前290?)の王道政治に関する説明である。②韓非子(?～前233)の法治主義に関する説明である。③孔子(前551?～前479)の徳治主義に関する説明である。

問3 8 ③

ア：内村鑑三についての記述。内村鑑三(1861～1930)は、武士道を精神的な基盤としてこそ日本にキリスト教信仰が根づくと考えていた。例えば、彼は、自らのキリスト教を「武士道に接木されたるキリスト教」としてしている。

イ：西村茂樹についての記述。西村茂樹(1828～1902)は、政府の欧化政策を批判するとともに、国

家の中核は法や制度ではなく、国家の構成員たる国民の道徳にあるとし、国民道徳の興隆に尽力した。西村茂樹が提唱する国民道徳は、儒学を基礎とし、儒学の足りないところや欠点を西洋哲学の長所で補おうとしたものである。

ウ：井上哲次郎についての記述。井上哲次郎(1855～1944)は、国家主義の立場から、キリスト教を忠君愛国に反する教説であるとして排撃した人物で、教育勅語の解説書を書いたことでも知られる。

以上により、③の組合せが正解となる。

問4 9 ③

仏教では、ブッダと言えばゴータマ・シッダッタ(前463?～前383?)を指す場合が多いが、ブッダとは本来、真理に目覚めた者(覚者)という意味である。真理を創造した者ではない。したがって、「この世を貫く真理の創造者であるブッダを唯一無二の神として信仰する」という記述は誤り。

その他の選択肢は正しい。①八正道とは、仏教において悟りを開くための八つの正しい修行の道であり、具体的には、正見、正思、正語、正業、正命、正精進、正念、正定のことを指す。これらは、苦行主義にも快楽主義にも偏らない中道の修行法である。②無我とは、不変の実体(「我」)は存在しないということである。あらゆるものは、この無我の状態にあるということを諸法無我と言う。また無我を時間という観点からみた概念を無常と言い、何事も永遠不変ではなく、移り変わるということを諸行無常と言う。この無我と無常こそ、仏教の教義の核心であり、ブッダはこれらを世界と人生の真理(法、ダルマ)であると説いた。④ヴァスバンドウ(世親、320?～400?)は、実在するのは心の働きだけであり、一切の事物は意識の産物にすぎないとする唯識の思想を唱えた。

問5 10 ③

吉野作造(1878～1933)は、大正時代に知識人層を中心に高まった民主主義的な風潮(大正デモクラシー)のなかで民本主義を提唱した。これは、明治憲法の天皇主権を前提としたうえで、政治は国民の利益と幸福の増大を目的として運営されなければならないとする考えである。

①美濃部達吉についての記述。美濃部達吉(1873～1948)によれば、統治権は法人としての国家にあり、天皇はその最高機関として、他の国家機関の参与を得ながら統治権を行使することになる。このような学説を天皇機関説と言う。②西田幾多郎についての記述。西田幾多郎(1870～1945)は、主観と客観を峻別し対立するものと捉えようとする

西洋哲学を批判し、主観と客観が未だ分かれざる状態における直接的・根本的な経験(純粹経験)においてこそ真の実在が現前すると説いた。純粹経験とは、彼によれば、「美妙なる音楽に心を奪われ、物我相忘れ」ているような状態における経験のことである。④和辻哲郎についての記述。和辻哲郎(1889～1960)によれば、人間は、社会から孤立し独立して存在する「個人」ではなく、また「社会」に埋没した存在でもない、「個人」的存在と「社会」的存在という両面性をもつ間柄存在であると言う。このような考えから、彼は人間の生き方を、社会のなかに埋没することのない自己を自覚しつつ、しかもその自己を否定して社会のなかに生きるという動的なあり方に求めた。

問6 11 ③

資料文は『日本の名著44 幸徳秋水』(伊藤整責任編集/神崎清沢, 中央公論社)所収の『二十世紀の怪物 帝国主義』から引用した。このなかで、幸徳秋水(1871～1911)は、帝国主義が愛国心と軍国主義からなるとし、愛国心については人々の思想・信仰などを圧殺するという点で、また軍国主義については敵国の来襲の有無にかかわらず軍備の増強を競うものであるという点で、それぞれ批判している。したがって、③が正解。

①前半部分は正しいが、後半部分は愛国心を肯定しているので資料文の内容と相容れない。②前半部分は正しいが、後半部分は軍国主義について肯定的に述べているので資料文の内容と相容れない。④前半部分は正しいが、後半部分は資料文の内容と相容れない。幸徳秋水が愛国心と軍国主義を批判するのは、それらが「国力の伸長を妨げてしまうから」ではない。むしろ彼は、これらが相まって「おそろべき惨害」をもたらすからという趣旨のことを述べている。

問7 12 ②

本文の第2段落で、啓蒙思想は日本の近代化のためには日本の国民を自立した主体へと脱皮させる必要があるという立場をとっていたという趣旨のことが述べられている。また、本文の第3段落で、国粋主義は日本の伝統的な価値を基準として西洋の文化を取捨選択して受け入れるという立場から日本の近代化を説いたという趣旨のことが述べられている。したがって、②が正解。

①前半部分は正しいが、後半部分は本文の内容と相容れない。本文の第4段落で、欧化主義と国粋主義は「日本のアジア支配の論理を準備したという点では、思いのほか近いところに位置している」と述

べている。したがって、「この二つの思想潮流の対アジア認識もまったく異なるものであった」という選択肢の記述は誤り。③本文の最終段落で、欧化主義と国粋主義の対抗関係が第二次世界大戦後も「形を変えて残存し」と述べられている。したがって、この二つの思想潮流の対抗関係が「明治国家がその基盤を確立して以降は、二度とあらわれることはなかった」という選択肢の記述は誤り。④啓蒙思想を想定した前半部分は正しいが、国粋主義を想定した後半部分は本文の内容と相容れない。国粋主義も、②の解説で触れたように、啓蒙思想とは異なる観点から、日本の近代化を模索した。

第3問 西洋の現代思想と源流思想

【出題のねらい】

本問は、実存主義、社会主義、プラグマティズム、などの西洋現代思想と古代ギリシア思想などの西洋源流思想に関する基本的な知識の有無や理解度を問うことをねらいとしている。

【設問別解説】

問1 13 ③

ア：正文。パース(1839～1914)は、学問的な概念が有する意味を、抽象的な思考ではなく具体的な行動(プラグマ)から生じる効果・効用によって捉えようとしたプラグマティズムの提唱者である。

イ：誤文。ジェームズ(1842～1910)によれば、「真理」とは、絶対的・普遍的なものではなく、実際に有用であるかどうか(＝役に立つかどうか)で判断される、相対的・個別的なものである。これを彼は、「真理であるから有用であるとも言えるし、有用であるから真理であるとも言える」と表現した。

ウ：正文。デューイ(1859～1952)は、人間の知性は、日常生活における課題を解決するための道具であるとした(道具主義)。また、教育の目的はそうした問題解決能力を自発的に身につけさせることであるとして、「為すことによって学ぶ」を基本とする問題解決学習の重要性を説いたことでも知られる。

以上により、③の組合せが正解となる。

問2 14 ⑥

ア：アリストテレス(前384～前322)についての記述。彼は、事物のあり方を、それに内在する普遍的な本質としての形相(エイドス)と、素材にあたる質料(ヒュレー)の結びつきによって説明しようとした。言い換えれば、事物の生成・変化は、質料のうち可能態として潜んでいる形相が一定の条件の下で現実態として実現することとして捉えられる。こ

こから彼は、すべての事物の成り立ちを、自らに宿る形相を実現するために成長・発展し、自己を完結させるという動的な運動の観点から説明した。このような考えは**目的論的自然観**と呼ばれる。

イ：エンペドクレス(前493?～前433?)についての記述。彼は、万物の根源(**アルケー**)を探究した古代ギリシアの自然哲学者の一人で、**火・土・水・空気**という四つの根源的な要素によって世界の成り立ちを説明した人物として知られる。

ウ：ゼノン(前336～前264)についての記述。彼は、**ストア派**の祖で、人間は宇宙の**ロゴス(理性)**を種子として宿しており、それに従って生きる(「**自然に従って生きる**」)ことにより情念に動かされない境地(**アパテイア**)に至ることができると説いた。

以上より、⑥の組合せが正解。

問3 **15** ③

レーニン(1870～1924)は、世界史上初めての社会主義革命である**ロシア革命の指導者**である。この選択肢の内容は、彼が『**帝国主義論**』(1917年)のなかで説いたものである。

① イギリスの**ウェッブ夫妻**(シドニー 1859～1947; ビアトリス 1858～1943)は、**フェビアン協会**の中心メンバーとして、「民衆が物理的な力を行使」することによって資本主義を打倒しようとする**暴力革命を否定**し、議会における活動を通じて漸進的に社会主義を実現すべきであると説いた。このような考え方は、**社会民主主義**と呼ばれる。② フランスの**フーリエ**(1772～1837)の思想。イギリスの**オーウェン**(1771～1858)は、**ニューラナークの紡績工場**で労働条件の改善に取り組み、経営的にも大きな成功を収めた経験をもとに**ニューハーモニー村**という名の共同体をつくったことで知られている。④ ドイツの**マルクス**(1818～83)は、資本主義から共産主義への移行期には、**プロレタリアート(労働者階級)**が社会主義革命(プロレタリア革命)を起こし、資本家階級を倒して社会主義社会を実現すると説いた。

問4 **16** ②

フランスの**デリダ**(1930～2004)は、西洋哲学は、「**イデア／個物**」、「**自己／他者**」、「**男／女**」、「**西洋／東洋**」など、様々な**二項対立**をつくりだしたが、根源的とされてきた前者が、実は派生的とされてきた後者によって支えられていると主張し、こうした二項対立を問い直す「**脱構築**」を説いた。

① イギリスの**スペンサー**(1820～1903)に関する記述。彼は、社会は**軍事型社会**から**産業型社会**へと進化するという**社会進化論**を説いた。軍事型社会では、個人は全体のために存在し、個人の自由は抑圧

されるが、産業型社会では、社会は個人のために存在し、個人の自由が保障されるようになると思われる。③ フランスの**コント**(1798～1857)に関する記述。彼は、自然科学の諸分野は**実証主義的**であるのに、社会現象に関する学問は**いまだ実証主義的ではない**と考え、社会現象を実証主義的に研究する**社会学**を創始した。コントは、人間の思考は、あらゆる現象を神話に基づく神の行為と結び付けて説明する**神学的段階**、神話ではなく人間理性に基づいてはいるが、経験的事実ではなく、本性や本質などの抽象的な概念から現象を説明する**形而上学的段階**、経験的事実に即して現象を説明する**実証的段階**へと発展するとし、それに対応して、社会も、**軍事的段階**、**法律的段階**を経て、**産業的段階**へと発展すると説いた。④ アメリカの経済学者**ボールディング**(1910～93)についての記述。彼は、運命共同体である「**宇宙船地球号**」の乗組員である全世界の人間が協力して、地球上の有限な資源を、環境問題や人口問題などとも関連付けて、適切に管理していくことを求めた。

問5 **17** ④

資料文は、**サルトル**(1905～80)の『**実存主義とは何か**』(伊吹武彦訳、人文書院)からの引用である。資料文の趣旨は、人間はその本性に先立って存在し、**自らが自らに本性を与える実存(対自存在)**であり、人間に本性が与えられていないのは、人間の本性を考える神が存在しないからだ、というものである。言い換えれば、人間は、他の存在者とは違って、**自らの本性を自由に創造していく存在だ**ということである。この論旨に合致するのは、選択肢④だけである。

① 「人間は生まれたときから『人間』以外のものではない」のであれば、人間は生まれながらに「人間とは」という本性が与えられていることになり、資料文の5行目の「人間は最初は何ものでもない」という主張と合致しない。また、資料文の6～7行目に「人間はみづからがつくったところのものになるのである」とあり、サルトルは人間を自らの選択によって本性を獲得していく存在だと考えているから、「『人間とは』という本性を定義する必要はない」とは言えない。② 資料文の6～7行目に「人間はあとになってはじめて人間になるのであり、人間はみづからがつくったところのものになるのである」とあるように、サルトルは人間を自らが自らの本性を与える**実存だ**と考えている。したがって、「人間は神と向かい合うことで、自らのうちに自らの本性を発見する」という記述が誤り。③ 「人間は

生まれたときから『人間』以外のものではない」という記述は、資料文の内容に反する。また、資料文からは「『人間とは』という本性を定義する必要はない」ということが読み取れないことに加え、資料文の3～4行目に「定義されうる以前に実存している存在が少なくとも一つある。その存在はすなわち人間」とあるから、「この世のあらゆる事物の本性は、あらかじめ神が決めている」とは言えない。

問6 [18] ②

[a] には「神の恩寵」が入る。アウグスティヌス(354～430)によれば、人間は原罪(人間自身の力ではどうすることもできない自己中心性)を負っているがゆえに、どうしても悪を欲してしまい、神の恩寵(神から与えられる無償の恵み)によらなければ善を欲することさえできないとされる。なお「神への知的愛」は、大陸合理論の系譜に属するスピノザ(1632～77)の思想に関わるもの。スピノザは「神即自然」を説き、事物の必然性(神の必然性)を理解することが、人間の自由の証しであるとしたことで知られる。

[b] には「ジハード」が入る。イスラーム教では、神の啓示を実現し、信仰の共同体(ウンマ)の維持・拡大のためにたたかうこと(ジハード)がムスリムの義務とされる。なおヒジュラは、支配層から迫害されたムハンマド(マホメット、570?～632)が、その難を逃れてメッカからメディナへ移住したことを指す語で、「聖遷」と訳される。

以上より、②の組合せが正解。

問7 [19] ④

本文の最終段落で、「私たちには、人間の理性や主体性を安易に肯定する姿勢に陥らないよう自制しながらも、なおかつ人間の理性や主体性もつ重要な価値に信頼をおいて行動していくことが求められている」と述べられていることや、「残虐行為を阻止し得るのは人間の理性的で主体的な取組においてほかにないのもまた確かなことである」と述べられていることから、④が本文の趣旨に合致していることは明らかである。

①「人間の主体的な取組こそが重要」であり、「人間の主体性を否定する思想については、……誤った考え方として徹底的に排除しなければならない」という記述は、本文の最終段落で「人間の理性や主体性を安易に肯定する姿勢に陥らないよう自制」すべきと述べられていることや、「人間の理性や主体性もつ重要な価値に信頼をおいて行動していくことが求められている」と述べられていることに照らして不適当である。②「人間の理性や主体性

に信頼をおく思想を、歴史的な事実を軽視する誤った考え方として否定しなければならない」という記述は、本文の最終段落で「人間の理性や主体性もつ重要な価値に信頼をおいて行動していくことが求められている」と述べられていることに照らして不適当である。③「現実の世界こそ理性的であると考えて全面的に受け入れる寛容さを重視した新たな人間観の構築を進めていかなければならない」という記述は、世界の現状を全面的に追認することにつながるから、本文の最終段落で「残虐行為を阻止し得るのは人間の理性的で主体的な取組においてほかにない」と述べられていることに照らして不適当である。

第4問 戦後国際社会の課題

【出題のねらい】

本問は、国連に関わる軍縮条約や中東地域の国際紛争の動向など国際社会で生じている諸問題を中心に、GDP(国内総生産)とGNP(国民総生産)の関係など経済指標に関する原理的な知識についても問うことをねらいとしている。

【設問別解説】

問1 [20] ③

CTBT(包括的核実験禁止条約)は、1996年の国連総会で採択されたが、発効要件である核兵器保有国を含む44か国すべての署名・批准が完了していないため、いまだ発効していない。なお、CTBTは、宇宙空間・大気圏内・水中・地下における核爆発を伴う核実験を禁止しているが、核爆発を伴わない臨界前核実験(未臨界核実験)は禁止しておらず、核兵器保有国のなかにはたびたびそのような実験を行っている国もある。

①CWC(化学兵器禁止条約)は、毒ガスなどの化学兵器の開発、生産、保有などを包括的に禁止し、既存の化学兵器を一定期間内(原則として10年)に全廃することを定めており、1997年に発効した。なお、最近では内戦で化学兵器を使用したといわれるシリアが2013年に加盟し、化学兵器の廃棄を進めている。②NPT(核拡散防止条約)は、核兵器非保有国が新たに核兵器を保有することを防止し、核エネルギーの平和利用の促進を図ることを目指す条約であり、1970年に発効した。なお、この条約に基づく査察などの保障措置を行うIAEA(国際原子力機関)は、2005年にノーベル平和賞を受賞した。④対人地雷全面禁止条約は、対人地雷の全面禁止を求めて1996年に開催されたオタワ会議における地雷禁止国際キャンペーン(NGO[非政府組織]の連合体)と有

志国による協議(オタワ・プロセス)を経て採択され、1999年に発効した。しかし、ロシア・中国など同条約に署名していない国も多い。なお、地雷禁止国際キャンペーンは、1997年にノーベル平和賞を受賞した。

問2 21 ③

多国籍軍は、一般に複数の国の軍隊により編制され紛争地域に派遣される合同軍を指し、PKOに従事するPKF(平和維持軍)や、国連憲章で規定された集団安全保障に基づく強制措置(軍事的制裁)を実施するために編制される国連軍とは異なる。1991年の湾岸戦争や2003年のイラク戦争では、アメリカ軍を中心とする多国籍軍が派遣された。このうち、イラク戦争は、当時のフセイン政権による大量破壊兵器の開発を理由として開始され、フセイン政権崩壊後、フセイン元大統領はイラクの暫定政権により処刑された。

①イスラエルは1993年にパレスチナの代表組織であるPLO(パレスチナ解放機構)との間で相互承認を行い、パレスチナ暫定自治協定を結んだ(オスロ合意)が、パレスチナを国家としては承認していない。また、国連は2012年パレスチナを国連の討議に参加できるオブザーバー国家として承認したが、国家として加盟を承認したわけではない。②アサド政権はエジプトではなくシリアの政権であり、反政府勢力に対して化学兵器を使用したといわれている(問1の①の解説を参照)。④中東地域では、政治的影響力の強いサウジアラビアや、経済発展の目立つアラブ首長国連邦など、現在でも君主制をとる国は少なくない。

問3 22 ③

この3か国の石油生産の詳しい統計を知らなくても、一般的な知識としてアジア諸国の工業化の歴史を知っていれば国を特定できる。つまり、マレーシア・インドネシアなどASEAN4(ほかにタイ・フィリピン)の工業化は、1985年のプラザ合意による円高によって日本からの直接投資が増加したことを契機に始まった。したがって、このグラフの期間である1995年から2010年にはすでに工業化が進み、大きな変化のない時期である。これに対して、同期間は中国やベトナムの工業化が本格化する時期にあたり、大きな変化があるはずである。中でも中国は工業化の結果、資源や食料の輸入国になっている。以上のことを考えれば、ほとんど変化のないAがマレーシア、輸出がほとんどなくなったBが中国、変化しているが中国よりはまだ輸出も多いCがベトナムだとわかる。

問4 23 ④

国連で採択された子どもの権利条約(1989年採択/日本は1994年に批准)は、子どもを権利の主体として位置づけ、搾取や差別から守られる権利、健康に成長する権利、意見表明権などを保障している。

①「四つの自由」は、リンカーン(リンカン)大統領(在任1861~65)ではなく、アメリカのローズベルト大統領(在任1933~45)が1941年の年頭教書で表明したもので、言論と表現の自由、信教の自由、欠乏からの自由、恐怖からの自由をいう。民主主義の原則として世界人権宣言をはじめとして、多くの人権文書に反映された。②世界人権宣言は、すべての人民・国家が達成すべき人権保障の基準を示すものとして、1948年に国連総会で採択されたが、条約ではないので法的拘束力はない。なお、この宣言の内容を踏まえて1966年に国連総会で採択された国際人権規約は条約なので法的拘束力がある。③女子差別撤廃条約は1979年に採択され1981年に発効、人種差別撤廃条約は1965年に採択され1969年に発効している。

問5 24 ④

国の経済状況を評価する概念には、一定期間に新たに生み出されたり消費された財やサービスの数量を示すフローの概念と、一時点における財の蓄積量を示すストックの概念に分類することができる。「ある年のパソコンの保有台数」は、一時点で存在しているパソコンの台数を示しているので、ストックに該当する。

①「ある年の住宅の着工戸数」は、1年間に新たに建てられた住宅の数を示しているので、フローに該当する。②「ある年の自動車の販売台数」は、1年間に新たに生産された(生み出された)自動車のうち、販売されて消費者の手に渡った自動車の数を示しているので、フローに該当する。③「ある年のテーマパークの入園料収入」は、1年間にテーマパークが新たに生み出したサービスの大きさを示しているので、フローに該当する。

問6 25 ②

A GDP(国内総生産)とGNP(国民総生産)は、以下のような関係にある。

$$GDP = GNP - \text{海外からの純所得(海外からの所得純受取)}$$

$$* \text{海外からの純所得} = \text{海外からの所得} - \text{海外への所得}$$

したがって、「GNP(国民総生産)に海外からの純所得を加える」ではなく、「GNPから海外からの純

所得を差し引く」とすべきであるから、Aは誤り。

B 経済成長率は、GDP または GNP の前年比増加率、すなわち、GDP や GNP が、前年と比較してどれだけ増えたのかを示すものであるから、経済成長率がプラスの場合、GDP は前年と比べて増加しているということになる。したがってBは正しい。

C GDP には、純輸出(輸出－輸入)が計上されるので、輸出が増加すれば、その分が GDP にプラスとして算入されるので、GDP は「増加も減少もしない」は誤り。

以上より、正しいものはBのみであり、正解は②となる。

第5問 日本の政党政治と選挙制度

【出題のねらい】

本問は、日本の政党政治の歩みと選挙制度について基本的な知識の有無や理解の程度を試すことを目的としている。55年体制が崩壊した1993年以降の政治状況は政党間の合従連衡^{がっしりれんこう}が続き、複雑で理解しにくいので、これを機会に主要な動向を整理しておこう。

【設問別解説】

問1 ②③

20世紀に入り各国で普通選挙が広く実施され、労働者や女性にも選挙権が与えられるようになると、大衆を支持基盤とする大衆政党が登場した。さらに、1960年代以降になると、先進国を中心に、労働者など特定の階級だけではなく、広く国民の支持を集めるために、イデオロギー色を弱め総花的な政策を掲げる包括政党が現れるようになった。

①名望家政党は、普通選挙とともに登場したわけではないし、労働者階級を主な支持層とするものでもない。名望家政党とは、「財産と教養」のある地域の有力者によって構成された政党であり、財産、身分、性別などで選挙権・被選挙権を制限する19世紀頃までの制限選挙の時代にみられた。②小選挙区制は、1選挙区から1名の議員を選出する制度であり、一般に少数党には不利な制度であるため、二大政党制が形成されやすい。他方、1選挙区から2名以上の議員を選出する大選挙区制では少数党でも当選者を出す可能性が高くなり、小党分立となりやすい。④国会議員や地方議会議員を中心に構成されている政党も存在するが、多くの政党では政治家(議員)だけでなく広く一般市民も党员となっている。

問2 ②⑦

1960年代以降、民社党や公明党、新自由クラブなど新党が誕生し、野党の多党化が進んだ。しかし、新進党が結成されたのは、「55年体制」崩壊後の

1994年である。

①55年体制は、与党である自民党と最大野党の社会党の対抗関係を軸とする二大政党制とみることができる。しかし、55年体制下における社会党の衆議院での議席数は1958年の総選挙における166議席をピークに、その後は伸び悩み、自民党のほぼ半分の議席数にとどまったため、「 $1\frac{1}{2}$ 政党制(1と2分の1 政党制)」と呼ばれた。②1970年代になると衆参両院で野党の議席が伸び、与野党伯仲という状況が生じた。ただし、自民党は政権を維持し続けた。③自民党内には、利害や考え方を同じくする者が集まって派閥が形成され、派閥間の激しい抗争が繰り返された。抗争に勝利した派閥は、党と政府の主導権を握り、総裁や幹事長などの党役員ポストや大臣ポストの人事において強い影響力を行使した。

問3 ②⑧

A ロッキード事件は、1976年にアメリカの航空機メーカーであるロッキード社が外国の航空会社への売り込みに際して各国の政治家に賄賂を贈っていたことがアメリカ議会において発覚したことに端を発した疑獄事件である。日本では、全日空の新型機導入をめぐる元首相の田中角栄らが逮捕・起訴された。

B サリドマイド事件は、1960年代に世界中で問題となった薬害事件である。サリドマイドはドイツの製薬会社が開発した医薬品で、これを用いた睡眠薬や神経性胃炎の薬が日本でも販売された。その後、妊婦が服用すると胎児に四肢の障害など深刻な影響を及ぼすことが判明し、大きな社会問題となった。

C リクルート事件は、1988年に発覚した贈収賄事件である。就職情報誌や情報通信分野の大手企業であるリクルート社の創業者が子会社の未公開株を自民党の有力政治家などに譲渡したことで起訴された事件で、当時の竹下内閣が退陣に追い込まれた。

以上から、正解は⑧となる。

問4 ②⑨

一般に、政権与党が衆議院では議席の過半数を占めているが、参議院では野党の議席を下回り、野党側が優勢となっている状況を「ねじれ」現象といい、政権与党にとっては国会の運営が難しくなる。こうした現象は、2000年以降では2007年～09年、2010年～13年にみられた。

⑤郵政民営化などの「構造改革」路線を打ち出したのは、自民党首班の小泉内閣(2001年～06年)である。⑥1994年に成立した村山内閣は、社会党、自民

党、新党さきがけの三党による連立内閣であった。また、1996年に発足した橋本内閣も自民党、社会党、新党さきがけの三党による連立内閣であった。2003年の第二次小泉内閣以降は自民党と公明党による連立内閣が続いている。④消費税は1989年の竹下内閣により導入され、そのときの税率は3%であった。その後、1997年に橋本内閣の下で税率が5%に引き上げられ、さらに2014年には安倍内閣の下で税率が8%に引き上げられた。今回の引上げは民主党の野田内閣の下で成立した社会保障・税一体改革関連法案に基づくものであったが、引上げが実施されたのは自民政権下である。

問5 30 ①

日本には有権者が国会議員を解職できる制度は存在しない。なお、地方議会の議員については、**直接請求権**の一つとして住民に**議員の解職請求権**が認められており、有権者が40万人以下の地方自治体の場合、有権者3分の1以上の署名を集めて選挙管理委員会に請求し、住民投票で投票者の過半数が解職を可としたとき、その議員は解職される。

②テレビや新聞などのマスメディアは、政治や社会についての情報を国民に伝達することで**世論**の形成に大きな影響を及ぼしており、こうして形成された世論は政治を動かす力となる。このように、マスメディアは政治に民意を反映させる有力かつ重要な役割を担っているため、「**第四の権力**」とも呼ばれる。③**日本経済団体連合会(日本経団連)**などの経営者団体や**主婦連合会(主婦連)**といった消費者団体は**圧力団体(利益集団)**として政党や行政に対して働きかけを行い、政治や行政に強い影響力を及ぼしている。圧力団体には以上の他、**日本医師会**のような職能団体や**日本労働組合総連合会(連合)**のような労働団体などがある。④特定の地方自治体にのみ適用される法律を**地方特別法**といい、国会がこの地方特別法を制定する場合には**住民投票**を実施してその**過半数の同意**を得なければならないことになっている(日本国憲法第95条)。

問6 31 ②

連座制とは、候補者と一定の関係にある者が選挙違反をして有罪が確定した場合に、候補者自身がその違反行為に直接に関わっていなくとも、候補者本人の当選を無効にし、一定期間、同一選挙区での立候補を制限する制度である。連座の対象者には親族だけでなく、秘書や組織的な選挙運動の管理者が含まれている。

①1925年に普通選挙権が認められたのは25歳以上の男子であり、日本で女性に選挙権が与えられたの

は第二次世界大戦後の1945年のことである。②新聞社やテレビ局といった報道機関が有権者の投票結果を調査することは禁止されていない。報道機関は、投票所の外で有権者の投票結果をアンケートで調査し(出口調査)、各政党の獲得議席数の予想や政治の今後の動向についての報道に活用している。④日本では以前から一票の格差の解消が求められてきたが、未だに解消されていない。しかし、議員定数の再配分や選挙区の区割りの見直しが行われてこなかったというわけではない。たとえば、2012年には衆議院の小選挙区の区割りの見直しが行われ、議席数が300から295に減らされた。

問7 32 ③

投票日に、仕事や旅行、レジャー、冠婚葬祭などで投票に行けない人が市町村の期日前投票所で事前に投票を行うことができる制度を**期日前投票制度**といい、2003年から導入された。また、選挙期間中に仕事や旅行で選挙名簿登録地以外の市町村に滞在している人は、**不在者投票制度**によって滞在先の選挙管理委員会で投票することができる。

①**重複立候補制**が採用されているのは参議院議員選挙ではなく、衆議院議員選挙なので誤りである。衆議院選挙では小選挙区選挙と比例代表選挙を組み合わせた**小選挙区比例代表並立制**が採用されており、小選挙区の立候補者を比例代表区における政党名簿に登録できるため、小選挙区で落選した立候補者が比例代表区で**復活当選**する場合がある。②近年、インターネットが広範に普及したことを受けて、**インターネット選挙運動**が解禁された。しかし、いくつかの制限が課せられており、全面的に解禁されたわけではない。たとえば、政党や候補者にはウェブサイトや電子メールを利用した選挙運動が認められるが、**有権者が電子メールを利用して選挙運動をすることは禁止**されている。また、有権者が選挙運動用のホームページや政党や候補者からの電子メールを印刷して頒布することも禁止されている。④仕事や留学などで海外に居住している有権者が国政選挙で投票できるように、**在外選挙制度**が設けられている。この制度によって、所定の手続きをすれば、在外公館(大使館や総領事館など)での投票や郵送により選挙権を行使できる。

第6問 日本の労働問題

【出題のねらい】

本問では、今日の日本にみられるさまざまな労働問題や労働環境の変化、労働法制についての知識と理解を試すことをねらいとしている。このテーマについて

は時事的な動向も重要なので、こうした面にも目を向けておこう。

【設問別解説】

問1 33 ①

アルバイト、パート労働者、派遣労働者などの非正規雇用労働者は、いずれの世代・性別においても増加傾向にあるが、とくに**若年層や高齢者における増加が著しい**。これは、若年層の場合、厳しさを増す雇用情勢^{あお}の煽りを受け、やむを得ず非正規雇用労働者として働くケースが増加してきたためである。他方、高齢者の場合は、定年後に非正規雇用労働者として再雇用されるケースが増加していることが主な要因である。以上のことから、**B**および**C**が15～24歳の男女いずれかであると判断できる。また、女性は結婚や出産を契機に正規雇用から非正規雇用へと雇用形態を切り替えることが多いため、**D**が35～44歳男性、**A**が35～44歳女性であると判断できる。なお、**B**は15歳～24歳女性、**C**は15歳～24歳男性であり、若年層においても女性の非正規雇用労働者比率が高くなっている。

問2 34 ④

高年齢者雇用安定法(高年齢者等の雇用の安定等に関する法律)は、高年齢者の安定した雇用の確保や再就職の促進を図り、経済および社会の発展に寄与することを目的としている。具体的には、65歳未満の定年の定めをしている事業主に対して、定年年齢を引き上げるか、定年以降の継続雇用を行うか、定年制を廃止するか^のいずれかの措置をとることを義務づけている。

①このような規定はない。②募集および採用については、年齢を理由に差別することは原則的に認められていないが、やむを得ない理由がある場合は、その理由を明示することで高齢者の募集および採用に年齢制限を行うことが認められている。配置および昇進については、高年齢者を差別してはならないという規定はない。③定年年齢は原則として60歳を下回ってはならないと定められている。

問3 35 ②

日本国憲法では**労働三権**(**団結権・団体交渉権・争議権**)が保障されており、これらを具体化するために、**労働三法**(**労働組合法・労働基準法・労働関係調整法**)やその他の労働関係法令が定められている。労働組合法は、労働組合の争議行為が正当なものと認められる場合であれば、犯罪に該当する行為(通常であれば威力業務妨害罪や強要罪などに該当する行為)があったとしても、刑事責任を問われない(**刑事免責**)ことを定めている。また、正当な争議

行為により使用者が被った損害についても、民事責任(損害賠償責任)が免除される(**民事免責**)と規定している。

①使用者が労働組合の運営に要する費用を援助することは、**不当労働行為**(使用者が労働組合の活動を妨害する行為)として禁止されている。不当労働行為には、この他にも、組合活動を行ったことを理由に使用者が労働者に対して不利益な取扱いを行うこと、使用者が労働組合に加入しないことや労働組合から脱退することを条件として労働者を採用すること(**黄犬契約**)、使用者が正当な理由なく団体交渉の申し入れを拒否すること、使用者が労働組合の結成や運営について介入を行うこと、労働者が労働委員会に不当労働行為について救済の申立てを行ったことを理由に不利益な取扱いを行うこと、などがある。③**労働委員会**は、労働組合と使用者との間の紛争の調整を図る**行政委員会**であり、労働組合の推薦を受けた労働者委員、使用者団体の推薦を受けた使用者委員、公共の利益を代表する公益委員によって構成される。なお、労働委員会は、労働関係調整法に基づき労使紛争の予防・解決を目的として労使双方の主張の調整を行うが、調整の方法には、紛争の解決について助言する**斡旋**、調停案を作成し受諾を勧告する**調停**(労使ともに調停案を受諾する義務を負わない)、労使双方を**拘束する**仲裁裁定を行う**仲裁**がある。④労働組合は、雇用形態を問わず労働者が2名以上集まれば、いつでも自由に結成することができる。

問4 36 ③

労働基準法には、生理日の就労の免除や、妊娠・出産にとって有害な業務の禁止などの**女子保護規定**が設けられているが、女性労働者を保護するためにかつて行われていた、**法定労働時間**(1日8時間、1週間40時間)を超える時間外労働・深夜労働・休日労働の規制は1997年に廃止されており、現在は行われていない。

①1985年に成立した**男女雇用機会均等法**は、使用者に募集・採用・配置・昇進について男女を平等に処遇するよう努力義務を課していたが、1997年の改正で女性差別の禁止へと強化された。また、同改正により、事業主に対し女性への**セクシャルハラスメント**の防止に向けた配慮義務が課された。②**育児・介護休業法**は、原則として1歳に満たない子を養育する男女労働者に対し育児休業の取得を認めている。なお、保育所がみつからない場合など特別な事情がある場合は1歳6か月まで、父母ともに育児休暇を取得する場合は1歳2か月までの1年間、育児

休業の取得を認めている。また、介護休業は扶養義務のある者を介護する際に取得でき、通算93日と定められている。④男女共同参画社会基本法は、男女が互いに人権を尊重しつつ、その個性と能力を十分に発揮することができる男女共同参画社会の実現を目的とし、内閣府に男女共同参画会議が設けられている。また、同法は各地方自治体に対して男女共同参画基本計画の策定を義務づけている。

問5 37 ④

「主に従事する職務や仕事内容」について「これまで重視したもの」と「今後重視するもの」を比較すると、42.1%から35.5%に減少している。したがって、企業が「主に従事する職務や仕事内容」を「これまで以上に重視していく」とはいえない。

①「年齢、勤続年数、学歴などの個人属性」は45.6%から19.6%へと大幅に減少している一方で、「企業に対する中長期的な貢献」は10.6%から30.0%に増加している。年功序列型賃金体系の揺らぎが企業の賃金決定要素の変化にもあらわれているといえる。日本では1990年代以降、長期にわたる不況の影響で企業はリストラクチャリングを進め、年功序列型賃金体系から成果主義の賃金体系へ移行する企業が増加した。それとともに、人件費を抑制できる非正規雇用労働者が幅広く採用されるようになり、雇用形態の多様化をもたらした。②「短期的な個人の仕事の成果や業績」は30.8%から25.1%へとわずかに減少しているが、「企業に対する中長期的な貢献」は10.6%から30.0%へと大幅に増加している。終身雇用制度の揺らぎを踏まえると、企業は今後も個人の短期的な成果や業績をより重視していくように思われるが、資料からは、企業は今後、短期的な成果や業績以上に中長期的な貢献を重視していくことが読み取れる。③「職務を遂行する能力」は他の項目に比べ重視する割合が最も高く、これまで重視されてきただけでなく、今後も重視されていくことがわかる。

問6 38 ①

労働基準法では、雇用形態にかかわらず労働者は年次有給休暇を取得できることが定められている。そのため、企業の就業規則に有給休暇についての定めがなくても、労働者は有給休暇の権利を主張することができる。ただし、パート労働者やアルバイトなどで、所定の労働時間・日数を満たさない場合は、労働日数に応じて休暇日数が減少する。

②最低賃金法は、1959年に制定された当初から、労働基準法に規定されている「労働者」（職業の種類を問わず、事業所に雇用され賃金を支払われる者）について、最低賃金を保障している。したがって、パート労働者やアルバイトの賃金の最低額も、同法制定時から保障されているので、「最低賃金法が改正され……最低額が保障されるようになった」という記述は誤り。③使用者がパート労働者やアルバイトを含む労働者に時間外労働や休日労働をさせる場合には、労働基準法第36条の規定により、労働者の過半数を代表する者、もしくは労働者の過半数で組織される労働組合と書面による協定（三六協定）を締結する必要がある。④派遣労働者は次のような手続きを踏み、派遣先企業で職務にあたる。まず、労働者派遣事業を営む派遣事業者（派遣元企業）は、派遣先企業との間で労働者を派遣することについて契約を結ぶ。ここで結ばれた契約に基づき、派遣元企業と雇用契約を結んだ労働者が派遣先企業に派遣され、派遣労働者は派遣先企業から職務上の具体的な指揮・命令を受ける。したがって、「派遣労働者は、派遣先企業と雇用契約を締結し」という記述は誤り。

問7 39 ④

A ワーク・ライフ・バランスとは、「仕事と生活の調和」を意味し、具体的には「国民一人ひとりがやりがいや充実感を感じながら働き、仕事上の責任を果たすとともに、家庭や地域生活などにおいても、子育て期、中高年期といった人生の各段階に応じて多様な生き方が選択・実現できる社会」（内閣府 Web ページによる）の実現を目指すものとされる。したがって、イがこれに該当する。

B フレックスタイム制とは、一定期間（1週、1月など）の総労働時間を定め、その範囲内で始業と終業の時刻を労働者が自由に選択できる制度である。1日の労働時間を、必ず勤務しなければならない時間帯（コアタイム）と自由に出勤退勤できる時間帯（フレキシブルタイム）とに分けるのが一般的である。したがって、ウがこれに該当する。

C SOHO (Small Office/Home Office) とは、自宅やその近くの比較的小規模な事務所などで働くことで、情報通信機器を活用し、時間や場所の制約を受けずに比較的自由な労働を行うテレワークの一種である。したがって、アがこれに該当する。

以上から、④が正解になる。

ようとしている」は、筆者は葉正則の言葉を肯定しているのだから、前半「葉正則の言葉に疑問を抱き」が誤りである。

⑤ 「筆者は葉正則の言葉に反発を覚えたため、徹底的に批判の対象にしようとしている」は、前半「葉正則の言葉に反発を覚えた」、後半「批判の対象にしようとしている」も、ともに葉正則の言葉を肯定するという方向ではないので誤りである。

⑥ 「筆者は葉正則の言葉に納得して、自分の議論の出発点としてしようとしている」は、前半「葉正則の言葉に納得して」、後半「自分の議論の出発点としてしようとしている」も、ともに本文の展開に沿った説明となっている。

したがって、正解は⑥である。

切である。

よって、傍線部後半を反語として読んでいる①と②を検討する。

①「この文は、『天下の愉快を治むる、孰か此を過たんと訓読し、『統治が安定している地方なら、誰も誤りを犯したりはしない』と述べる筆者は、『吏胥』が『州県之権』を独占することを問題視しつつも、それを排除する手立ては容易に見つかるものではないと解決の難しさを指摘している』は、『吏胥』が『州県之権』を独占することを問題視しつつも、それを排除する手立ては容易に見つかるものではないと解決の難しさを指摘している」という説明によって、州や県の弊害を認識しつつも、半ば解決を放棄し、解決策の提示を断念したという内容になり、本文の議論の展開とは方向の違った理解になってしまう。

②「この文は、『天下を治むるの愉快、孰れか此に過ぎん』と訓読し、『世を統治する楽しみは、これに尽きるであろう』と述べる筆者は、『吏胥』の『州県之権』を排除し、地域の事情に通じた官が『吏胥』を適切に管理することができてこそ善政がもたらされると唱えている」では、『吏胥』を適切に管理することができてこそ善政がもたらされると唱えている」とまとめている。本文では、傍線部A「使官 皆千里以内之人、習其民事、而又終其身任之」（もしも上級役人がすべて千里以内に居住する人であり、地域の人民の事情に習熟しており、さらに生涯にわたってその役職を務めるのであれば、以下で弊害の具体的な解決策について議論を起す）（問2の解説を参照）、傍線部Eの直前の傍線部Dで「将一旦而尽去」（すぐに跡形もなく消えうせるであろう）と、自身の解決策に従えば弊害が解消すると述べている（問4および問5の解説を参照）のだから、本文の筆者の議論と何ら矛盾しない。

したがって、正解は②である。

問7 理由説明の問題

筆者が本文冒頭に葉正則の言葉を引用した意図については、葉正則の言

葉の内容を押さえたうえで、本文の論の展開に沿って考えなければならない。

葉正則の「今天下官無^ニ封建^ニ而吏有^ニ封建^ニ」という言葉は、「今の世の中では（中央から派遣される）上級役人（の世界）には地位や役職の世襲はないが、（現地採用される）下級役人（の世界）には地位や役職の世襲がある」と解釈できる。この葉正則の言葉を、筆者は本文冒頭で「善乎、葉正則之言」（よいものであるな、葉正則の言葉は）と肯定している。そして、この言葉をふまえて、議論は以下のように展開されている（本文解説）を参照。

現地採用の下級役人が地位や役職を世襲していることを、州や県の弊害として把握（「州県之蔽」）。

州や県の弊害について具体的に詳述（「吏胥窟^ニ六^ニ其中^ニ」から「而不^レ能^レ去^レ也」まで）。

筆者自身の弊害解決策の提示と説明（「使^メ官^バ 皆千里以内之人^ニ」から「孰^レ過^ニ於此^ニ」まで）。

以上を踏まえて選択肢を検討する。

②「筆者は葉正則の言葉に感銘を受けて、自分の主張の結論としてとしている」は、前半「葉正則の言葉に感銘を受けて」は本文の内容と矛盾しないが、筆者は本文末で解決策を提示しているのだから、後半の「自分の主張の結論としてとしている」が誤りである。

③「筆者は葉正則の言葉に共感しつつも、反論の余地を見出そうとしている」は、前半「葉正則の言葉に共感し」は誤りではないが、後半「反論の余地を見出そうとしている」が、筆者は自分の議論の導入としてしようとしているのであって反論を試みているわけではないのだから誤りである。

④「筆者は葉正則の言葉に疑問を抱きながらも、自分の考察の論拠にし

形に留意しつつ、返り点を手がかりにして傍線部の句の構造を正しく捉え、一応の解釈をしたうえで、選択肢を検討する。

留意すべきは、「将」「一旦」「尽」の用法・意味である。「将」には、名詞として「将」（軍を率いる長・將軍）、動詞として「ひきふる」（率いる）、副詞として「はた」（それとも・あるいは）など様々な用法があるが、傍線部では「二点を施して「去」から「将」に返って読むように指示してあるので、名詞や副詞としての用法は除外して考えてよい。さらに選択肢を確認すると、「率いる」の意味に相当する語を含んだものはない。したがって、ここの「将」は再読文字「将」（いまにも――しようとする・――しそうだ）（② 基本句形）の該当項目を参照）であると判断する。

そこで、まず再読文字「将」の意味に注目して選択肢を検討する。①「……（する）べきである」は「当」・「応」の意味である。②「……（する）のがよい」は「宜」の意味である。③「……（する）わけではない」は、再読文字「将」の完全な誤訳である。④「……（する）必要がある」は「須」の意味である。結果的に正解の候補として残るのは、⑤「すぐに跡形もなく消えうせるであろう」だけであるが、念のために「一旦而尽去」の部分の解釈についても確認する。

⑤は「一旦」を「すぐに」と解釈しているが、確かに「一旦」は短い時間の喩えの語として「すぐに・にわかに」という意味で用いられることがある（① 重要語）の該当項目を参照。接続語「而」を挟んで、「尽去」の解釈は、動詞「去」が修飾している構造を捉えられれば、「尽」には「すべて・みな・すっかり」という意味があるのだから、「跡形もなく消えうせる」という解釈は正しいと分かる。さらに、傍線部直前の句「昔人所謂養百万虎狼於民間者」（昔の人の言う「百万頭もの虎や狼を民間に飼う」ということは）との意味のつながりも正しく（問4の解説を参照）、文脈が成立する。

以上から、傍線部は「すぐに跡形もなく消えうせるであろう」と解釈でき、「将一旦而尽去」と読むことが分かる。したがって、正解は⑤である。

問6 読み方と筆者の主張の説明の問題

いずれの選択肢にも傍線部Eの読み方と解釈が提示されているので、まず傍線部の読み方と解釈の成立するものを選び、そのうえで筆者の主張の説明を検討すればよい。

傍線部Eの前半「治天下之愉快」については、①、②の「天下の愉快を治むる」↓「統治が安定している地方」、および③、④、⑤の「天下を治むるの愉快」↓「世を統治する楽しみ」という二種類の読み方と解釈に分かれている。このうち、①、②の「統治が安定している地方」という解釈は、かなり唐突な感があるものの、文脈からは成立しそうで、一見判定しにくいかもしれない。そこで、後半の「孰過於此」の読み方と解釈を考える。

まず、「孰」は「孰（どちらが・どれが）」、あるいは「孰（誰が）」という用法のある疑問詞であるから、「孰過於此」は疑問形か反語形かのどちらかであると判断できる。ところで、本文は州や県において下級役人が権力を専横している弊害を述べたうえで、筆者が自身の解決策を提示した文章である（本文解説を参照）から、本文末尾の一文である傍線部Eは、筆者の議論の結びとなっているはずなので、疑問形ではなく反語形であると判断したい。

そこで、反語形を念頭に置いて選択肢を検討する。反語形の文末・文末の読み方は「未然形＋ん（＋や）」であるから、①「孰か此を過たん」、②「孰れか此に過ぎん」は、どちらも反語形の読み方として成立するが、②「孰か此を過ぐる」（文末が「連体形」と④「孰か此に過るや」（文末が「連体形＋や」）は疑問形の読み方であり、③「孰れか此に過ぎんか」（文末が「未然形＋ん＋か」）は疑問推量の読み方であるから、いずれも不適

その役職を務めるのであれば」と読んでいる④が正解である。

問3 書き下し文の問題

問2と同様に白文の訓読が問われているので、まず、基本句形や重要語に注目し、構造を正しく捉える。注目するのは「無」と「所以」である。それぞれ「無」――「所_レ以_レ」という構造・読み方をとる語であるが〔1〕重要語 および〔2〕基本句形 の該当項目を参照、「無」が「所以把持其官」のどこまでかかるのか判断しにくい。そこで、「所_レ以把持」の箇所から考える。「所以」の直後に「把持」とあるので、「所_レ以把持」と読みたくなるが、「把持」から「所以」に返ってしまつと、「其官」の処理が難しくなり、⑤のように「其の官あらば」などと「あらば」を送って無理な読み方をせざるを得なくなってしまう。そこで「其官」を「把持」の目的語であると考えてみる。「把持」は「しっかりと握る・掌握する」という意味であるから、「所_レ以把持其官」と読み、さらに「所_レ以把持其官」の直前に「無」があることから、「無_レ所_レ以把持其官」という方向で読めば、「（下級役人は）自分の（上役の）上級役人を掌握する手段がない」という意味となり、文脈にも合致する。

したがって、②、③、④、⑤はいずれも傍線部の構造を誤って捉えた読み方になっていることは明らかであり、傍線部の構造を正しく捉えている①の読み方が正しいことになる。なお、傍線部の後に接続語の「而」が続いているので、「無」を「……無し」という終止形ではなく、「……無くして」と読んでいることにも留意したい。①「吏其の官を把持する所以無くして（吏無_レ所_レ以把持其官）」が正解である。

問4 比喩の問題

「虎狼」という喩えによって筆者が指し示しているものを問う問題であるから、まず、傍線部を含む一文の意味を正しく解釈し、その解釈を踏まえて「虎狼」が指すものを考える。

傍線部「虎狼」を含む一文の前半「昔_レ所謂養_レ百万虎狼於民間_ニ者_ハ」

は、「所謂（俗に言う）〔1〕重要語」の該当項目を参照）に留意して解釈すると、「昔の人の言う『百万頭もの虎や狼を民間に飼う』ということ」となる。次いで、後半の「将_ニ一旦而尽去_一」を、再読文字「将_ニ」――（いまにも――しようとする――しそうだ）〔2〕基本句形 の該当項目を参照、および重要語の「一旦（すぐに・にわかに）」と「尽（すべて・みな）」（それぞれ〔1〕重要語）の該当項目を参照）を踏まえて解釈すれば、「すぐに跡形もなく消えうせるであろう」となる（傍線部D「将_ニ一旦而尽去_一」については、問5の解説を参照）。

ところで、「虎狼」（虎や狼）は餌食となる動物ばかりでなく、人をも傷つけ、時には食い殺してしまうことさえある猛獣である。そのような猛獣の「虎狼」を、しかも百万頭も人々の大勢暮らす民間で飼ったりすれば、地域の人民への被害は甚大なものとなる。つまり、「養_レ百万虎狼於民間」とは、人民が大きな被害を被っている状況を述べているのであり、そのような劣悪な状況について、筆者は「将_ニ一旦而尽去_一」（すぐに跡形もなく消えうせるであろう）と推測しているのである。ここで、本文の論理の展開を確認してほしい。筆者は、州や県において「吏・吏胥・書吏（下級役人）」が「官（上級役人）」を差し置いて権力をほしいままにしていることの弊害について詳述したうえで、筆者自身の解決策を訴えているのである（本文解説を参照）。したがって、傍線部の「虎狼」が、州や県の人民を苦しめている「吏・吏胥・書吏」を喩えたものであることは明らかであろう。よって、正解は①「吏胥」である。

『史記』項羽本紀に「夫秦王有虎狼之心」（あの秦王は虎狼「のような欲深く残忍な」心を持っている）という一節がある。漢文では、「虎狼」が「欲深く残忍な者」の喩えとして用いられることがあるので、これを機に併せて確認しておこう。

問5 解釈の問題

解釈の問題であるが、送り仮名が省略されているので、重要語や基本句

体形を、それぞれ表す。

【設問解説】

問1 語の意味の問題

選択肢を見ると、(1)「御」、(2)「循」のいずれについても動詞としての意味を問われていることが分かるので、動詞としての意味に限定して考えればよい。

(1)「御」は、動詞としては「をさむ」「ぎよす」などと読んで、「統べる・てなすける・あやつる」、或いは「はべる」「用いる」などの意味があるが、①「勧告する」、③「拔擢する」、⑤「容認する」などの意味はない。④「処罰する」が、「統べる」とやや紛らわしいが、「統べる」は、「統御する・てなすける」という意味なので、「処罰する」とはやはり意味が異なる。したがって、②「統率する」が正解である。

(2)「循」には、動詞としては「したがふ（したがう・踏襲する）」「そふ（寄り添う）」「めぐる（あちこちとまわる）」などの用法があるが、①「加える」、③「慣れる」などの意味はない。また、④「逆らう」では、「循」と正反対の意味になってしまう。⑤「頼る」が紛らわしいが、「循」の目的語が「其法」であることを考慮すれば、排除できるだろう。したがって、②「従う」が正解である。やや難しい問題であるかもしれないが、傍線部を含む「自循其法」という句全体の意味を考えると判断しやすい。

問2 返り点と読み方の問題

設問箇所が白文である場合には、選択肢に頼り切ったり、やみくもに字の意味を拾い集めて文意を憶測したりするのではなく、基本句形や重要語に注目し、構造を正しく捉えることが肝要である。

まず、傍線部の冒頭に「使」が置かれていることに注目する。「使」が用いられている時には、「使_ニA_ヲB_ニ」（AにBさせる）という使役形を想定してみることが大切であるが、ここでは、傍線部の直後に条件を受ける

「則_ス」という語があり、(1) **重要語** の該当項目を参照)、さらに「則」を含む「則上下弁而民志定」という句の末尾が、「定」と推量形で読まれていることに留意する。つまり、傍線部は使役形ではなく仮定形であり、傍線部の直後の「則」以下が仮定条件を受けた結論の句だと判断できるかがポイントである。(2) **基本句形** の該当項目を参照)。よって、傍線部は「使_ニA_ヲB_ニ」と読み、「もしAがBしたら」という仮定の方向になる。また、「使」の直後に名詞「官」（上級役人）が置かれており、さらに「官」の直後は副詞「皆」であることから、「官」が「A」にあたり、「官をして」と読まなければならない。

以上をふまえて選択肢を検討してみよう。まず、①「使とせしめば」、②「使せしめ」は、「使」が「使」と「しむ」の二つの意味になっており、適当でない。また、②と⑤は「官」の箇所をそれぞれ「官の……」、「官は……」と読んでおり、「官をして」という使役の表現を用いた仮定形の読み方に従っていないので、誤りである。

次に、③、④の末尾の読み方を確認する。ここで注意したいのが、傍線部とその直後の「則」とのつながりである。先にも述べたように、ここでは、「則」は仮定条件を受ける語として働いているから、傍線部全体が仮定条件となっている。つまり、傍線部は「使_ニA_ヲB_ニ」の「B」の箇所が、「皆千里以内之人」「習其民事」「而又終其身任之」の三つの句から成っており、「使_ニA_ヲB_ニ」という構造になっているのである。

したがって、「而又終其身任之」の句を読んだから、「使」に返って「……しめば」と読むことになる。

この点から検討すると、③は「習其民事」から「使」へと返ってしまっているうえ、「使」の読み方も「……しめ」と仮定条件の読み方になっていないので、誤りである。よって、「而又終其身任之」から「使」へと返って「官をして皆千里以内の人にして、其の民事に習ひ、而して又た其の身を終るまで之に任せしめば」（もしも上級役人がすべて千里以内に居住する人であり、地域の人民の事情に習熟しており、さらに生涯にわたって

世襲がある」と。(葉正則の言葉のとおり) 州や県の悪弊は、下級役人が州や県を根城とし、父が子に自分の地位や役職を引き継がせ、兄が弟に自分の地位や役職を引き継がせていることである。さらに下級役人の中でもとりわけ悪賢い者は、昇進して地方の民事・財政・司法の文書を管理する下級役人となつて、州や県の権力を掌握する。上に立つ人(Ⅱ高官)は州や県のこうした状況が世の大いなる害悪であることをはっきりと承知しているが、(それを)取り除くことができないのである。もしも(州や県の)上級役人がすべて(それぞれの州や県の)千里以内に居住する人であり、地域の人民の事情に習熟しており、さらに生涯にわたつてその(任ぜられた)役職を務めるのであれば、上級役人も下級役人も職分をわきまえ民心は安定するであろうし、わずらわしい法規も整頓されて下級役人の職務も簡素になるであろう。(そうやって)上級役人の力が下級役人を余裕をもつて統率することができるようになれば、下級役人は自分の(上役の)上級役人を掌握する手段がなくなつて自然と法律に従うようになるであろう。昔の人の言う「百万頭もの虎や狼を民間に飼う」という状況は、すぐに跡形もなく消えうせるであろう。世を統治する楽しみは、これに尽きるであろう。

【重要語・基本句形】

○ (1) 重要語	——をを使って・で「手段」／——なので・で「理由・原因」／——を「目的語」
○ 以 ^{もつて} 「——」	——を「目的語」
○ 而 ^{しかせ} 「——」	——を「目的語」
○ 而 ^{しかせ} 「——」	——を「目的語」
○ 尤 ^{もつて} 「——」	——を「目的語」
○ 則 ^{ハすなはチ} 「——」	——を「目的語」
○ 則 ^{ハすなはチ} 「——」	——を「目的語」
○ 則 ^{ハすなはチ} 「——」	——を「目的語」
○ 為 ^な 「——」	——を「目的語」

○ 為 ^{なり} 「——」	——である
○ 以 ^{シテ} 「——」	——して、それで……して、そして……
○ 不 ^ず 能 ^{あたハ} 「——」	——(することが)できない
○ 又 ^{また} 「——」	さらに・そのうえ
○ 足 ^{たんに} 以 ^{もつて} 「——」	十分に——できる・——に値する
○ 所以 ^{ゆゑ} 「——」	——(する)理由・原因／——(する)手段・方法
○ 自 ^{おのづから} 「——」	自然に・当然
○ 所謂 ^{いはゆる} 「——」	一般に言われる・俗に言う「言葉の引用を示す」
○ 者 ^は 「——」	——は・——の場合は「意味上の主語・話題主語を示す」
○ 一旦 ^{いったん} 「——」	ある朝・ある日／すぐに・にわかに「短い時間」／ひとまず
○ 尽 ^{こつこと} 「——」	すべて・みな・すっかり
○ 過 ^す 「——」	——よりもすぐれている
○ (2) 基本句形	
○ 乎 ^ナ 「——」	□であるな、——は「詠嘆形」
○ 無 ^な 「——」	* 乎Ⅱ哉
○ 使 ^シ 「A B」	* 「——」の後に「也」が置かれることもある。
○ 將 ^{まさ} 「——」	——がない「否定形」
○ 孰 ^{いづレカ} 「——」	もしAがBしたら「仮定形」
	いまにも——しようとする・——しそうだ／——するつもりだ「再読文字」
	どちらが——しようか(「いやどちらも——しない」)「反語形」

※ (セ)は活用語の未然形、(シ)は活用語の連用形、(スル)は活用語の連体形、(スレ)は活用語の已然形、(ナル)は形容詞・形容動詞の連

第4回 漢文

【出典】

顧炎武『亭林文集』全六卷。顧炎武（一六一三—一六八二）は、明末清初の学者。江蘇昆山（現在の江蘇省昆山市）の出身。字は寧人、亭林と号した。幼少から學問に励み、国家の典制（制度や規則）、天文、兵法、農業などの分野に精通したが、郷試（各地方で実施される官吏登用の第一次試験）には合格できなかった。清の南下により明が滅ぶと、反清運動に参加、清朝が中国本土を支配して以後も「国恩を忘れてはならない、異民族に仕えてはならない」との母親の遺言に従って仕官せず、各地を周遊して見聞を広め、読書と著述に専念した。「經世の実学」（世の中の實際に役立つ學問）を唱え、清朝の考証学（古典を客観的に解釈して帰納的に結論を導くという方法で、文物制度を明らかにする學問）への道を開いた。代表作に『日知録』『天下郡国利病書』などがある。『亭林文集』は、その書名のとおり顧炎武の文集である。テーマは多岐にわたり、その博学ぶりが窺える。本文は卷一「郡県論・八」から採った。

【本文解説】

本文は、顧炎武の「郡県論」と題する全九編から成る連作評論の第八編である。南宋の文人、葉正則の言葉を枕にして、州や県における地方統治の問題点を指摘し、顧炎武自身の解決策を訴えた文章である。

顧炎武は、「州県統治の責任者である官（上級役人）」には地位や役職の世襲が行われていないが、実務を担当する吏（下級役人）は地位や役職を世襲している」との葉正則の言葉に、「善乎、葉正則之言」と賛同の意を加えている。つまり、州県統治の問題点を端的に指摘した言葉として引用しているのである。次いで、下級役人の中でもとりわけ悪賢い者が民事・財政・司法の文書を管理する役人となって州県の権力を牛耳っていることを指摘し、さらに、そうした状況が天下の大害であることを知りながら解決できないままである上級役人にも批判の矛先を向けている。

以上の現況を踏まえて、筆者は、Ⅰ「州県の上級役人は担当の州県の比較的近隣（本文では「千里以内」と表現されている）の出身者であること」、Ⅱ「州県の上級役人は地域の民事に通じていること」、Ⅲ「州県の上級役人は任期を終身とすること」という三つの条件を提示し、この条件が満たされれば、上下の職分も明確化し、法令や規則も簡略化され、民心も安定し、そして上級役人は十分に下級役人を統率できるようになって、州県の権力を下級役人が専横するという弊害は解消されるはずだと唱えている。要するに筆者は、州県の統治を、中央から派遣されて任期を務めるだけの者に任せるのではなく、地域の事情に明るく地域に根差した者に長期にわたって任せるよう改めよと訴えているのである。

上級役人が長期間同じ役職につくという点については、それに伴う弊害もあるが、下級役人の悪弊に苦しんでいた州県の統治を、学者の立場から何とか改善しようと考えていた顧炎武の議論にも一理あるだろう。

【書き下し文】

善きかな、葉正則の言や。曰はく、「今天下官に封建無くして吏に封建有り」と。州県の蔽は、吏胥其の中に窟穴し、父是を以て之を子に伝へ、兄是を以て之を弟に伝ふるなり。而も其の尤も桀黠なる者は、則ち進みて院司の書吏と為りて、以て州県の権を撃す。上の人明らかに其の天下の大害たるを知るも、去る能はざるなり。官をして皆千里以内の人にして、其の民事に習ひ、而して又た其の身を終ふるまで之に任ぜしめば、則ち上下弁じて民志定まらん。文法除かれて吏事簡ならん。官の力以て吏を御するに足りて余り有れば、吏其の官を把持する所以無くして自ら其の法に循はん。昔人の所謂百万の虎狼を民間に養ふは、將に一旦にして尽く去らんとす。天下を治むるの愉快、孰れか此に過ぎん。

【全文解釈】

よいものであるな、葉正則の言葉は。（葉正則は）言っている、「今の世の中では上級役人には地位や役職の世襲はないが、下級役人には地位や役職の

らかに異なる記述を確認していくとよい。

①は、「今さらに神も公も知り聞こえさせ給ふべきにあらず」(「第一段落」4行目)を、「自分でも源氏宮をどうすればよいのかわからなくなつた」とするのが間違い。この引用箇所直後に「思しもかけたらず」とあるように、この時、殿は、源氏宮の入内を中止して齋院にするなど思いもよらない様子である。また、「御内裏参りやいかなるべきことにか」(「第一段落」2・3行目)についても、「源氏宮の入内を推し進めようとする人々の声」とは言えない。引用部分は「入内はどのようになるはずのことだろうか」と、源氏宮の入内が実現しないかもしれないという噂を述べているのだが、それを言う人々が、源氏宮の入内を推し進めようとしているのか、好ましくないと思っているのかは、本文に書かれていない。

②は、二箇所の引用部分(「第二段落」1行目・「第二段落」2行目)を帝の容姿についての記述だとする点が間違い。これらはいずれも源氏宮の容姿についての記述である。「宮の御かたち、このごろはいとど盛りに……」と源氏宮の容姿についての記述が、そのまま一箇所の引用部分に続いているのである。二箇所目についても、「帝と申すとも……御目はおどろかせ給ひなむかし」と、帝が源氏宮を見て驚くだろうと述べている部分にあるため、源氏宮の容姿についてのものであることがわかる。

③は、「不審に思う母宮から強く問いただされて、恐ろしい夢を見たので厄除けの祈りをさせてほしい、と打ち明けた」とあるのが誤りである。本文には「母宮にも聞こえさせ給はで」とあり、源氏宮は夢について母宮に話していない。また、「殿の内におびたしき物のさとし」(「第二段落」4・5行目)について、母宮が何らかの行動を起こしたとは書かれていないし、母宮の行動を受けて源氏宮が厄除けの祈りを希望したとも書かれていない。

④が正解。二つの引用箇所(「第三段落」2行目・「第三段落」4行目)は、いずれも大将の心中部にあるので、この心中部を見てもよい(この箇所の大將の心情については、問4の解説も参照のこと)。心中部冒頭の

「とやかくやと身一つを思ひくだけながら」は、選択肢の「叶わぬ恋に苦しみ続け」に該当する。次に、引用箇所を含む「親たちの思しよらぬありさまにて、ほのかに見奉りそめても」について、男が女を「見る」という場合、男女の契り結ぶことを意味し、「ほのかに見奉り」とは、大將が源氏宮と契り結ぶことを意味する。したがって、選択肢の「親たちの思しよらぬありさまにて」源氏宮と契りを結ぼうか」と大將が考えたという記述は正しい。さらに、本文では、そのように源氏宮と契りを結んだ場合に、「さらば、さてもあれ」とは、必ず思し許さぬやうはよにあらじ」と、大將は考えている。「思し許さぬ」の主体は、大將の心中部で尊敬語が用いられていることや、大將と源氏宮との契りを許す立場にある人物だということから、大將の両親と考えられ、大將は、自分と源氏宮との関係について両親が許さないことは「よにあらじ(＝けっしてあるまい)」と考えているのである。これが、選択肢の「きつと両親に許してもらえだろうと期待した」という内容と一致する。本文で、この部分に続く「御心のうちども」とは両親の心の内のこと、「明け暮れ思し乱れむ」の主体も両親と判断できるから、大將は、両親が自分たちの関係を許してくれる一方で、「思はずにもあるかな(＝思いがけないことだなあ)」と思ひ乱れるだろうと思っているものであり、このことは、選択肢の「両親が苦しむことになるだろう」という記述と一致する。以上のことから、この選択肢の説明がすべて正しいとわかる。

⑤は、源氏宮が「げに神代より筋ことなりける」(「第三段落」5行目)我が身の境遇を痛感したというのが誤り。引用部分は、作者が大將の心情を述べるなかで、大將の視点に寄り添って源氏宮の宿命について説明した部分であって、源氏宮の自分自身に対する認識を示した部分ではない。また、「思ひかけずあさましきこと」(「第四段落」3行目)は、源氏宮が齋院に決まったこと(問5の解説参照)についての「世の中」の反応を述べた部分で、ここについても、選択肢が「源氏宮は……思い知った」と、源氏宮の心情として説明している点が間違いである。

しんだこれまでの日々を、むなしく感じている」と、大将の心情について過去を振り返るもののように説明する点が、今後の恋の成就への希望を失っていることを示す本文の記述と違っている。

④は、Aの「明けても暮れても帝を妬ましく思つて心を乱して」が、源氏宮の入内中止によつてむしろ帝への嫉妬から解放される方向にある大将の心情とは逆のことを述べており、Bは「苦惱はいつまでも続く」と大将が考えているとする点が、本文に根拠を持たない。

⑤は、Aで源氏宮と自分が「とうてい釣り合わない」という記述に関して本文中に根拠がなく、「何も考えられず茫然とした気持ち」が「胸あく」の意と合わない。Bの来世での恋の成就を願つて「仏道修行に励むべきだ」という記述も本文の内容とまったく異なる。

問5 内容説明問題

傍線部の「定まり給ひぬる」は、「決まりなされた」と訳せる。何がどのように決まったのかを確かめるために、傍線部が含まれる「第四段落」の内容を整理してみると、

I 帝が夢を見て、その内容に驚く。

II 帝は、殿に相談して、占いをさせる。

III 占った結果、朝廷・殿の両方にとつて将来が末永くすばらしいはずだとの吉兆が出る。

IV これ以上評議のしようもなく、「定まり給ひぬる」という決着に至る。

となる。

本文の「第二段落」でも、源氏宮の入内の話が進む中での、源氏宮や殿の「夢」の話が述べられている。源氏宮の夢の内容は示されていないが、殿の夢は、問3の解説でも述べたように、源氏宮を齋院にせよという神の意向を示すものであった。また、「第四段落」1行目の「御心のうちども」は、夢を見た帝と、相談を受けた殿との「御心のうちども」であると考え

られ、源氏宮の入内を進めようとしていた帝と殿の二人がともに「いと口惜しけれ（「たいそう残念だ）」という気持ちであったというのである。

ここから、前記Iの帝の夢の内容は、「第二段落」の殿の夢と同様、源氏宮を齋院にせよというものだったと考えられる。すると、最終的に決まったことは、源氏宮が齋院になることだと考えるのがふさわしい。すなわち、「第四段落」は、帝も殿も、源氏宮を入内させたかったが、帝の夢を占ったところ、源氏宮を齋院にすることが、帝にとつても殿にとつても将来末永くすばらしいことだという結果だったので、誰もそれに異議を唱えることもできず、源氏宮が齋院になるということが決まった、といういきさつを記しているのである。以上の内容を説明した選択肢は⑤で、これが正解である。

以下に、その他の選択肢の不適切な点を確認しておく。

①は、帝が「殿からも同じ夢を見たと言われた」という部分は、本文に根拠がない。また、「帝と殿には必ず凶事が起こる」という占いの結果が、IIIの内容とは逆である。

②は、帝と殿が「同じ時期に夢を見た」という記述について、本文に根拠がない。また、「源氏宮の入内が決まった」という結論が明らかな誤りである。

③は、「殿に相談しても適切な意見が得られなかったのだ」とする、占いに至るまでの経緯の説明が、IIの内容と異なる。

④は、源氏宮の処遇について「殿が……同意した」という記述がI・IVの内容に合わない。さらに、夢占いを無視した場合に「源氏宮に不吉なことが起こるかもしれない」という部分がIIIと異なる。

問6 内容に関する説明問題

14年度センター試験古文では、近年問6の定番となっていた表現と内容に関する説明問題ではなく、内容のみに関する説明問題が出題された。選択肢ごとに本文からの引用部分とそれについての説明を吟味し、本文と明

よって、この傍線部は、「心が晴れる気持ちがなさる一方だ」という意味になる。選択肢を見ていくと、①の「心が軽くなった」は前記の「胸あく」の意味に合うが、②「あきらめようとして」、③「自暴自棄に陥って」、④「心を乱して」、⑤「何も考えられず茫然とした気持ちになって」は「胸あく」の解釈としてすべて不適当である。以上から①が正解である可能性が高いと思われるが、傍線部の前に述べられている内容の検証もしてみよう。

【第三段落】は、源氏宮への叶うことのない恋心のために長年「思ひ嘆かれ」ている大将の心情が描かれているが、その後には、「神代より筋ことなりける御宿世なりければ」とあるのは、源氏宮を斎院にすることを促すような殿の夢の話聞き、源氏宮について「神代の昔から血筋が格別であつた宿命だつたので」と、斎院になるべき宿命であつたと思つてゐるというのである。斎院となれば、少なくとも入内の話は立ち消えとなる。傍線部Aの前の行の「今はなかなか心やすくして」は、【第二段落】最終行の「なかなか心やすくうれしくぞなり給ひぬる」と同じで、源氏宮が斎院になることをかえって喜ぶ大将の心情を示している。その後には、「明け暮れ妬うやましき心のうちはあらじ」とあり、これが傍線部Aの心情の具体的な内容になるわけだが、そもそも、なぜ大将がこの時苦しんでいたのかというと、前書きにあるように「源氏宮が……帝の妃として入内する」という話を聞いていたからである。したがって、ここで「妬うやましき心のうち」というのは、源氏宮が入内した時の大将の苦悩を指していることがわかる。大将は、源氏宮が斎院になれば、そのような苦悩は「あらじ（ないだろう）」と期待して、心が晴れる気持ちになつてゐるのである。選択肢①は、この苦悩を「帝への嫉妬」と説明し、そこから逃れられると考えて「心が軽くなった」としており、この傍線部までの本文の内容と合致する。しかし、他の選択肢はどれも、源氏宮の入内が中止になつた場合に今の苦悩から解放されるだろうという大将の期待を述べていないため、間違ひであるとわかる。

傍線部Bについても確認しておこう。傍線部Bは、その直前の「いかに定めて……はるかなるにこそは」が、その心情の具体的な内容だから、この部分を解釈しよう。まず、ここは大将が源氏宮とのことをあれこれ考えている場面であるから、「いかに定めて、いかに嘆くにか（Ⅱどのように決めて、どのように嘆くのだろうか）」も、二人の関係についてのことだとわかる。その次の「あらば逢ふ世」は、（注18）にあるように、古歌を踏まえた表現で、この歌は「なんとかしてしばらく忘れたい。（恋死にせずに）命だけでもあるならば逢う時があるかもしれないから」といった意味である。よって、「あらば逢ふ世の限りだになく」とは、「生きていれば逢えるという目処さえ立たず」ということである。「ここの年ごろ」は「多くの年月」、「我が思ひくだけつる筋」の「筋」とは、「の」の方面のこと」との意で、ここでは源氏宮とのことを指す。「はるかなる」は隔たりを表す形容動詞で、ここでは「はるか手が届かない」といった意味である。この部分を通して訳すと、「生きていれば逢えるという目処さえ立たず、多くの年月自分があれこれと思い乱れていた源氏宮とのことは、はるか手が届かないことになるのだろう」となる。つまり、大将は、源氏宮が斎院になつてしまえば、入内が中止になり、嬉しい一方で、長年の自らの恋の成就も見込めなくなることを嘆いているのである。選択肢①は、この傍線部Bの心情をも十分に説明している。したがって、正解は①であると考えられる。

念のため、不正解の選択肢について詳細をまとめておく。

②は、A「胸あく」を「あきらめようとしてゐる」とする点が誤りで、Bの「帝が源氏宮を入内させることを断念してくれたら、自分にも源氏宮と結婚する可能性があるのではないか」という「一縷の望み」が本文の内容と合わない。

③は、Aの全体、特に「源氏宮が斎院になろうが入内しようがどうでもよいと自暴自棄に陥つており」が「胸あく」の意味とも、源氏宮の入内の中止を期待する大将の心情とも合っていないし、Bの「源氏宮を思つて苦

と整理できる。これを満たす選択肢は②・⑤であり、②が正解であることが確かめられる。

問3 理由説明問題

傍線部X「いどもの恐ろしく思われて」と殿が思った理由を説明する問題である。

まず、傍線部の直前に「殿の御夢にも、……と見給ひて、うちおどろき給へる心地」とあることから、殿は夢を見たために、恐ろしく思ったのだという内容が読み取れる。しかし、選択肢①・②に関しては、いずれも殿や源氏宮が賀茂神社の禰宜や神からのメッセージを受け取ったのを現実の出来事としているので、不適当である。

次に、その夢の内容に関しては、本文には、「賀茂神社から」と言っており、禰宜と見受けられる人が参上して、禰の枝に挿してある手紙を源氏宮の御もとへ差し上げる」という内容が書かれている。この内容に対して、選択肢③の「賀茂神社の神から源氏宮に宛てた手紙に……書かれている」と、選択肢⑤の「賀茂神社の神から……お告げを受けた」は矛盾しない。しかし、選択肢④の「賀茂神社の禰宜が……よこした手紙に……記されていた」は、本文で、禰宜が手紙の差出人ではなく、単に手紙を届けに来た使者として登場していることと矛盾する。このことから、選択肢④は不適当であるとわかる。

そこで、その夢で送られた手紙の内容を考えよう。手紙には、
神代より／標引きそめし／榊葉を／我よりほかに／誰か折るべき
という歌が書かれていた。「そむ」は「初む」と書き表わされ「し始める」と訳せることを踏まえ、(注17)などを参考にすると、この歌は次のように解釈できる。

はるか神代の昔から注連縄を引き始めた榊葉を、私より他に誰が折ることができるか。

この夢は、次の斎院に誰がなるかが世間で話題になり、源氏宮の身の上

について様々な兆しが現れるという状況で、殿が見たものであることを考え合わせると、「はるか神代の昔から、注連縄を引き始めた榊葉」が源氏宮を指すこと、「私より他に誰が折ることができるか」は、「誰も折ることができない」という趣旨の反語表現であること、歌全体としては、賀茂神社の神が自分以外の何者にも源氏宮を渡すつもりがないことを示していることがわかる。選択肢④は、「榊葉」を文字通り「榊」と解釈しており、歌が比喩的に示している内容に触れていないところからも、不適切であることが確かめられる。

さらに、手紙の内容で、歌の後に書かれた「よしこころみ給へ。さては、いと便なかりなむ」を解釈してみよう。「便なかり」は、ここでは「不都合だ。具合が悪い」の意の形容詞「便なし」の連用形、「なむ」は、連用形に接続しているので、完了(強意)の助動詞「ぬ」+推量の助動詞「む」で、「きっとくだろう」と訳す。すると、この部分は、「まあよいやってみなさい。そのようにすれば、きっとたいそう不都合だろう」と訳せる。つまり神は、源氏宮に宛てた手紙で、「もし入内して自分以外の人のものになったら、きっと不都合なことが起こるだろう」と、脅しているのである。手紙の内容がこのような趣旨でまとめられている選択肢は③で、これが正解である。選択肢⑤は、「帝の怒りを買うにちがいない」と、恐ろしく思う内容が本文に合わないため、不適切である。

問4 心情説明問題

二箇所(傍線部A、B)の心情についての表現であることは、設問からわかる。各傍線部の前には、「」で括られた部分があるので、ここに具体的な大将の心情が述べられていると考えられる。そこで、A・Bそれぞれの傍線部とその前に示された内容を確かめることから始めよう。

傍線部Aでは、「胸あく」が重要古語である。

胸あく(力行四段活用動詞)
心が晴れる。すっきりする。

会話文か手紙文の中にしか用いられない。

ここでは「居／させ／給ふ／べき」と、助動詞「させ」に接続していることから補助動詞の用法である。波線部は、助動詞「べし」が下接しており終止形であることや、地の文にあることから、前記2の尊敬の補助動詞である。

次に、敬意の方向を確認する。文脈を考えると、賀茂の斎院と同様に未婚の皇女が就くことになっている伊勢の斎院についても、前任の斎宮が「下りさせ給ひぬる（＝退任なさった）」代わりに、その地位に「居させ給ふべき女宮たち」がいまいということを語っている部分であり、斎院や斎宮の後任に就くことを意味する「居させ給ふ」という動作の主体は「女宮たち」である。よって、波線部 **a** は、

a 作者から女宮たちへの敬意を示す尊敬語と整理できる。これを満たす選択肢は②・③・④である。

b 「聞き給ふ心地」

この「給ふ」も、動詞「聞き」に接続していることから補助動詞である。また、直後の名詞「心地」にかかっているので連体形である。下二段活用ならば連体形は「給ふる」となるので、この「給ふ」は四段活用であるとわかり、また、地の文にあることから、尊敬語であるとわかる。

次に、敬意の方向を確認する。ここは、殿が自分の見た夢の内容を「母宮・大将などに」語り、それを「聞き給ふ心地」という文脈なので、動作の主体は、母宮か大将である。しかも、既に問1の解説でも触れたように、源氏宮が斎院になり、入内が中止されることを思わせる夢の話の話を聞いて、「なかなか心やすくうれしく」感じるの、人知れず源氏宮を慕っていた大将だと思われるので、この部分の動作の主体は「大将」である。よって、波線部 **b** は、

b 作者から大将への敬意を示す尊敬語と整理できる。これを満たす選択肢は②のみである。これにより、正解は

②であることがわかるが、念のため、**c** も確認しておこう。

c 「とり隠し聞こえて」

聞こゆ（ヤ行下二段活用動詞）

- 1 申し上げる。……謙譲の本動詞
 - 2 へ申し上げる。……謙譲の補助動詞
 - 3 聞こえる。
 - 4 噂される。
 - 5 理解される。
- ※ 3と5は、敬語ではない。

ここは、動詞「とり隠し」に接続していることから、2の謙譲の補助動詞の用法だとわかる。

次に、敬意の方向を確認する。まず波線部は思考部の中にあるので、「作者から」の敬意を表すという選択肢は消去できる。すると、残った②・③・④のいずれも「大将から」の敬意を表すこととなることから、ここが大将の思考部で波線部は大将からの敬意を表すこと、また、「聞こえ」が謙譲語であることから動作の受け手への敬意を表すことがわかる。そこで、「とり隠し聞こえて」という動作の受け手が誰なのかを考えよう。前書きに、大将が源氏宮に思いを寄せていたことや、源氏宮の入内の話を聞いて悲嘆にくれていたことが示されているので、思考部の冒頭「とやかくやと身一つを思ひくだけながら」とは、大将が源氏宮への恋に悩む様子だと理解される。そして「我がものにひき忍びとり隠し聞こえて（＝自分のものとして人目を忍んでお隠し申し上げて）」、山里深く一緒にさすらっしまおうかと思いつめているのだから、大将は「源氏宮を」とり隠し聞こえて」と考えていると思われる。よって、謙譲語「聞こえ」の動作の受け手は「源氏宮」で、波線部 **c** は、

c 大将から源氏宮への敬意を示す謙譲語

(ウ) なかなか心やすく

ポイントとなる重要古語は、「なかなか」と「心やすく」である。

なかなか (副詞)

1 かえって。むしろ。

2 なまじつか。中途半端に。

心やすし (ク活用形容詞)

1 安心である。気楽だ。

2 親しい。

3 たやすい。容易である。簡単だ。

「なかなか」の意に該当するのは、㉔「むしろ」と、㉕「かえって」の二つである。また、「心やすし」については、㉐「心のどかで」、㉑「気が休まり」、㉒「ほっとして」の三つが、いずれも前記1の「安心である。気楽だ」の意味にあてはまる。二つの語を両方とも正しく解釈している㉓が正解である。

文脈を確認すると、傍線部は、殿から、源氏宮が齋院になるようにという夢のお告げがあったことを聞いた際の、母宮が大将の心情部分である。直前に、「もの恐ろしく思われて」とあるように、殿はその夢を恐ろしく感じたのだが、その話を聞いて「かえってほっとして」嬉しくなったというのである。源氏宮が齋院になるということは、源氏宮の入内が中止になるということだから、それを嬉しく思うのは、母宮ではなく、源氏宮に思いを寄せる大将である。以上の展開が不自然でないことから、㉕が文脈に合うことが確かめられる。

問2 文法問題

センター試験の古文の問2では、例年、文法の問題が出題される。今回は、敬語について出題した。敬語の種類と、誰から誰への敬意かが問われているので、まず、それぞれの敬語の種類（尊敬・謙譲・丁寧）に注目し

て確実に選択肢を絞り、その上で、敬意の方向を確認して正解を導くとい。

まず、敬意の方向の考え方を確認し、その後、各波線部を見ていこう。

敬意の方向

1 「誰から」の敬意を表しているか。

① 地の文……作者から。

② 会話文・手紙文……話し手・書き手から。

2 「誰へ」の敬意を表しているか。

① 尊敬語……動作の主体へ。

※ 「誰が」その動作をしたかを考える。

② 謙譲語……動作の受け手へ。

※ 「誰に」その動作が及んでいるか、「誰を」相手にした動作かを考える。

③ 丁寧語……聞き手へ。

※ 地の文なら読者、会話文ならその聞き手、手紙文などならその読み手となる。

a 「居させ給ふべき女官たち」

波線部の「給ふ」は、次のように尊敬語と謙譲語の二種類があるので、注意しなければならない。

給ふ（八行四段活用動詞／八行下二段活用動詞）

1 お与えになる。くださる。……尊敬の本動詞

2 おくになる。なさる。……尊敬の補助動詞

※ 1・2は、四段活用。

3 うます。うております。……謙譲の補助動詞

※ 3は、下二段活用。

命令形は用いられず、終止形はまれである。

い申し上げたので、あれこれと誰も（自分たちの意志で）お決めになれることではなくて（源氏宮が齋院に）定まりなさったのを、世間では予想外で驚いたことだと言った。

【設問解説】

問1 短語句の解釈問題

センター試験の古文の問1では、例年、短語句の解釈が三題出題される。古語の意味や文法の知識が決め手になって解答できる問題もあるが、本文の内容を踏まえて判断しなくてはならない時もあるので、重要古語を覚えるのはもちろん、必ず文脈も考えながら最も適した解釈を選ぶ学習を心がけてほしい。

(ア) あなあぢきなや

ポイントとなる重要古語は、「あな」「あぢきな」で、「あぢきな」はク活用形容詞「あぢきなし」の語幹である。

あな（感動詞）

ああ。あら。まあ。

※ 「あな」＋形容詞・形容動詞の語幹（＋終助詞「や」）で、感動表現となる。

あぢきなし（ク活用形容詞）

つまらない。おもしろくない。無意味だ。

「あな」の前記の意味が反映されている選択肢は、④・⑤である。そして「あぢきなし」の訳は④の「つまらない」のみが該当するので、正解は④だとわかる。「や」は終助詞で詠嘆を表す。

文脈を確認すると、この傍線部は、源氏宮が入内せずに齋院になるべきだという世の人の声に対する殿の感想にあたる部分である。傍線部の後に示される、この声に取りあわない殿の態度からも④が正しいことがわか

る。

(イ) いつしかと心もとながり思ふべし

ポイントとなる重要古語は、「いつしか」「心もとながり」である。

いつしか（副詞）

- 1 いつになったら。
- 2 いつの間にか。知らぬ間に。早くも。
- 3 早く。

※ 3は、意志・願望・希望の表現と呼応する。

心もとながる（ラ行四段活用動詞）

- 1 待ち遠しく思う。じれったく思う。
- 2 不安に思う。

※ ク活用形容詞「心もとなし」の語幹に接尾語「がる」がついたもの。

選択肢を見ると、「いつしか」の語義では正解を絞りにくい。「心もとながる」については、④の「慌てている」のみが語義に合わない。②「心待ちにして」は前記1の意味にあたり、⑤「苛立ち」も1「じれったく思う」の表現の延長と考えられるため、どちらも間違ひとは言えない。よって、④以外のいずれが正しいかは、文脈によって判断する必要がある。

文脈を確認すると、ここは、「さぶらふ人々（お仕える女房たち）」が、「内裏わたり（＝宮中）」の「今めかしさ（＝現代風なはなやかさ）」を「いつしかと心もとなが」るだろうという部分なので、①の「いつどうなってしまうのかと心配している」や③の「いつまで続くことかと不安に感じている」はあてはまらず、⑤の「早くしてほしいと苛立ちを感じている」では「現代風なはなやかさを早くしてほしい」となり、文意が通じない。②の「早く見てみたいと心待ちにしている」の意味で考えるのが文脈に合っている。したがって、正解は②である。

て、「あつまらないことよ。まだ幼少のときから皇族ではない（立場の）人におなりになってしまったのだから、今さら神も朝廷も（源氏宮のことを）関知し申し上げなさるはずはない」と言つて、（源氏宮が齋院になることを）気にもかけていらつしやらない。お仕える女房たちも宮中あたりの現代風なはやかさを、早く見てみたいと心待ちにしているにちがいない。

源氏宮のご容貌は、この頃はますます盛りで欠けるところなく美しくおなりになって、本当に、光るとはこの方の様子を言うべきであろうかとお見えになるのを、「帝と申し上げる（方であつた）としても、『このような（美しい）人（＝源氏宮）が世の中にはいらつしやつたのだなあ』と、そうは言つてもきつと御目をみはつて驚きなさるだろうよ」と、見申し上げるすべての人はお互いに語り合つては（源氏宮の入内を）待ち遠しく思うが、源氏宮の御夢に、（何かの兆しが）不思議でよくわからずなんとなくおそろしい様子に、立て続けにお見えになるので、（源氏宮は）「どのようなことになってしまうはずなのだろうか」と、人知れず心細くお思いになるが、「このように（＝不思議な夢を見ました）」などとも、母宮にも申し上げなさらないでお過ごしになるうちに、殿の邸内にはなほだしい神仏のお告げ（を示すできごと）があるのを、（殿が）占わせなさると、源氏宮が御厄年に当たつていらつしやつて、嚴重に慎みなさらない旨を、（占つた者が）多く申し上げたので、（殿は）たいそう恐ろしいことと驚きなさつて、様々なご祈禱などを、格別に始めるなどさせなさるうちに、殿の御夢にも、「賀茂神社から」と言つて、禰宜と見受けられる人が参上して、櫛（の枝）に挿してある手紙を源氏宮の御もとへ差し上げるのを、（殿が）自分で開けてご覧になると、

「はるか神代の昔から注連縄を引き始め（＝神域で大切に守つてきた櫛葉（＝源氏宮）を、私より他に誰が折ることができるか、いや、でき
きない（＝私以外の誰も手に入れることはできない）。

まあよいやつてみなさい。そのようにすれば、きつとたいそう不都合（なことが起こる）だろう」と、はっきりと書かれているとご覧になって、目覚め

なさつた気持ちは、たいそう恐ろしくお思いになって、母宮・大将などに語り申し上げなさるのを、聞きなさる（大将の）気持ちは、かえつてほつとして嬉しくなりなされた。

（大将は）長年の間も、「あれやこれやと（源氏宮のことで）わが身ばかりを思い悩ませながら、そうはいつてもやはり（源氏宮を）自分のものとして人目を避けてお隠し申し上げて、（二人で）ただただ深い山里などにさうらうようなことも、生きている甲斐がないだろう。だからといって、親たちが思いもよらない状態で、ほのかに（源氏宮のお姿を）拝見し始めて（＝かろうじて契りを結び申し上げ始めて）も、かえつてひどい心の乱れは、いっそ募るのだろう。『それならば、それでもよい（＝二人が契りを結んだならばかまわない）』とは、（親たちが）必ずしも心の中でお許しにならないといふことはけつしてあるまい。（だが）そうだとすると、（親たちの）お心の中では、『（二人の關係は）思いがけないことだなあ』と、何事につけても、明けても暮れても思い乱れなさるようなことが、たいそう気の毒でつらいことだよ』などと、おのずと思い嘆きなさつていたのだが、本当に（源氏宮は）神代（の昔）から（齋院として神に仕えるような）血筋が格別であつたご宿命だったので、（齋院となるのであれば）今はかえつて気が楽で、（これから）明けても暮れても（源氏宮が入内したことによる）ねたましく不快な気持ち（になること）はないだろう」と、心が晴れる気持ちがなさる一方で、「源氏宮への思いを今後」どのように決めて、どのように嘆くのだろうか。生きていれば逢えるという目処（めど）さえ立たず、多くの年月自分があれこれと思い乱れていた（源氏宮との）ことは、はるか手が届かないことに（なるのだろうか）」と思うのは、また普通と違つてたいそう苦しい（大将の）心の内である。

帝の御夢などにも、はっきりとご覧になることがあつて、驚きなさるの
で、殿にご相談申し上げなされて、（お二人の）ご心中はたいそう残念だが、御夢占いなどなさると、（源氏宮を齋院にすれば）朝廷をはじめとし申し上げ、殿の御ためにも、前途は末永くすばらしいはずだというようにばかり占

第3問 古文

【出典】

『狭衣物語』

成立 平安時代後期

ジャンル 作り物語

作者

内容

六条齋院宣旨（源頼国女）との説があるが、定かではない。
全四巻。高貴な家柄の出身で、容貌・才芸に優れた狭衣大将は、従妹の源氏宮との叶わぬ恋に苦悩し、出家の望みを持ちつつ、一方で多くの女性たちと恋をする。文章のいたる所に、『源氏物語』の影響が見られる。

なお、今回の本文は、新潮日本古典集成『狭衣物語 上』（鈴木一雄校注）に拠るが、出題にあたって一部表記を改めている。

【本文解説】

今回の本文は、巻二の中盤の一節である。本文までの概略は、以下のとおりである。

主人公の狭衣（今回の本文では「大将」）は、堀川関白（本文では「殿」）の子であった。源氏宮は、先帝の皇女として生まれたものの、両親を相次いで亡くしたため、亡き父帝の妹（今回の本文では「母宮」）とその夫である堀川関白に引き取られ、狭衣と兄妹同然に育てられた。美貌の源氏宮に人知れず恋心を抱く狭衣だったが、兄妹同様の関係であることから、両親の気持ち（おもひ）を言い出せずにいた。そんな折、源氏宮が東宮妃に望まれていることを知り、思い余った狭衣は、源氏宮に思いを告げる。しかし拒まれて、それ以降源氏宮に避けられるようになった狭衣は、叶わぬ恋に苦悩することになる。

その後、帝が譲位し、東宮が新帝となったが、新帝の父である一条院が亡くなった影響で、一切の儀式が中止または延期となり、就任したばかりの賀茂神社の齋院も交替することとなる。そのため、新帝への入内が予定されて

いた源氏宮の環境にも変化が訪れる。

【第一段落】源氏宮の入内の準備と、齋院入りの噂。

一条院の死に伴い、新たに齋院になるべき皇女の不在が取り沙汰される。ここで、亡き先帝の娘である源氏宮が齋院になるのではないかと噂が流れるが、長年、源氏宮を自分の娘として育ててきた殿は取りあわない。仕える人々も、源氏宮の入内を心待ちにしていた。

【第二段落】次々にあらわれる予兆と、神からの夢のお告げ。

殿の周辺では多くの兆しが現れ、最後には、殿の夢に賀茂神社からの使者が現れ、源氏宮の入内を中止し、齋院として神に仕えさせるようにとの神意が示される。殿からこの話を聞いた狭衣は、かえってほっとするのであった。

【第三段落】源氏宮の齋院入りに対する、狭衣大将の複雑な心中。

狭衣は一人思い悩む。両親の思いなどを考えると、強引に源氏宮をわがものにするには踏み切れない。源氏宮が入内せずに齋院になれば、帝への嫉妬からは解放されるかもしれないが、源氏宮にはいっそう手が届かなくなることと思うと、さらなる苦しみにとらわれる。

【第四段落】帝への夢のお告げと、源氏宮の処遇の決定。

帝も源氏宮を齋院にするべきことを示す夢を見る。それを殿に相談し、占うと、朝廷にとっても殿にとっても吉兆であるとの結果が出たため、源氏宮が齋院になることが決定した。

【全文解釈】

齋院の御後任には、一条院の後宮の姫宮がお就きになったが、大膳職にお移りになっていたのに、（父一条院の服喪のために）戻りなされて、齋宮（に就いていた姫宮）も退任なさった後任に、就きなざるのにふさわしい女官たちが、今はいらつしやらなかった。「源氏宮の入内はどのようなことになるのか（＝源氏宮が入内を取りやめて齋院になるのだろうか）」と、世間の人々がだんだんと言いつづけるのを、殿におかれてもお聞きになっ

れて」いるが、それが「現代的な雰囲気を感じさせる」と断定することはできない。さらに大きな間違いは、「二人の性格の対照がより明確にされている」という部分。「私」と垢石老の「性格」については、本文中にはいっさい言及がないはずである。

- ④ 26・27行目には、「紺がすりの着物をきて手拭をかぶり、目籠を背負っていた」というふうには、二人の娘の恰好が細かく描写されている。また74・75行目でも、同じように二人の娘の恰好が細かく描かれている。さらに80・82行目では、たしかに娘たちの背負っていた籠の中身のことが、やはり詳細に説明されている。したがって、この選択肢の前半の内容は正しい。そして、このような「細部の描写」があることで、物語全体に「リアリティ（＝現実らしさ・真実味）」が増しているというのも、正しい説明である。物語自体は「奇妙な雰囲気」をもった怪談風のものだが、そこに細かい描写が加わることで、物語全体が単なる絵空事ではなく、リアルなものになるというわけである。したがって、この④は正解である。

- ⑤ たしかに50行目と88行目の「――」のところでは「時間的に転換している」が、だからといって、この文章を「過去と現在の場面が錯綜して（＝複雑に入り組んで）」いると説明するのは、やや無理がある。しかも、謎は謎のまま残るのだから、「話が進むにつれて過去にさかのぼり、謎が明らかにされていく」というのは、明らかに間違いである。

- ⑥ まず59行目を見ると、「私」が「いや、僕も見ました。そりゃ、とても鄙まれで……」と言いかけたとき、すぐに村松氏が「まあ聞きたまえ」と言って、自分の体験談を話しはじめている。これはもちろん、「話をしている『私』の言葉が『村松さん』によって遮られてしまった」ことを示している。また71行目でも、「私」が「鄙まれの……」と言いかけると、村松氏がそれを手で遮って「いや、それが君……」というふうに自分の話をしている。そして村松氏の「まあ聞きたまえ」という言葉などからは、氏が自分の話をしたくてうずうずしており、思わず

「私」の話を遮っているということがうかがえる。したがって、この⑥は正解である。

ある。

←

c そうした石田君の登場によって、物語全体を単に怪談としてだけ捉えることができなくなる。

d 物語の解釈に広がりが生じる。

これらの内容に最も即している④が正解である。「即物的」とは「物事を現実の実体に即して物質的に捉えようとするさま」といった意味で、bの内容に対応している。「怪異譚」の「譚」は「話・物語」という意味で、たとえば「冒険譚」とか「奇譚」とかいった使われ方をする。入試現代文で頻出の用語なので、しっかり覚えておきたい。

他の選択肢については、以下のとおりである。

① 選択肢の前半と後半の内容が結びつかず、まったく見当はずれの説明である。最後に「私」の話を「怪談ではなくて偶然の話」と捉えようとする石田君が登場するからといって、読者がいきなり「物語全体が『私』の妄想にすぎない」と思うはずがない。「私」とともに気味の悪さを感じながら物語を読み進めてきた読者は、現実的な石田君の登場によって、物語全体を怪談風の話とだけ捉えることができなくなる。つまり、読者は、偶然なのか怪談なのかわからず、謎が謎のまま残るといった読後感を味わう、というのが妥当な理解であろう。したがって、石田君の逸話に、「物語全体が『私』の妄想にすぎない」ということを「伝える」効果があるとはいえない。

② 「幻想に取り憑かれている者たちの愚かさを浮かび上がらせる」が間違っている。「私」たちが「幻想に取り憑かれている」のかどうかも本文からは確定できないし、「私」たちが「愚か」かどうかといったことも、本文には書かれていないのである。

④ 石田君が「『私』」たちが神秘的な体験を味わったことの原因を知っている」というのが、大きな間違い。また、「読者を、これから始まる謎

解きに参加させる」は言いすぎである。リード文（前書き）に、この本文は小説の「全文」だと書かれているのだから、この小説には続きがないわけで、これから「謎解き」が「始まる」はずはない。

⑥ 選択肢前半の内容はとくに間違っていないため、やや紛らわしくなっているが、「人間とは未知のものに惹かれる存在である」という主題をさりげなく示す」というのが誤りである。たしかに石田君は未知のものへの好奇心が旺盛な人物だが、それを「人間とは……である」というかたちで普遍化・一般化することはできないし、ましてや「人間とは未知のものに惹かれる存在である」ということが本文全体の「主題」だとはいえないはずである。

問6 ここ数年間、大学入試センター試験の小説問題の問6では、このように

本文中にある特徴的な表現の効果を問う問題が出題されている。問われていることが瑣末な事柄であることも多いので、たとえ面倒だと感じても、選択肢に書かれていることと本文の特定の箇所とを丁寧に照合し、慎重に解答を選ぶことが肝要である。

① まず、「本文中の地の文（＝台詞以外の部分）」のなかには比喩的な表現などはいっさい用いられていない」が、あまり正確な説明ではない。たとえば30行目の「何か、尊いものが消え失せて行っているかのように思われた」などは、広い意味での「比喩的な表現」だといえるだろう。さらに大きな間違いは、61行目の「山と山が手を合わせたように迫っている」という表現を、「登場人物の個性」を「より強く浮かび上がらせるもの」として点である。この「山と山が……」という表現は、自然の情景を描写したもののだから、この表現によって「登場人物の個性」が示されているというのは、説得力のない説明であろう。

② 「『私』の体験が夢にすぎなかった」というのが、本文から読み取れない内容である。

③ たしかに垢石老の言葉のなかには「まアるで」と「カタカナが用いら

以上の内容に最も即している④が正解。「村松氏も自分もほとんど同じ体験をしたことは間違いない」がa、「両者の体験の間に長い時間的隔たりがあるということを考えて」がb、「いつその気味悪さを実感してしまい」がcに、それぞれ対応している。「自分がその体験をしたときのことを思い浮かべている」は、傍線部そのものについての説明である。

他の選択肢については、以下のとおり。

①「私」の感じた「驚き」や「寒気のようなもの」についていっさい触れられていないという点で、正解にはならない。また「貴重な体験を、あらためて自分一人のものとして心のなかで大切にしていこうとしている」というのも、本文から読み取れない内容である。

②「村松氏」が「嘘をついていることは間違いない」というのが、aと大きく矛盾する。

③ 選択肢前半の内容はとくに間違っていないため、やや紛らわしくなっているが、「美しい風景を思い浮かべることで、なんとか冷静さを取り戻そうとしている」というのが、本文から確定できない内容である。たしかに傍線部で「私」は「美しい風景を思い浮かべ」ているのだが、それが「冷静さを取り戻す」ためのものかどうかは、本文に述べられていないのである。

⑤「妙に納得してしまうような気持ちになり」が誤り。「納得」しているわけではなく、むしろ不可解な気持ちや不気味な感覚などをますます強めているはずである。

問5 この小説は「石田君」についての短い逸話で終わっているが、そのことが本文全体にもたらしている効果を答えるという問題である。

まず、石田君の人物像を確認しておこう。間違いなくいえるのは、**彼が好奇心の強い人物だ**ということである(→a)。「怪談めいた話を聞きながら、怖じ気づくことなく」「では、さっそく行ってみます」と答えるというのは、旺盛な好奇心の表れだと考えてよいだろう。

さらに石田君は、「私」や村松氏の話を「怪談」ではないと捉えようとしている。もちろん、石田君のなかに恐怖心のようなものがまったくなくということはないはずだ。彼が「僕、怪談は嫌いです」とあえて言っているのは、怪談だったら嫌だという気持ちの少しはあるからにちがいない。しかし基本的には、彼は「怪談」を否定している。そのことは、彼の「この話は怪談ではなくて偶然の話ですからね。僕、その偶然を求めに行くんですから」という言葉からも明らかである。つまり、**石田君は、「私」の語った出来事について、それを神秘的・怪異的なものとしてではなく、現実的・物質的なものとして捉えようとしているのだ**(→b)。

では、右のa・bのような人物である石田君が登場させることで、小説全体にはどんな効果がもたらされているだろうか。まず言えることは、**物語全体を怪談風の話とだけ捉えることができなくなってしまう**ということである(→c)。仮にこの物語が傍線部Dで終わっており、その後に不気味さを強調するような文が付いているだけだったとしたら、本文全体は間違いなく怪談風の神秘的な物語だということになってしまう。しかし、そこに「怪談」を否定する人物である石田君が登場することで、**物語を「怪談ではなくて偶然の話」だと捉える視点が導入されているのである**。

以上のことから考えると、**石田君の登場には、本文全体の読みや解釈の幅を広げるという効果がある**と考えることができる(→d)。「本文解説」③でも説明したとおり、作者井伏鱒二は、読者の前にさまざまな謎を提示するのだが、そうした謎についていっさい説明しないまま、物語をあっけなく終わらせてしまう。それは、読者に向かって「この物語を自由に解釈していいですよ」と言っているかのような、作者の姿勢を示しているということになるのだろう。

以上の内容をあらためて整理すると、次のようになる。

a 石田君は、好奇心の強い人物である。

b 石田君は、物事を神秘的にではなく現実的に見ようとするところが

以上の内容に最も即している①が正解。選択肢の言葉づかいがやや難しいが、「僥倖」は〈滅多にない幸運〉、「抑捺」は〈からかう〉という意味である。二つとも、入試の現代文では頻出する単語なので、知らなかった人はこれを機にしっかり覚えておこう。

他の選択肢については、以下のとおりである。

② c についての説明で、翁が「私」を「教え諭した」となっている点の間違い。「教え諭す」とは、〈物事の道理などを、よくわかるように言い聞かせて教える〉といった意味である。c での翁の言葉は、遠回しな皮肉のようなものであって、けっして「教え諭す」といったものではない。また、d・e が「それぞれ自分なりに思いを馳せる」となっている点もおかしい。二人はそれぞれ勝手に物思いに耽っているのではなく、意見が一致したということを確認合っているのである。

③ まず、b・c の「私」と翁の皮肉めいたやりとりの説明がない。また、d・e についての説明も間違っている。「私」は、「気分を害して」もないし、「ふてくされたような態度」もとってはいない。また翁も「困惑」しているわけではない。最終的に「私」と翁は、意見が一致したことを確かめ合おうとしているのである。

④ c 以降についての説明が間違っている。c で翁は、「自分がいかに娘たちに魅力を感じているかということを真摯に（＝まじめに、ひたむきに）説明しよう」とはしていない。また、「私」が翁をからかうのは b においてだけなのだから、「私」が「さらに翁をからかい続け」というのもおかしい。さらに、「翁はやや気分を害してしまった」というのも e に矛盾する内容である。

⑤ まず、b で「私」が「翁に調子を合わせることに、やや恥ずかしさを感じていた」というのが、本文から読み取れない。また、c で翁が「旅先ではもっと素直になるべきだ」という心得を説いた」というのも正しくない。「私」がバス乗場への路を知っているにもかかわらずそれを聞いたのは、美しい娘と話がしたいという自分の欲望に忠実になったためだ

と考えられる。したがって、「もっと素直に」なるというのは、もっと娘たちと話をしようとするのだというふうになってしまい、これは c の翁の言葉と矛盾してしまうのである。

問 4 傍線部は、②の部分、つまり「私」が村松氏の話を聞く場面の最後のところにある。そこでここでは、②の部分（50～87行目）の内容や、そこでの「私」の心情の推移について、確認を試みよう。

まず確かめておきたいのは、村松氏が嘘をついているとは考えられないということである（↓a）。【本文解説】②の途中で説明しておいたとおり、会話は村松氏が先導するかたちで進んでいるのだから、氏が「私」の言葉に調子を合わせて嘘をついているというふうには考えることはできないわけである。

次に読み取ってほしいのは、②の場面で、「私」が気味悪さをだんだんと募らせてきているということである。70行目に「私の驚きは重複した」とあるのに注目したい。これは、この時点で「私」が二度驚いたということと意味している。一度目の驚きは、村松氏も「私」と同様、大きな胡桃の木に往路では気づかなかったが復路で気づくという不思議な体験をしたと知ったことの驚き。二度目の驚きは、村松氏も私と同様、美しい二人の娘と出会っていたと知ったことの驚きである。つまり70行目の時点で、「私」の驚きはそれ以前の驚きよりも大きくなってきているのだ。

その後79行目で、「私」は「何か寒気のようなもの」を覚える。これは、村松氏の見た二人の娘と「私」の見たそれとが、背恰好から何まで同じだったということによるものである。さらにその後の85行目で、「私」は、村松氏の言葉を聞いて、より強い「驚き」と「寒気」を感じたはずだ。なぜなら、【本文解説】②の最後でも説明したとおり、ここで「私」は、村松氏と自分とが二十数年という歳月を隔ててほとんど同じ体験をしたということであらためて意識し（↓b）、ことの不気味さ、神秘性をより強く感じるようになった（↓c）と思われるからである。

b 43・44行目の「私」の言葉について

この「私」の発言の前半部分は、基本的にはaの翁の言葉と同じように、二人の娘の美しさを褒め称えたものだ。解釈が難しいのは、それに続く「もしもし翁や、翁は、いま若返りたいと痛感してるだろう」という言葉である。

「翁」という字は「おう」とも「おきな」とも読み、男性の老人のことを指す言葉である。また本文冒頭にも「佐藤垢石老」とあるから、「垢石老（＝翁）」が歳をとった人間であることは間違いない。そして「私」は、そんな年寄りに向かって「あなたはいま（美しく若い娘たちを見て）自分も若返りたいと思ってるのではないですか」とたずねているのだ。しかも「私」は翁に向かって、「もしもし」とふざけたような言葉で語りかけている。これは、「私」が翁に対して、「いい歳をして若い娘に心惹かれてるようすね」と、幾分かからかうように言っているということなのだろうと判断できる。

c 45・46行目の「翁」の言葉について

「私」からからかわれてしまった翁だが、まずは「いや、まあで妙なものだ」と答えている。これは明らかに、まともな返事になっていない。つまり、ここで翁は、「私」のからかいに対してはまともに答えず、それをはぐらかしているのである。

そして今度は、翁のほうから「私」に向かって、「お前さんは、バスの乗場を知っていながら路をたずねた。これは旅の心得として、先ず、どういったらいいものだろうな」と言ってくる。「私」がバス乗場の場所を知っていながらわざわざそれをたずねたのは、おそらく美しい娘たちと話をしたからだろう。つまりそこには、「私」の〈下心〉のようなものが見え透いていたわけだ。そのことを翁は、〈旅の心得〉としていかなものか？という遠回しな言い方で、指摘してきたのである。つまり、ここで翁は、bで自分がかかわれたことの仕返しとばかりに、「私」に対して皮肉のような言葉を投げかけているのである。

d 47行目の「私」の言葉について

bとcで「私」と翁は、互いに相手のことをからかい、皮肉のようなことを言い合った。もちろんこれは、二人が本気で仲違いしたといったことではない。ここまでの二人の会話は、気心の知れた大人同士のふざけ合いといったものだと考えられる。

そして47行目で「私」は、「でも、幾山河を越えて行っても見よだ」と言う。これは、〈あんなに美しい娘たちのことは、幾つもの山や川を越えてでも見に行くべきだ〉という意味である。しかも「私」は、翁に向かって、「実際そういう感慨ではないだろうかね」と念を押している。つまり、ここで「私」は、〈娘たちの美しさはどんなことをしても見るべきだと思います、翁もそう思うでしょう？〉という趣旨のことを言っているのである。

e 48行目の「翁」の言葉について

右のように言われた翁は、「そんなもんだらうな」と答えている。ここで翁は、dにおける「私」の言葉に賛同しているのだ。つまり、二人の意見は、最終的には一致を見ているのである。

以上のa～eをあらためて簡潔にまとめると、次のようになる。

a 翁は、娘たちの美しさを讃え、こんな娘たちとの出会いは滅多にないということを率直に語った。

b 「私」は翁に対して、いい歳をして若い娘に心惹かれていたのではないかと、からかうように言った。

c すると翁もそれに応じて、バス乗場の場所を知っていながらわざわざそれをたずねるといふのはいかなものか、というふうには、「私」に対して皮肉のような言葉を投げかけてきた。

d・e しかし最終的には、あんなに美しい娘たちにはどんなことをしても会いに行くべきだと「私」が言い、翁もその意見に賛同して、二人の意見は一致を見た。

らない。また、㊸も、成果が望ましくなかったからといって「最悪」
までは断定できない。したがって、㊶や㊸は不適切である。

(イ)「鈴なり」とはもともと、果実などが、神楽鈴のように多く群がって
房をなしているようすを指した言葉である。神楽鈴とは、神楽を舞うと
きに用いる鈴で、一本の柄に十数個の鈴が付けられている。そんなふう
に物が房のようになって群がっているさまを、「鈴なり」というのであ
る。したがって、正解は㊸になる。

(ウ)「詮索」は現代文で頻出する語で、「細かいところまで探り、調べ求め
ること」という意味。正解は㊶である。「詮」は「詮議」などの「詮」、
「索」は「検索」「索引」などの「索」だと考えれば、正解は推測できる
だろう。

問2

まずは傍線部直前の一文に注目しよう。「私たちは人家が行手に見え
るので元気づいていた」。これは裏を返せば、人家が見えるようになるま
では元気がなかったということである。では、なぜ元気がなかったのか。
それはもちろん、胡桃の木的一件があったからである。「私」たちは、目
を瞠^{みは}るほどの大きな胡桃の木があったにもかかわらず、往路ではそのこと
に気づかなかった。「私」と垢石老は、そのことについて、不思議なこと
だと話し合っている(7～19行目)。そして、どこか気味の悪いような思
いを抱きながら歩いて行くと、景色が開け、人家が見えてきた(21～23行
目)。そこで「私」たちは確かに「元氣」になり、傍線部のように「語
り合」うことになったのである。

以上の内容に最も即した選択肢は㊸であり、これが正解である。「日常
を取り戻したような気分になり」が本文に書かれていないと思った人もい
るかもしれないが、胡桃の木的一件で気味悪いような思いをしたのは、
「私」たちにとって、非日常的な体験だといえるであろう。そうした非日
常的な気分から脱して元氣になったというのだから、そのことを「日常を
取り戻したような気分になり」と説明しても、間違いではないはずだ。ま

た、「景気をつけるようなことを言い合っている」というのは、傍線部そ
のものの説明。元気を失っていた「私」たちは、この場面で、元気を取り
戻そうと、ことさらに楽しげなことを言い合っているのである。

他の選択肢については以下のとおり。

㊶ 「自分たちの愚かさを思い知らされて」が正確ではない。「私」たち
は、胡桃の木的一件について、それが不思議な出来事だとは言いついて
いるものの、自分たちが「愚か」であるといったことは言っていない。

㊷ 「やや苛立っていた」が、本文から読み取れない内容である。

㊸ 「自分たちが何かに取り憑かれているような気がして」が正しくない。
この場面で、「私」たちが、往路では胡桃の木の存在に気づかなかった
ことにどこか気味の悪さを覚えていることは確かだが、だからといって
「何かに取り憑かれているような気がし」たというわけではない。また
「おののいていた」というのも、やや行きすぎた表現である。

㊹ 「自分たちの身にこれからよくないことが起こりそうだと予感してい
た」が本文から読み取れない内容。たしかに胡桃の木的一件は、「私」
たちにとって不気味な体験だったが、この先もよくないことが起きるの
ではないかと「私」たちが「予感」していたわけではない。

問3

傍線部BからCに至るまでの「私」と「垢石老(＝翁)」との会話に
ついて、それぞれがどういう意味をもっているのか、一つ一つ検討してい
くことにしよう。

a 39・40行目の「翁」の言葉について

ここで翁は、「すごいなあ」「鄙^{ひな}まれだ」「絵のようだ」といった言い
方をしているが、これは、二人の娘がとにかく美しいということを、率
直に表現したものである。また、「俺は、方々の田舎に釣に行くが、あ
んなきれいな鄙まれは見たことがない」という言い方をしているが、こ
こからは、翁が美しい娘たちに出会ったことを滅多にない幸運だととら
えていることがうかがえる。

気のようなもの」まで覚えることになった(79行目)。村松氏が二十数年前に谿谷で体験していたことと、「私」が数年前に同じ場所で体験したことが、「そっくり同じ」だったからである。帰路の途中で大きな胡桃の木を見つけた驚いたが、往路ではその木の存在に気づいていなかったこと。やはり帰路に、美しい二人の娘と出会ったこと。しかも娘たちと出会った場所も、娘たちの性格好も、さらには彼女たちの背負っていた籠の中身まで、申し合わせたように一致していたのである。

ここで注意してほしいのは、村松氏が嘘をついているとは考えられないということだ。もし話が「私」の主導で進み、村松氏がつねに後から話についてきているのだとすれば、氏が「私」の言うことに合わせて嘘をついていたという可能性は出てくる。しかし本文を読めばわかるとおり、話はつねに村松氏の主導で進んでいる。つまり「私」の立場に立てば、自分しか知らないはずのことを村松氏が知っていたということになるわけだ。「私」が「驚き」や「寒気のようなもの」を覚えることになった要因は、こうしたところにもあるといえるだろう。

そして、「私」に感情移入しながら本文を読んできた読者は、ここで「私」が感じている「驚き」や「寒気のようなもの」を共有することになる。ここまで読んできた読み手は、謎を突きつけられることになるわけだ。

さらに84～86行目を読むと、村松氏と「私」の体験はすべて一致しているにもかかわらず、一つだけ異なる場所があったということがわかる。それは、「私」が娘たちにバス乗場までの路をたずねたのに対し、氏はそうしたことをしなかったことだ。それは、村松氏が谿谷に行ったのが二十数年前のことであり、その頃にはまだ近くにバスが通っていなかったためだった。

このことがわかって、「私」はますます不気味な感覚を強めたであろうと推測できる。なぜなら、村松氏と「私」が見た二人の娘は、年齢がほとんど同じだと思われるからである。二人の体験の間におよそ二十年の隔たりがあるはずなのに、二人とも同じ娘たちに出会ったかのようだった。もしかしたら彼女たちは、時間を超えた超自然的な存在なのだろうか……。ここに至っ

てこの物語は、怪談めいた雰囲気をもますます強めていくのである。

③ 「石田君」の登場と、物語の突然の幕切れ(88～93行目)

ところが、読者に向かってさまざまな謎を突きつけておきながら、物語はあっけなく終わってしまう。「私」は、これまでの話のすべてを石田君という青年に聞かせる。すると石田君は興味を示し、自分もさっそく増富の谿谷に行ってみると言い出す。しかし、その後どうなったのかといったことは、本文にはいっさい記されていない。リード文(前書き)に書かれているとおり、この短編小説はこれで「全文」なのである。

この小説の読者は、作者井伏鱒二によって、怪談めいた物語世界のなかに引き入れられ、謎を提示される。ところが作者は、そうした謎についていっさい説明することなく、物語を唐突に終わらせてしまうのだ。では、そこに作者のどんな意図があるのだろうか？ この問題については、【設問解説】の問5で詳しく説明することにした。

【設問解説】

問1 大学入試センター試験の小説問題では、例年、問1でこうした形式の問題が出題されている。そしてこの問1は、基本的には語義を答える知識問題になっている。設問には傍線部の語句の「本文中における意味」を答えよとあるのだが、実際にはその語句の辞書的な意味が問われていることがほとんどなのである。したがってここでも、傍線部の語句の前後の文脈ばかりにとらわれすぎず、その語句の本来の意味を意識しつつ、正解を選ぶようにしてほしい。

(ア)「思わしい」は、「望ましい」とか「好ましい」とかいった意味。それに打ち消しの言葉が付いているのだから、傍線部は「望ましくない」といった意味になる。したがって、正解は②である。「私」は釣りをしたことが、その成果は、自分にとって望ましいものではなく、納得できるものではなかったということである。①がやや紛らわしいが、単に「予想外」というだけでは、結果が予想外に良かったのか悪かったのか、わか

第2回 現代文

【出典】

井伏鱒二「増富の谿谷」^{ますとみ}。初出は『オール読物』昭和十六年一月号。今回の本文は、講談社文芸文庫『晩春の旅／山の宿』（一九九〇年）によったが、途中、一部省略している表現がある。

井伏鱒二（いぶせ・ますじ）は、広島県生まれの小説家（一八九八～一九九三）。福山中学、早稲田大学予科を経て、早稲田大学文学部に入學したが、三年生で中退。二五歳のときに「幽閉」（後に加筆され「山椒魚」と改題）で、小説家としてデビューする。その後『ジョン万次郎漂流記』で直木賞を受賞した。主な作品に『本日休診』『黒い雨』『珍品堂主人』など。二〇一二年の大学入試センター試験本試では、この作者の初期の短編「たま虫を見る」からの出題があった。

【本文解説】

本文は、紀行文のようでもあり、怪談のようでもある。そして、作者である井伏鱒二自身の体験にもとづいているような体裁をとっており、その意味では私小説風の短編だともいえる。まずは本文を場面に即して三つの部分に分け、それぞれの部分の概略を見ていくことにしたい。

① 増富の谿谷での「私」の体験（冒頭～49行目）

「私」は数年前に、釣師の佐藤垢石老^{かうせきらう}に連れられて増富の谿谷に赴いた。谿谷を流れる川の上流にある宿に一泊し、翌日、同じ路^{みち}を通して山を下る。その帰り路で「私」は、二つの印象的な体験を味わった。

一つめの体験は、「大きな胡桃の木」を見たことである（7～20行目）。この胡桃の木を見たとき、「私」は「不可解なような気持」を感じた。それは、単にこの木がとても大きいからという理由だけではなく、「昨日この山路を来るとき、なぜこんな珍しい大きな木に気がつかなかったろう」と思ったからであった。

「私」と垢石老は、前日に同じ路を登ってきている。そして問題の胡桃の

木は、「下枝」が大きく「垂れさがって、道にかぶさっている」のだから、歩いていてこの木に「気がつかない筈^{はず}がない」。にもかかわらず、「私」も垢石老もそろって、木の存在にまったく気づかなかったのである。

これは「私」たちにとっては、かなり不可解な、そしてやや気味悪くもある体験だったにちがいない。20行目には「不図^{ふと}、垢石老は後を振り向いた。私も振り向いたが誰もいなかった。」とあるが、この一行は、そうした不安な雰囲気^{きふう}を強調しているとも考えられる。

そしてもう一つの体験は、「二人の娘」に出会ったことである（26～49行目）。娘たちは、一人は「二十ぐらい」、もう一人は「一二つぐらい年下」に見えたが、「二人とも、あまりに美しかった」ため、「私たちは立ちどまった」ほどであった。娘たちも立ちどまってお辞儀をしてくれたが、二人が黙って行きすぎようとしたとき、「私」は「何か、尊いものが消え失せて行っているかのように」感じて彼女たちを呼びとめ、バスの乗場への路をたずねてみる。すると娘たちは、落ちついた口調で、バスの乗場までの路を教えてくれたのである。

ここで45行目を見ると明らかだが、実は「私」は、「バスの乗場を知っているながら」娘たちにそれをたずねている。なぜ「私」がそんなことをしたのかは本文に明記されていないが、美しい娘たちに心惹かれ、彼女たちと話をしたかったからと考えるのが、無難な解釈であろう。

娘たちの姿が見えなくなった後、「私」と垢石老は、彼女たちの美しさについて語り合う。この部分については、【設問解説】の問3で詳しく説明することにした。

② 村松氏の話と、それを聞いた「私」の驚き（50～87行目）

数年後、「私」は村松梢風氏と会った。すると、どちらからともなく増富の谿谷の話になり、村松氏が、二十数年前にその谿谷に行ったときの話をしはじめる。

そして話が進むうち、「私」は「驚き」を感じ（70行目）、さらに「何か寒

点が誤り。読み手は外来語があるからといって、「前後の文脈」に注意するわけではない。

④は、「世俗化」が「印象的な比喩」だという点が誤り。問3で説明したように、「俗」とは人間が生きるこの世界のことであり、「世俗化」は一般に「世界の脱宗教化」を意味し、「比喩」とは言えない。

以上から、②が正解である。

(ii) 文章の構成を確認する問題

この本文は、「本文解説」の最初にまとめたように、〈テイラーの「緩衝材で覆われた自己」を説明した部分（①第1段落～第14段落）〉と〈近代政治思想と「緩衝材で覆われた自己」との関わりを論じた部分（②第15段落～第29段落）〉の大きく二つに分けることができる。

まず①では、筆者は、テイラーが近代特有の人間像を「緩衝材で覆われた自己」と表現したことを示し、「緩衝材で覆われた自己」においては〈内面と外面の分離〉がなされていることに着目する。

次に②では、筆者は、こうした近代の自己イメージの〈内面と外面の分離〉によって政治が宗教から自立し、さらに政治の概念がやはり近代の自己イメージに支えられた「人権の理論」によって意味づけられたことを論じ、「緩衝材で覆われた自己」が「近代政治思想」の基盤であることを示す。

つまり、〈前半である①の議論を前提として、後半である②で議論が展開される〉のである。こうした構成を説明している②が正解である。

①は、「冒頭で本文全体の結論が提示され」が誤り。冒頭ではテイラーが「世俗化」を論じたことや「緩衝材で覆われた自己」という表現を用いて近代における人間像の変化を説明していることが示されている。右に述べたように、これは本文全体の結論ではなく、議論の前提となる部分である。

③は、「議論の中盤でそれまでの内容が覆される」が誤り。本文のどこ

にも「それまでの内容が覆される」ところは見あたらない。

④は、「三つの話題が並列的に提示され」が誤り。「話題」としては、「緩衝材で覆われた自己」↓「世俗化」↓「近代政治思想」の三つをつかむことは可能だが、筆者はこれらを「並列的に」提示しているわけではない。むしろ〈緩衝材で覆われた自己〉が「近代政治思想」の基盤となる」というような密接な関わりがあることを示しているのである。

にとつて重要だ」ということである。設問の条件どおり「本文全体の内容にてらして」、「ここで筆者がどういうことを言っているのか、を考えよう。本文において筆者は、近代政治思想の展開においてテイラーの言う「緩衝材で覆われた自己」が大きな役割を果たしていることを論じている。問4で確認したように、まず、近代的自己のイメージにおいて「内面と外面の分離」が成立したことで、政治が宗教からの自立を果たせたという事情がある。さらに、それによって基盤が揺らいだ政治を「人権の理論」によって正当化しようとする政治思想（社会契約論）が現れるが、その「人権の理論」もじつは「内面と外面の分離」を前提にした「所有権の理論」によって支えられているのだ。このように、近代政治思想の前提となるのは、あくまでも「緩衝材で覆われた自己」という近代的自己のイメージである（a）。

そして、最終段落では、近代政治思想が行き詰まっていると考える筆者は、近代政治思想を根底から支えてきた「緩衝材で覆われた自己」をも再検討しなければならないと述べている。ここからは、近代的自己のイメージを絶対化してはならない（b）という筆者の考えが読み取れるだろう。このことは、第15段落の「『緩衝材で覆われた自己』とは歴史的に生み出された一つの装置であり、けっして時間を越えた自明の真理ではないという彼（＝テイラー）の洞察は、重要な意味をもつ」からもわかるはずだ。このように、**【本文解説】**の最初でも説明したが、筆者は近代政治思想を問い直すために、その基盤となった近代的な自己イメージを再検討しようとしているのである。したがって、aとbを説明している②が正解である。

①は、「古来、人間の内面的価値にのみ関わるものであった政治」が、本文から読み取れない。第22段落には政治が「人間の内面的価値」と切り離せなかったことが説明されているが、「内面的価値にのみ関わる」とは本文のどこにも書かれていない。近代以前は内面と外面が分断されていなかったのだから、第21・22段落に書かれているように、宗教も政治も、人

間の内面や外面に明確に切り分けられるものではなかったと理解すべきだろう。また、この選択肢にはbの内容が書かれていないので、筆者の考えの説明として不十分である。

③は、「内面と外面が相互浸透を通じて」が誤り。内と外の相互浸透は、近代以前の「孔だらけの自己」の特徴である。

④は、「解決したい矛盾」が本文のどこからも読み取れない内容であり、誤り。問4で見たように、筆者は、政治を宗教から切り離す「政治の自立化」という「最初のベクトル」が、政治の概念を「人権の理論」によって正当化するという「第二のベクトル」によって「補完された」と述べ、いずれの「ベクトル」も近代的な自己イメージが前提となっていることを指摘しているが、それらが「矛盾」であると捉えてはいないのである。

⑤は、「世界との一体化が果たされていた前近代的な世界観を復活させるため」が本文のどこにも書かれていない内容であり、誤りである。

問6

(i) 表現の特徴を確認する問題

選択肢の内容を一つずつ吟味していこう。

①は、「文末表現」によって「文学的なスタイルが確立されている」という点が誤り。そもそも本文は筋道立てて明快に書かれた評論である。「文末表現」の強弱によって「文学的なスタイル」が目指されているとは言えないだろう。

②は、筆者がテイラーの「緩衝材で覆われた自己」や「孔だらけの自己」といった表現を用いて、抽象的な議論になりがちな（近代における自己イメージの変化）という内容を巧みに読み手に伝えている点に合致する。（内面と外面の分断）といった内容も、自己が「緩衝材」で覆われているとイメージすると理解しやすくなる。

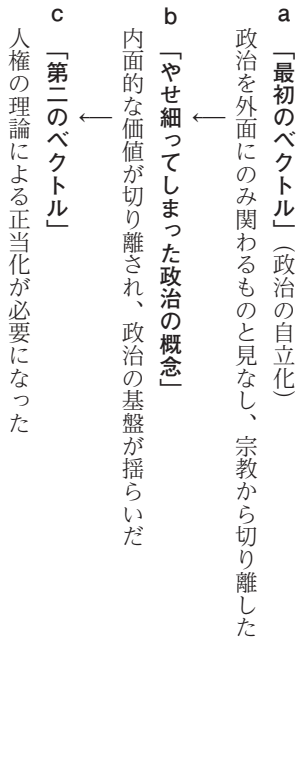
③は、「外来語」によって「前後の文脈への注意が喚起され」という

ることができる」が本文のどこにも書かれていない内容なので誤り。

問4 近代の政治思想のあり方を確認する問題

この設問では、傍線部の意味内容が問われている。傍線部の「最初のベクトル」は、第18段落にあるように、宗教内乱を背景に、「政治を人間の外面に関わる事柄を扱うものとして限定し、宗教から切り離す」こと、すなわち「政治の自立化」である。「第二のベクトル」は、傍線部直前から「政治の概念を、所有権を中核とする人権の理論によって意味づける」とだとわかる。

それでは、傍線部の「最初のベクトル」が「第二のベクトル」によって補完された」とはどういうことか。第23段落・第24段落に着目すると、「政治が宗教から自立し、政治の概念から内面的価値が切り離されたことで、政治の存立の基盤が揺らいだ」という事情が見えてくる。つまり、「最初のベクトル」によって政治の概念が「やせ細ってしまった」から、「第二のベクトル」によってそれを補わざるを得なくなったのである。この流れを大きくまとめると、次のようになる。



以上から、（a→b→c）を説明している⑥が正解である。

なお、「本文解説」②で見たように、「政治の自立化」は、「緩衝材で覆われた自己」における「内面と外面の分離」が前提となる。古来、政治も

宗教も、内面や外面に明確に切り分けることのできないものだったが、「内面と外面の分離」が成り立つようになったからこそ、マキアヴェリとルターに見られるような「政治は外面、宗教は内面」という割り振りが可能になったのだ。⑥の「人間の内面と外面とが切り離して捉えられ」は、こうした事情をふまえている。

また、「人権の理論」の中心にある「所有権の理論」の前提となるのは、「自分の精神が自分の身体を所有する」という発想、つまり「内面」に撤退し外界を操作する自己であることは、「本文解説」②で見たとおりである。⑥の「自己を端緒とする人権の理論」はこうした事情をふまえている。

①は、「政治が共同体から解放され」がaに反する。政治は共同体からではなく、宗教から自立したのである。また、cの「人権」についてもまったくふれられていない点も物足りない。

②は、「世俗権力から独立し」がaに反する。政治はむしろ宗教から自立して、純粋に「世俗権力」に属するものになったのである。さらに、「宗教などの内面的価値によって」も、cに反する。「人権の理論」は「宗教」とは無関係である。

③は、「人間の外面的価値によって再び意味づけざるを得なくなってしまう」が、cに反する。「人権の理論」が「外面的価値」であるとは本文のどこにも書かれていない。

④は、政治が「人間の内面的事柄として純粋化」されたという点がaに明らかに反する。また、「人間性に基づいた人権の理論」もcに反する。第22段落に、政治は古来「人間性を開花させるためのもの」と見なされてきたと書かれているが、近代政治思想の「人権の理論」が「人間性」に基づいているかどうかは、本文から判断できない。

問5 近代の自己イメージや政治思想についての筆者の考えを確認する問題

傍線部で言われているのは、「緩衝材で覆われた自己」は近代政治思想

の特徴ではない。

②は、「緩衝材で覆われた自己」から「孔だらけの自己」へ変化した」という内容。これだと、変化前と変化後が逆さまになるので誤り。

④は、「外界を自由に移動しつつ」や「経験を積む」がaやbに合致せず、ここでの「孔だらけの自己」の特徴とは言えないので誤り。「経験」は第8段落で「緩衝材によって覆われた自己」と対比的に並べられているが、この本文では「移動」することが「孔だらけの自己」の特徴として挙げられているわけではない。

⑤は、「内と外が分断された自己」がaに反するので誤り。

問3 テイラーの「世俗化」の定義を確認する問題

この設問では、テイラーが「世俗化」をどのように理解したのかを考えればよい。まず言葉の意味を確認しておこう。「俗」とは、人間が生きるこの世界のことを意味する。(対になるのは、宗教的な世界を指す「聖」である。)こうした語義からもわかるように、近代における「世俗化」とは、世界の「脱宗教化」(「神」中心から「人間」中心への移行)のことだと理解されている。だが、傍線部にあるように、テイラーはこうした一般的な理解を否定する。

ではテイラーの「世俗化」とは何か。結論から言うと、「世俗化」は、宗教の後退ではなく、「不信仰」という選択肢を選ぶようになったことである(第14段落)。そもそもテイラーが「緩衝材で覆われた自己」を考察したのは、「世俗化」を論じるためだ。第12段落・第13段落には、「不信仰」を選べる仕組みが次のように説明されている。

近代以前の「孔だらけの自己」は、外からの精神的影響を受けてしまうから、「神」を信じるしかないのが、「不信仰」という選択肢は事実上存在しない。それに対して、「内面」へと撤退した「緩衝材で覆われた自己」は、外からの影響を受けずに済むから、「神」を信じないという選択肢も選べる。つまり、すべての意味は自分の「内面」にあると信じて「内面」

に従って生きることが可能である。

念のため、論点を整理しておこう。

〈近代以前〉(第12段落)

「孔だらけの自己」

- a 自分の外にある強力な精神的存在の影響を受けてしまう
- b 「神」に従って生きるしかない
- c 「不信仰」という選択肢がない

←「世俗化」

〈近代〉(第13段落)

「緩衝材で覆われた自己」

- d 内面に閉じこもって、外界を操作する
- e 「内面」に従って生きることができる
- f 「不信仰」という選択肢を選べる

したがって、〈世俗化は、「脱宗教化」ではなく、aがeへと変化したことだ〉という形で、「不信仰」という選択肢を選ぶようになった点を説明している④が正解である。

①は、「信仰を持たないという選択肢が事実上存在せず」がfに反するので誤り。

②は、「自分の外にある重要な精神的存在の影響を受けてつつ」が「孔だらけの自己」の説明であり、eやfに反するので誤り。

③は、「不信仰」を選ばざるをえず」がfに反するので誤り。「不信仰」を選ばざるをえないということと、「不信仰」を選べるということは異なるので注意しよう。テイラーは、〈近代では、神を信じることもできるし、信じないこともできる〉と言っているのである。だから、「私的な領域から宗教を排除してしまう」も誤りである。

⑤は、「神」を「外界から切り離された内面に存在するものとして信じ

【設問解説】

問1 漢字の問題

(ア)は、「最も重要なこと」という意味の「肝心(腎)」。①「陣中」見舞(「戦闘中の将兵の労苦をねぎらうこと。多忙な状況にある人を激励すること」、②「仁義(「道徳上守るべき筋道」)、③「理不尽(「道理に合わないこと」)、④「迅速(「物事の進み具合が非常に速いこと」)、⑤「用心(「心をくばること。万一に備えて注意すること」)」で、⑤が正解。

(イ)は、「軍隊などが陣地を引き払って退くこと」という意味の「撤退」。

①「摘記(「要点を抜き書きすること」)、②「徹頭徹尾(「最初から最後まで」)、③「鉄則(「変えることのできない規則」)、④「撤回(「いったん提出したものを取り下げること」)、⑤「敵機(「敵の飛行機」)」で、④が正解。

(ウ)は、「もとに戻すこと」という意味の「還元」。「還元」は、ここでの文脈のように「複雑なものを単純化する」という意味でも用いられることを覚えておこう。ちなみに「換言」は「別の言葉で言いかえること」である。①「完遂(「最後までやりとげること」)、②「一環(「互いに密接な関係をもつものの一部分」)、③「等閑」に付す(「いいかげんに扱う」)、④「還暦(「六十年で再び生まれた年の干支にかえることから、数え年六十一歳のこと」)、⑤「召喚(「人を呼び出すこと」)」で、④が正解。

(エ)は、「物事を観察して本質を見抜くこと」という意味の「洞察」。①「主導(「中心となって他を導くこと」)、②「空洞(「内部ががらんどうになっていること」)、③「微動(「かすかに動くこと」)、④「異同(「異なっているところ。違い」)、⑤「道楽(「本業以外のことに熱中して楽しむこと」)」で、②が正解。

(オ)は、「正統から外れていること」という意味の「異端」。①「発端(「物事の始まり」)、②「探求(「あるものを得ようとして探し求めること」)、③「嘆息(歎息)(「悲しんだりがっかりしたりして、ため息をつくこと」)、④「短慮(「考えがあさはかなこと」)、⑤「簡単(「物事が大

ざっぱで単純なこと」)」で、①が正解。

問2 近代以前から近代への自己イメージの変化を確認する問題

【本文解説】①で見たように、テイラーにとって、近代以前から近代への人間の自己イメージの変化は、「孔だらけの自己」から「緩衝材で覆われた自己」への変化である。筆者は、テイラーがこれを「人間の内と外との関係をめぐる感覚の変質」として説明している点が「ユニーク」だと言う。以上が傍線部付近の文脈である。この設問では、自己イメージの変化の内容を「内と外」の「感覚の変質」という観点から考えればよい。

それが説明されているのが第3段落から第10段落である。範囲が広いので内容をつかむのは容易ではないが、とくに「孔だらけの自己」を説明する第4・5段落と、「緩衝材で覆われた自己」を説明する第6・9段落に着目してほしい。まとめると次のようになる。

〈近代以前〉(第4・5段落)

「孔だらけの自己」

- a 内と外の境界が不明確になっている
- b 心身ともに外からの影響を受ける

← 変化

〈近代〉(第6・9段落)

「緩衝材で覆われた自己」

- c 外界から内面が切り離されている
- d 内面に閉じこもって、外界を操作する

したがって、(a b から、c d へと変わった)という形で説明している③が正解である。

①は、全体として誤り。「外部へと働きかけることのできる身体性」はaやbに合致せず、「孔だらけの自己」の特徴ではない。また、「抽象的な意味での内面性や自律性」もcやdに合致せず、「緩衝材で覆われた自己」

1 「政治の自立化」

ヨーロッパにおける宗教改革に端を発する宗教内乱において、宗教上の対立は政治的対立を招いた。宗教が政治を揺るがしてしまうのだ。そこで、政治を宗教から切り離す必要が生まれ、「政治をもつば人間の外面に関わる事柄を扱うものとして限定する」という方針が打ち出された。これが「政治の自立化」である。(第17・18段落)

近代以前は、じつは宗教と政治はいずれも人間の内面や外面に明確に切り分けられるものではなかった。宗教には、身体性という外面と結びつく儀礼や、人間の外部に現れる「聖なるもの」と結びつく信仰があった。政治は、古来、人間の内面的価値である自由や人間性と強く結びついていた。

だが、近代になって、「政治の自立化」をいち早く主張したマキアヴェリは、政治を人間の外面にのみ関わるものとし、宗教改革者であるルターは、宗教を人間の内面的事柄として純粋化した。二人が同時代人であることは偶然ではない。なぜなら、近代の「緩衝材で覆われた自己」によって成立した「人間を内面と外面に分離できる」という考え方を前提にして、はじめて宗教と政治が分離されたからだ。だから、「内面と外面の分離」という考え方を強化したという意味で、一見異質に見えながらも同じ役割をはたした二人は、まさしく「コインの表と裏」のような関係にある。(以上、第19・22段落)

2 やせ細った政治の概念

だが、ここで問題が生じる。「政治の自立化」によって宗教などの内面的価値から切り離された政治は、政治の目的を見失い、皮肉にも、政治の存立の基盤が揺らいでしまったのだ。ここでは政治の「自立」どころか、政治の存立が危ぶまれる。(第23・24段落)

そこで、近代政治思想は次のような展開を見せる。「社会契約論」に見られるように、政治の概念を「人権の理論」によって意味づけようとする動きが生まれたのだ。これは、「政治の自立化」によって生じた問題を、「人権に

よる正当化」によって「補完」して解決しようとするものである。(この点は【設問解説】の問4で詳しく説明する。)(第25段落)

ただし、「社会契約論」も「緩衝材で覆われた自己」と深くかかわっている。なぜなら、「人権の理論」の中核となるのは「所有権の理論」だが、それは「自分の精神が自分の身体を所有し、好きなように処分できる」という考え方によって支えられているからだ。この考え方の前提に、「内面」に撤退し、外界を操作する自己というイメージがあることは言うまでもない。(第26・27段落)

ここで、②の議論の流れを整理しておこう。

近代政治思想の展開

政治(外面)が宗教(内面)から自立すると、

(Ⅱ〈内面と外面の分離〉が前提となる)

政治の基盤が揺らいだため、

「人権の理論」による正当化が必要になった。

(Ⅱ〈内面に閉じこもって、外界を操作する自己〉が前提となる)

このまとめを通してとくにしっかりと確認してほしいのは、近代政治思想の前提となるのが、あくまでも「緩衝材で覆われた自己」という近代的自己のイメージだということである。(この点は【設問解説】の問5で詳しく説明する。)(第28段落)

その上で、最後の筆者の言葉を理解してほしい。だからこそ、近代政治思想が行き詰まっている今日、「緩衝材で覆われた自己」をも再検討しなければならない。近代的自己のイメージを自明視してはならないのである。こうした問題意識から、筆者は「緩衝材で覆われた自己」とは何か、そしてそれが近代政治思想とどのように関わっているか、を論じたのである。(最終段落)

離」をとることで、外界と隔てられた「内面」が形成される。「内面」とは「外から見えない心」のことだと理解すればよいだろう。」

そしてこの場合、自分の外にある「神」ではなく、その「内面」が「自分」とつてのあらゆる意味の源泉となる。つまり、たとえば自分がどのようなに生きるかは「神」が決めるのではなく、自分の心が決めるのである。(以上、第6段落)

以上のような変化は、「人間の内と外との関係をめぐる感覚の変質」と言ってもよい。外から影響を受けやすい「孔だらけの自己」は、内と外の境界が不明確だが、近代の「緩衝材で覆われた自己」は、内面と外面が分離している。(この変化については、【設問解説】の問2でも説明する。)

自ら別の場所に移動することによって可能になる「経験」とは異なり、「緩衝材で覆われた自己」は、「内面」に閉じこもり、そこから世界をうかがい、操作しようとする。そのように外界を制御下に入れることが「自律」であり、「自由」なのだ。このように、近代の人間の特徴として抽象的に語られがちな「内面性」や「自律性」を、ティラーは「内と外との関係」から捉えたのだ。(以上、第7～10段落)

2 内面に撤退した自己と「世俗化」

そして、ティラーは、「世俗化」を「内と外との関係」をめぐる自己イメージの変質によって定義する。第2・3段落にあるように、一般に、近代世界の特徴は「世俗化」であり、それは宗教的なものが後退する「脱宗教化」だと考えられている。(たとえば、「神」中心の世界が、近代になって「人間」中心の世界になった、という理解である。)だが、ティラーはこうした「世俗化」の定義に異議を唱える。(第11段落)

ティラーの「世俗化」の定義は、簡単に言うところの次のようなものだ。「孔だらけの自己」の場合は、外からの精神的影響を受けてしまうから、「神」を信じるしかない。つまり「不信仰」という選択肢は事実上存在しない。だが、「内面」へと撤退した「緩衝材で覆われた自己」の場合は、外からの影

響を受けずに済むから、「神」を信じることもできるが「神」を信じないという選択肢も選べる。つまり、自分の「内面」に従って生きることが可能なのである。(第12・13段落)

だとすれば、「世俗化」は、宗教が後退したのではなく、「不信仰」という選択肢が社会的に承認され、個人がそれを選べるようになったということなのだ。言うまでもなく、その個人とは、内面と外面が分離された「緩衝材で覆われた自己」である。(ティラーの「世俗化」については、【設問解説】の問3でも説明する。)(第14段落)

①のティラーの議論の内容を整理しておこう。

〈近代以前〉

「孔だらけの自己」

- ・ 内と外の境界が不明確
- ・ 外からの影響を受けてしまう
- ・ 「不信仰」を選べない

⇔

〈近代〉

「緩衝材で覆われた自己」

- ・ 内面と外面の分離
- ・ 内面に閉じこもって、外界を操作する
- ・ 「不信仰」を選べる(＝「世俗化」)

② 「内面と外面の分離」に基づく近代政治思想

以上のように、ティラーは、近代的自己のイメージを「緩衝材で覆われた自己」と表現し、それが近代という時代に特有のものであり、普遍的な真理ではないと洞察した。そして、ここから筆者は、「緩衝材で覆われた自己」が近代の政治思想の基盤となったことを論じていく。(第15・16段落)

【解説】

第1問 現代文

【出典】

宇野重規『民主主義のつくり方』（筑摩選書、二〇一三年）の第2章「近代政治思想の隘路」1「閉じ込められた自己」の一節。設問の都合上、省略した箇所がある。

宇野重規（うの・しげき）は、一九六七年生まれの政治学者。専門は政治思想史、政治哲学。『デモクラシーを生きる―トクヴィルにおける政治の再発見』、『政治哲学へー現代フランスとの対話』（渋沢・クロード賞ルイ・ヴィトン特別賞）、『トクヴィル 平等と不平等の理論家』（サントリー学芸賞）、『（私）時代のデモクラシー』などの著書がある。

【本文解説】

近代政治思想が近代特有の人間像に基づいていることを論じた文章。リード文に示したように、本文は、「いつの頃からか、政治において語られる個人のイメージは、かなり独特なものになったようだ。」という書き出しで始まる章の一節である。本文では、この「独特」さがチャールズ・テイラーの「緩衝材で覆われた自己」を引用しつつ説明されている。まず、この点について筆者が何を問題にしているのかを補足的に説明しておこう。

一般に、近代において重視されるのは、主体性を備えた自律的な個人である。政治においては、諸個人が合意することによって結びつき、民主主義が成立する。（たとえば「選挙」を思い浮かべてみるといいだろう。）だが、そうした個人が「自己の厚い壁のうちにこもった個人」だという点が問題なのである。つまり、筆者によれば、他者と関わり合うことに極度に消極的な個人が、何とか他者との共存をはかるための論理を模索してきたのが「近代政治思想史」である。だからこそ、近代政治思想が行き詰まりを見せ、「民主主義への不信が募っている」と考える筆者は、本文末にあるように、「緩衝

材で覆われた自己」を再検討する必要があると考えるのである。

本文全体の流れを説明すると、次のようになる。（本文の構成については、【設問解説】の問6(ii)でも説明する。）

前半では、近代特有の人間像を「緩衝材で覆われた自己」と表現したテイラーの思想が紹介されている。テイラーは、この「内面に撤退した自己」に基づいて「世俗化」を定義づけた。

後半では、こうした近代の人間像に基づいて「近代政治思想」が形成されたことが論じられる。近代の人間像の「内面と外面の分離」の発想によって政治は宗教から自立し、さらに政治の概念は近代の人間像に支えられた人権の理論によって意味づけられることになった。

本文は二十九の形式段落からなるが、以上のように、前半を①第1段落、第14段落（冒頭）、テイラーという。）、後半を②第15段落、第29段落（このようなテイラーの）と本文末）として説明していこう。

① テイラーの「緩衝材で覆われた自己」

テイラーによれば、近代において人間像は変化し、「孔だらけの自己」から「緩衝材で覆われた自己」へと変化したという。（テイラーが近代的な自己について語るのは、「世俗化」を論じるためなのだが、「世俗化」については後で確認しよう。）（第1～3段落）

1 「緩衝材で覆われた自己」とは何か

「孔だらけの自己」とは何か。たしかに人間の身体には目や鼻や口などたくさん「孔」があるが、テイラーのいう「孔だらけ」は比喩であり、（外部からの影響を受ける）という意味である。自分の外に「強力かつ重要な精神的存在」（たとえば「神」）があり、その影響が自分の中に浸透してきて、精神や身体に直接作用する。このように、「孔だらけの自己」は外からの影響に左右されやすい存在である。（第4・5段落）

では「緩衝材で覆われた自己」とは何か。まわりを「緩衝材」で覆われているため、この自己は外界に直接さらされない。そして、外に対して「距

【国語】

【解答・採点基準】

(200点満点)

第2問	第2問									第1問	第1問										問題 番号
	問6	問5	問4	問3	問2	問1			問6		問5	問4	問3	問2	問1					設問	
						(ウ)	(イ)	(ア)							(オ)	(エ)	(ウ)	(イ)	(ア)		
自己採点小計	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	番号 解答
	⑥	④	③	④	①	⑤	①	③	②	②	②	②	⑤	④	③	①	②	④	④	⑤	正解
(50)	5	5	8	8	8	7	3	3	3	4	4	8	8	8	8	2	2	2	2	2	配点
																					自己採点

※の正解は順序を問わない。

自己採点合計	第4問	第4問								第3問	第3問								問題 番号
		問7	問6	問5	問4	問3	問2	問1			問6	問5	問4	問3	問2	問1			設 問
								(2)	(1)							(ウ)	(イ)	(ア)	
36	35	34	33	32	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	番解 号答			
①	⑤	③	①	①	④	②	②	④	⑤	①	③	②	⑤	②	④	正解			
(200)	(50)	8	8	6	6	6	6	5	5	(50)	8	7	8	7	5	5	5	5	配点
																			自己採点

© Kawaijuku 2014 Printed in Japan

無断転載複写禁止・譲渡禁止

手引(国地公)